

官報 號外

大正十一年三月二十五日

土曜日

印刷局

第四十五回衆議院議事速記録第三十四號

大正十一年三月二十四日(金曜日)午前十時二十七分開

議事日程 第三十三號 大正十一年三月二十四日
午前十時開議

- 一 關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟政策ニ關スル質問(山道襄一君提出)
- 二 滿洲ニ於ケル取引所制度改善ニ關スル質問(砂田重政君提出)
- 三 和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル再質問(田淵豐吉君提出)
- 四 國定教科書ニ關スル質問(高田松平君提出)
- 五 外交ニ關スル質問(望月小太郎君提出)
- 六 大阪株式取引所ノ違法取引ニ關スル質問(森田茂君提出)
- 七 茨城縣ニ於ケル人權蹂躪ニ關スル質問(橫山勝太郎君提出)
- 八 災害地租免除法ニ關スル質問(三輪市太郎君提出)
- 九 部落有土地統一ニ關スル質問(土井權大君提出)
- 十 東洋拓殖株式會社紊亂ニ關スル質問(橋本喜造君外二名提出)
- 十一 關東州阿片事件ニ關スル質問(水野吉太郎君外一名提出)
- 第一 明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二 大正八年度決算
農業倉庫業法中改正法律案(花城永渡君外四名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第三 牧野法制定ニ關スル建議案(吉良元夫君提出)
- 第四 曆法改正ニ關スル建議案(早川龍介君提出)

- 第六 毛織物ノ廉價供給ニ關スル建議案(多木久米次郎君外二名提出)
- 第七 行政整理ニ關スル建議案(岡崎邦輔君外二十六名提出)
- 第八 恩給年限ノ加算ニ關スル建議案(加藤紋右衛門君外二名提出)
- 第九 樞原神社第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(高草美代藏君提出)
- 第十 樞原神社第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(八木逸郎君外五名提出)
- 第十一 新田神社昇格及宮號復稱ニ關スル建議案(秋亮君外四名提出)
- 第十二 縣社一條神社ヲ別格官幣社ニ昇格ニ關スル建議案(坂本素魯哉君外四名提出)
- 第十三 官幣小社遷門神社境域擴張ニ關スル建議案(中村清造君外二名提出)
- 第十四 寛仁、文永及弘安ノ役ニ於ケル殉難志士奉祀ニ關スル建議案(中村清造君外三名提出)
- 第十五 宮崎神社勅祭社陞進ニ關スル建議案(長峰與一君外三名提出)
- 第十六 官幣大社伊弉諾神社ヲ伊弉諾神社ト改稱並同神社境内整理擴張費國庫補助ニ關スル建議案(木下甚三郎君提出)
- 第十七 別宮狹野神社昇格ニ關スル建議案(陣軍吉君外三名提出)
- 第十八 神社調查會設置ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)
- 第十九 官國幣社國庫供進金増額ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)
- 第二十 府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)
- 第二十一 乃木神社昇格ニ關スル建議案(植竹龍三郎君外三名提出)

- 第二十二 古社寺保存法改正ニ關スル建議案(木下謙次郎君外五名提出)
- 第二十三 宗教法制定ノ調査機關設置ニ關スル建議案(高見之通君外九名提出)
- 第二十四 三津濱港築港國庫補助ニ關スル建議案(成田榮信君外五名提出)
- 第二十五 鎮南浦築港完成ニ關スル建議案(牧山耕藏君提出)
- 第二十六 朝鮮多獅島築港ニ關スル建議案(牧山耕藏君外六名提出)
- 第二十七 新潟築港ニ關スル建議案(丸山隆嶺一郎君外十四名提出)
- 第二十八 青森築港國營ニ關スル建議案(北山一郎君外十五名提出)
- 第二十九 大湊開港ニ關スル建議案(阿部武智雄君外六名提出)
- 第三十 國有林野所在ノ府縣市町村ニ對シ交付金下付ニ關スル建議案(八田宗吉君外二名提出)
- 第三十一 漢學振興ニ關スル建議案(木下成太郎君外十三名提出)
- 第三十二 東洋文庫設立ニ關スル建議案(澤本太郎君外七名提出)
- 第三十三 奈良ニ美術學校建設ニ關スル建議案(福井甚三君外四名提出)
- 第三十四 理化博物館建設ニ關スル建議案(鈴木隆君外四名提出)
- 第三十五 北海道帝國大學ニ法、文、理學部増設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)
- 第三十六 北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)
- 第三十七 重信川改修ニ關スル建議案(成田榮信君外五名提出)

第三十八

利根運河國有ニ關スル建議案(木多貞次郎君外六名提出)(委員長報告)

第三十九

木曾川外二川架橋速成ニ關スル建議案(加藤久米四郎君外二名提出)(委員長報告)

第四十

宮河内各川改修國庫補助ニ關スル建議案(岡順次君外三名提出)

第四十一

多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(前田米藏君外九名提出)(委員長報告)

第四十二

多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(高木正年君外五名提出)(委員長報告)

第四十三

阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助増額ニ關スル建議案(八雲宗吉君外五名提出)(委員長報告)

第四十四

淀川改修増補工事速成ニ關スル建議案(吉川吉郎兵衛君提出)(委員長報告)

第四十五

狩野川改修ニ關スル建議案(岩崎勲君外一名提出)(委員長報告)

第四十六

千代川改修速成ニ關スル建議案(山本藤助君外一名提出)(委員長報告)

第四十七

食料品配給設備ニ關スル建議案(山本泰太郎君外三名提出)(委員長報告)

第四十八

電信線電話線建設條例第六條ニ依ル手當金増額ニ關スル建議案(木下猛三郎君外一名提出)(委員長報告)

第四十九

植物病理研究所設置ニ關スル建議案(伊藤廣義君提出)(委員長報告)

第五十

墓地及埋葬取締規則改正ニ關スル建議案(松下禎二君提出)(委員長報告)

第五十一

醫師法中改正ニ關スル建議案(八木逸郎君外十一名提出)(委員長報告)

第五十二

國立體育研究所設立ニ關スル建議案(八木逸郎君外十一名提出)(委員長報告)

第五十三

花柳病預防法制定ニ關スル建議案(大林森次郎君外七名提出)(委員長報告)

第五十四

「タール」色着染「カラム」使用取締ニ關スル建議案(大林森次郎君外一名提出)(委員長報告)

第五十五

衛生行政機關ノ統一擴大ニ關スル建議案(山田永俊君外五名提出)(委員長報告)

第五十六

藥品新製劑及滋養品等ノ取締ニ關スル建議案(山田永俊君外五名提出)(委員長報告)

第五十七

火災防止局設置ニ關スル建議案(高見之通君提出)(委員長報告)

第五十八

移民局設置ニ關スル建議案(副島義一君外一名提出)(委員長報告)

第五十九

恩給年限通算ニ關スル建議案(吉川吉郎兵衛君外一名提出)(委員長報告)

第六十

帝國在郷軍人會國庫補助ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)(委員長報告)

第六十一

癘兵優遇及軍人遺族扶助料改正ニ關スル建議案(津野田重君外三名提出)(委員長報告)

第六十二

恩給制度改正調査委員會設置ニ關スル建議案(三浦得一郎君外四名提出)(委員長報告)

第六十三

國庫支辨ニ依ル雇員傭人ニ退職手當支給ニ關スル建議案(中村清造君外三名提出)(委員長報告)

第六十四

新舊文官恩給並遺族扶助料不權衡更正ニ關スル建議案(河上哲太君外四名提出)(委員長報告)

第六十五

地方裁判所新設ニ關スル建議案(藏内次郎君外七名提出)(委員長報告)

第六十六

徵兵事務條例施行細則改正ニ關スル建議案(中西六三郎君外八名提出)(委員長報告)

第六十七

徵兵事務條例施行細則改正ニ關スル建議案(植原悦二郎君提出)(委員長報告)

第六十八

煙草專賣法中改正ニ關スル建議案(樋渡次右衛門君外四名提出)(委員長報告)

第六十九

地租過納金下付ニ關スル建議案(野尻次君外八名提出)(委員長報告)

第七十

片町長尾間電力鐵道延長ニ關スル建議案(楠場平君外一名提出)(委員長報告)

第七十一

福相鐵道速成ニ關スル建議案(鐔木三郎兵衛君外七名提出)(委員長報告)

第七十二

野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外四名提出)(委員長報告)

第七十三

柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外四名提出)(委員長報告)

第七十四

湖南鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君外四名提出)(委員長報告)

第七十五

札幌、當別、沼田間鐵道速成ニ關スル建議案(松實喜代太君外二名提出)(委員長報告)

第七十六

大船渡氣仙沼間鐵道速成ニ關スル建議案(志賀和多利君外二名提出)(委員長報告)

第七十七

氣仙沼前谷地間鐵道速成ニ關スル建議案(高橋長七郎君外三名提出)(委員長報告)

第七十八

高田川井間及水澤世田米間鐵道建設ニ關スル建議案(志賀和多利君外一名提出)(委員長報告)

第七十九

大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案(山口義一君外四名提出)(委員長報告)

第八十

北海道鐵道速成ニ關スル建議案(木下成太郎君外七名提出)(委員長報告)

第八十一

吉野松坂間鐵道敷設ニ關スル建議案(萩田悅造君外一名提出)(委員長報告)

第八十二

北海道本州連絡完成ニ關スル建議案(阿部武智雄君外四名提出)(委員長報告)

第八十三

平小名濱間鐵道速成ニ關スル建議案(白井博之君外五名提出)(委員長報告)

第八十四

大崎松岡間鐵道速成ニ關スル建議案(森格君外六名提出)(委員長報告)

第八十五

日足鐵道速成ニ關スル建議案(松岡俊三君提出)(委員長報告)

第八十六

地方鐵道買收法制定ニ關スル建議案(中西六三郎君外四名提出)(委員長報告)

第八十七 軍備縮少ニ基テシテ生ス(キ)失業勞
働者ノ善後ニ關スル建議案(大岡育
造君外二十九名提出) (委員長報告)
第八十八 食糧充實ノ獎勵ニ關スル建議案(多
木久米次郎君外一名提出) (委員長報告)

第八十九 原蠶種ノ種類制限ニ關スル建議案(武
藤金吉君外七名提出) (委員長報告)
第九十 北海道地代農地設定ニ關スル建議案
(松實喜代太君外七名提出) (委員長報告)

第九十一 産業組合ノ振興ニ關スル建議案(土
井樺大君提出) (委員長報告)
第九十二 小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ
關スル建議案(砂田重政君外二名提
出) (委員長報告)

第九十三 小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ
關スル建議案(本田恆之君外七名提
出) (委員長報告)
第九十四 小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ
關スル建議案(守屋松之助君外一名
提出) (委員長報告)

第九十五 市町村教育費國庫負擔額增加ニ關
スル建議案(爲澤總明君外一名提出)
第九十六 市町村立小學校教員加俸令改正ニ
關スル建議案(野村勘左衛門君外四
名提出) (委員長報告)

第九十七 教育ノ實質改善ニ關スル建議案(小
橋藻三衛君提出) (委員長報告)
第九十八 速記者ノ養成及優遇ニ關スル建議案
(木下成太郎君外一名提出) (委員長報告)

第九十九 朝鮮ニ對シテ參政權ニ關スル建議案
(多木久米次郎君外四名提出) (委員長報告)

第一百 (特別報告第三百二二號)大正九年法
律第十號第五條ノ二中改正ノ請願
(委員長報告)
第一百 (特別報告第三百三三號)官吏恩給法、
市町村立小學校教員恩給及遺族
扶助辦法並巡査守選選及遺族
扶助辦法改正ノ請願 (委員長報告)

第一百二 (特別報告第三百四四號)文官恩給法
改正ニ關スル請願 (委員長報告)

第一百三 (特別報告第三百五五號)文官恩給ニ
關スル請願 (委員長報告)
第一百四 (特別報告第三百六六號)文官恩給ノ
請願 (委員長報告)
第一百五 (特別報告第三百七七號)朝鮮ニ於ケ
ル辯護士資格付與ノ請願 (委員長報告)

第一百六 (特別報告第三百八八號)石油輸入關
稅廢止ノ請願 (委員長報告)
第一百七 (特別報告第三百九九號)關稅法改正
ニ關スル請願 (委員長報告)
第一百八 (特別報告第四百十號)三春稅務署
復舊ノ請願 (委員長報告)

第一百九 (特別報告第四百一十一號)屋代稅務
署復舊ノ請願 (委員長報告)
第一百十 (特別報告第四百十二號)篠ノ井町ニ
稅務署設置ノ請願 (委員長報告)
第一百十一 (特別報告第四百十三號)諫早稅務
署復舊ノ請願 (委員長報告)

第一百十二 (特別報告第四百十四號)丹波道主
命奉齋官社創建ノ請願外四件 (委員長報告)
第一百十三 (特別報告第四百十五號)梓衝神社
昇格ノ請願 (委員長報告)

第一百十四 (特別報告第四百十九號)點字書ノ販
權認許ノ請願 (委員長報告)
第一百十五 (特別報告第四百二十號)古物商取
締法中改正ノ請願 (委員長報告)

第一百十六 (特別報告第四百二十二號)奧尻島
漁港築設ノ請願 (委員長報告)
第一百十七 (特別報告第四百二十三號)河川道
路及國有林ニ關スル請願 (委員長報告)

第一百十八 (特別報告第四百二十四號)富來灣
修築ノ請願 (委員長報告)
第一百十九 (特別報告第四百二十五號)鬼臨港
修築ノ請願 (委員長報告)

第一百二十 (特別報告第四百二十六號)岩内港
修築費國庫支辨ノ請願 (委員長報告)
第一百二十一 (特別報告第四百二十八號)金谷
町國立茶業試驗場事業擴張ノ請
願 (委員長報告)

第一百二十二 (特別報告第四百二十九號)森林
保險實施ニ關スル請願 (委員長報告)
第一百二十三 (特別報告第四百三十五號)就馬
法制定ノ請願外八件 (委員長報告)

第一百二十四 (特別報告第三百三十六號)根室
郡ニ國立種馬所設置ノ請願 (委員長報告)
第一百二十五 (特別報告第三百三十八號)吉田
村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第一百二十六 (特別報告第三百三十九號)阿坂
村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)
第一百二十七 (特別報告第三百四十號)上太田
郵便局ニ電信、電話架設ノ請願 (委員長報告)

第一百二十八 (特別報告第三百四十一號)横山
村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)
第一百二十九 (特別報告第三百四十二號)北恩
加島町ニ無集配郵便局設置ノ請
願 (委員長報告)

第一百三十 (特別報告第三百四十三號)上殿
村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)
第一百三十一 (特別報告第三百四十四號)林田
村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第一百三十二 (特別報告第三百四十五號)五十
澤村大字宮ニ郵便局ヲ設置シ電信
事務開始ノ請願 (委員長報告)

第一百三十三 (特別報告第三百四十六號)今田
村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)
第一百三十四 (特別報告第三百四十七號)澤渡
村大字下市堂ニ無集配郵便局設
置ノ請願 (委員長報告)

第一百三十五 (特別報告第三百四十八號)佐馬
地村大字佐野ニ無集配郵便局設
置ノ請願 (委員長報告)
第一百三十六 (特別報告第三百四十九號)圓座
郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第一百三十七 (特別報告第三百五十號)多島町
特設電話ヲ下關局區域内ニ編入ノ
請願 (委員長報告)
第一百三十八 (特別報告第三百五十一號)上田
村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三百三十九

(特別報告第三百五十二號)土樽
村ニ郵便局設置ノ請願
(委員長報告)

第三百四十

(特別報告第三百五十三號)越智
郡下村落ニ電話架設ノ請願
(委員長報告)

第三百四十一

(特別報告第三百五十四號)正條
郵便局ニ特設電話架設ノ請願
(委員長報告)

第三百四十二

(特別報告第三百五十五號)國包
郵便局區域内ニ特設電話架設ノ
請願
(委員長報告)

第三百四十三

(特別報告第三百五十六號)長野、
高宮、片田ノ各郵便局ニ電信、電話
事務開始ノ請願
(委員長報告)

第三百四十四

(特別報告第三百五十七號)高根
村六日市場ニ無集配郵便局設置
ノ請願
(委員長報告)

第三百四十五

(特別報告第三百五十八號)北里
村大字江頭ニ特設電話架設ノ請
願
(委員長報告)

第三百四十六

(特別報告第三百五十九號)田立
村ニ郵便局設置ノ請願
(委員長報告)

第三百四十七

(特別報告第三百六十號)南郷郵
便局ニ電信、電話事務開始ノ請願
(委員長報告)

第三百四十八

(特別報告第三百六十一號)漁船
法制定ノ請願
(委員長報告)

第三百四十九

(特別報告第三百六十二號)博多、
壹岐、對馬間航海補助金増額ノ請
願
(委員長報告)

第三百五十

(特別報告第三百六十三號)稚内、
大泊港間定期航路開始ノ請願
(委員長報告)

第三百五十一

(特別報告第三百六十四號)西條
村押原ニ登記所設置ノ請願
(委員長報告)

第三百五十二

(特別報告第三百六十五號)三津
町ニ竹原區裁判所出張所設置ノ
請願
(委員長報告)

第三百五十三

(特別報告第三百六十六號)郷野
村大字上入江ニ登記所設置ノ請
願
(委員長報告)

第三百五十四

(特別報告第三百六十七號)池田
町ニ區裁判所設置ノ請願
(委員長報告)

第三百五十五

(特別報告第三百六十八號)大瀨
村大字賀田ニ弘前區裁判所出張
所設置ノ請願
(委員長報告)

第三百五十六

(特別報告第三百六十九號)三國
區支判所復活ノ請願
(委員長報告)

第三百五十七

(特別報告第三百七十號)川尻町
ヲ吳區裁判所ノ管轄ニ變更ノ請願
(委員長報告)

第三百五十八

(特別報告第三百七十一號)相馬
町ニ登記所設置ノ請願
(委員長報告)

第三百五十九

(特別報告第三百七十二號)常呂
村ニ網走區裁判所出張所設置ノ請
願
(委員長報告)

第三百六十

(特別報告第三百七十三號)辨邊
村ニ室蘭區裁判所出張所設置ノ請
願
(委員長報告)

第三百六十一

(特別報告第三百七十四號)郡山
町ニ福島地方裁判所支部設置ノ請
願
(委員長報告)

第三百六十二

(特別報告第三百七十五號)下水
村ニ登記所設置ノ請願
(委員長報告)

第三百六十三

(特別報告第三百七十六號)遠輕
市街地ニ網走區裁判所出張所設
置ノ請願
(委員長報告)

第三百六十四

(特別報告第三百七十七號)龍上
村ニ名寄區裁判所出張所設置ノ請
願
(委員長報告)

第三百六十五

(特別報告第三百七十八號)高等
水產學校設置ノ請願
(委員長報告)

第三百六十六

(特別報告第三百八十一號)小學
校教員加俸令中改正ノ請願
(委員長報告)

第三百六十七

(特別報告第三百八十二號)水產
教育ノ普及ニ關スル請願
(委員長報告)

第三百六十八

(特別報告第三百八十三號)盲人
教育令發布ノ請願
(委員長報告)

第三百六十九

(特別報告第三百八十四號)幼稚
園令制定ノ請願外五件
(委員長報告)

第三百七十

(特別報告第三百八十七號)落合、
木次間輕便鐵道敷設ノ請願
(委員長報告)

第三百七十一

(特別報告第三百八十九號)長岡
驛移轉ニ關スル請願
(委員長報告)

第三百七十二

(特別報告第三百九十號)伊集院
驛、樋脇驛間鐵道敷設ノ請願
(委員長報告)

第三百七十三

(特別報告第三百九十三號)小頓
別、枝幸港間鐵道敷設ノ請願
(委員長報告)

第三百七十四

(特別報告第三百九十七號)鹿島、
角館間鐵道敷設速成ノ請願
(委員長報告)

第三百七十五

(特別報告第三百九十八號)掛川、
大井町間鐵道敷設速成ノ請願
(委員長報告)

第三百七十六

(特別報告第四百號)松島、女川間
並三陸沿岸鐵道敷設速成ノ請願
(委員長報告)

第三百七十七

(特別報告第四百一號)鐵道ノ敷
設速成並下江丹別ニ停車場設置
ノ請願
(委員長報告)

第三百七十八

(特別報告第四百二號)斜里村、網
走町間鐵道敷設速成ニ關スル請願
(委員長報告)

第三百七十九

(特別報告第四百三號)第七師團
主要機關タル軍用停車場、比布停
車場間鐵道敷設並停車場設置ノ
請願
(委員長報告)

第三百八十

(特別報告第四百五號)船川、能代
間鐵道敷設ノ請願
(委員長報告)

第三百八十一

(特別報告第四百八號)山東村佐
田地籍ニ停車場設置ノ請願
(委員長報告)

第三百八十二

(特別報告第四百十號)札幌、琴似
間ニ停車場設置ノ請願
(委員長報告)

○議長(與繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス、議員澤來
太郎君昨二十三日死去セラレマシタ、洵ニ哀悼ノ至リニ堪
ヘマセヌ、例ニ依リマシテ、遺族ニ弔詞ヲ贈リマシタ
(原田書記官朗讀)

一議員ノ異動左ノ如シ

宮城郡第五區選出議員澤來太郎君死去セラレタリ
一去二十二日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ
如シ

感化法中改正法律案
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

行政整理ニ關スル建議案

提出者 國崎 邦輔君

川原 茂輔君

望月 圭介君

鶴澤 總明君

山本 悌二郎君

大岡 育造君

井上 角五郎君

中西 六三郎君

武藤 金吉君

渡邊 修君

原田 十衛君

廣岡 宇一郎君

岩崎 勳君

熊谷 直太君

前田 米藏君

河上 哲太君

一宮 房治郎君

森 格君

山口 義一君

鈴木 錠藏君

高見 之通君

牧山 耕藏君

加藤 久米四郎君

竹上 藤次郎君

清瀬 規矩雄君

海原 清平君

梅田 源君

恩給年限ノ加算ニ關スル建議案

提出者 加藤 紋右衛門君

加藤 重三郎君

下出 民義君

(以上三月二十二日提出)

一 去二十二日貴族院ヨリ 回付セラレタル政府提出案

左ノ如シ

鐵道敷設法案

借地借家調停法案

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

災害地租免除法案ニ關スル質問主意書

提出者 三輪 市太郎君

部落有土地統一ニ關スル質問主意書

提出者 土井 權大君

東洋拓殖株式會社支店ニ關スル質問主意書

提出者 橋本 喜造君

野田 文一郎君

(以上三月二十二日提出)

關東州阿片事件ニ關スル質問主意書

提出者 水野 吉太郎君

(以上三月二十三日提出)

一 去十四日政府ヨリ受領シタル各答辯書左ノ如シ

衆議院議員田淵豐吉君提出 和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル質問ニ對スル答辯書

又昨二十三日政府ヨリ受領シタル各答辯書左ノ如シ

衆議院議員尾崎行雄君外一名提出 海陸軍備及特別ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員田中善立君提出 鹿町炭礦買收ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員田中武雄君提出 社會主義者取締ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員田中萬逸君提出 實業郵便局長印紙橫領事件及同事件ノ裏ニ潜メル政治的醜怪事ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員板野友造君提出 都市計畫ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員清瀨一郎君提出 綱紀頹廢ノ責任ニ關スル再質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員秋田悅造君外一名提出 郡域變更並町村ノ分合整理ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員木村三郎君提出 民心惡化ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員有森新吉君提出 臨時外交調査委員會ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員紫安新九郎君提出 團山川 改修工事ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員阿由葉勝作君提出 自治行政區域ノ變更ニ關スル政府ノ方針並黨弊ノ自治體破壞ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

又今二十四日政府ヨリ受領シタル各答辯書左ノ如シ

衆議院議員土井權大君提出 農村政策ニ關スル再質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員森田茂君提出 大阪取引所ノ違法取引ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員田淵豐吉君提出 和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル再質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員高草美代藏君提出 私設鐵道買收ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員望月小太郎君提出 外交ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員砂田重政君提出 滿洲ニ於ケル取引所制度改善ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員山道襄一君提出 關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟政策ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員島田耘平君提出 國定教科書ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

衆議院議員橋本喜造君外二名提出 東洋拓殖株式會社支店ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月七日

提出者 田淵豐吉 贊成者 安藤 正純

和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル質問主意書

外三十六名

一 政府ハ大正十年十二月和歌山縣會ニ於テ同縣知事カ「和歌山縣立日高農林學校ハ廢校ニモ非ス移轉ニモ非ス但シ生徒ヲ募集セス自然消滅ニ歸セシム」トノ聲明ヲ認メタルヤ

二 未タ廢校ノ告示ナキニ前記農林學校ニ於テ本年度ノ生徒募集ヲ爲ササルハ前記知事ノ聲明ヲ認メタルカ爲ナリヤ若然ラストセハ何故ニ早ク例年ノ通り生徒募集ヲ縣當局ニ訓令セサルヤ

三 文部當局ハ和歌山縣日高郡御坊町ニ在ル縣立日高農林學校ハ本年新二同町ニ設立セムトスル縣立日高中學校ト性質ヲ異ニスルモノナルニ依リ兩立シ得ルモノナリト聲明セラレシニ拘ラス其ノ後知事ノ意見ノ如ク兩立シ難シ故ニ自然廢校トストノ說ニ同意セラ

ルニ至リシヤ

四 縣當局ハ文部省ノ許可ナクモ生徒ハ募集セス廢校ト聲明シ又未タ廢校トナラサル農林學校ノ敷地ノ上ニ日高中學校ヲ建設セムトスルカ如キ農林學校用ノ耕地ヲ其ノ地主ニ返還セシ如キ甚クシキハ農林學校ノ建物ヲ賣却スヘシトノ交渉ヲ開始シタルカ如キ政府ハ監督權ノ行使ニ關シ遺憾ナシトスルカ

五 政府ハ本年新二縣立日高中學校ヲ設立スルカ爲ニ既ニ八箇年存續シ年々進歩シツツアル縣立日高農林學校ヲ未タ本年度生徒募集ヲ爲サスシテ生徒募集者僅々二十三名ニ過キスト安斷シ神聖ナルヘキ學校ヲ自然廢校ト認フカ如キ言語道斷ノ處置ニ出テムトスル縣當局ノ態度ハ實業教育ノ振興ノ方針ト一致シ尙又教育上ノ根本精神ト相容ルルト認ムルヤ如何右及質問候也

大正十一年三月十四日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長 奧繁三郎殿

衆議院議員田淵豐吉君提出 和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員田淵豐吉君提出 和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル質問ニ對スル各答辯書

政府ハ質問ノ事項ニ付キ之ヲ認メタルコトナシ

二 和歌山縣知事ヨリ同縣紀南地方ニ於ケル實業學

校配置整理ニ關スル計畫ヲ大正十二年度ニ於テ實施セントスル必要上縣立日高農林學校ノ生徒募集ヲ大正十一年度ニ限リ中止シテノ申請アリタルニ依リ政府ハ調査ノ結果之ヲ認可セリ

三 政府ハ前項紀南地方ニ於ケル實業學校配置整理ニ關スル計畫ニ基テ縣立日高農林學校ノ位置ノ變更實現セサル場合ハ該校ハ現位置ニ於テ繼續經營セラルヘキモノト認ムルモノナルヲ以テ質問ノ如ク該校ノ自然廢校ニ同意シタル事實ナシ

四 縣立日高農林學校ノ敷地ト縣立日高中學校ノ敷地トハ何等關係ナク又農林學校ノ敷地建物等ヲ縮少スルカ如キコトナキヤウ特ニ通過シ置ケリ

五 前數項ニヨリ了承セラレタシ
右及答辯候也
大正十一年三月十四日
文部大臣 中橋德五郎

海陸軍備及特例ニ關スル質問主意書
右威規ニ據リ提出候也
大正十一年一月二十八日
提出者 尾崎 行雄 島田 三郎
賛成者 津原 武

一 海陸軍備及特例ニ關スル質問主意書
政府ハ華府會議ニ於テ減縮セラレタル海軍力ヲ協定ノ上更ニ減縮スルノ意志ナキ乎

二 政府ハ自ラ之ヲ發議セサル迄モ他國之ヲ發議スルニ方テハ之ニ應スル意志ナキ乎

三 單ニ主力艦ヲ制限シタルノミニテ補助艦潛航艦等ヲ制限セサルトキハ此ノ點ニ於テ再ヒ列國間ノ嫉妬ト競争ヲ惹起スルノ懼ナキヲ保シ難シ政府ハ此ノ患害ヲ豫防スルノ意志ナキ乎

四 華府會議ノ結果トシテ豫定計畫ニ比シ今後十年間ニ互ル軍備補充費、水陸整備費、艦船整備費、軍需品整備費、營繕費等ノ各款ニ於テ減少スヘキ金額及其ノ年度別並海軍本省費、軍事費等ノ各款ニ於テ減少スヘキ金額ノ見込如何

之ヲ縮小スルハ軌レノ國家モ其ノ安全率ヲ減少セスシテ大ニ國防費ヲ節約シ國民ノ負擔ヲ減輕シ得ルノミナラス兼テ世界ノ平和及人類ノ幸福ニ貢獻シ得ヘシト謂フニ在リ

然ルニ「國防ハ絕對的ニシテ相對的ニ非ス」トカ或ハ「八八艦隊ハ戰團單位ナルカ故ニ一隻タリトモ減少スル能ハス」ト唱ヘテ協定制限ニ反對スルモノアリタリ華府會議ノ結果トシテ主力艦ノ協定制限既ニ成立シタルノ今日ニ於テハ此ノ類ノ反對論ハ既ニ全ク粉碎セラレテ復一人ノ公然之ヲ唱ヘ得ル者ナカレハシ

英米ノ主力艦各五十萬噸ニ對シ我カ三十萬噸ノ主力艦ヲ以テ國防ノ國のヲ達シ得ヘシトスレハ更ニ之ヲ半減シテ英米各二十五萬噸、日本十五萬噸ニ協定スルモ國家ノ安全率ハ毫モ増減スル所ナシ更ニ一歩ヲ進メテ列國皆同時ニ主力艦ヲ全廢スレハ列國ノ安全幸福ハ更ニ大ニ增加スヘキ道理ナリ

華府會議ニ於ケル我カ全權ハ主力艦ハ八割減ニ對シテハ七割ヲ主張シ潛航艦ノ減縮修正ニ對シテハ米國ノ原案ヲ維持シ如何ナル場合ニ於テモ唯減縮程度ヲ察少ナラシムヘキ方針ヲ以テ執持シタル其ノ狀恰モ我カ隻噸量ヲ增加セサルモ英米ノ隻噸量ヲ減少スルハ國家ノ安全率ハ同一ナルコトヲ解セサルモノノ如ク然リ殊ニ陸奥ヲ復活セシムルカ爲英米ヲシテ各二艦ヲ増加セシメ以テ自他ノ浪費ヲ増加シ且其ノ比率ニ於テ明ニ我カ帝國安全ノ度ヲ減少シタルカ如キニ至リテハ嘆

驚キ入ルノ外ナシ
今回ノ華府會議ハ唯協定制限ノ端緒ヲ發シタルニ過キス造船休業十年間ニ於テ更ニ國際會議ヲ開キ主力艦ノ減縮及廢止、補助艦ノ制限其ノ他附隨ノ諸問題ヲ協議シ以テ國家内外ノ安全幸福ヲ増進スルノ必要アリ列國ノ輿論ハ必ス此ノ方向ニ進動スヘキヲ疑ハス我カ國ノ官民若今ニシテ是等ノ問題ヲ注意研究スルニ非スムハ必ス華府會議ニ對スルカ如ク徒ニ他國ノ足跡ヲ履ムノ失態ヲ再演セム

補助艦ハ主力艦ノ多少ニ從テ之ヲ按掛増減スヘキモノナリ故ニ主力艦ニシテ制限セラル以上ハ特ニ補助艦ヲ制限スルノ規約ナキモ精神のニハ制限セラレタルモ同様ナリ然ルニ成文ノ規約成立セサルニ藉口シ既定計畫以上ニ之ヲ増加スルカ如キコトアラハ益ニ再ヒ國際間ノ嫉妬ト競争ヲ惹起シ華府會議ノ效果ヲ減少スルコト尠シニ非ス

又今回華府會議ニ於テ協定セラレタル海軍減縮ノ目的カ既ニ不生産的軍費ヲ節約シ國家ノ利益、國民ノ幸福ニ世界ノ平和ニ貢獻スルニ在ル上ハ之カ實行ノ結果當然生スヘキ多數ノ海軍軍人ノ解職、官民諸工場ノ閉鎖、技術者職工ノ失業等ニ對シテハ當然政府ヨリ相當ノ年金、手當金又ハ補償金ヲ支給シ之ヲ救済保護スヘキハ言フ迄モナシ加之ナラズ是等軍用諸工場ノ設備及技術者職工ノ熟練セル專門的技術ヲ學テ之ヲ平和的工業ニ轉用シ寧ろ利益之ヲ獎勵シ我カ産業ノ改善發展ヲ圖リ之ヲ今後ノ國際經濟戰ニ利用スルハ最機宜ニ適セル積極的失業救済政策ナリ

最堅實ナル産業政策タリ最徹底セル國防充實策ナリト信ス今日歐米列國カ最頭腦ヲ悩マセルハ産業ノ復活、貿易ノ振興失業問題ノ救済問題ニ在リ我カ國ノ産業政策及失業問題ノ解決如何ハ我カ將來ノ國防及國運ニ影響スルコト亦極メテ重大ナルヲ知ラサルヘカラス

六 我カ陸軍ノ對手國ナル露支既ニ陸軍國タルノ資格ヲ失ヒタル今日政府ハ大ニ陸軍ヲ減縮スルノ意志ナキ乎
七 若減縮ノ意アリトスレハ其ノ方法及程度如何
八 我カ陸軍ハ内地及臺灣朝鮮樺太等ノ事變又ハ露支境上ノ匪徒防禦ニ用ウルノ外之ヲ使用シ得ヘキ場合ナシ政府ハ此ノ事實ヲ認メサル乎
九 政府ハ其ノ半數タモ尙之ヲ使用スル目的ナキコト明白ナル今日ニ方依然トシテ二十一箇師團ノ大陸軍ヲ維持スルハ國家内外ノ政策上非常ノ不利益ナル事實ヲ認メサル乎

單純ニ國家の見地ヨリ其ノ必要ノ程度ヲ較量スレハ露帝國タル日本ニ取テハ海軍ハ陸軍ヨリ必要ナルコト辯ヲ駁タス然ルニ今ヤ華府會議ノ結果トシテ比較的必要多キ海軍ハ大ニ減縮セラレタス此ノ時ニ方リ政府若強テ口實ヲ設ケテ陸軍縮小ニ反對シ國力ノ耗費ヲ顯サルカ如キコトアラハ陸軍ハ遂ニ國民ノ怨府トナラム且夫我カ現在ノ陸軍ハ主トシテ帝政時代ニ於ケル露國ノ六陸軍ヲ對象トシテ帝國防衛ノ爲ニ設定セラレタルモノナリ然ルニ露國ハ先年ノ革命以來既ニ陸軍國タルノ資格ヲ失ヒ、來テ我カ國ヲ攻擊スル能ハサルハ勿論國內ノ治安スラモ尙之ヲ維持シ難キ境遇ニ在リ露國ノ來寇ニ對シテ二十一箇師團ノ大陸軍ヲ備フルノ必要ナキコト明ケシ然ラハ露國以外ニ其ノ陸軍ヲ以テ我カ國ニ來寇シ得ヘキ邦國アリヤト考フルニ我カ海軍ニシテ苟モ全減セサル限リハ全然之アルコトナシ既ニ來寇者ナレハ我カ陸軍ハ之ヲ國防ノ用ニ供スルノ機會ナキコト亦極メテ明白ナリ然ラハ侵略ノ爲ニ之ヲ

幸禍ニ世界ノ平和ニ貢獻スルニ在ル上ハ之カ實行ノ結果當然生スヘキ多數ノ海軍軍人ノ解職、官民諸工場ノ閉鎖、技術者職工ノ失業等ニ對シテハ當然政府ヨリ相當ノ年金、手當金又ハ補償金ヲ支給シ之ヲ救済保護スヘキハ言フ迄モナシ加之ナラズ是等軍用諸工場ノ設備及技術者職工ノ熟練セル專門的技術ヲ學テ之ヲ平和的工業ニ轉用シ寧ろ利益之ヲ獎勵シ我カ産業ノ改善發展ヲ圖リ之ヲ今後ノ國際經濟戰ニ利用スルハ最機宜ニ適セル積極的失業救済政策ナリ

最堅實ナル産業政策タリ最徹底セル國防充實策ナリト信ス今日歐米列國カ最頭腦ヲ悩マセルハ産業ノ復活、貿易ノ振興失業問題ノ救済問題ニ在リ我カ國ノ産業政策及失業問題ノ解決如何ハ我カ將來ノ國防及國運ニ影響スルコト亦極メテ重大ナルヲ知ラサルヘカラス

六 我カ陸軍ノ對手國ナル露支既ニ陸軍國タルノ資格ヲ失ヒタル今日政府ハ大ニ陸軍ヲ減縮スルノ意志ナキ乎
七 若減縮ノ意アリトスレハ其ノ方法及程度如何
八 我カ陸軍ハ内地及臺灣朝鮮樺太等ノ事變又ハ露支境上ノ匪徒防禦ニ用ウルノ外之ヲ使用シ得ヘキ場合ナシ政府ハ此ノ事實ヲ認メサル乎
九 政府ハ其ノ半數タモ尙之ヲ使用スル目的ナキコト明白ナル今日ニ方依然トシテ二十一箇師團ノ大陸軍ヲ維持スルハ國家内外ノ政策上非常ノ不利益ナル事實ヲ認メサル乎

單純ニ國家の見地ヨリ其ノ必要ノ程度ヲ較量スレハ露帝國タル日本ニ取テハ海軍ハ陸軍ヨリ必要ナルコト辯ヲ駁タス然ルニ今ヤ華府會議ノ結果トシテ比較的必要多キ海軍ハ大ニ減縮セラレタス此ノ時ニ方リ政府若強テ口實ヲ設ケテ陸軍縮小ニ反對シ國力ノ耗費ヲ顯サルカ如キコトアラハ陸軍ハ遂ニ國民ノ怨府トナラム且夫我カ現在ノ陸軍ハ主トシテ帝政時代ニ於ケル露國ノ六陸軍ヲ對象トシテ帝國防衛ノ爲ニ設定セラレタルモノナリ然ルニ露國ハ先年ノ革命以來既ニ陸軍國タルノ資格ヲ失ヒ、來テ我カ國ヲ攻擊スル能ハサルハ勿論國內ノ治安スラモ尙之ヲ維持シ難キ境遇ニ在リ露國ノ來寇ニ對シテ二十一箇師團ノ大陸軍ヲ備フルノ必要ナキコト明ケシ然ラハ露國以外ニ其ノ陸軍ヲ以テ我カ國ニ來寇シ得ヘキ邦國アリヤト考フルニ我カ海軍ニシテ苟モ全減セサル限リハ全然之アルコトナシ既ニ來寇者ナレハ我カ陸軍ハ之ヲ國防ノ用ニ供スルノ機會ナキコト亦極メテ明白ナリ然ラハ侵略ノ爲ニ之ヲ

幸禍ニ世界ノ平和ニ貢獻スルニ在ル上ハ之カ實行ノ結果當然生スヘキ多數ノ海軍軍人ノ解職、官民諸工場ノ閉鎖、技術者職工ノ失業等ニ對シテハ當然政府ヨリ相當ノ年金、手當金又ハ補償金ヲ支給シ之ヲ救済保護スヘキハ言フ迄モナシ加之ナラズ是等軍用諸工場ノ設備及技術者職工ノ熟練セル專門的技術ヲ學テ之ヲ平和的工業ニ轉用シ寧ろ利益之ヲ獎勵シ我カ産業ノ改善發展ヲ圖リ之ヲ今後ノ國際經濟戰ニ利用スルハ最機宜ニ適セル積極的失業救済政策ナリ

最堅實ナル産業政策タリ最徹底セル國防充實策ナリト信ス今日歐米列國カ最頭腦ヲ悩マセルハ産業ノ復活、貿易ノ振興失業問題ノ救済問題ニ在リ我カ國ノ産業政策及失業問題ノ解決如何ハ我カ將來ノ國防及國運ニ影響スルコト亦極メテ重大ナルヲ知ラサルヘカラス

六 我カ陸軍ノ對手國ナル露支既ニ陸軍國タルノ資格ヲ失ヒタル今日政府ハ大ニ陸軍ヲ減縮スルノ意志ナキ乎
七 若減縮ノ意アリトスレハ其ノ方法及程度如何
八 我カ陸軍ハ内地及臺灣朝鮮樺太等ノ事變又ハ露支境上ノ匪徒防禦ニ用ウルノ外之ヲ使用シ得ヘキ場合ナシ政府ハ此ノ事實ヲ認メサル乎
九 政府ハ其ノ半數タモ尙之ヲ使用スル目的ナキコト明白ナル今日ニ方依然トシテ二十一箇師團ノ大陸軍ヲ維持スルハ國家内外ノ政策上非常ノ不利益ナル事實ヲ認メサル乎

單純ニ國家の見地ヨリ其ノ必要ノ程度ヲ較量スレハ露帝國タル日本ニ取テハ海軍ハ陸軍ヨリ必要ナルコト辯ヲ駁タス然ルニ今ヤ華府會議ノ結果トシテ比較的必要多キ海軍ハ大ニ減縮セラレタス此ノ時ニ方リ政府若強テ口實ヲ設ケテ陸軍縮小ニ反對シ國力ノ耗費ヲ顯サルカ如キコトアラハ陸軍ハ遂ニ國民ノ怨府トナラム且夫我カ現在ノ陸軍ハ主トシテ帝政時代ニ於ケル露國ノ六陸軍ヲ對象トシテ帝國防衛ノ爲ニ設定セラレタルモノナリ然ルニ露國ハ先年ノ革命以來既ニ陸軍國タルノ資格ヲ失ヒ、來テ我カ國ヲ攻擊スル能ハサルハ勿論國內ノ治安スラモ尙之ヲ維持シ難キ境遇ニ在リ露國ノ來寇ニ對シテ二十一箇師團ノ大陸軍ヲ備フルノ必要ナキコト明ケシ然ラハ露國以外ニ其ノ陸軍ヲ以テ我カ國ニ來寇シ得ヘキ邦國アリヤト考フルニ我カ海軍ニシテ苟モ全減セサル限リハ全然之アルコトナシ既ニ來寇者ナレハ我カ陸軍ハ之ヲ國防ノ用ニ供スルノ機會ナキコト亦極メテ明白ナリ然ラハ侵略ノ爲ニ之ヲ

用ヒ得ヘキカト謂フニ大戦以後世界ノ形勢ハ如何ナル邦國ノ武力の侵略モ之ヲ許容セザル傾向ヲ生シ強テ之ヲ爲サントスレハ必ス全世界ノ反對ヲ受ケテ結局獨逸ノ覆轍ヲ踐マサルヲ得サルニ至レリ故ニ現在ノ我カ陸軍ハ防禦のニモ侵略のニモ之ヲ用ウルノ地ナシ若強テ之ヲ使用スレハ必ス西伯利亞出兵ノ失敗ヲ再演スヘシ

我カ陸軍ヲ必要トスル場合ハ(一)内地ニ警察官ノ手ニ餘ル程ノ暴動内亂起ル時(二)朝鮮臺灣樺太等ノ新領土ニ事變生スル時(三)露支ノ匪徒我カ國境ヲ擾シ又ハ在留官民ノ生命財產ヲ危クシ而モ露支官憲其ノ責任ニ任スル能ハサル時等ノ數種ニ過キス此ノ目的ノ爲ニハ現在ノ兵員ヲ半減スルモ尙多キニ過クヘシ實際ニ用途ナキ大兵ヲ養フカ爲ニ内ニ於テハ教育及産業ノ發達ヲ妨碍シ外ニ在テハ列國ノ猜疑ヲ招キ國家ノ安全ヲ保證スヘキ兵備アルカ爲却テ國家ヲ危殆ナラシムルノ結果ヲ來サントス現ニ西伯利亞出兵ノ如キハ徒ニ六億圓ノ國帑ヲ消耗シテ全世界ノ非難ヲ招ク此ノ外侵略主義ニ二重外交ノ惡評ヲ受クルカ如キモ亦必要ナキニ大軍ヲ備フル結果ニ外ナラサルヘシ

十 政府ハ大ニ兵數ヲ減少スル同時ニ士官兵卒(特ニ下士兵卒)ノ給與ヲ増加シ退役軍人及戰死者遺族又ハ廢兵ノ待遇ニ改善ヲ加フルノ必要ヲ認メサル

人生普通ノ道理ニ據レハ隨意ニ辭退シ得ヘキ任務ニ服スル者ノ報酬ハ希望者アル限ハ薄少ニシテ可ナルモ強制的ニ就役セシメラル者ノ報酬ハ豊富ナラサルヘカラス然ルニ徵兵制度ハ此ノ道理ニ逆行シ強制徵募ノ兵卒ヲハ無給同様ノ薄給ニテ國防ノ任務ニ服セシム故ニ兵卒ノ大多數ヲ占ムル所ノ下層階級ハ身自ラ非常ノ窮境ニ立ツノミナラス其ノ父母モ亦飢餓ニ陥ル者少シトセス畢竟經濟力不相應ノ大軍ヲ備フルカ爲止ムヲ得ス下士兵卒ノ給與ヲ節約シ以テ財政上ノ破綻ヲ免レムトスル窮策ニ外ナラス而シテ之カ犧牲ニ供セラルルモノハ大多數ノ下層階級ナリ明治六年徵兵制度ヲ採用シ國民皆兵ノ主義ヲ樹立シタリト雖實際兵役ニ服スル者ハ國民全體ニ非スシテ其ノ一小部分ニ過キス之ヲ今日ノ實況ニ見ルニ現役兵約二十五万人之ニ過キテ餘兵ヲ加フルモ約二百万人ニ過キス而シテ全國ニ於ケル丁年以上後備免役ニ至ル年齢ノ男子ハ約一千万人ニ及ブヘキ故兵役ノ義務ニ服シ服役中經濟的損失ヲ受クル者ハ右男人口ノ二割五分ニ過キサルヘシ今此ノ二百万人カ各二

年宛服役スルコトノ代リニ家ニ在テ生産的業務ニ従ハムカ一日平均一圓五十錢ノ收入トシテ一年ニ約十一億圓在營二年間ニハ二十餘億圓ノ犧牲ヲ拂フ計算トナルヘシ此ノ大犧牲ハ徵兵服役者二百萬人ノミノ負擔ニシテ他ノ八九百萬人ハ全然之ヲ免レ居ルノミナラス四年ノ豫備役モ十年ノ後備役モ皆現役兵ヲ出セル少數者ノミノ負擔ニ屬シ一朝有事ノ日ハ直ニ一身一家ヲ棄テ進テ戰線ニ立タサルヘカラス封建專制ノ時代ヲ追ルコト尙遠カラサル現行徵兵令創設當時ニ在テハ一般國民ノ無知覺ノ爲之ヲ默然ニ附シ去レルモ爾後既ニ五十年ヲ經過シ國民ノ思想著シク進歩セル今日ニ於テ此ノ著大ナル負擔ノ偏頗不公平ヲ此ノ儘ニ放任シ置クハ政治ノ良道ト謂フヘカラス中流以上ノ壯士ハ或ハ官吏トナリ或ハ一年志願兵トナリ或ハ海外ニ留學シテ給養若ハ免除ヲ受ケ得ルニ反シ下層階級ノ貧困者ハ血稅ヲ納ムル上ニ尙薄給ニ甘シ經濟上ニ於テモ亦右ノ如キ大犧牲ヲ拂ハサルヲ得ス下層階級ハ中流以上ノ者ニ比スレハ事實上二重ノ義務ヲ負擔スト謂フテ可ナリ

多數ノ退役軍人ニ至リテハ其ノ職務ノ性質上其ノ心身ノ全部ヲ捧ケテ軍務ニ盡サシタル結果自ラ其ノ經濟的能力ヲ減損スルノミナラス將校ニ在テハ其ノ退役後ト雖尙永年ニ互リテ義務的公課ニ安シ且大多數ハ現役將校ト同等ノ戰時職務ヲ有シ一旦緩急アラハ挺身公ニ奉スルノ覺悟用意ヲ必要トスルモノニシテ戰死者及廢兵ハ共ニ國家非常ノ場合其ノ身命ヲ犧牲ニ供シテ砲彈彈雨ノ間ニ轉戦シタル有功ノ勇士ナリ幸ニシテ其ノ生命ヲ取リ留メタル者モ往往傷損ニ依リテ癱瘓トナリ甚タシキハ其ノ起臥出入ニ附添入ヲ要スル不共者トナル國家ハ之ニ報ユル爲宜シク相當ノ優遇ヲ與ヘ一家ノ柱石タル壯丁ヲ國家ノ犧牲ニ奉ハレタル遺族等ヲシテ恤ク迄其ノ生活ノ安定ヲ得セシメサルヘカラス然ルニ現在之ニ對スル國家ノ待遇甚タ冷淡ニシテ執レモ其ノ生活ノ保障スラ得ル能ハサル結果名譽アル戰死者ノ遺族ニシテ尙路頭ニ迷フ者アルノミナラス氣ノ毒ナル廢兵中ニハ全ク窮乏ノ生活ヲ爲ス者アリ甚タシキハ退役將校ニシテ窮迫ノ餘リ法網ニ罹リテ市井ノ常習的犯罪者ト共ニ牢獄ノ辱メヲ受ケル者アルニ至ル斯ノ如キハ決シテ國家カ忠誠ナル功勞者ヲ遇スル所以ノ道ニ非サルノミナラス其ノ結果或ハ忠勇ナル我カ軍隊ノ將來ニ忌ハシキ惡風潮ヲ誘入スルノ惧ナシトセス

斯ル不合理ノ制度ヲ持續スルハ國家ニ重テ極メテ危

險ノ業ナレハ我カ陸軍ノ對手トナルヘキ邦國倒壞シタル今日取リ敢ヘス兵員ヲ半減シ以テ大ニ下士兵卒ノ給與ヲ増加シ退役軍人及戰死者遺族又ハ廢兵ノ待遇ニ一大改善ヲ加フルハ國內ノ急務ナリト信ス

十一 政府ハ製造工業隆盛ニシテ經濟力豐富ナラサルハ兵員多シト雖戰勝者タル能ハサルノ事實ヲ認メサル

文明ノ進歩ハ全ク戰爭ノ實質ヲ一變シタリ從來ハ兵員ノミノ戰爭ナリシモ今日ハ國力總體ノ戰爭トナリ製造工業隆盛ニシテ原料品豐富ナラサルハ將卒如何ニ精銳ナルモ決シテ勝者タル能ハサルコトハ獨逸ノ敗殘英米ノ勝利ニ依テ證明セラレタリ殊ニ米國ノ如キハ殆ト無陸軍國ナリシニモ拘ラス今日ハ儼然タル世界ノ最大強國トシテ天下復タ之ト爭ヒ得ル者ナキカ如キ現狀ヲ呈スルニ至レリ是レ畢竟他ノ列國カ軍備擴張ニ非常ノ大金ヲ消耗シ爲ニ經濟力ノ發達ヲ阻礙セシ間ニ軍事費ヲ節約シテ之ヲ經濟方面ニ利用シタル結果ニ外ナラス即チ米國強大ノ一大原因ハ歐洲列國ノ如ク不要ノ軍備ヲ擴張セザリシ一事ニ在リト謂フモ可ナリ獨逸ハ國家ノ主力ヲ過多ノ軍備ニ傾注シテ倒壞シ英米ハ主力ヲ文化及産業ニ傾注シテ今日尙其ノ隆昌ノ新運ヲ開ケリ眼前ニ此ノ事實ヲ見ル者豈防政策ニ根本的の改革ヲ加ヘスシテ可ナランヤ

十二 國家防衛ノ爲ニ必要ナル資格ハ必スシモ兵營ニ於テ之ヲ訓練スルヲ要セス學校及一般社會ニ於テ一層廣ク訓練シ得ヘシト信ス政府ハ兵營以外ニ戰士訓練ノ道ナシト爲ス

身體強健ニシテ義勇奉公ノ念ニ富ミ規律ヲ重シ節制ニ服スル者ハ一朝事アルニ方テハ皆精兵ナル兵士タルヲ得ヘシ而シテ斯ノ如キ性格ヲ養成スルハ教育者ノ任務ニシテ獨リ兵營ニテノミ之ヲ訓練シ得ヘキニ非ス僅值二三年間ノ兵營生活中ニ訓練シ得ヘキ技能性格ハ十數年ノ久シキニ涉ル所ノ學校生活中ニ於テ教養訓練シ得ヘキハ明ナリ問題ハ唯經費ヲ設備ノ有無ニ在ルヘシ今日我カ陸軍ニ於テ毎年兵員養育ノ爲ニ費ス所ノ一億餘萬圓ヲ舉テ教育方面ニ轉用シ而モ運用其ノ宜シキヲ得ハ必ス現在以上ノ國防的戰士ヲ得ヘシ

體、智、德ノ三育、善ク普及シ心身強健ナレハ平時ハ之ヲ文化生産ノ業ニ用ヒ戰時ハ之ヲ砲彈彈雨ノ間ニ用ウルヲ得ヘシ曾テ英ノ「ウェリントン」公カ「ウォータール」戰勝ハ「イトン」校庭ニ於ケル訓練ノ結果ニ過キスト喝破セルモノ即チ是レナリ特科兵ハ之ヲ兵營教

正十一年度豫算ニ於テ本糧費、兵器及馬匹費合
計額九千六百三十万八千六百五十五圓ナリ

(八) 陸海軍犯罪者ノ特別取扱 陸海軍ノ現役軍
人軍局ハ軍律犯罪ニ非サル常事犯ト雖陸海軍治
罪法ノ各第一條ニ依リ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス
ル規定ニシテ事實上一種ノ治外法權ヲ有セリ且
軍法會議開否ノ鍵ハ常ニ陸海軍大臣ノ掌中ニ握
ラレ事件毎ニ判官ヲ任命セサルヘカラサルノミナ
ス理事主理憲兵等ノ上司ニ對シテ強制力ナル結
果ハ自ラ近年ニ於ケル陸海軍人ノ腐敗ヲ誘致シ
タル一原因ナルカ如ク軍人ハ犯罪者トナリテ迄尙
特別ノ取扱ヲ受ケ居レリ

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長 奧野三郎殿

衆議院議員尾崎行雄君外一名提出海陸軍備及特例
ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書呈進候

(別紙)

衆議院議員尾崎行雄君外一名提出海陸軍備及
特例ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 華府會議終結後ニ於ケル我海軍勢力ニシテ列國
ト共ニ協議ノ上相對的ニ一層縮小シ得ルモノナルト
キハ國防ノ安全ニ差支ナキ限り之ヲ制限ニ反對スルモ
ノニアラス

二 第一問ニ對スル答辯ノ通

三 政府ハ補助艦艇等ノ建造ニ付テ列國間ノ競争ヲ
惹起セシムトスルノ意思ナキハ勿論將來更ニ列國ト
共ニ本問題ノ爲ニ會議ヲ開クノ機會アラハ政府ハ欣
然之ニ參加スヘシ

四 目下調査中ナリ

五 目下調査研究中ナリ

六 我國陸軍ノ對手國カ露支兩國ナリトノ前提ハ之ヲ
認ムルコトヲ得ス

七 質問第六及第九ノ答辯ヲ參照アリタシ

八 東洋ノ形勢ト歐洲大戰ノ戰例トニ照ミ政府ハ本
項ノ事實ヲ認ムル能ハス

九 國家ヲ防衛スル爲我陸軍ノ現勢力ハ之ヲ維持スル
コト目下必要ナリト認ム

十 國防ヲ全フシ得ル程度ニ兵力ヲ維持スルト共ニ給
與待遇ノ改善ヲ計ルニ同感ナ

十一 兵力ト經濟力ト兼備ハリテ完全ナル勝者タルヲ
得ヘシ其緩急ハ時勢ト國情トニ依ル

十二 普通教育ト軍隊教育ト相俟テ精銳ナル國軍ヲ

養成シ得ヘシ普通教育ノミヲ以テシテハ軍隊教育ハ
徹底セス

十三 現在ニ於テ質問ノ如キ嫌アルヲ認メス但シ將來
時勢ノ進退ニ伴ヒ適當ナル改正ヲ施スノ必要アル場
合無キヲ保セス

右及答辯候也

大正十一年 月 日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

海軍大臣 男爵加藤友三郎

陸軍大臣 山梨 半造

鹿町炭礦買収ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十一年二月十八日

提出者 田中 善立 賛成者 本田 恆之

外二十九名

鹿町炭礦買収ニ關スル質問主意書

本員ハ昨年三月七日鹿町炭礦買収ニ關シ
長崎縣北松浦郡鹿町村ニ存在スル鹿町炭礦ハ濱野
治八(議長)時會副議長政友會員)カ前持主中島
德太郎外數名ヨリ一坪八厘乃至三錢ニテ買収經營
セシモ維持困難ニ陥リ漸ク大倉喜八郎氏ノ援助ニ依
リ株式會社ヲ組織シ繼續經營セシモ炭界不況ニ際シ
殆ト破滅ノ境ニ在リテ時價僅ニ三十萬圓内外ニ
過キストノ公許アリ然ルニ製鐵所ハ一坪當リ一圓ツツ
計金三百萬圓ノ高價ヲ以テ該炭礦ヲ買収セシ理由
如何

トノ質問ヲ爲セリ右ニ對シ山本農商務大臣ハ三月十四
日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

大正九年三月鹿町炭礦株式會社ヨリ製鐵所カ買収
シタル礦區ハ總坪數四百六十七萬坪ニシテ一坪當
五十九錢餘採掘可能總噸數ノ内良炭六割トシテ千
八百五十五萬噸一噸當十五錢ノ計算ナリ

本礦區買収ニ關スル事項ハ製鐵所長官ノ專行權限
ニ屬スルヲ以テ同長官ノ意見ヲ資シタルニ本礦區ノ
炭質ハ本邦ニ於ケル製煉用炭炭配合材料ニ適シタル
唯一ノモノニシテ從來年々買収シ海外ヨリ購入シツ
ツアル配合炭ノ不足ヲ補フモノ也而シテ此礦區ヲ買
收シタルハ當時開平炭ヲ購入スルノ困難ナルト近キ
將來ニ於テ開平附近ニ製鐵所設立ノ計畫アリテ該
炭ヲ購入シ得サル場合ノ發生セムトスルニ由リタルモ
ノナリ

然ルニ其ノ後本員ノ精査スル所ニ依レハ鹿町炭坑ニ於
ケル炭層ハ平均一尺以下ナリ其ノ炭層八寸ナリトハ地
方人ノ數十年來言ヒ來リタル周知ノ事實ナリ

方人ノ數十年來言ヒ來リタル周知ノ事實ナリ
山本農相ノ答辯ニ依レハ確定炭量ハ千八百五十五萬
噸トアレトモ本炭坑諸般ノ事情ニ精通セル工學士鮎川
甚五右衛門氏ノ調査ニ依レハ僅カ百万噸弱ト過キス而カ
モ其ノ計數ハ五百万坪全部ヲ採掘シ得ヘシト假定シタル
量ニシテ實際ハ其ノ二分ノ一又八三分ノ一ヨリ採掘シ能
ハサレハ安全炭量ハ三十萬噸或ハ五十萬噸ニ過キサル
ヘシ

鮎川工學士ヨリ鹿町炭礦株式會社ノ技師長タリシ工
學士玉城孝太氏ニ對シ(一)鹿町炭坑ノ炭層平均厚サ
ハ何程ナリヤ(二)鹿町炭坑礦區ノ全面積中有炭地並
採掘サルヘキ面積ハ何程ナリヤ(三)採掘ニ堪ユヘキ面積
ノ採掘收率ハ何程ナリヤ(四)水洗ノ歩止リハ何程ナリ
ヤ(五)鹿町炭坑ニ對スル將來ノ見込如何ト推問セルニ
對シ玉城工學士ハ

一 鹿町ノ炭層「コークス」原料トシテノ炭層ハ御見
込ノ通り平均八寸位ト見ルヲ至當ト存シ候現在
採行中ノ第一坑ハ厚サ所ハ一尺以上ノ所アレトモ
採掘スヘキ部分ハ最早幾何モナク第二坑ハ炭層甚
タ貧弱ニシテ第一坑寄リノ左片磐ノ右片磐ハ四
寸位ニシテ採掘スルモ到底引合ハス第三坑ハ小生
開坑候モノニテ是ハ一尺位アルモ薄キ所ハ七寸位
ナリ

二 四百餘萬坪ノ礦區ナレトモ現在採行ノ處附近
ハ大斷層三條アリ降下隆起シ全部ヲ總メテ經營ス
ルコト頗ル困難ナリ小生ハ小規模ニ一部分宛ヲ採
掘スルノ方針ヲ立テテリ全面積中先ツ五十%ヨリ
六十%位ノ所ナラムト存シ候ソレ以上ハナキモノト
小生ハ信ジ候

三 水洗前トシテ埋藏炭ト採掘炭トノ割合ハ六割
五分即チ六十五%ヨリ七十%位ノモノニ候

四 水洗ノ割合ハ「デガー」不完全ナリシ時ハ六十%
ナリシモ坑内水洗ヲ殷重ニシ「デガー」ヲ直シテ七十
五%ヨリ八十%ニ上ラシメタリ目下如何ニヤ

五 以上ノ如ク鹿町炭坑ノミニテハ四百萬坪アルモ半
分位ノ採掘區域トシ平均八寸ノ厚サトシテ七十%
丈トシテ七十%乃至八十%ノ仕上リトセハ總炭量
幾何モナキモノニ候是ニテ大事業ヲ計畫シ得ルヤ
覺束ナキ様存セラレ候

ト回答セリ斯ノ如クニシテ尙且有有望ナリト主張シ得ラル
ル乎各專門家ノ異口同音ニ唱導スルコトニ依レハ本
炭坑ハ十年ナラスシテ廢棄セサルヘカラサルニ至ラムト假

今此ノ「コークス」配合炭ヲ必要ナリトスルモ北松浦郡内ニハ鹿町同様ノ石炭ヲ産スル礦區數ハ尙數十ヲ下ラス何レモ坪當リ五六錢ニテ買收シ得ラルルニ何故ニ斯ル貧弱ナル產炭坑ヲ坪當五十九錢ノ最高價ニ買收セシヤ
右及質問候也

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長 奧三郎

衆議院議員 田中善立君提出鹿町炭礦買收ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員 田中善立君提出鹿町炭礦買收ニ關スル質問ニ對スル答辯書

炭礦ノ買收ニ依レハ今日迄ノ賣査ノ結果ハ鹿町炭礦ノ賣場中其ノ賣價ハ五尺層ハ厚サ三尺八寸薄サハ一寸一令ニテ賣斷層以外無賣場ナキヲ以テ總ト賣價六十七萬七千餘圓ノ全面積ニ賣價七割餘ハ賣價ニシテ更ニ其ノ約六割ハ賣收可能ノモノナリ而シテ本炭ノ採分ハ分層上十六尺内層ニ過キサルニ依リ採録用炭礦製造ノ配合料トシテ水洗ヲ要セス故ニ各層ヲ通シテ計算上少クモ千八百餘萬噸ノ賣收量アルコトヲ推定シ得タリ且圖下調査中ナル賣場ノ試鑿及精査ノ結果ニ依レハ更ニ賣場ヲ増加スルノ計算ヲ要シテ賣價アルヲ以テ賣收額定額ハ過大ニテ賣場社會社力賣收買求メタル價格ノ低廉ナルハ經濟界不景況價亦不況ナルノ時ナリシノミナラス數多ノ小礦區主ヨリ其ノ各礦區ノ炭層ノ一部ヲ賣收シテ買收シタルニ起因スルモノノ知シ而シテ炭礦所力支拂タル價格ハ本炭礦力從來所有ノ礦區ニ接續セルト附近一帶ニ賣場ヲ取續メタル一大礦區圖ニシテ水運亦便利ナルカ爲事賣場賣上甚多ノ利益アルヲ省察シ當時ニ於テ賣場賣上ノ賣價實例ヲ參酌シ慎重ニ採算シテ之ヲ決定シタルモノナリ本炭礦力本邦炭礦原料ノ獨賣上重要ナルモノニ屬スルヲ賣收各般ノ利便及該炭ノ特殊ノ性質トニ照セハ政府賣價ニテ賣收スル本炭ニ對テハ本炭ハ製鐵所以外ノ技術者ヲシテ圖下調査セシメマツ、アヤ

右及質問候也
大正十一年三月十一日
農商務大臣 男爵山本 達雄
社會主義者取締ニ關スル質問主意書
右決議ニ據リ提出候也
大正十一年二月二十一日

提出者 田中 武雄 賛成者 吉川吉郎 外三十三名
社會主義者取締ニ關スル質問主意書
政府ハ近來發生セル過激社會運動發生ノ原因何レニアリト思考スルヤ及其ノ取締ニ關スル方針如何
右及質問候也

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長 奧三郎

衆議院議員 田中武雄君提出社會主義者取締ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員 田中武雄君提出社會主義者取締ニ關スル質問ニ對スル答辯書

近時我國ニ於ケル過激社會運動ハ主トシテ歐洲大戰後歐米諸國ニ於ケル思想ノ變遷ノ影響ト露國過激派ノ活動トニ基因スヘク之ニ對シテハ從來刑法、治安警察法、出版法、新聞紙法等ニ據リ取締ヲ爲シ來レモ未タ充分ナルヲ以テ本議會ニ過激社會運動取締法案ヲ提出シ取締上遺算ナキヲ期セムトスルモノナリ
右及答辯候也
大正十一年三月 日

內務大臣 床次竹二郎

司法大臣 伯爵大木 遠吉

實業郵便局長印紙橫領事件及同事件ノ裏面ニ潛メル政治的醜怪事ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十一年二月二十七日

提出者 用中 萬逸 賛成者 安達 謙藏

實業郵便局長印紙橫領事件及同事件ノ裏面ニ潛メル政治的醜怪事ニ關スル質問主意書
外三十一名
兵庫縣武庫郡實業郵便局長津下精一ノ印紙橫領事件ニ關スル豫審ノ決定及第一審判決ニ據レハ精一等ノ橫領シタル印紙ノ總額ハ二百三十四萬三千圓ニシテ是カ橫領ノ日時、場所、種類等明確ニ證明セラレ且通信省ヨリ提起セル私訴目的價格モ亦同一額ナリ然レニ此ノ日時、場所以外タル大正九年十二月精一カ東京縣ホテルニ滞在精一ノ長男津下東洋及八尾捨治郎ノ兩名カ精一ノ命ニ依リテ同月四日神戸郵便局印紙出納係仁兒兼太ヨリ印紙五萬圓ヲ收受シ之ヲ正金ニ換ヘ金四萬五千五百圓ヲ大阪山口銀行堂島支店ニ振込タルコト幾多ノ證

證書類ニ依リテ明白ナリ然レハ精一ノ橫領ニ係ル印紙ノ總額ハ二百三十四萬三千圓以上ナルコト動カスヘカナル事實ナルト同時ニ通信省ニ於ケル帳簿及帳帳ナル監督ノ不行局ナル且ハ豫審取調ノ粗漏ナル誠ニ想像ニ餘リアリトイフヘシ政府ハ精一ノ印紙橫領總額ハ二百三十四萬三千圓ナリト爲ス乎
二 裁上五萬圓ノ橫領印紙ハ豫審ノ決定ニ依レル二百三十四萬三千圓中ニ加算スヘキモノナリトセハ豫審調書ニ明記サレタル橫領ノ日時、場所、種類等ハ全ク偽造ノ申立ニシテ從テ豫審ノ根柢ヲ傷コト甚大ナリ殊ニ豫審調書ヲ根據トシテ精一カ橫領金額ノ使途ヲ考察スレハ二百三十四萬三千圓以外ニ尙數十萬圓以上ノ橫領ヲ取テシタルカ如キ形跡在リ當局ノ所見如何

三 前掲ノ事項ニ關シテハ大正十年九月十四日辯護士福津六也カ精一ノ背後ニ隠レテ此ノ大罪ヲ敢行スルニ至ラシメシ所謂大奸巨猾ニ十二名ヲ神戸地方裁判所檢察局ニ告發セルハ拘ヲス神戸檢察局ハ此ノ告發ヲ不問ニ附シテ何等取調ヲ開始セムトハセス却テ結審ヲ急クカ如キ形跡アリ而モ同年十一月十四日ヲ以テ精一カ保釋出獄セシメタルハ抑如何ナル乎平而シテ精一カ保釋出獄後「本件ニ關係アル大官名士ヲ檢舉シテハ國ニ對スル拜借金ヲ返却出來ヌカラ檢察局ニ願テ保釋出獄ヲ請ヒ大官名士方ニモ面會シテ專念返金ニ盡ス積リテアル」云云ト發言セルハ果シテ眞實ナル乎

四 福津辯護士ノ告發ヲ無視シ疑雲ニ包マル精一ヲ遠ニ保釋シ而モ輿論ノ糾彈聲響トシテ議會ノ再開目隲ニ迫ルヤ大正十一年一月ニ至リ突然其ノ保釋ヲ取消シ再ヒ是ヲ拘禁セルハ恰モ當局カ證據ノ湮滅ヲ陰ニ幫助セシカノ如キ疑ナシトセス況ヤ前項ニ記セシ精一ノ奇怪怪ナル告白アルニ於テオヤ當局ノ所見如何

五 精一ノ再拘禁ヲ招クニ至リシハ印紙法違反ノ罪名ニシテ前陳セシ橫領印紙五萬圓ノ收支決算ノ合致セザルカ爲精一カ印紙ノ偽造ヲ企圖セリトノ新嫌疑ノ爲ナリト謂フ果シテ眞ナルヤ
六 大阪通信局監察課事故主任深谷吉藏ハ國ノ代理人トシテ精一ノ女婦田中繁造ニ對シ贓物收受其ノ他ノ罪名ニヨリ神戸檢察局ニ告訴ヲ提起セリト謂フ然レニ此ニ對シテモ亦審理ヲ開カムトセサルハ不起訴處分ニ附シタル乎或ハ又告訴人カ告訴ノ取下ヲ爲シタル爲ナル乎

七 大正七年十二月ヨリ同八年三月迄ノ間ニ於テ精

一カ神戸郵便局出納係井上鶴治ト共謀シテ横領シタル印紙ノ總額ハ六十五萬圓ニシテ同八年三月ニ至リ仁兒兼太カ新ニ出納係ト爲リ鶴治ヨリ事務ノ引繼ヲ受ケタル際精一ハ横領印紙中ヨリ十五萬圓ヲ返還セリ開ハ豫審ニ於ケル精一ノ申立及精一ノ長男東洋カ精一ニ與ヘシ書翰並該印紙ヲ東京市神田區千代田四共榮貯金銀行ニ預入シ在リシヲ同銀行理事原口英雄カ之ヲ精一ニ渡シタル事實ヲ立證セル書翰ニ依リテ明白ナリ然ルニ鶴治ハ印紙ノ出納簿ヲ破毀シテ此カ證據ノ湮滅ヲ謀リ而シテ印紙二十萬圓ヲ精一ヨリ返還ヲ受ケタリト陳述セリ此ノ兩様ノ申立ニ對シ豫審ニ於テハ證據充分ナル精一ノ自白ヲ斥ケ何等確證ナキ鶴治ノ供述ヲ採用セリ而シテ此ノ五萬圓ノ差額ニ對シテハ前記大阪逓信局書記深谷吉藏モ亦頗ル疑念ヲ懷キ居レリ當局ノ所見如何

八 大正九年二月本件ノ發覺スルヤ折柄第四十四回議會開會中ナリシヲ以テ錯愕驚倒セル當局ハ百方之カ隱蔽ノ策ニ腐心シ遂ニ狼狽ノ極精一ノ有スル幾多ノ債權ヲ保全スルノ方法ニ出ツルカ當然ナルニ拘ラス之ニ對シテ何等ノ手段ヲ講セス法規ヲ無視シテ精一ノ身元保證人平塚嘉右衛門ニ對シ其ノ所有ニ係ル不動産全部約三百萬圓ニ假差押ヲ執行シ以テ何等國家ニ損失ヲ及ボサスト公言自己ノ責任ヲ輕減スルニ是レ務メタリ果シテ政府ハ法規上身元保證人ノ所有財產ヲ處分シテ國ノ損失ヲ償ヒ得ヘキモノナリト認ムルヤ

九 神戸檢事局ニ於テハ本件ノ背面的醜怪事ノ昭昭トシテ明ナルニ拘ラス之カ檢舉ヲ欲セスシテ單ニ精一等ノ横領事項ノミニ局限セムトスル方針ナルカ如ク思惟セシム果シテ然ラハ道聽途說ニ由ル大正十年夏大木法相西下ノ際本件ヲシテ可及的擴大セシメサル如ク命令セシト謂フハ單ニ一片ノ風評トシテ默過スルヲ許サス洵ニ我カ司法權ノ威信ニ關スル重大問題ナリ當局ノ所見如何

十 大正十年二月精一ノ犯罪發覺セムトスルヤ政友會所屬代議士澤來太郎君ハ運動費トシテ精一ヨリ數千圓ヲ收受シ精一ノ刑事訴追ヲ免レシムヘク故原首相床次內相野田逓相及國警總監ニ運動シテ其ノ内諾ヲ得更ニ議會開會中ナル同年二月二十七日大阪ニ急行シテ同逓信局長河合整ヲ逓信局ニ訪ヒ横領印紙償價ノ條件ヲ以テ事ヲ穩便ニ付スヘキヲ懇請シ之レ亦内諾ヲ得タリ然ルニ警視廳ニ於ケル上司

ノ命令下僚ニ徹底セス三月一日精一ノ羅致ヲ見ルニ至リシモ其ノ手續ヲ遷延セシメタルカ如キ傾アリ如斯ハ司法權ノ威信ヲ損傷スルモノ頗ル甚大ナリト信ス如何

十一 精一ヲ傀儡トセル權執印幸雄ハ星製藥會社ノ獨占セル臺灣粗製モルヒネ販賣ノ權利ヲ分配獲得スヘク精一ニ多額ノ運動費ヲ支出セシメ先ツ岡山縣知事香川輝ヲ手先ト爲シ古賀拓殖局長官ヲ動かシ次テ下村臺灣總務長官ニ迫リシ其ノ效果ナキヤ方策ヲ一轉シテ之ヲ政治問題ト爲シ第四十一回議會ニ於テ政友會所屬代議士土屋清三郎同中村啓次郎ノ兩君ヲシテ攻擊的質問ヲ爲サシメ威嚇ノ裡ニ其ノ目的ヲ達セムトセリ當局ハ我カ立法院ノ面目ニ關スル此ノ重大問題ニ對シ如何ナル所置ヲ執ラムトスルヤ

十二 若然ラズシテ幸雄カ精一ヨリ運動費詐取ノ目的ニ是ヲ利用セリトセハ前陳セシ福津辯護士カ告發書中ニ之ヲ明記シ更ニ一切ノ證據書類ヲ提供シ在ルニ拘ラス司法當局ハ我カ立法院ノ權威ニ關スヘキ此ノ重大問題ニ對シテ一指ヲ綱レムトハセス今尙之ヲ不問ニ付スルハ何故ナルヤ敢テ明答ヲ求ム

十三 政友會所屬代議士植場平君ヲ始メトシ三谷軌秀寺田中正權執印幸雄及政友會所屬ノ大阪府會議員數名等ハ新淀川河川敷地ヲ占用シテ是ニ三角藪ヲ栽培シ製糖原料ヲ得ヘク其ノ純益一箇年三百三十八萬圓敷地土砂ノ賣却利益百萬圓ニ上ルヘシトテ巧ニ精一ヲ説キ九萬圓餘ノ運動費ヲ提供セシメ百方運動ノ結果先ツ堀田土木局長ヲ動かシ更ニ床次內相ニ迫リテ高壓的ニ内務大臣ノ命ニ俟ツノ方策ニ出テ大正八年九月床次內相及堀田局長カ政友會關西大會ニ際シテ下阪スルヲ待テ名ヲ港灣ノ視察ニ結リテ現場ノ觀察ヲ讀ヒ終ニ大正九年十二月其ノ目的ノ一半ヲ達成セリ由來新淀川ハ巨額ノ國費及地方費ヲ投シテ改修ヲ斷行セシハ天下周知ノ事ニシテ從テ該河川敷地ノ保護ハ治水上最重要事項タリ然ルニ情實因縁ニ依リ之ヲ無料貸與セシハ明ニ治水政策ノ一大失錯ニシテ且九萬圓餘ノ運動費ヲ詐取シ更ニ純益金三百三十餘萬圓ニ對スル利益分配ノ契約書ヲ作製シテ此ノ曲事ヲ政行セル政友會一味ノ行動ハ綱紀ノ肅正上斷シテ許スヘキニ非ス敢テ問ハム政府ハ如何ナル法律規則ニ據リ河川敷地ノ占用ヲ許可シタルヤ

十四 床次內相ハ大正十年七月所謂津下事件ノ曝露サレ世論喧嘩タルノ時巧ニ祕書官瀧代議士ノ名ヲ以テ津下事件ニハ何等ノ關係ナク且精一ニハ一面ノ「識ナシ」ト公言セシメタリ然ルニ其ノ後精一ヲシテ三十餘萬圓ヲ支出サシメタル秋田事件ノ真相明白ト爲ルニ及ヒテ内相ハ岡山縣知事香川輝ノ紹介ニ由リ精一ニ面會セシ事實明瞭ト爲リ更ニ大正八年初夏精一ノ事業ヲ援助スル目的ヲ以テ秋田縣知事名尾良辰ニ對シ精一ヲ紹介シタルノ事實明白ト爲レリ然ルニ前陳ノ如キ祕書官ノ代辯ニ依リ一世ヲ瞞詐シテ自己ノ不明ト不徳ヲ覆ヒ去ラムトスルハ賢明ナル床次內相ノ爲深ク惜マサルヲ得サルナリ内相ハ斯クテモ政治道德上何等ノ責任ヲ感セサルヤ

十五 大正十年七月福津、木村ノ兩辯護士ハ神戸檢事局ニ對シ精一ノ背後ニ在ル數名ノ大奸ヲ口頭ニテ告發シ同時ニ幾多ノ證據書類ヲ提供シ更ニ同年九月十四日福津辯護士單獨ニテ正式ノ手續ニ依リ十二名ノ巨猾ヲ告發セリ然ルニ神戸檢事局ニ於テハ何等ノ取調ヲ爲サムトハセス爲ニ福津辯護士ハ同年十月月中旬大審院ニ鈴木檢事總長ヲ訪ヒ總長不在ノ爲小山上席檢事ニ會見陳情スル所アリタリ然ルニ神戸檢事局光行檢事正ハ十一月二日大阪朝日新聞記者ニ向ヒ「福津辯護士ハ津下事件ノ證據書類ヲシテ運シテ夫レ以外告發ノ書類ニ接セズ福津辯護士ハ其書類ヲ提出ヲ以テ告發トモ間違テ居タノデセウ」ト語リシハ眞ニ奇怪ノ至リト謂フヘシ果シテ光行檢事正ノ談話ノ如ク福津辯護士ハ單ニ書類ヲ提出ヲ以テ告發ナリト誤認セルモノト爲シ正式ノ告發ヲ爲サスト認定セルヤ

十六 岡山縣知事香川輝カ精一ニ對スル債務ハ單純ナル普通貸借ニ過キスシテ何等官紀ヲ紊セル行爲ニ在ラストハ床次內相ノ答辯セルトコロナリ然レトモ香川知事ヲ精一ニ紹介シタル小關某カ精一ノ犯罪ヲ知悉セルノ點香川知事カ常ニ精一ト暗號電報ヲ交換シ居タルノ點並香川知事カ公務ヲ拋擲シテ精一ノ利權獲得補助ノ爲馳奔盡力シタルノ點殊ニ秋田事件臺淺モヒ事件大東銀行創立事件(橫領金六十二萬五千元投下)及畏クモ明治天皇御眞筆事件ニ關係セルハ昭昭ノ事實ナリ而シテ更ニ香川知事カ精一ニ送リタル書翰ニ(前略)弊地ノ富豪三四人トハ親密ニ交際致居候モ東京出發ノ初原首相ヨリ古賀拓殖ニ縣内ニ金錢授受スヘカラスト小生ニ申傳ヘヨト懇篤ナル首相內意ノ次第拜承折角ノ其厚意ニハ難背當感此ノ事ニ候萬一内閣ノ交迭ヲ見候節ハ潔ク掛冠事業ノ方面ニ身ヲ委シタク存候モ現閣壽命アリテ小生

ヲ信シ用ヒ居候内ハ其儀ニ難及苦心致居リ候トアリ
リ斯テモ尙香川知事ノ行爲ハ官吏服務規律ニ背
反セス且單純ナル尋常貸借ナリト認ムル乎
十七 更ニ香川知事カ精一ノ爲各種ノ利權ニ付盡力
スヘク其ノ職權ヲ濫用シタルノ證左トシテ官紀振肅
上看過スヘカラサルコトアリ 拜ハ岡山縣兒島署理立
問題ニシテ該願書ハ精一ノ印紙事件暴露スルヤ香川
知事ハ著惶願書ニ不備ノ點アリトノ康ヲ以テ是ヲ却
下シ辛クモ自己ノ犯錯ヲ覆ヒタリシモ抑本件ハ香川
知事カ精一ノ恩顧ニ關スヘク是カ出願ノ懲罰シタル
モノニシテ表面ノ名義ハ香川知事ノ一味徒黨タル共
榮貯金銀行事務小出熊吉及精一ノ兩名ナリト雖實
際ノ權利者ハ精一ナルコト幾多ノ證憑ニ依リテ瞭然
タリ而モ本件成功後ノ裏面ニハ謝金數方圓ヲ香川
知事ニ贈呈スヘキ口約アリシコトハ精一ノ女婿田中
繁造ノ明言スルトコロナリ斯クテモ尙床次内相ハ香
川知事ノ行爲ハ官紀ヲ紊亂セルモノト認メサルヤ

十八 大正十年五月二十四日岡山市弓之町香川輝
居宅ニ於テ香川輝力證人トシテ豫審判事後田六郎
ノ訊問ニ對シ精一ニ對スル債務ハ二万七千圓ニシテ
最後ノ一回ノ任地岡山ニ送致ヲ受ケタルノミナリト
答ヘタルモ本員ノ有セル證據書類ニ據レハ任地岡山
ニ數回ニ互リテ送金ヲ受ケタル事實明白ナル上田中
繁造ノ言明ニ依レハ香川ノ債務ハ五方圓ヲ下ラスト
謂フ然ラハ香川知事ノ偽證罪ヲ犯セルノ事實明確ナ
リ斯クテモ床次内相ハ猶香川知事ヲ曲庇セムトスル
乎

十九 二月二十三日ノ議場ニ於テ鈴木富士彌君ノ質
問ニ對スル野田達相ノ答辯ニ依レハ監督局ノ廢止ノ
爲此ノ犯罪ヲ發見スル能ハサルハ汗顔ノ至リナリト
テ汗顔ノ二字ニ隱レテ自己ノ責任ヲ覆ハムトスルモ
ノ如シ而モ大阪通信局書記川田忠幸村上勝ハ精一
ノ請託ヲ容レ常ニ部内ノ動靜及取締方針ヲ内報シ
以テ精一ノ犯行ヲ容易ナラシメ且犯罪ノ發覺ヲ妨ケ
タル事實アルノミナラス前後四箇年ニ渡レル犯罪ニ對
シ監督局ノ廢止ニ藉口シテ蓋不行届ノ責任ヲ忌
避スルハ立憲政治家ノ態度トシテ大ニ惜マサルヘカ
ラ野田達相ハ依然トシテ汗顔ノ二字ニ隠レ其ノ責任
ヲ逃レムトスルヤ

二十 前大阪通信局長杉精一同田邊治通等ニ對シ官
吏懲戒ノ法規ニ依リ處分スヘク手續中ナル由ナルモ
數箇月ニ互リテ未タ其ノ手續ヲ完了セサル理由如何
二十一 大木法相カ佐賀縣第二區衆議院議員落選

候補者田中猪作ノ擁護者ト爲リ古賀康造ト協力シ
テ貴族院議員前田利定君ノ社長タル中央生命相互
保險會社ノ專務取締役ニ推選セシハ天下公知ノ事
實ナリ而シテ猪作カ前記保險會社ニ就任スヘキ信託
資金中ノ金十三萬圓ハ精一ノ出金セルモノニシテ猪
作ハ精一ヨリ此ノ金圓ヲ借入ルヘタ佐賀縣銀行專
務山口線達ト共謀シテ該銀行ノ裏書手形ヲ偽造シ更
ニ有明海運立ノ權利ヲ擔保トシテ之ヲ變賣出資トシテ
巨額ノ利權ヲ創立(帝國土地開拓株式會社)シテ
形ノ支拂期日切迫スルニ至ルヤ名ヲ前記土地會社ノ創
立ニ結リ大正九年十二月七日東京市京橋區築地待
合トシテ二會合シ大木法相古賀長官橋山長官小
橋次官等ノ大官列席ノ上其ノ庇護ヲ得ヘシト爲シ以
テ精一ノ出席ヲ促シ手形支拂期日ノ延期ヲ請フト同
時ニ前記會社ノ登記料二十五萬圓出資ノ件ヲ勸誘
セリ然レトモ精一ハ此ノ要求ヲ避ケタルノ目的ヲ以テ代
人北村辯護士ヲ出席セシメタル爲其ノ目的ヲ達シ得
ス終ニ手形偽造ノ事實發覺シテ猪作ノ下獄ヲ見ルニ至
レリ大木法相ハ果シテ猪作底腹ノ目的ニ依リ此ノ會
合ニ列席シタルトセハ網紀紊亂ノ罪斷シテ免ルヘキニ
非ス法相ハ果シテ此ノ會合ニ列席シ北村政教ニ出
資ヲ懇過シ且手形期日ノ延期ヲ懇請シタルヤ或ハ單
ニ右兩者ノ目的ヲ達スヘク陰ニ援助ヲ爲スカ爲ニ出
席シ列席セル高橋賢造ヲシテ之ヲ代辯セシメタルニ過
キサル乎如何以上ハ質問ノ概要ニ過キス故ヲ以テ詳
細ノ事項ハ幾多ノ證據物件ニ由據シ主旨陳辯ノ際
之ヲ述フル所アルヘシ
右及質問候也

大正十一年三月二十三日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清
衆議院議長 奧繁三郎殿

衆議院議員田中萬逸君提出賣採郵便局印紙積領事
件及同事件ノ裏ニ潛メル政治的醜怪事ニ關スル質問ニ
對シ別紙答辯書差送候
(別紙)
衆議院議員田中萬逸君提出賣採郵便局長印紙
積領事件及同事件ノ裏面ニ潛メル政治的醜怪事
ニ關スル質問ニ對スル答辯書
一 津下某ノ積領ニ關ル缺損額ハ本省ヨリノ交付高ト
神戸局ニ於ケル正當ノ受拂高賣捌代金ノ收入高並
ニ現品ノ在庫高等ト對照精査ヲ遂ケ確メタルモノニ

シテ二百三十四萬三千圓ニ相違ナシ從テ犯人ノ積
領後ニ於ケル處分ノ如何ハ前記缺損額ヲ動かスモノ
ニアラス
二 缺損額ハ二百三十四萬三千圓ナルコト前項ノ通
リニシテ此以外ニ缺損ノ事實ナシ
三 十二、十五
辯護士津津六也ヨリ津下精一ノ犯罪ニ關聯セル事
犯ニ付神戸地方裁判所檢察局ニ正式ニ告發ヲ爲シタ
ル事實ナシ然レトモ津下精一ノ犯罪ニ關スル周圍ノ
事實ニ付テハ檢察局ニ於テ搜查ヲ怠リタルコトナシ
四 大正十年十一月津下精一ヲ保釋シタルハ裁判所
ノ決定ニ依ルモノナリ然ルニ其後別個ノ事犯發覺シ
大正十一年一月十四日豫審請求ヲ爲シ豫審判事ノ
勾留狀ニ依リ更ニ拘禁セラルルニ至リタルモノナリ
五 津下精一ハ再び拘禁セラレタルハ質問ノ如ク嫌疑
ニ因ルモノニ非ス
六 田中繁造ニ對シ積領ノ告訴アリタルカ神戸地方裁
判所檢察局ニ於テ搜查ヲ遂ケタル上不起訴處分ニ付
シタル
七 井上鶴治ト仁兒兼太郎ノ交替ハ大正八年九月ニ
シテ同年三月ニアラス豫審判事ノ認定ノ當否ニ對シ
當局ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得ス
八 精一ノ債權保全ニ對シテハ最善ノ手段ヲ講セリ而
シテ事件ノ如キ場合ニ於テ身元引受人ニ對シ代償ヲ
求ムルハ法規上當然ナリト認ム
九 質問ノ如キ事實ナシ
十 內務大臣通信大臣、警視總監、前大阪通信局長
河合龜ハ津下某ノ事ニ關シ何等ノ運動ヲ受ケタルコ
トナク從テ刑事訴追ヲ免レシムヘク内諾ヲ與ヘタル事
實ナシ
十一 議員ノ議場ニ於ケル言論ニ關シテハ答辯ノ限リ
ニアラス
十三 新渡川河川敷地ノ占用ハ河川法第十八條ノ規
定ニ依リ大阪府知事ニ於テ許可シタルモノニシテ其
許可ニ關シ內務大臣又ハ土木局長ハ關與シタルコト
ナシ
十四 內務大臣ハ秋田縣知事ニ對シ津下某ヲ紹介シ
タルコトナシ
十六、十七、十八
岡山縣知事香川輝ノ行動ニ就テハ今日迄調査ノ結
果ニ依レハ不都合ノ點ナキモノト認メ居レリ
十九 通信局書記川田忠幸及同村上勝ノ兩名ニ對シ
官吏服務規律違反ノ虞ヲ以テ懲戒處分ヲ爲シタルト

モ本件犯罪ヲ容易ナラシメ又ハ其覺悟ヲ妨ケタルコトナシ

二十 質問ニ係ル處分ハ文官高等懲戒委員會ノ審議ニ付連スル所アルヲ以テ未了ニ屬ス
二十一 質問ニ係ル大木法相ノ行動ハ事實無根ナリ右及答辯候也

大正十一年三月 日

逓信大臣 野田卯太郎
内務大臣 床次竹二郎
司法大臣 伯爵大木 遠吉

都市計畫ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月二十六日

提出者 板野 友造 賛成者 鈴木梅四郎
外二十九名

都市計畫ノ實施ニ關スル政府ノ方針如何
右及質問候也

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清
衆議院議長 奧繁三郎殿

衆議員議員板野友造君提出都市計畫ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員板野友造君提出都市計畫ニ關スル質問ニ對スル答辯書

都市計畫ハ都市住民ノ安寧幸福ヲ永遠ニ維持増進スヘキ基礎的施設ニシテ我國現時ノ狀況ニ照シ最も重要ナル文化事業ノ一ナリトス政府ハ曩ニ議會ノ協賛ヲ經テ都市計畫法及市街地建築物法ヲ制定シタルヲ以テ今後中央並ニ地方財政ノ緩急ニ應ジテ適當ナル事業ノ進捗ヲ講セントス

一 都市計畫ハ都市住民ノ利害ニ直接關係スル事業ナルヲ以テ地方公共團體ニ於テ先ツ以テ之ヲ負擔スヘキハ當然ナリト雖モ政府ニ於テモ之ニ對シテ相當ノ補助ヲ爲スヘキ必要ヲ認ム故ニ從來都市計畫事業中最モ重要ナル道路、上下水道ニ對シ補助ノ豫算ヲ計上シ來レル所ニシテ將來ニ於テモ財政ノ容ス限度ニ於テ一層助成ノ途ヲ講セントス然レトモ都市計畫事業ノ全部ニ對シテ悉ク之ヲ補助ヲ爲スコト並ニ事業施行年度内ニ金額ノ補助金ヲ交付スルコトハ現時ノ財政狀態ニ於テハ困難ナリ

二 政府ニ於テ公債ヲ募集シテ都市計畫事業費ヲ負

擔スル公共團體ニ交付スルカ如キハ財政計畫上爲シ難シ從來ノ通り地方債ヲ發行シテ費用ヲ支辨スルヲ適當ト認ム

三 通行税ハ一般國庫ノ收入ニ豫定スル所ナルヲ以テ之ヲ廢止シ又ハ自治體ニ交付スルカ如キハ一般稅制整理ト關聯シテ講究スヘキ事ニ屬シ直ニ之ヲ實行シ難シ

四 都市計畫法ニ依ル特別稅ノ指定ニ關シテハ從來講究中ニシテ未タ發表ノ時機ニ到達セス

五 六都市以外都市計畫法ヲ適スヘキ都市ニ付テハ目下調査中ナリ

六 都市計畫事業ハ原則トシテ市長之ヲ執行スヘキモ府縣知事力執行者タル場合ニ於テ府縣住民力其費用ヲ負擔スルハ他ノ一般府縣事業ト何等異ナル所無シ故ニ事業ノ種類ニヨリ府縣知事ヲ執行者トシテ指定スルヲ適當ト認ム

大正十一年三月 日

内務大臣 床次竹二郎
大藏大臣 子爵高橋 是清

網紀類廢ノ責任ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月二十八日

提出者 清瀨 一郎 賛成者 鈴木梅四郎
外二十九名

網紀類廢ノ責任ニ關スル質問主意書

現内閣(原首相時代)ヲ通シテ成立以來網紀類廢其ノ極ニ達セリ其ノ責任ノ所在ニ付政治道德上明確ナル説明ヲ求メトス
右及質問候也

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清
衆議院議長 奧繁三郎殿

衆議員議員清瀨一郎君提出網紀類廢ノ責任ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員清瀨一郎君提出網紀類廢ノ責任ニ關スル質問ニ對スル答辯書

網紀ノ肅正ニ付テハ政府ハ常ニ最善ノ手段ヲ講シテ之ヲ達成ニ努力シツ、アルモ事固ヨリ國民ノ自省ニ待タルヘカサルコト並ニ答辯シタル所ノ如シ
右及答辯候也

大正十一年三月 日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

郡域變更並町村ノ分合整理ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月四日

提出者 萩田 悅造
賛成者 守屋松之助
外三十名

郡域變更並町村ノ分合整理ニ關スル質問主意書
郡ノ境界ハ河川ニ依リテ定マレルモノハカラスト雖左ノ場合ニ於テハ必スシモ之ニ拘泥スルコトナク分合整理ヲ加フルノ必要アリト認ム政府ノ所見如何

一 河川ヲ郡界トシ又町界トシテ相對スル二箇ノ町村ニシテ本來人情風俗ヲ同シタルモノナラズ近時鐵道橋梁等交通機關ノ充實ニ伴ヒ該町村孰レモ之ヲ併合スルノ至便ナルヲ認ムルニ拘ラス只沿革的觀念ニ因リテ關係郡ノ同意ヲ得難キ爲之ヲ實現スルニ至ラサルモノアリ是等ハ郡制廢止ヲ機トシテ其ノ分合整理ヲ行フコトカ自治發達上必要ニ非サルカ

二 前項ト同一ノ關係ニ於テ河川ニ沿ヒタル町村ノ延長數里ニ達スルモノノ如キハ上流地方ト下流地方ト人情風俗ヲ異ニシ却テ對岸地方ト利害ヲ同シスルモノアリ是等ハ交通設備ノ普及ニ伴ヒ一層分合整理ノ必要ナリカ

右及質問候也

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清
衆議院議長 奧繁三郎殿

衆議員議員萩田悅造君外一名提出郡域變更並町村ノ分合整理ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員萩田悅造君外一名提出郡域變更並町村ノ分合整理ニ關スル質問ニ對スル答辯書

町村ノ分合整理ニ關スル質問ニ對スル答辯書
郡町村等ノ公共團體ノ區域ニ付テハ從來ノ沿革及舊慣ヲ尊重シ容易ニ之ヲ變更分合ヲ行フノ意ナシ然レトモ人情風俗地勢交通等ノ關係上自治ノ圓滿ナル發達ヲ期スルニ於テ必要アリト認ム場合ニ於テハ法律ノ規定スル所ニ依リ之ヲ分合整理ヲ行フ
右及答辯候也

大正十一年三月二十日

内務大臣 床次竹二郎

民心惡化ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月四日

提出者 木槍三四郎 賛成者 賴母木桂吉
外三十名

民心惡化ニ關スル質問主意書

一 近時思想ノ變化ハ實ニ驚クヘキモノアリ此ノ時ニ際シ爲政ノ局ニ當ルモノ深ク注意セサルヘカラス然ルニ内務當局ノ爲ス所ヲ見ルニ畏クモ伊勢大廟ノ神事ヲ利用シテ黨勢擴張ヲ爲シタルノ事實アリ

二 内務當局ハ府縣知事ヲシテ黨勢擴張ノ爲官權ノ力ト黨派ノ力トヲ以テ正義ヲ壓倒シテ更ニ顯ミサルモノアリ

三 内務當局ハ警察官ヲ利用シテ反對黨ノ政談演說會ヲ故ナク中止シ又ハ解散セリ

以上ハ其ノ一斑ニ過キサルモ國家行政官權ノ不義不法ノ行爲ハ民心ヲシテ益惡化スルヲ見ル當局大臣ノ所見如何

右及質問候也

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奥繁三郎殿

衆議院議員木槍三四郎君提出民心惡化ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員木槍三四郎君提出民心惡化ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 内務當局ハ畏クモ伊勢大廟ノ神事ヲ利用シ黨勢擴張ヲ爲シタルカ如キ事實斷シテ之ナシ

二 内務當局ハ府縣知事ヲシテ黨勢擴張ノ爲苟モ正義ヲ壓倒セシメタルカ如キ事ナシ

三 内務當局ハ警察官ヲシテ故ナク政談演說會ヲ中止又ハ解散セシメタルコト實テ之ナシ

其他行政官憲力其ノ行爲ニ依リ民心ヲ益々惡化セシムルノ事實ヲ認メス

右及答辯候也

大正十一年三月 日

内務大臣 床次竹二郎

臨時外交調査委員會ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月六日

提出者 有森 新吉 賛成者 上島益三郎

外二十九名

臨時外交調査委員會ニ關スル質問主意書

臨時外交調査委員會成立以來今日ニ至ル迄ノ效果如何、政府ハ其ノ議事ノ内容ヲ公示スルノ意思ナキヤ又其ノ存廢ニ對スル所見如何

右及質問候也

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奥繁三郎殿

衆議院議員有森新吉君提出臨時外交調査委員會ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員有森新吉君提出臨時外交調査委員會ニ關スル質問ニ對スル答辯書

臨時外交調査委員會ハ其ノ設置以來所期ノ效果ヲ舉ケツツアルモノト認ム

政府ハ其議事ノ内容ヲ公示スルノ意思ナク又目下ノ處之カ廢止ニ關シ詮議ノ必要ヲ認メス

右及答辯候也

大正十一年三月 日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

團山川改修工事ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月八日

提出者 紫安新九郎 賛成者 森田 茂

外三十三名

團山川改修工事ニ關スル質問主意書

一 河川改修工事ノ施行ニ方リテハ吐口タル下流ヨリ着手シ漸次上流ニ遡及スルヲ原則ト爲ス然ルニ本年度ヨリ著手セル兵庫縣團山川改修工事ニ關シテハ沿岸居住民ノ期待ニ反シ工ヲ上流方面ヨリ起セリ右改修工事ハ十年繼續事業ナルヲ以テ斯ノ如キ方法ニ依リテハ施工年度中一度洪水ニ會セムカ異例ナル工事施行ノ爲ニ中流及上流ノ沿岸居住民ノ罹災程度ハ毫モ起工前ト差異アラサルヘシ政府ハ如何ナル事由ニ依リテ斯ノ如キ方法ヲ執レルヤ

二 團山川ノ水面勾配ハ極メテ緩漫ニシテ豐岡附近ト河口ノ津居山港附近ト四里ノ距離ニ於テ其ノ落差ハ僅ニ三尺ニ過キス故ニ改修ニ方リテハ津居山港附近ノ河幅ヲ擴張シ洲沙ヲ浚渫シ流量ノ快通ヲ圖ルヲ以テ緊急要務トス政府ハ起工ニ際シ何故ニ最初該所ヨリ著手セサルヤ

尙政府ハ改修工事ニ付津居山港附近ノ河幅ヲ擴張スルノ意思アリヤ

三 團山川沿岸内川村及田鶴野村境界地點タル俗稱松茸山ノ懸崖ノ一角ハ甚シク突出シテ河幅狹窄ト爲リ出水ノ際ハ滔々奔流シ來レル濁水ハ此ノ懸崖ニ阻止セラレ水深ハ懸崖ノ前後ニ於テ三尺乃至四尺餘ノ高低ヲ生ジ排水ノ疏通ニ至大ノ障害ヲ見ルハ洪水ニ會スル毎ニ沿岸居住民ノ久シキニ互リテ經驗スルトコロナリ政府ハ右懸崖ヲ除却スルノ意思アリヤ

四 豐岡以北河口ニ至ルノ間大小十數箇所ノ沙丘ハ河中ニ散在セリ之カ爲排水ヲ遲緩ナラシムルコト少カラズ該沙丘ハ明治十八年ノ大洪水ニ於テモ尙潰流スルナシ然ルニ傳フルトコロニ依レハ政府ハ右沙丘ハ自然ニ放任スルモ潰流スルモノト認メ之ヲ除却スルノ意思ナシト謂フ果シテ然ルヤ

五 大正十年九月ノ洪水ハ豐岡ニ於テ二丈一尺ノ増水ナルニ下流城崎町ニ於テ八尺ノ増水ニ過キス平水ノ落差極メテ緩漫ナルニ反シ僅ニ二里強ノ距離ニ於テ斯ノ如キ著シキ落差ヲ見ルハ此ノ間較上ノ障害物アリテ然ラシムルハ爭フヘカラサルノ事實ナリ政府ノ所見如何

六 較上ノ如ク下流ヨリ起工スレハ施工年度中ニ一朝洪水ニ會スルモ沿岸居住民ハ既成工事ニ比例セル程度ノ利益ヲ享クルト共ニ一面ニハ上流ニ於テ政府カ改修地域内ニ入ルヘキモノトシテ測量セルカ如キ多クノ宅地及耕地ヲ收用スルノ必要ナク工費モ追加ヲ告ケサルヘシト認ムルモ今日著手セル狀勢ヨリ推定スレハ工費ハ巨額ノ追加ヲ見サレハ止マサルヘシ政府ノ所見如何

七 田鶴野村宇一日市ノ下流、内川村宇二見ノ上流、奈佐川ノ本川ニ合流スル所ニ對シ政府ハ如何ナル工事ヲ施サントスルカ傳フルトコロニ依レハ開門ヲ設ケ洪水ニ際シ本川ヨリ逆流スル時ハ之ヲ閉鎖スルノ方法ヲ探ラムトスト大正十年九月洪水ノ際右合流點ヨリ押シ寄せタル逆流ハ豐岡附近迄遡及セリ若政府ニシテ較上ノ方法ヲ取ラムカ奈佐川ノ流水ハ非常ノ勢ヲ以テ五莊村ノ耕地ニ氾濫シ其ノ住宅ヲ浸スコトハ歷々見ルカ如シ之ニ對スル政府ノ説明ヲ求ム

八 團山川改修工事ハ上流タル豐岡附近ヨリ起工シ内川村ノ對岸玄武洞ト對峙セル所ニ至リテ打切ル方針ナリトハ今や實地ニ臨ミテ工事ヲ擔當セル技師某ノ明言スルトコロナリト謂フ果シテ然ルヤ之ニ對スル政府ノ説明ヲ求ム

九 故土木技監沖野忠雄ハ團山川沿岸豐岡ノ出身ナリ嘗テ郷人ノ團山川改修ニ付テ其ノ意見ヲ叩クヤ曰ク該川ハ水面勾配極メテ緩漫ナリ故ニ改修ヲ施シ多クノ宅地及耕地ヲ除却スルモ其ノ效果ハ失フ所ヲ償フニ足ラサルヤラ虞ルト沿岸居住民今ニシテ痛切ニ忠雄ノ卓見ヲ稱ヘサルナシ今や政府ハ改修工事ニ當リ一體ニ面積ノ狭少ナル沿岸ニ於テ多クノ町村ヲ除却

スルヲ意トセス河幅ハ擴張セラレ洪水ノ爲ニ被
ムル災害或ハ總マモ其ノ損失果シテ如何政府カ今
日執ラムトセル方法ニ依リテ改修工事ヲ完了セムカ
工竣ルノ日ハ沿岸居住民ノ大半ハ既ニ墳墓ノ地ヲ去
リテ東西ニ離散シ改修ノ惠澤ニ浴スルモノ從來直
接ニ被害ヲ享ケス面シテ改修地域ニ入ラサル方面ニ
居住スル大地主ノ徒ニ過キサルヘシ是レ改修工事ノ
方法ヲ側面ヨリ觀察スルモノノ憂ヒテ措カサルコト
ナリ斯ノ如キハ切ニ政府ノ慎重熟慮ヲ求メサルヲ得ス
政府ノ所見如何

大正十一年三月二十三日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長 奧繁三郎殿

衆議院議員 紫安新九郎君提出 圓山川改修工事ニ關
スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 紫安新九郎君提出 圓山川改修工事
ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 河川改修工事ノ施行ニ方リテハ下流ヨリ著手シ漸
次上流ニ適及スルヲ得策トスルコト多シト雖モ工事ノ
緩急得失ヲ計リ便宜ノ地點ヨリ著手シテ妨ナキモノ
亦尠カラス圓山川改修工事ノ施行方法ハ後者ニ屬
シ敢テ異例ニアラス

二 政府ハ津居山港附近ノ河幅ヲ擴張シ砂洲ヲ浚渫
スルヲ以テ緊急要務ト認メス然レトモ將來尙調査ノ
上其ノ必要ヲ認ムルニ於テハ多少ノ工事ヲ施スモ可
ナリト信ス尙第四項ニ對スル答辯ヲ參照セラレタシ

三 內川村及鶴野村境界附近俗稱松背山ノ尖端少
シク突出セルハ事實ナルモ小局部ニ過キサルカ故ニ格
別浚渫ノ疏通ヲ阻止スルモノト認メス從テ臣下之ヲ
除却スルノ意思ナシ

四 豐岡玄武洞附近以下ニ於ケル砂洲其他ノ障害物ニ
シテ洪水ノ排疏ニ妨アルモノニテ除却スルノ計畫ナリ

五 洪水ニ當リ河口附近ニ於ケルヨリモ上流ニ於テ増
水ノ大ナルハ河川特ニ未改修ノ河川ニ往々見ル所ノ
現象ニシテ獨リ圓山川ニミ起ル事實ニアラス而シテ
此ノ狀態ハ改修工事ノ完成ニ由リ緩和セラレヘシ
六 改修計畫ハ一河川通シテ統一セル設計ニ依ルモ
ナルヲ以テ工事起工順序ノ如何ニ依リ工事ノ分量及
濃地ノ區域ニ増減ヲ生スルモノニアラス從テ之ヲ爲ニ
工費ノ増額ヲ來スノ虞ナシ

大正十一年三月 日

內務大臣 床次竹二郎

自治行政區域ノ變改ニ關スル政府ノ方針並黨弊ノ
自治體破壞ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月九日

提出者 阿由葉勝作

贊成者 佐々木千秀

自治行政區域ノ變改ニ關スル政府ノ方針並黨弊
ノ自治體破壞ニ關スル質問主意書

一 市町村ノ自治行政區域ハ國家ノ元氣ニシテ其ノ變
改ハ特段ナル理由ノ存セザル限り濫ニ容スヘキ非ス
況ヤ之カ變改ニ因リ關係居住民ノ反目對抗ト爲リ事
端ヲ醸成シ地方自治ノ擾亂ヲ招致スルニ於テオヤ大
正十年九月二十四日栃木縣知事ハ栃木縣訓令乙
第二百一十一號ヲ以テ同縣足利郡北郷村大字名草ヲ
分割シ其ノ區域全部ヲ以テ名草村ヲ置ガムトスルコ
トニ就キ北郷村ニ諮問シテ反對ヲ受ケタルニ拘ラス飽
ク迄之ヲ敢行セムトシテ狂奔至ラサルナク今ヤ內務大
臣ノ許可ヲ要請中ナリト聞ケルニモ該問題ハ大正
五年十二月二十五日及大正七年八月十四日第一

ノ住民ヨリ分離獨立ノ出願ヲ爲セル際變改ノ理由ナ
シトシテ其ノ都度却下セラレタル既決ノ案件ニ係リ環
來今日ニ至ル迄何等新ナル理由ヲ發見セザルノミナ
ラス之ヲ北郷村ノ歴史沿革地勢交通ノ狀態ハ勿論
財政經濟及住民ノ生活狀態等ニ徴スル時ハ寧ろ一
層現狀維持ノ必要アルニ拘ラス今ニ及ヒテ同縣知事
カ強テ此ノ暴舉ヲ敢行セムトスルハ疑モナク地方自治
ノ根本義ヲ自ラ破壞スルモノニシテ吾人ノ解スルニ苦
シムコトナリ政府ノ自治行政區域變改ニ關スル方
針如何

大正十一年三月二十三日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議員 阿由葉勝作君提出 自治行政區域ノ變改ニ
關スル政府ノ方針並黨弊ノ自治體破壞ニ關スル質問
ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 阿由葉勝作君提出 自治行政區域ノ
變改ニ關スル政府ノ方針並黨弊ノ自治體破壞ニ關
スル質問ニ對スル答辯書

一 市町村ノ區域ニ付テハ從來ノ沿革及舊慣ヲ尊重
シ容易ニ之カ廢置分合ヲ行フノ意ナシ然レトモ人情
風俗地勢交通等ノ關係上自治ノ圓滿ナル發達ヲ期
スルニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ法律ノ規定
スル所ニ依リ之カ廢置分合ヲ行フ

二 栃木縣足利郡北郷村ノ分村問題ニ付質問ノ如キ
運動ヲ爲シタル事實ヲ認メス
右及答辯候也

大正十一年三月 日

內務大臣 床次竹二郎

農村政策ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十一年十二月二十六日

提出者 土井 權大 贊成者 鈴木梅四郎
外二十九名

農村政策ニ關スル質問主意書
農村政策ノ實施ニ關スル政府ノ方針如何
右及質問候也

大正十一年三月二十四日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長與繁三郎殿

衆議院議員土井權大君提出農村政策ニ關スル再質問
ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員土井權大君提出農村政策ニ關スル再質問ニ對スル答辯書

一 各地方ニ起リツ、アル小作爭議ニ關スル當面ノ對策ハ地方廳等ヲシテ夫々其場合ニ應ジ之ヲ講セシメツ、アリ

二 大體ニ於テ貴見ノ通り但シ農會法ノ改正ヲ機トシ農會力自ラ進シテ一層爭議ノ調停仲裁ニ當ルニ至ラハ當面ノ對策トシテ相當ノ效果アルヘシト信ス

三 第三項ニ關シテハ政府ニ於テ折角調査研究中ナリ
四 農村ニ於ケル補習教育及農業教育ノ普及發達ニ就テハ從來政府ノ大ニ意ヲ用キ來リタル所ニシテ近年農業補習學校及農業學校ノ數著シク増加シ其內容又漸次充實ノ域ニ向ハントス然レトモ政府ハ斯教育ノ現狀ニ満足スルモノニ非サルヲ以テ將來益之カ振興ニ力ヲ致サントス

五 人口ノ都市集中ハ現今世界各國ニ於ケル自然ノ勢ナリ政府ハ農民ヲシテ農村ニ安住セシムル爲各種ノ產業組合等ヲ獎勵シツ、アリ將來益之ニ力ムヘシ
六 及七 政府ハ中小農民ノ生活ノ安定ニ關シテハ從來各種ノ方策ヲ講シ來レルカ尙臨時財政經濟調査會及小作制度調査委員會ニ於テ調査中ナリ
右及答辯候也

大正十一年三月二十四日

農商務大臣 男爵山本 達雄

內務大臣 床次竹二郎

文部大臣 中橋德五郎

大藏大臣 子爵高橋 是清

大阪株式取引所ノ違法取引ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月二十日

提出者 森田 茂 賛成者 井上 剛一

外二十九名

大阪株式取引所ノ違法取引ニ關スル質問主意書

國民ノ徒ニ射利投機ニ走ルハ最寒心スヘキコトニシテ之ヲ抑制スルハ當路者ノ責任タリ現ニ山本農相モ取引所法中改正法案提出理由ノ一トシテ投機抑壓ノ數ヘ空賣買差金取引ヲ防止スルヲ主眼トスト稱シタルカ然モ從來政府當局ノ取引所ニ對スル態度ヲ見ルニ當ニ此ノ投機抑制ノ旨ニ副ハサルノミナラス却テ進ムテ投機ヲ助長セルノ觀アリ現ニ取引所法違法脱法ノ行爲ヲ公然恣行シテ徒ニ投機思惑ニ走リツツアルニ拘ラス毫モ之カ取締ヲ爲サスシテ默認シツツアルカ如キ則チ其ノ一證左ニ非サルカ元來現内閣關係者ト大阪株式取引所トハ特別ナル情實因縁ヲ有スルヤニ傳説セラレ大正九年財界ノ大反動來後ニ於テ千四百萬圓ノ資本金ヲ四千萬圓ニ増資ヲ許シ彼ノ財界大動搖時代ニ一舉ニ倍額以上ノ増資ヲ爲サシメタルカ如キ破天荒ノ事實ハ人ヲシテ益其ノ關係ニ就テ疑惑ヲ深カラシメ其ノ増資株ノ分配ニ關シテハ種々ノ流説行ハレ醜聞紛々トシテ起リ途ニ有志株主會ノ奮起トナリ一世ノ耳目ヲ聳動シタリシハ尙世人ノ記憶ニ新ナルトコロナリ

斯ノ如ク大阪株式取引所ト現内閣關係者トノ情實因縁ニ關シ疑惑ヲ招キツツアル際同取引所カ公然違法ノ所爲ヲ創始シ久シク之ヲ實行シツツアルニ對シ當局カ毫モ取締ヲ行ハサルノ事實ハ偶以テ此ノ疑惑ノ裏書ヲ爲スモノニ非サルヤヲ思ハシム則チ現ニ同取引所ニ於テ定期取引以外ニ行ハル延取引ナルモノハ全然差金取引ヲ目的トスル法令違反ノ行爲ナリ

現在大阪株式取引所ノ延取引ニ使用セラルル物件ハ大阪取引所株、同新株、鐘淵紡績新株、天津取引所株、上海取引所株、數種ニシテ其ノ取引方法ハ全ク差金取引ニシテ現物受授ノ如キ極メテ少數ナリ之ヲ日々ノ取引ノ實狀ニ見ルニ鐘淵紡績新株ノ如キ總株數十六萬株ニ過キサルニ同取引所ニ於ケル本株式ノ一日ノ賣買出來高十萬株以上ニ達スルコトアリ少クモ三四萬株ヲ下ラス而シテ其ノ中事實上現物ノ受授ヲ爲スモノハ極メテ少ク今其ノ實狀ヲ最近ノ統計ニ徴スレハ次ノ如シ

日	附	銘	柄	賣買出來高	受授高
大正十一年	二月六日	天津取引所株	一五、〇三〇	株	一三五
二月十日	同		五、二六〇		四二〇
二月十六日	上海取引所新株	一、四二〇			四四〇
二月十六日	同上	一、三四〇			一三〇
二月十七日	鐘淵紡績新株	一、二四、三〇〇			二、一三〇
二月八日	同上	一三七、〇八〇			五、四四〇

二月八日 大阪取引所株 一七、九四〇 二、五五〇

二月十六日 同上 一、二〇〇〇 四六〇

二月十六日 同新株 五五、〇八〇 一、二〇〇

則チ日々ノ賣買出來高中眞ニ現品ノ受授ヲ爲スモノハ極メテ少許ニ過キスシテ大部分ハ差金決済ヲ爲シツツアルノ事實ニ依リテ明ナルヘシ

尙取引所ノ帳簿上ハ是等株式ノ賣買ハ即日現品ノ受授ヲ了セル如クニ欺瞞シ居レルモ帳簿上ニ該受渡ニ用ヒラレタル株式ノ名義人及番號ノ記入ナキノ事實ハ其ノ假裝ナルヲ證明スルニ足ルモノナリ斯ル違法ノ賭博類似ノ取引カ經濟界ニ及ホス變態の影響モ亦甚大ニシテ現ニ上海取引所新株ノ如キ十二圓五十錢ノ拂込ニ過キサルニ延取引ニ使用セラルルカ爲ニ五十圓拂込ノ親株ヨリ高値ヲ持スルカ如キ昨年後半期ニ開業シテ未タ一回ノ配當ヲモ行ハサル天津取引所株カ之カ爲ニ非常ノ高値ヲ持スルカ如キ時々買占ノ事行ハレ價值ノ暴騰暴落ニ會セハ屢總解合ト稱スル賣買契約ノ解除ノ行ハレテ一般社會ニ迷惑影響ヲ及ホスカ如キコト即チ之ナリ而シテ斯ル法令違反ニシテ徒ニ投機ヲ助長シ經濟界ニ惡影響ヲ齎ラス延取引ナルモノハ現政友會内閣成立後創始セラレタモノニシテ其ノ始メテ開始セラレタルハ大正九年十月一日ニ係リ同日ヨリ先ツ鐘淵紡績新株、大阪取引所株ヲ上場シ更ニ其ノ後十年一月十七日ヨリ大阪取引所株ヲ十年七月一日ヨリ上海取引所新株ヲ十年八月一日ヨリ天津取引所株ヲ上場シ現ニ本取引ノ機關タル株榮會ナルモノハ大正九年十二月創立セラレタルモノナリ

斯クテ爾來大阪株式取引所ニ於テ盛行シツツアル本延取引ナルモノハ法令違反ノ差金決済ヲ目的トスルモノニシテ其ノ害惡亦少ナラス若當局ニシテ眞ニ法規ヲ厲行シ投機ヲ抑制スルノ意アラハ當然之カ取締ヲ爲ササルヘカラサルモノナリ現ニ東京株式取引所ニ於テ日清紡績株等ニ付同様ノ取引方法行ハレタリシニ就テハ過般當局ハ其ノ違法ナルヲ認メ之カ禁止ヲ内命シタルニ拘ラス大阪株式取引所カ更ニ大規模ニ更ニ公然ト之ヲ行ヒ其ノ弊害甚大ナルモノアルニ拘ラス當局カ之ニ對シ何等ノ措置ヲ採ラス久シキニ涉リテ默認シツツアルハ何故ナリヤ

斯ル違法取引カ政友會内閣成立後ニ於テ創メラレ當局之ヲ默認シ取引所理事者ハ政府ノ認諾ヲ得居レリト聲稱シツツアルニ於テ現内閣關係者ト同取引所ノ因縁情實ニ關シ一般ノ疑惑ヲ深カラシムルモノ亦故無シトセサルナリ政府當局ハ何ノ理據ニ依リ斯ル違法行爲ノ

久シキニ涉リ公然行ハレツツアルヲ看過シテ毫モ取締ヲ爲サズ徒ニ投機ヲ助長シ流弊ヲ甚シカラシムルヤ政府ハ該取引方法ヲ以テ違法ニ非スト認ムルヤ若シ違法ナルニ於テハ速ニ之ヲ禁止シ相當ノ制裁ヲ加フルノ意ナキヤ右及質問候也

大正十一年三月二十四日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長 奧繁三郎殿

衆議院議員 森田茂君提出大阪株式取引所ノ違法取引ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 森田茂君提出大阪株式取引所ノ違法取引ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

一 大阪株式取引所ニ對シ資本金ノ増加ヲ認可シタルハ一般經濟界ノ情勢ニ伴ヒ取引高ノ増大ニ因リ賠償方法ノ完全ヲ期スル必要ニ出テタルモノナリ東京其他ニ對シ之ト前後シテ適當ナル増資ヲ許可シタルモノ亦此ノ趣旨ニ外ナラスシテ其間質問書ニ言フカ如キ情實關係等ノ存在スルモノアルコトナシ

一 大阪株式取引所ノ直取引及延取引ハ大正七年八月三十日東京株式取引所ニ對シ認可シタルヲ初トシ引續キ其方針ニ據リ大正八年二月十三日之ヲ認可シタルモノナリ而シテ該延取引ノ方法ニ付テハ法規違反ヲ以テ即斷スルコトヲ得サルハ寔ニ本件ニ關シテ告訴ヲ爲スモノアリタルニ對シ司法官憲力不起訴處分ニ付シタル事實ニ見ルモ明ナルヘシ然レトモ世間往往非難ヲ試ミル者アリ又前段ノ如キ事件ヲ惹起シタルニ付テハ其ノ取引方法等ニ付キ改善ヲ加フルノ必要モアル可ク旁理事者ヲ招致シテ嚴重ナル警告ヲ與ヘタリ即チ政府ハ之ニ對シテ取締ヲ怠リタル事實ナシ況ンヤ其ノ違法ナルヲ知ツテ之ヲ默認シ若クハ之ニ對シテ認諾ヲ與ヘタリト云フカ如キ事實ノ存セサルハ勿論ナリ若シ夫レ同取引ノ法規ニ違反スルコト明トナルニ於テハ相當ノ制裁ヲ加フヘキコトヲ言フ俟タス右及答辯候也

大正十一年三月二十四日

農商務大臣 男爵山本 達雄

和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル再質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月十八日

提出者 田淵 豐吉 賛成者 安藤 正純

外三十六名

和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル再質問主意書

一 政府ハ答辯書第一項ニ於テ質問ノ事項ニ付之ヲ認メタルコトナシタルモ數日前和歌山縣知事ハ「本縣中等學校ニ關スル諸問題ヲ議決セラレ而シテ之等ノ事項カ夫々本省ノ諒解ヲ得テ今回總テ縣ノ方針通り實施セララル運ニ至ラト」言明セラルルハ縣立日高農林學校ハ自然消滅ヲ意味スルモノト解セラル之ニ對スル政府ノ所見如何

二 同校ハ凡テノ點ニ於テ最適當ナル地ナリトシテ八年前現位置ニ移轉シ來リタルモノニシテ其ノ後進歩ノ見ルヘキモノアルニ今回ノ答辯書ニアル移轉ノ理由如何

三 未タ廢校ノ告示ナキニ本年度ノ生徒募集ヲ中止シ又答辯書ニ依リ紀南地方ノ實業學校配置整理カ實行セラレ同校ノ移轉、實現セラレサルニ拘ラス豫メ生徒募集ヲ中止スルカ如キハ教育行政ノ精神ニ反スル輕率ノ所置ニシテ其ノ眞ノ理由奈邊ニ在ルカヲ疑フ政府ノ所見如何

四 政府ハ同校ノ生徒募集ヲ大正十一年一度ニ限り中止スルコトヲ認可シタリト若同校ノ移轉實現セサル場合ハ翌大正十二年度生徒募集ハ現位置ニ於テ當然行ハルヘキモノト認ム如何

五 政府ハ同校ノ生徒募集ヲ大正十一年一度ニ限り中止シタルト縣當局ノ申請ニ對シ之ヲ認可シ又紀南地方ニ於ケル實業學校配置整理ニ關スル計畫カ實現セサル場合ハ該校ハ現位置ニ於テ繼續經營セラルヘキモノト認ムルニ依リ自然廢校ニ同意シタル事實ナシト答辯ナルカ和歌山縣知事ハ數日前「今回同校生徒募集中止ニ對スル文部省ノ認可ニ依テ此ノ問題モ縣ノ方針通り解決シタ九モ時勢ノ進運ニ伴ヒ地方ノ狀況カラ見テ將來紀南地方ニモ堅實ナル實業學校ノ存在ヲ見ルヘキ時期カ來ルニ至ラムコトハ素ヨリ希望スル所デアアル」ト言明ス是レ政府ノ答辯ト全然相反スルモノト認ム政府ノ所見如何

六 縣當局ハ昨年末ニ於テ同校ハ縣立學校ナルカ故ニ文部省ノ許可ナクモ生徒募集ヲ中止シ自然廢校ト爲スヘシト謂ヒシカ如ク又今回前記知事ノ言明アリタルニ徴スルモ政府當局ハ果シテ其ノ答辯書ノ如ク實行セシムルコトヲ得ルヤ且又政府ハ縣當局ト文部當局トノ權限ニ關シ果シテ統一アル行政ノ實ヲ舉クルヲ得ルヤ政府ノ所見如何

右及再質問候也

大正十一年三月二十四日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長 奧繁三郎殿

衆議院議員 田淵豐吉君提出和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 田淵豐吉君提出和歌山縣立日高農林學校廢校ニ關スル再質問ニ對シ別紙答辯書

一 前問ノ答辯ニ依リ明瞭ナリト認ム

二 縣當局ノ計劃ニ依レハ縣立日高農林學校ノ位置變更ハ紀南地方ニ於ケル實業學校ノ配置整理止ムヲ得スト認フニ在リ

三 前項縣當局ノ計劃ノ實施止ムヲ得スト認メタルニ依リ

四 御意見ノ通

五 前問ノ答辯ニ依リ明瞭ナリト認ム

六 各省官制通則地方官官制等ニ依リ了承セラレタシ

右及答辯候也

大正十一年三月二十四日

文部大臣 中橋德五郎

私設鐵道買收ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月四日

提出者 高草美代藏 賛成者 關 直彦

一 私設鐵道買收ニ關スル質問主意書

政府ハ私設鐵道ニ對シ將來國有トシテ買收スヘキ線路ヲ豫定シ居レルヤ

二 若國有ト爲スヘキ私設線ヲ豫定シ居レリトセハ既ニ本院ニ於テ鐵道敷設法案ヲ可決シ所謂鐵道網ヲ發表セシ今日ニ當リ將來國有ト爲スヘキ私設鐵道線ヲ發表スルノ意思無キカ

三 國有鐵道ト爲スヘキ私設線ヲ豫定シ居レリトセハ買收ノ時期及其ノ價格ノ總額ハ何程ナリヤ

四 國有鐵道ト爲スヘキ私設線ヲ豫定シ居レリトセハ買收スヘキ線路ノ順序並買收ノ基礎トスヘキ條件如何

五 若國有ト爲スヘキ私設線ヲ豫定シ居ラストセハ時ニ應ジ場所ニ從テ買收スルノ政策ナリヤ

六 三月二日提出ニ係ル大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ニ依リ兩線ニ比シ全國千九百八十一哩ヲ有スル多クノ私設鐵道中是レ以上重要ニシテ而カモ急ヲ要スル鐵道無キカ

七 現ニ政府新計畫中ニ係ル國有鐵道ノ未成線ハ其ノ長サ三千三百哩ニ達シ且又改良スヘキ幾多ノ案件アルニモ拘ラス大湯及魚沼兩私設鐵道ノ買收ヲ以テヨリ以上重要且急ヲ要スト認ムルカ其ノ理由如何

八 前記兩私設鐵道買收ノ時期如何

九 兩私設鐵道ノ營業狀態如何

十 中國鐵道其ノ他二三ノ私設鐵道買收ニ關シテハ衆ニ國民黨其ノ他ヨリ建議ヲ爲シ滿場一致ヲ以テ可決シ政府ニ於テ其ノ一二ノ線路ハ既ニ買收ヲ了シタルニモ拘ラス中國鐵道ニ對シテハ今日迄建議ノ趣意ヲ實行セズ政府ハ該鐵道ヲ買收スルノ意思アリヤ否ヤ若買收ノ意思アリトセハ其ノ時期如何

右及質問候也
本質問ニ對シテハ別ニ演說ヲ爲ササルニ付書面ヲ以テ詳細ナル答辯アラムコトヲ望ム

大正十一年三月二十四日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奧繁三郎殿

衆議院議員高草美代藏君提出私設鐵道買收ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員高草美代藏君提出私設鐵道買收ニ關スル答辯書

一乃至四 大湯鐵道及魚沼鐵道ノ外買收スヘキ私設鐵道トシテ今日確定セルモノナシ

五 公益上ノ事由ニ因リ買收ノ必要ヲ生スル毎ニ之ヲ決定ス

六及七 大湯及魚沼ノ兩鐵道ハ次ノ理由ニ因リ買收ノ必要アリ久留米大分間ノ第一工區タル大湯鐵道ノ終點小野屋湯ノ平間ハ近ク工事竣工スヘキニ付同鐵道ヲ買收シ直通運轉ヲ計ル必要アリ又魚沼鐵道ハ省線上越北線ノ開業ニ因リ打撃ヲ蒙リ營業ノ廢止ヲ申請シ來レルモ現存スル鐵道ヲ廢止スルハ地方產業上及軍事上妥當ナラサルヲ以テ買收スル必要アリ

八 大湯鐵道及魚沼鐵道ノ買收期日ハ未タ確定セス最近三年間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ハ大湯鐵道ハ四分五厘ニシテ魚沼鐵道ハ八分一厘ナリ

十 中國鐵道ヲ買收スルヤ否ハ今日確定シ居ラス右及答辯候也

大正十一年三月二十四日

鐵道大臣 元田 肇

外交ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也
大正十一年三月二十日

提出者 望月小太郎

贊成者 井上 剛一

外三十一名

外三十一名

外交ニ關スル質問主意書

一 加藤海軍大臣カ去十五日貴族院ノ豫算委員會ト二十日衆議院豫算委員會ニ於テ各辯セル所謂七割比率ノ提議ヲ我カ全權ヨリ英米全權ニ提議セル事實ニ關シ其ノ說明ニ著大ナル相違アルモノノ如シ從テ本事項ニ關シ從來他ノ大臣ノ說明ト矛盾スル所アルモノノ如シ之ニ關スル說明ヲ求ム

二 東山ニ於ケル我カ同胞在留民ノ救済方法如何

三 華府會議ニ於テ協定セル極東協約並諸議院設置ノ經過及結果ニ對スル說明ヲ求ム

大正十一年三月二十四日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長奧繁三郎殿

衆議院議員望月小太郎君提出外交ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員望月小太郎君提出外交ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 加藤海軍大臣カ去十五日貴族院ノ豫算委員會ト二十日衆議院豫算委員會トニ於テ各辯セル所謂七割比率ノ提議ヲ我カ全權ヨリ英米全權ニ提議セル事實ニ關シ其說明ニ相違アルヲ認メ又本事項ニ關シ從來他ノ大臣ノ說明ト矛盾スル所ナシ

二 山東條約實施ノ曉事態ノ變動ニ伴ヒ在留邦人ニシテ自然影響ヲ蒙ルモノ可有之キモ其程度態樣ハ今日ノ處判明セサルニ付救済ノ要否並方法等ハ言明シ難シ

三 今次華府會議ニ於テ調印セラレタル支那ニ關スル九國條約ハ同會議ニ於テ支那全權ノ表明セル希望ヲ參酌シ極東問題委員會ニ於テ討議採擇ヲ見タル諸種ノ決議中列國ノ對支關係ノ指針タルヘキ主義原則ノ性質ヲ有スルモノヲ取捨編輯セルモノニシテ大正十一年二月四日ノ總會決議ニ於テ全會一致ヲ以テ可決セラレ二月六日華盛頓ニ於テ調印ヲ了セリ政府ニ於テハ目下之方御批准ヲ經ル手續中ニシテ其ノ内容ハ二月八日外務省公表ノ通ナリ

前記ノ通其ノ内容ハ列國ノ對支關係ノ指針タルヘキ主義原則ノ性質ヲ有スルモノニシテ從來未ダ列國ハ殆ト之ト同様ノ主義方針ヲ採リ來レルモノナルヲ以テ其ノ實施セララルルニ至リタル後ト雖直ニ其結果トシテ指摘シ得ルカ如キ若シ事態ノ變化ヲ生スルモノニアラスト思考ス

又諸議院ニ關スル決議ハ當初前記九國條約第三條ノ内容ヲ爲セルモノト一體ヲ爲シ一月十八日第二十回極東問題總委員會ニ於テ採擇セラレタル一決議タリシカ其ノ規定ノ内容ニ顧ミ其ノ一半ハ九國條約中ニ收録シ後半ヲ獨立ノ一決議トナシ二月四日第六回總會決議ニ於テ全會一致ヲ以テ可決セルモノナリ其ノ内容ハ三月五日外務省公表第一ノ通九國條約第三條及第四條ノ規定ノ實施ニ關シ生スルコトアルヘキ問題ヲ附議調査セシムヘキ一機關ヲ設ケムトスルモノニシテ日本ノ公正ナル對支政策ハ之カ爲メ何等妨ケラルルコトナシ

右及答辯候也
大正十一年三月二十二日

外務大臣 伯爵內田 康哉
海軍大臣 男爵加藤友三郎

滿洲ニ於ケル取引所制度改善ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十一年三月十六日

提出者 砂田 重政

贊成者 關 直彥
外二十九名

滿洲ニ於ケル取引所制度改善ニ關スル質問主意書

一 關東州取引所令ニ依リ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル取引所ハ民營ト爲スヘキモノナルニ大連、營口、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺、四平街、長春等ニハ尙官營取引所存ス是等ハ速ニ民營ニ移シ勸令ノ精神ニ副ハシムヘキモノト認ム其ノ時期方法並之ニ關スル準備如何

二 特ニ大連取引所ニ附屬スル大連取引所信託株式會社ハ其ノ特許期限大正十一年十月十中ナリト聞ク果シテ然ラハ此ノ機會ニ於テ民營ト爲スヲ至當ト認ム而シテ該會社ハ從來經營ヲ誤リ甚シキハ金建反抗ノ中心ト爲リ取引ノ發達ヲ阻害シタルコト大ナリト聞クトコロニ依レハ政府ノ處置緩慢ナルニ乘シ該會社幹部ハ此ノ際急ニ大増資ヲ爲シ民營取引所ノ中心タラント運動ヲ爲シ居レリ果シテ然ラハ増資ヲ許可スルトキハ民營ノ實行ニ障礙ヲ來スノ虞ナキヤ

三 南滿洲鐵道附屬地ノ官營取引所ハ開原長春ヲ除キ關東州取引所令公布後ノ設立ニ係ルモノニシテ當然民營ト爲スヘキモノナルニ一部屬僚間ニ上司ノ命ヲ奉セズ官營主義ヲ維持セムト意圖ヨリ勅令ニ違背シテ官營ト爲シタルモノト聞ク一日モ速ニ民營ト爲スヘキモノト認ム而モ其ノ附屬ノ信託會社ハ常ニ經營ヲ失シタル結果關東廳ト滿鐵ト間ニ協定アリテ滿鐵力半數以上ノ株式ヲ所有セサレハ許可セサルコト爲リ居テ居住民ト間ニ紛爭絶ヘス一日モ速ニ是等ノ弊風ヲ一掃スル意思ナキヤ

四 右ノ外奉天、安東、哈爾濱ニ外務省ノ公認シタル取引所及默認セル鐵嶺、遼陽、開原、鞍山、營口等ノ現物市場即チ滿洲ニ於ケル取引所ハ寧ろ濫設ノ嫌アリ統一整理スル必要ナキヤ

五 尙南滿鐵道附屬地ノ官營取引所及哈爾濱ノ取引所ハ支那側ノ了解不備ナル結果雙方關係甚タ不調滿ニシテ却テ取引ノ發達ヲ害シ延テ兩國人ノ親善ニ障礙スルノ虞アリト評アリ改善ノ意思ナキヤ右及質問候也

大正十一年三月二十四日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長 奧野三郎

衆議院議員 砂田重政君提出滿洲ニ於ケル取引所制度改善ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員 砂田重政君提出滿洲ニ於ケル取引所制度改善ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル官營取引所ハ將來可成之ヲ民營ニ移スノ方針ナルモ目下取引ノ情況等ニ鑑ミ當分ノ内仍官營ヲ繼續スルノ必要アリト認ム

二 大連取引所信託株式會社ノ特許期限ノ延長ハ之ヲ許可スル方針ナルモ同會社ノ増資ニ關シテハ未タ關知セズ

三 南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル官營取引所ハ凡テ大正二年勅令第六號ニ據リ設置セラレタルモノナリ又南滿洲鐵道會社鐵道附屬地ニ於ケル取引所信託株式會社ノ株式ノ半數以上ヲ所有セルハ同會社設立ノ當時發起人多數ノ希望ニ依リタルモノニシテ關東廳ト滿鐵會社ト間ニハ之ニ關シ何等協定ヲ爲シタルコトナシ

四 從來滿洲ニ於ケル取引所策ニ關シテハ稍統一ヲ缺クノ憾アリタルモ其後取引所ニ關スル重要事項ニ付

テハ外務省ト關東廳ト間ニ相互協議ヲ爲サシムルコトニ決定シ爾後之ヲ統一ヲ圖リツツアリ

五 南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル官營取引所ハ何レモ日支提携融合ノ實ヲ示シ支那人ハ殊ニ官營取引所ヲ信賴シ安心シテ取引ニ從事シ居ルノ實狀ニアリ哈爾濱ニ於テハ從來哈爾濱信託株式會社アリテ取引所ノ業務ヲ營ミ日露支人間圓滿ニ取引ヲ爲シツツアリタリ哈爾濱取引所ハ之ヲ改善擴張シタルニ過キサルモノナル處支那人官營ニ於テハ其ノ支那人株主ヲ拘禁スル等ノ不當處置アリタルニ付我方ニ於テハ支那人官營ノ反省ヲ促シ發見ニ不取致被拘禁者ヲ釋放セシタルカ引續キ善後措置ニ付交渉中ナリ

大正十一年三月二十四日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

外務大臣 伯爵內田 康哉

關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟政策ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

大正十一年三月九日

提出者 山道 襄一 賛成者 本田 恆之

關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟政策ニ關スル質問主意書

一 關東州及南滿洲鐵道附屬地其ノ他滿洲ニ於ケル經濟的施設ニ對シ帝國政府ノ方針ハ不統一ヲ極ム假令ハ

イ 物價ヲ公定スル取引所ノ如キ外務省ノ許可スルモノアリ關東廳ノ許可ヲ得テ營業スルモノアリ又關東廳ノ直營スルモノアリ中ニハ支那側交易所ヲ脅威シテ排日思想ヲ誘發スルモノアルカ如キ其ノ實例ナリ

ロ 右地域内ニ於テ營業スル特殊會社タル南滿洲鐵道會社、東洋拓殖會社、朝鮮銀行、正金銀行等ノ監督權ノ如キモ關東廳、拓殖局、朝鮮總督府、大藏省等ニ各分屬セルカ如キモ亦其ノ適例ナリ

之カ爲ニ滿洲經濟界ノ發達ヲ阻害スルコト實ニ甚大ナリ政府ニ之ヲ統一シ適切ナル施設ヲ行フノ意志ナキカ

二 關東州及南滿洲鐵道附屬地其ノ他滿洲ニ於ケル支那人ノ日貨排斥力特ニ昨年來勃發シタルハ大連取引所建値變更ニ原由シタルコト多キハ言フ俟タサルトコトナルカ而モ金建兩派ノ醜惡不遠慮ナル運動又ハ宣

傳ニ因リ支那人ヲ煽動シタルコトニ在ルハ悲シムヘキコトニ屬ス此ノ兩派ノ人達ハ盛ニ流言蜚語ヲ放チテ支那人ニ入智恵シ自家ノ利害ノ爲ニ金券銀券ノ兌換準備ニ對シ不謹慎ナル批評ヲ試ミ之ヲ殊更ニ支那人ニ宣傳シ又ハ營業上ノ秘密ヲ發シテ相傷ケルノ醜態ヲ演シ更ニ又日本人ノミナラス支那人ヲ買収シテ自派ニ有利ナル宣傳運動ヲ爲サシメタリト聞ク爲ニ財界ヲ攪亂スルモ敢テ顧ミサルカ如キ隨策ヲ弄ヒ更ニ將來紛糾ハ益甚シカラムトス帝國ノ經濟的權威ト利益トヲ損傷スルコト甚シ政府ハ之ニ對シ如何ナル措置ヲ執ラムトスルカ

三 關東州ニ於ケル金建銀建兩派ノ紛亂ニ關シ其ノ責任ノ一半ハ政府自ラモ亦之ヲ負ハサルヘカラス即チ政府ハ一方關東廳ニ對シ金建ノ遂行ヲ命ジ乍ラ地方ニハ南滿洲鐵道會社橫濱正金銀行等ノ如キ特殊會社特殊銀行ノ重役等ヲシテ其ノ政策遂行ニ反對スルノ運動ヲ爲サシムルコト將ニ一年ニ垂々タリシカ如キ其ノ一例ナリ之ニ對スル政府ノ所見ヲ求ム

四 大正十一年十一月勅令第二百十八號ハ銀券ノ發行ヲ爲シ得ル地域ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ヲ除ク支那領土内ニ制限シ更ニ大正十年四月十六日關東廳告示第三十三號ハ大連取引所建値ヲ金建トスルニ決定シタリ之即チ銀券カ關東州及南滿洲鐵道附屬地内ニ於テ新ナル發行權及通用權ヲ制限サレタルコトヲ示スモノナリ然ルニ銀券ノ新ナル發行通用ハ繼續サレツツアルハ勅令違反ナリト思惟スレトモ政府ノ所見奈何

若右ハ勅令違反ニ非ストセハ各種銀行力右地域内ニ於テ各自己ノ信用ニ依リ流通スル銀券ヲ發行シタル場合政府ハ如何ニ之ヲ處置セムトスルカ

五 關東州及南滿洲鐵道附屬地其ノ他滿洲ニ於ケル在留日本人ノ經濟狀態頗ル不良ニシテ動モスレハ他國商工業者ノ爲ニ壓倒サレムトスルノ傾向アリ而モ在留邦人間ノ物價ノ高値ナル世界第一ト稱セラルルノ狀態ナリ之カ原因ノ一ハ滿洲ニ於ケル特殊金融機關カ非民衆的營業方針ヲ以テ唯一部特殊階級ノ商工業者ノミ利用セシメ而モ其ノ金利甚シク高率ナルニ在リ故ニ之ヲ矯救セムト欲セハ假設金融機關ヲ利用シ又ハ特殊金融機關ヲ新設シテ低利資金供給ノ任ニ當ラシメ更ニ之ニ小口債券ノ如キモノノ發行權ヲ附與シテ零細資金ヲ吸收シテ滿洲企業資金ニ利用セシムルカ如キハ適宜ノ措置ナリト思惟ス之ニ對スル政府ノ所見ヲ求ム

右及質問候也

大正十一年三月二十四日

内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長與繁三郎殿

衆議院議員山道襄一君提出關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟政策ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員山道襄一君提出關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟的施設ニ付テハ關係各官廳間ニ於テ協議ノ上處理スル方針ヲ以テ其ノ統一ヲ計リツ、アリ又日本側取引所力支那側取引所ヲ脅威シテ排日思想ヲ誘發スルカ如キコトナシ

二 大連取引所ノ建値變更ニ對シ銀建ノ存續ヲ希望スル者ノ内ニ其言動往々過激ニ涉ルモノアリタルモ是等ニ對シテハ當時夫々諒告又ハ戒告ヲ與ヘタリ其ノ後金建取引所調ニ行ハルニ至リ最早金建反對ノ爲特ニ不穩ノ言動過激ノ宣傳ヲ爲ス者ナシ

三 金建實施告布ノ當時滿鐵會社又ハ正金銀行ノ重役ニシテ個人ノ意見トシテ銀建說ヲ述ヘタル者アリ之ニ對シテハ夫々注意ヲ加ヘタリ

四 正金銀行券ハ大正六年勅令第二百十八號ニ依リ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於テハ公私一切ノ取引ニ無制限通用ヲ許サレサルコトナルモ之カ爲同地方ニ於ケル通用ヲモ禁止セラレタルモノニ在ラス

五 政府ハ滿洲地方ニ於ケル本邦人商工業ノ發達ニ資セムカ爲夫々金融機關ヲ利用シテ資金供給ノ途ヲ講シツアリ

右及答辯候也
大正十一年三月二十四日
内閣總理大臣 子爵高橋 是清
大藏大臣 子爵高橋 是清

國定教科書ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十一年三月十八日
提出者 高田 紘平 賛成者 荒川 五郎
外三十四名

國定教科書ニ關スル質問主意書
政府カ大正十一年度以降ノ國定教科書翻刻、發行及販賣者ヲ定ムルニ際シ從來製造能力甚タ不充分ニシテ規程違背ノ事實顯著ナリシノミナラス不當ノ値上ヲ要求

シテ暴利ヲ貪リタル日本書籍株式會社外數會社ニ對シ何等制裁ヲ加ヘス却テ繼續許可シタル件ニ付種々ノ疑問アリ之ニ對シ政府ノ明確ナル答辯ヲ望ム
右及質問候也
大正十一年三月二十四日
内閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長與繁三郎殿

衆議院議員高田紘平君提出國定教科書ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員高田紘平君提出國定教科書ニ關スル質問ニ對スル答辯書

從前教科書ノ供給遲延シタルコトアリシモ大正九年以來銳意會社ヲ督勵シタルニ依リ近年其ノ事實ナキニ至レリ又會社ニ於テ物價ノ變動ニ依リ大正十年度ニ於テ從來ニ比シ多額ノ利益ヲ收得セルノ事實アルモ政府ハ十一年度所要分教科書ノ定價ヲ定ムルニ當リ特ニ此點ヲ考慮シ其定價ヲ相當輕減シタリ

又日本書籍株式會社外三社ニ對シ國定教科書ノ翻刻發行又ハ販賣ヲ繼續許可セルハ國定教科書ノ製造供給ニ關スル將來ノ制度方法ニ就キ猶ホ慎重調査攻究セシカ爲メ特ニ期間ヲ短縮シテ三年トシ暫定之ニ之ヲ許可シタリ

右及答辯候也
大正十一年三月二十四日
文部大臣 中橋德五郎

東洋拓殖株式會社紊亂ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
大正十一年三月二十二日
提出者 橋本 喜造 本槍三四郎
野田文一郎 賛成者 田中 善立
外三十二名

東洋拓殖株式會社紊亂ニ關スル質問主意書
東洋拓殖株式會社ハ大正九年衆議院議員選舉ニ際シ政府ヨリ選舉費用トシテ金四百五十萬圓ノ提撥ヲ命セラレ土地買收ノ名目ノ下ニ之ヲ支出シタリ即チ第四十二回議會ノ解散トナルヤ時ノ原首相ハ田中陸相高橋藏相野田通相ト共ニ選舉費ノ調達ニ付謀議シタル結果東拓ニ兼テ陸軍間諜ヲ爲シ居ル支那人ノ名義ノ形式ヲ採リ牧場用地トシテ内蒙古中人跡絶ヘタル東ザロトウ、カイロ地方ノ何等價値ナキ土地百八十町歩ヲ前記四百五十萬圓ニテ買收シタルカ如キ形式ヲ取ラシメ之ヲ政友會ノ選舉費ニ充當シ

タリ然モ該土地タルヤ經濟的ニ使用スル能ハサル朔北不毛ノ地ニシテ此處ニ金三萬圓ノ事業ヲ計畫スルカ如キ目論見書ヲ實地踏査ノ爲派遣シタル陸軍中將吉田平太郎ニ作成セシメナカラ關東廳補助金五十萬圓ノ豫算削除ノ理由トシテ該計畫ヲ中止シ東拓ハ前記四百五十萬圓ヲ全然損失シタリ會社監督ノ任ニアル政府ノ此ノ事實ニ對スル所見如何
一 元來東拓ハ政府及政黨ノ爲惡用セラレ或ハ情實ノ爲或ハ緣故ノ爲無謀ノ貸出ヲ爲シテ損害ヲ蒙リタル事實多シ殊ニ古賀廉造ノ拓殖局長官ト爲リ其ノ推撰ニ依リ夏秋十郎ノ會社理事トシテ金融部長ノ重職ニ就クヤ此ノ弊最甚シク之カ爲東拓カ回收不能ニ陥リタル投資額ハ前記四百五十萬圓ヲ除キ實ニ二千五百萬圓ノ巨額ニ達スト稱セラル而シテ其ノ主ナルモノハ古賀ノ寵商平林甚輔ニ東拓法ヲ無視シテ大正九年金二十五萬圓ヲ貸與シ更ニ同年十二月小西喜代松ニ五百萬圓ヲ貸與シテ未タ一厘モ回收セラレサルヲ初メトシ東省實業會社(資本三百萬圓)北滿電氣會社(同三百萬圓)東海林伐木公司(同三百萬圓)等ノ泡沫會社ニ投資シタルモノナリ是等ノ會社ハ何レモ經濟界ノ反動ニ遭遇シテ不況ノ絶頂ニ達シ唯僅ニ事業ヲ繼續シ居ルハ北滿電氣會社ノミナリ而シテ右ノ外日支親善ノ美名ノ下ニ支那人ニ東拓ヨリ融通シタル額ハ五百萬圓ニ達シ是レ亦全然回收不能ト稱セラル右事實ニ對スル政府ノ所見如何
一 東拓ノ内部紛糾ノ如キヲ以テ第十四回ノ決算期ニ當リ株主ニ配當スヘキ利益ナク之ヲ社債ニ依リテ補ハムト目下社債一千萬圓ノ募集半ハナリト謂フ政府ハ此ノ行爲ヲ如何ト看ルヤ
一 東拓幹部ノ所爲餘リニ放漫無責任ナル爲下級社員モ之ニ倣ヒテ不正ノ行爲ヲ敢テシテ會社ニ物質上ノ損害ヲ與フル者甚タ多シ然モ會社ハ是等ニ對シ斷乎タル處置ヲ採ル能ハス却テ其ノ意ニ逆ハサムト弱ム斯クノ如キハ益會社ノ内部ヲ腐敗墮落セシムルモノニ非サルカ
一 東拓ハ畏クモ皇室ヲ株主ニ仰キ國家亦其ノ株主タル以上政府ハ最其ノ監督ヲ嚴重ニシテ苟モ不正不法ノ行爲アルヲ許サス然モ政府ハ其ノ之ヲ監督セザルノミカ却テ之ヲ政略ニ利用シ莫大ノ損害ヲ負ハシメテ恬然タルカ如キハ當ニ經濟上ノ問題タルノミナラス政治上ノ罪惡ニシテ網紀肅正上至大ノ問題タルヲ思惟セザルカ
右及質問候也

大正十一年三月二十四日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長與繁三郎殿

衆議院議員橋本喜造君外二名提出 東洋拓殖株式會社
社務亂ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員橋本喜造君外二名提出 東洋拓殖株式會社
式會社社務亂ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 東拓カ日支人ニ對シ滿蒙方面ノ農事資金ヲ供給シタル事實アルモ名ヲ地買收ニ僞リ政府ニ選舉費用ヲ提供シタルカ如キコト絶對ニ無シ

一 東拓カ東洋拓殖會社法ニ反シ情實或ハ縁故ノ爲無謀ノ貸出ヲ爲シ巨額ノ資金ヲ回收不能ニ陥ラシメタルカ如キ事實ヲ認メス、東拓關係ノ會社中經濟界ノ反動ニ依リ一二多少ノ打撃ヲ被リタルモノアルモ右ハ既ニ整理方針確立シ東拓ノ信用ニ影響ヲ及ホスノ虞ナシ

一 東拓カ事業資金ヲ主トシテ社債ニ仰クハ同會社ノ性質上當然ノ事ニシテ何等異トスルニ足ラス當期ニ於ケル同社ノ收益狀況ハ引續キ良好ニシテ配當上何等ノ懸念ナシ

一 東拓幹部ノ所爲放漫ナルカ爲社員ニ不正ノ行爲アリト謂フカ如キ事實アルヲ問カス

一 政府ハ東拓ニ對シテハ常ニ嚴正ナル監督ヲ加ヘ苟クモ之ヲ政略ニ利用シ損害ヲ負ハシメタルカ如キ事實ナシ

右及答辯候也

大正十一年三月二十四日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

大正十一年三月二十四日

內閣總理大臣 子爵高橋 是清

衆議院議長與繁三郎殿

衆議院議員荒川五郎君ノ本年一月二十六日本會議ニ於ケル國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ニ對スル齋藤朝鮮總督ノ答辯補足及轉送候也

一月二十六日衆議院本會議ニ於ケル衆議院議員荒川五郎君ヨリ國務大臣ノ演說ニ關スル質疑ニ對スル答辯補足

一 全羅南道實城警察署管下警察官ノ嫌疑者ヲ拷問致死シタルノ件

右ハ大正十年四月三日筱橋里駐在所ニ於テ二十六年度奉銃一挺同彈藥六發及奉銃裝一箇ヲ竊取セラレタル事件ニ關スルモノニシテ當該警察官ハ直接駐在所ノ被害タル關係上舉證ニ熱中シ其ノ取調可察ニ互

リタル事實アリシヲ以テ之ヲ裁判所ニ移シ關係警察官五名ハ清獄罪ニ依リ懲役三箇月乃至八箇月ニ處セラレタルモノナク而シテ金允錫ナル者ヲ拷問ノ結果死ニ致シタルカ如キ事實ナシ

二 平安南道居住朴贊珪及其兩親ヲ拷問シタルノ件

朴贊珪ハ在滿不逞團體光復團平安南道總務金瑛圭ノ部下トシテ同團ニ加盟活動シ又其ノ父朴承浩ハ右金瑛圭ノ親戚ニシテ常ニ同人ノ行動ヲ補助シタル廉ニ依リ檢舉取調ノ結果檢事ニ送致シ又朴贊珪ノ母即チ朴承浩ノ妻ヲ右兩人ノ參考人トシテ一應召喚取調ヲ爲シタル事實アルモ右三人ニ對シ拷問苛察ニ互ルカ如キ取調ヲ爲シタルコトナシ

三 犯罪嫌疑者李皓榮ヲ銃殺シタル警察官ヲ郡守ニ拔擢任用シタルノ件

李皓榮ハ支那宛甸縣ニ根據ヲ有スル不逞團ノ暗殺隊員トシテ總督其他知名ノ士ノ暗殺ヲ企テ又大正九年十二月二十日義州邑內元郡參事金炳烈ニ對シ對立軍資金ヲ強要シタル事實ニ依リ新義州ニ押送中逃走ヲ企テ頑強ナル抵抗ヲ爲シ格闘中不得已發砲ノ爲メ絶命シタル事實アルモ右射殺者ヲ郡守ニ任用シタルコトナク本人ハ警部トシテ在職中ナリ

四 山林ノ違法調査及不當處分ノ件

山林調査及山林處分ハ何レモ法令ノ定ムル所ニ遵ヒテ之ヲ行フモノニシテ質問ノ如キ違法又ハ不當ノ事實ナシ

五 國有藍田ノ藍草ニ關スル件

國有藍田ハ國有未墾地利用法ニ依リ成ヘク私人ヲシテ開墾セシメ耕種等ニ利用セシムル方針ナルモ開墾不可能ナルモノ又ハ開墾有利ナラサルモノハ公賣處分ヲ爲シ來レルモノニシテ地元民ヲシテ自由ニ藍草ヲ採取セシメタルカ如キ事例ナシ又藍草ヲ製紙用バル原料ニ充ツルモノハ安岳、載寧、金海、東萊ノ四郡所在ノ分ノミニシテ其ノバル原料ニ適セサル部分ハ地元民ニ賣費配給セシメツ、アルノミナラス該地方ニハ民有藍田多ク存在セルヲ以テ之カ爲朝鮮人ニ甚シキ燃料ノ缺乏ヲ來スカ如キ事實ナシ

六 租稅滯納者三百人ヲ投牢セリトノ件

右ノ如キ事實ナシ

七 第一銀行ニ於ケル李容翊ノ預金ヲ沒收セリトノ件

李容翊名義ノ第一銀行預金ハ舊韓國宮內府ノ內帑金ニシテ明治四十年六月十日當時ノ宮內府大臣ノ照會ニ因リ宮內府外事課長劉燦ノ名義ニ變更シ明治四十二年第一銀行力其ノ事務ヲ舊韓國銀行ニ引

繼タルトキ右預金同銀行ニ引繼タルモノナリ大正七年十月李容翊ノ孫ト稱スル李鍾浩ナル者ヨリ第一銀行ニ對シ該預金拂戻ノ請求アリタルヲ以テ第一銀行ハ右ノ事由ニ依リ其要求ヲ拒絕シタルモノニシテ質問ノ如キ事實ナシ

八 總督政務總監邸警戒人員ノ件

總督政務總監邸警戒人員ハ制度改正前ニ在リテハ三十八人ニシテ現在ニ於テハ四十六人ナルヲ以テ差引八名ノ増加ニシテ五倍トナリタル事實ナシ而シテ右八名ヲ増加セルハ警戒場所ヲ増設セルニ由ル

九 永興灣ニ於ケル牡蠣採取ニ關スル件

永興灣ニ於ケル牡蠣採取ハ舊韓國政府時代ヨリ全部之ヲ内地人ニ免許セラレタルモノナルモ多年地元住民ニ苦情アリシヲ以テ其事情ヲ考慮シ近年免許期間更新ノ際ニ於テ試驗的ニ其全區域ヲ從前許可ヲ受ケ居リタル内地人及地元住民ニ開放シ共同漁業ヲ許シタルモ地元住民ノ舉動異常ナラサルモノアリ却テ紛擾ヲ來スノ虞アルヲ以テ更ニ相互ノ居住地海況等ノ關係ヲ參酌シテ其ノ漁場區域ヲ兩斷シ其ノ一半ヲ新ニ地元住民ニ許可シタルモノニシテ今日ニ於テハ地元住民ニ於テ何等苦情ヲ唱フヘキ謂ハレナキモノト認ム

去二十二日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

朝鮮事業公債法中改正法律案
樺太事業公債法中改正法律案
臺灣事業公債法中改正法律案
關東州事業公債法中改正法律案
南洋廳特別會計法案
大正五年法律第四號中改正法律案
露國政變及西北利亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案
銅、真鍮及青銅ノ輸入稅ニ關スル法律案
國有財產整理資金特別會計法案
少年法案

矯正院法案

又昨二十三貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

(特第一號)大正十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第一號)豫算外口庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
貨幣法中改正法律案

簡易生命保險法中改正法律案

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕

一昨二十三日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ如ク變更セリ

二一五 岩切 重雄君 二二七 清水 市太郎君

去二十三日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

速記者ノ養成及優遇ニ關スル建議案

武藤 金吉君 木下成太郎君 志賀和多利君

萩 亮君 加藤紋右衛門君 山口 義一君

野尻彌重郎君 一柳伸次郎君 南 鼎三君

去二十二日農業組合法案外一件委員天春文衛君

辭任ニ付其ノ補闕トシテ伊藤廣幾君ヲ明治四十四

年法律第六十一號中改正法律案委員中馬與丸君、

佐藤良平君辭任ニ付其ノ補闕トシテ野村嘉六君、松

實喜代大君ヲ軍備縮少ニ基因シテ生ヌヘキ失業勞

働者ノ善後ニ關スル建議案委員廣岡宇一郎君、若

林德懋君、田中定吉君、牧山耕藏君、穴水要七君辭

任ニ付其ノ補闕トシテ清瀨規矩雄君、野副重一君、山

口隆野君、渡邊祐策君、濱口吉兵衛君ヲ、土地收用

法中改正法律案委員佐藤啓君辭任ニ付其ノ補闕ト

シテ作間耕逸君ヲ、奈良ニ美術學校建設ニ關スル建

議案外二件委員福井三郎君、澤來太郎君、望月政

友君辭任ニ付其ノ補闕トシテ望月政友君、磯田糸三

郎君、加藤重三郎君ヲ、多摩川改修費及水源涵養

費國庫支辨ニ關スル建議案外二件委員森格君、成

田榮信君辭任ニ付其ノ補闕トシテ清瀨規矩雄君、小

鹽八郎右衛門君ヲ片町長尾間電力鐵道延長ニ關ス

ル建議案外四件委員板野友造君辭任ニ付其ノ補闕

トシテ渡邊昭君ヲ、六大都市行政監督ニ關スル法律

案委員中島守利君、原田佐之治君辭任ニ付其ノ補闕

トシテ米原於菟男君、木村作次郎君ヲ執レモ議長ニ

於テ選定セリ

一昨二十三日多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨

ニ關スル建議案外二件委員井上孝哉君辭任ニ付其

ノ補闕トシテ木村權右衛門君ヲ、六大都市行政監督

ニ關スル法律案委員梅田潔君、阿由葉勝作君、淺賀

長兵衛君辭任ニ付其ノ補闕トシテ菊川惣吉君、野尻

彌重郎君、佐藤啓君ヲ、樺原神宮第二期宮城擴張

及建物修築ニ關スル建議案外二件委員萩亮君辭任

ニ付其ノ補闕トシテ陣軍吉君ヲ、速記者ノ養成及優

遇ニ關スル建議案委員野尻彌重郎君辭任ニ付其ノ

補闕トシテ荒川五郎君ヲ、身元保證ニ關スル法律案

外三件委員梅田潔君、大島實太郎君辭任ニ付其ノ

補闕トシテ禰苗代君、吉良元夫君ヲ電信線電話線

建設條例第六條ニ依ル手當金増額ニ關スル建議案

委員西田銳吉君辭任ニ付其ノ補闕トシテ若林德懋

君ヲ、明治四十四年法律第六十一號中改正法律案

委員飯島信明君辭任ニ付其ノ補闕トシテ萩亮君ヲ、

片町長尾間電力鐵道延長ニ關スル建議案外四件委

員鐸木三郎兵衛君辭任ニ付其ノ補闕トシテ植竹龍

三郎君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

一今二十四日三津濱港築港國庫補助ニ關スル建議案

委員西村伊亮君辭任ニ付其ノ補闕トシテ阪上貞信

君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一昨二十三日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

土地收用法中改正法律案委員

理事 橫山勝太郎君(理事作間耕逸君補闕)

奈良ニ美術學校建設ニ關スル建議案外二件委員

理事 大口 喜六君(理事高草美代藏君補闕)

一昨二十三日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

速記者ノ養成及優遇ニ關スル建議案委員

委員長 武藤 金吉君 理事 志賀和多利君

一昨二十三日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

片町長尾間電力鐵道延長ニ關スル建議案外四件委

員

理事 植竹龍三郎君(理事鐸木三郎兵衛君補

闕)

六大都市行政監督ニ關スル法律案委員

理事 牧野 良三君(理事向井俊雄君補闕)

理事 木村作次郎君(理事原田佐之治君補闕)

理事 佐藤 啓君(理事淺賀長兵衛君補闕)

一昨二十三日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ

第六部選出豫算委員內藤濱治君(鈴木久次郎君補

闕)

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス 質問ノ中第一ヨ

リ第六マデハ政府ヨリ答辯ガ參リマシタ、故ニ之ヲ日程ヨリ

省キマス、第七茨城縣ニ於ケル人權蹂躪ニ關スル質問、橫

山勝太郎君——橫山君出席デアリマセヌカラ、是ハ此場合

取除キマス

○岩崎勳君 會期切迫ノ際デアリマスカラ、質問ニ對スル

趣旨ノ辯明及政府ノ答辯ニ對スル意見ノ陳述ハ、午前中

ニ於テ一先ツ打切ラレテ、サウシテ午後ハ日程ノ審議ニ入

ラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成「下呼フ者アリ」

○議長(與繁三郎君) 大抵サウナリマセウト思ヒマス、先

ヅ選シテ見マス——質問第八、災害地租免除法ニ關スル

質問、三輪市太郎君——三輪君出席デアリマセヌカラ、是

モ此場合取除キマス——質問第九、部落有土地統一ニ關ス

ル質問、土井權大君

九 部落有土地統一ニ關スル質問(土井

權大君提出)

〔土井權大君登壇〕

○土井權大君 部落有土地統一ニ關スル質問ノ説明ヲ極

テ簡單ニ申述ハマス、即チ日本ノ森林行政ノ方針ヲ致シマ

シテ、山林ノ統一ト云フコトニ努メテ居ラレリノデアリマス、

所ガ其實際ニ行ハレテ居ル所ノ事實ヲ調べマス、町村ノ

或ル部落ガ從來所有スル共有地ヲ舉ゲテ、之ヲ町村有ニ統

一セント致シマシテ、或ハ縣知事デアルトカ、或ハ郡長、或ハ

村長、是等ノ官吏ハ其部落ニ臨ミマシテ、脅迫的言辭ヲ以

テ、部落民ニ此山林ノ統一ヲ強ユルト云フガ如キ形跡ガア

ルノデアリマス、甚シキハ統一ヲ強制シ、モノデアルカノ如

キ口吻ヲ以テ臨ムコトガアルノデアリマス、又山林ナルモノハ、

一切部落ニ所有スル權能ナキガ如ク吹聴ヲ致シ、又部落民

ヲシテ信ゼシムルガ如キコトガアルノデアリマス、其結果善

良ナル地方、古來ノ慣例ヲ無視シ、飽マデモ山林統一ト云

フコトヲ遂行致サウトスルノデアリマス、是等ノ遺方ト云フ

モノハ實ニ不都合デアアル、口ニ社會主義ヲ禁ジ、手ニ共產

主義ヲ行ハントスル者デアリカト云フ疑ガアルノデアリマス、

政府ハ是等不謹慎ナル官吏ヲ戒飭スベキヤ否ヤ、當然是

等ヲ戒飭致シテ、國家ノ安寧ノ秩序ノ保持ニ努メラレ、而モ

善良ナル風俗慣例ノ維持存續ト云フコトニ意ヲ用ラレ

意思ナキヤ否ヤ、即チ此ニツデアリマス、是等不謹慎ナル官

吏ヲ戒飭セラレヤ否ヤ、更ニ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ善

良ナル風俗習慣ヲ維持サレリ意思アリヤ否ヤ(拍手)

○議長(與繁三郎君) 第十東洋拓殖株式會社紊亂ニ

關スル質問、橋本喜造君——橋本君出席デアリマセヌカラ

是モ此場合取除キマス——關東州阿片事件ニ關スル質問、

水野吉太郎君、水野君——水野君出席デアリマセヌカラ取

除キマス——是デ質問ハ總テクナリマシタ

〔田淵豐吉君〕意見ガアリマス「ト呼ブ」

○議長(與繁三郎君) 意見ノ陳述ハ岩崎君提議ノ如ク、

今日ノ日程ヲ終ヘテ時間ヲ延長シテ、モ承ルコトニ致シマ

ス——日程第一、明治三十三年法律第七十五號及明治

三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案ノ第一讀

會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス

第一 明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號運用ニ關スル法律案(政府提出、貴族院深付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號運用ニ關スル法律案(政府提出、貴族院深付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

明治三十三年法律第七十五號
及明治三十五年法律第二十九號
號運用ニ關スル法律案委員長

衆議院議長與繁三郎殿

〔三善清之君登壇〕

○三善清之君 御報告ヲ致シマス、明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號運用ニ關スル法律案、本案ハ政府提出デアリマシテ、貴族院ヲ通過シテ此方ヘ參リマシタノデアリマス、内容ハ極テ簡單デアリマス、即チ過日私ヨリ此壇上ニ於テ諸君ニ御報告致シマシタ、明治四十一年法律六十一號ノ改正ト同趣旨ノモノデアリマス、即チ臺灣、朝鮮、樺太等ニ在勤ヲ致シマスル内地ニ對スル恩給、遺族扶助料等ノ振振リガ、内地ノ官吏トハ異リテ居リマシテ、過日申上デマシタ如ク、一年ノ勤務ヲ以テ一年半ニ通算ヲ致シマスルノデアリマス、本日ノ此改正案ハ此度南洋委任統治ニナリマシタニ付キマシテ、南洋ノ群島ニ内地ノ官吏、即チ判任官以上ノ文官ガ在勤ヲ致シマスルニ付キマシテ、臺灣、朝鮮、樺太等ニ在勤致シマスル官吏ト同様ニ扱ヒマスル爲ニ、此法律案ヲ提出スルコトニナリマシタ次第デアリマス、委員會ニ於テハ滿場一致可決致シマシタ、御報告致シマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○鈴木健藏君 直ニ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り、可決確定アラシコトヲ望ミマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號運用ニ關スル法律案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ——日程第二大正八年度決算ヲ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、井上敬之助君

第二 大正八年度決算

〔井上敬之助君登壇〕

○井上敬之助君 決算委員會ノ經過並ニ結果ノ概要ヲ御報告申上デヤウト思ヒマス、御承知ノ通り本決算ハ大正八年度ノ決算デアリマシテ、即チ原内閣ノ初期ノ決算デアリマシマス、御承知ノ通り憲法實施以來、稀ニ見ル所ノ同一内閣ノ決算ノ審查デアリマスルガ故ニ、特ニ憲政會ノ委員諸君ハ極テ嚴密ニ調査質問ヲ重ネラレタデアリマス、其結果ト致シマシテ、委員ノ總會ヲ開キマスル事ガ七回デアリマシテ、分科會ニ移リマシテ、分科會ヲ開キマスルコトガ通ジテ十六回デアリマシマス、ソレヨリ得マシタ所ガ、即チ諸君ノ手許ヘ報告書ト致シマシテ、配付致シテ居リマスル通り、大正八年度ノ歳入歳出總決算中ニ於キマシテ、歳入ノ部ニ於キマシテ、不當ノ認メルモノガ百十四件歳出ニ於テ不法ナルモノ二件、不當ナルモノノ二十二件、計百三十六件、同特別會計歳入歳出決算中ニ於キマシテ、歳入ニ於テ不當ナルモノ三件、歳出ニ於テ不法ナルモノ四件、不當ナルモノ四件、計十一件、合計百四十九件、ソレカラ往年度、大正七年度ノ歳入ニ於キマシテ不當ナルモノ一件、大正七年度ノ歳入ニ於キマシテ不當ナルモノ十九件、歳出ニ於キマシテ不當ナルモノ二件、合計二十二件、ソレカラ不法不當ニアラザルモノ、政府ニ注意ヲ促スベキモノガ四件、其他ハ總テ政府提出ノ決算ニ承認ヲ與ヘルコト、決シマシタノデアリマス、之ガ詳細ニ御報告ヲ申上デマスレバ、非常ニ時間ヲ要シマスル譯デアリマスルカラ、是ハ決算報告書並ニ委員會ノ速記録ニ依リテ御承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、主ナル質問應答ノ要項ヲ極テ概要ノ點ヲ申上デヤウト思ヒマス、主ニ質問ヲサレタ方々ハ憲政會ノ荒川君、並ニ正木君及高木君ノ三君デアッタノデアリマス、其他二一兩君アリマスルガ、概シテ其三君ガ主ナルモノデアッタノデアリマス、第一ニハ此度ノ決算書ヲ見、又會計檢査院ノ報告ニ依リマスレバ、從來世上ニ喧傳サル、所ノ苛酷請求ナルモノ、概シテ小營業者、小資本家ト云フ者ニ請求ガ行ハレテ居ルデアアル、而シテ大資本家、大所得者ト云フ者ニ向テハ寛デアッテ、小資本家ニ向テハ嚴ナルモノガアル、斯ノ如ク不統

一ニシテ而カモ其小資本家ニ嚴ナル取扱ヲスルト云フコトハ、甚ダ不都合デアルト云フ議論ガアッタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、徵稅ノ公平ヲ保ツト云フコトニ付テハ、從來多ク注意ヲ拂ッテ出來得ル限り努力ヲ盡シテ居ルノデアアル、然レドモ頗ル多數ノ取扱デアリ、而モ處ニ依リ人ニ依リマシテ、往々一定ニ行カザルコトノアルコトハ甚ダ遺憾ニ存ズルノデアアル、併ナガラ是ハ十分ニ注意ヲ拂ッテ、之ガ改善刷新ト云フコトニ非常ニ努力シツ、アルノデアアル、併ナガラ此徵稅ノ事タルヤ獨リ政府者ノミナリニ依ッテ、之ガ改善刷新ヲ圖ルコト云フコトハ甚ダ困難デアアル、國民モ之ニ向テ能ク納稅ノ義務ヲ諒解シ、法ニ遵フノ精神ヲ涵養シナクハバナラヌト考ヘ、種々ナル方面ニ向テ考慮ヲ加ヘ、又小學校ノ教科書ノ如キモノニモ之ヲ載セタイト云フ考ヲ以テ、今又文部省トモ交渉致シテ居ルト云フ答辯ガアッタノデアリマス、ソレカラ第二ニハ彼ノ外米管理、即チ大正八年度ニ於ケル所ノ食糧問題デヤカマシタキ、彼ノ外米ノ購入並ニ之ガ賣捌方法ニ付テ其當ヲ失シ、國庫ニ大イナル損害ヲ與ヘルト云フコトニ付テハ質問ガアッタノデアアル、是ハ政府ニ於キマシテハ、非常ニ此當時ノ食糧問題ノヤカマシタコトハ諸君ノ御承知ノ通りデアアル、唯是ハ政府ノ見ル所ニ依リテハ、政府ガ直接ニ買入ヲスルト云フ事柄ハ大ニ一部ノ商人ニ向テモ壓迫ヲ加ヘルノ虞ガアル、而シテ國庫ノ上カヲ見テモ、直接買入ヲスルト云フト損害ノ大イナルモノガアルト考ヘ、故ニ、努メテ商人ノ手ニ依ッテ輸入セシムル方法ヲ考ヘ、之ニ依ッテ爲シ得ル限り商人ノ手ニ依ッテ輸入ノ方法ヲ執ツノデアアル、然ルニ六七七月頃ニ至リマシテハ、二分二商人ノ手ニ依ッテ輸入スル途ハ困難ニナリタ來テ、故ニ政府ハ已ムヲ得ズ直接ニ購入ヲ致シタト云フ譯デアアル、而シテ拂下ノ方法ニ於テモ十分考慮ヲ加ヘ、サウシテ最善ノ方法ヲ執ツノデアッテ、政府ハ是ハ全ク成功ナリト誇ッテ居ル位デアアルノデアッテ、決シテ質問者ノ言フガ如キ失敗デアリノデアアルト答ヘテ居ルノデアリマス、次ハ彼ノ昨年ノ本會議ニモ質問ガ出、本年ニモ質問サレタ所ノ彼ノ鹿町炭礦買入事件デアアルノデアリマス、是モ質問者ハ此炭礦ハ甚ダ極端炭礦デアッテ、決シテ政府ノ言フガ如キ立派ナル炭礦デナイニモ拘ラズ、之ヲ三百萬圓ノ金ヲ要シテ購入ヲ致シタト云フコトハ、甚ダ不都合デアルト云フ質問ガアッタノデアリマスルガ、政府ハ之ニ對シマシテ、製鐵所ナルモノハ、御承知ノ通り多ク「コークス」ト云フモノヲ以テ此事業ヲ經營致シテ居ルノデアアル、然ルニ「コークス」ノ原料ナルモノハ我國ニ於テハ極テ少イノデアアル、即チ高島三池ノ兩炭礦ニアラザレバ「コークス」ノ原料トハナラヌノデアアル、其中高島炭礦ノ如キハ高島炭ノ如キモノハ硫黃分ノ含有多クシテ、其實際ノ使用ニ堪ヘナイノデアアル、三池炭礦ハ非常ニ値段ガ高價ニシテ、是

亦甚ダ不利益デアルト考へ、從來使テ居ル所ノ物ハ多ク外國品、即チ支那ノ哈爾濱並ニ本溪湖炭ヲ使テ居ルノデアル、然ルニ鹿町ニ適當ナル此「コークス」ノ原料ニ適當ナル所ノ炭ヲ產出スルコトヲ得マシタカラ、之ヲ購入致シテ、サウシテ多量ニ製鐵所ニ於テ使用スル所ノ「コークス」ノ原料ニ致シタリト云フコトデ、段々交渉致シテ結果、之ヲ購入シタルノアル、而シテ質問者ノ言フガ如ク非常ニ濫費炭礦デアリ、或ハ是ハ炭量ガ少イデアルト云フコトハ、見ル人ニ依テ異ニスルデアリマスガ、相當調査ヲ致シテ結果、彼ノ質問者ノ言フガ如キモノデハナイデアル、相當ナル價格デアルト認メルト云フコトヲ答ヘテ居ラレドデアリマス、次ハ彼ノ實探郵便局長津下某ナル者ノ印紙並ニ切手ノ橫領事件デアッタデアリマス、是ハ通信大臣モ出席ヲサレマシテ甚ダ監督不行届デアッタト云フコトヲ陳謝サレ、而シテ是ハ一ニ從來ノ監督不行届並ニ是レノ監督方法ニ付キマシテ、制度ノ缺陷モアルデアル、故ニ今後ハ今豫算ニモ要求シテ居ル譯デアリマスカラ、其豫算ガ通過ヲ致シマス以上ハ、今後ハ斯様ナ事ハ斷ジテ無イ考デアルト答ヘラレテ居ルデアリマス、其次ハ彼ノ朝鮮ニ於ケル騷擾事件デアッタデアリマス、是ハ質問者ハ斯ノ如キ騷擾ヲ起サシメタ原因ハ朝鮮ノ統治方針ガ誤テ居ルノデハナイカ、即チ武斷政治或ハ壓迫政治、小學校ノ教員ニ迄「サーベル」ヲ提ダサセルト云フガ如キヤリ方ヲ致シタノガ、朝鮮人ノ反抗心ヲ買シテ、サウシテ斯ノ如キ騷擾ヲ惹起シタノデハナイカト云フ質問デアッタデアリマス、之ニ對シテ齋藤總督ハ、勿論ソレハ此政治ニ付テノ騷擾ヲ起シタ原因ノ一デアルカモ知レヌケドモ、概シテ此騷擾ノ起シタ原因ニハ遠因モアリ、近因モアルガ、即チ遠因ノ一ツハ豐太閣ノ征伐ニ起テ居ルカモ知ラヌガ、近因ト致シテハ彼ノ歐洲戰亂ノ後ノ巴里會議ニ於ケル所ノ民族自決ノ問題ヨリ惹起テ居ルデアル、而シテ今日ハ制度ノ改正ヲ致シテ、全ク文化政治ヲ行ヒ、而シテ温情政策ヲ以テ今日大ニ效果ヲ致シテ居ル、決シテ今ヤ此朝鮮ノ統治ノ問題ニ付テハ、一人ノ反對者モ無ク、心配ノ點ハ無イノデアルト答ヘラレテ居ルデアル、以上ガ今同ノ決算ニ於ケル所ノ質問ノ主ナルモノデアリマス、是等ノ詳細ノコトモ何レ委員會ノ速記等ニ依テ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、而シテ總會ニ於キマシテ憲政會ノ荒川委員ヨリ決議案ヲ提出サレマシテ、又我黨ノ井上角五郎君ヨリ希望事項ノ提出ガアッタデアリマス、之ヲ御報告ヲ申上デマス、荒川委員カラ決議案ヲ提出サレマシテ、是ハ今朗讀ヲ致シマス、大正八年度決算ニ對スル決議、一、租税ノ徵收ニ付テ世上苛斂誅求ノ聲高キモ決算審査ノ結果ニ依レバ

苛斂誅求ハ多クハ小資本家ニ對スル事實ニシテ大資本家ニ對シテ反テ往々寬大ニ過キ脱税ノ事實尠カラズ不當ト認ム、豫算ノ剩餘アルニ乘ジ不急不用ノ支出ヲ爲シ計劃粗漫若クハ不注意ノ爲甚シキ損失ヲ招キ又ハ官有財産ヲ不當低廉ニ拂下若クハ貸下クル等國費濫消ノ弊多シ特ニ豫算ノ年々區分ヲ紊リ款項ノ流用ヲ被テシテ豫算目的外ノ支出ヲ爲シ其ノ他法規ニ反シテ請負契約ヲ締結シタルモノアリ不當不法ノ甚シキモノト認ム、一、官規ヲ紊リ又ハ監督怠慢ニ依リ失政ノ跡少シトセス就中津下某ノ印紙橫領事件ノ如キ失態ノ甚シキモノト認ム、一、朝鮮騷擾事件ハ事實癡癡ナルガ如キモ政府ガ統治ノ政策ヲ誤リ失政百出朝鮮ノ人心ヲ離反セシメタル結果ニ外ナラス而シテ其鎮撫並善後ノ爲巨額ノ國帑ヲ費シ尙且多ク其ノ效果ヲ舉グル得ザルハ不當ノ甚ダシキモノニシテ政府ノ責任極メテ重大ナリト認ム、右決議ス之ガ荒川君ノ提出ノ決議案デアリマス、ソレカラ井上角五郎君ヨリ希望事項ト致シマシテ、希望、印紙切手類ノ保管出納ニ付テハ從來監督手續上周到ノ注意ヲ缺ケルモノアリト認メラルルニ付キ將來一層ノ注意ヲランコトヲ望ム、之ガ井上角五郎君ノ提出デアリマス、之ニ付テハ荒川君ノ提出ノ決議ニハ井上角五郎君並ニ牧野良三君ヨリ反對ノ說ガアリマシタガ、是ハ一々御紹介スルコトハ之ヲ省クコトニ致シマス、之ヲ委員會ニ討論ヲ致シマシテ、サウシテ採決ヲ致シマシタガ、荒川君ノハ少數ニ依テ否決ヲ致シマシタ、ソレカラ井上君ノ希望事項ハ多數ニ依テ可決ヲ致シマシタデアリマス、荒川君ヨリ少數意見ヲ提出スルコト云フ中出ガアッタデアリマス、以上ガ此決算委員會ニ於ケル大體ノ經過並ニ結果デアリマス、右申上ゲル通り、最早會期モ明日ニ迫テ居リマスカラ、概要ヲ申上デマシテ御報告ヲ致シマシタ次第デアリマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 本案ニ對シテ少數意見ノ提出ガアリマス——荒川五郎君

〔荒川五郎君登壇〕

○荒川五郎君 諸君、大正八年度決算審査ニ關シマシテ、我が憲政會ガ國民黨諸君ト共ニ提出致シマシタ少數意見見ハ、只今委員長ヨリ報告セラレタモノデアリマス、其報告ハ委員長ヨリ既ニ決議ノ全文ヲ朗讀セラレマシタカラ、爰ニ其要旨ヲ說明致シテ諸君ノ公平ナル御判斷ヲ請ハウト思ヒマス、申上デモナク決算ハ政府當局施政ノ跡ヲ經テ豫算ノ相當ニ行ハレテ居ルカ否ヤヲ檢スルモノデアリマシテ、或ル意味ニ於テハ豫算ヨリモ寧ろ鄭重ニ取扱ハナケレバナラヌデアリマス、隨テ之ヲ審查致シマスニモ公平ノ態度ニ立ツベキハ勿論デアリマシテ、且ツ豫算ハ數字ヲ列記シタ死物デ、之ヲ運用シテ活カシ倫カスノハ即チ其人ノ腹ニ在ル事デ

アリマス、隨テ時場合トニ依テ事ノ宜シキニ從フベク、當局其人ノ腹デスル其運用ノ妙ヲ認メテ、一々杓子定規ヲ以テ之ニ臨ムコトハ避ケマシテ、成ベク寬容ノ精神ヲ以テ常識的判斷ヲ逸セザランコトヲ旨ト致シテ居リマス、先ヅ緒論トシテ決算ヲ通ジテ見タル各省ノ仕事振ヲ批評致スノハ、決算審査ノ總論ヲ致スニ必要デアリト思ヒマス、ケレドモ會期切迫ノ折柄デアリマスカラ、之ヲ割愛致シテ、直ニ、各論ニ入ラウト思ヒマス、唯、一言申シテ置カネバナラヌコトハ、凡ソ人ハ已レヲ持スルニハ嚴重デ、人ヲ待ツニハ寬大デナクテハナリマセヌカラ、成ベク吾々ハ寬大ノ態度ヲ以テ審查致シマシタガ、ソレニモ倍シテ政友會ノ諸君ハ、多大ノ御寬大ナル委員長報告ノ此決議ハ、私共ノ敬意ヲ表スル所デアリマス、其極テ寬大ナル此委員長ノ報告スラ、歲入ニ於テ不當ト認メタルモノ百數十件、歳出ニ於テ不法並ニ不當ト認メタルモノ百數十件、多クニ及ンデ居ルデアリマス、而シ其中不當ト認メタルモノ中ニ入レテ宜シイカ、或ハ之ヲ寬容シテ宜シイカト云フコトハ、一々ノ事實ニ依ルコトデアリマシテ、政友會ノ諸君ガ決議サレテ、ソレガ委員會ノ成案トナシテ、只今委員長ヨリ報告セラレタ其百數十件ノ中ニハ、虛構ノ事實ニ對シテ支拂ヲ致シタルモノ等、全ク是レ何人ガ常識ノ判斷ヲ致シテモ不當ヲ免レヌ大ナルモノデアリマス、併シ今此場合ニ此不當ニ付テ論ヲ一々ハ申シマセヌ、其中デ不法ト認メタルモノ、即チ法律ニ違背致シタルモノハ私共ノ見ル所ニ依レバ十何件アリマス、ケレドモ、只今委員長ノ報告ニハ六件デアリマス、ソノ六件ハ陸軍ニ一ツ、海軍ニ一ツ、文部ニ一ツ、ソレカラ朝鮮總督府ニ三ツ、六件ノ中デ三件モ違法ガ朝鮮總督府ニアッタト云フコト、即チ政友會諸君ガ寬大ノ度量デ以テ審查セラレタ其不法ノ事件ガ、朝鮮總督府ノ一箇所ニ於テ、他ノ各省ヲ全ク合セタメケノ對數ガアッタト云フコトモ、是レ注意スベキ一ツノ事實デアリマス、而シテ其不法ト委員長ノ報告サレタル六件ノ中デ、他ノ三件ハ陸軍、海軍、文部ト三省ニアリマシテ、内務、逓信、鐵道、其他ノ諸省ニハ一ツモ舉ゲテ居ラレナイデアリマス、私共ガ決算ヲ通ジテ見タル所ニ依リマス、最モ多ク豫算ヲ無視シテ亂暴デアルト思フハ鐵道省ニ最モ多イデアリマス、内務省ニモ違法ノ支出アルデアリマス、而ルニ内務省ニハ一ツモ舉ゲテ居ラレナイ、ソレカラ鐵道省モ舉ゲテ居ラレナイ、逓信省モ舉ゲテ居ラレナイ、一寸此結果カラ見ルト、同ジ政府ノ中デモ、政友會ノ諸君モ生拔ノ政黨大臣ト、其他トハ區別セラレタノデハナイカト云フ疑ヲ起スコトモ、茲ニ已ムヲ得ヌト思フデアリマス(ノウー)ト呼フ者アリ)是等ハ先ヅ大體トシテ委員長ノ報告ニ對スル批評、總體論ヲ申

上デテ國キマシテ、是ヨリ各論ニ入リマス、併シ各論中ニモ
成ベク節約ヲ致シテ、簡單數言ニ止メル考ノモアリマス、レ
ドモ中ニハ少シク長クナルノモアリマス、カ、ドウツ御諒容
ヲ願ヒマス、第一ハ豫算費ノ詳カカラザルコト、會計檢査
院ノ報告ハ中ニハ詳カラス、感無キニシモアラズト思ハレ
ルモノモアリマス、大部分ニ於テ公平的確ナルヲ是認セシ
ムルニ反シテ、政府ノ辯明ハ事實ヲ糊塗シテ、荷モ遠レ
トスルノ形跡ガ明カニコトヲ甚ダ遺憾ト致スノデアリマス、
其點ハ政友會ノ諸君モ認メラレト見エマシテ、斯ル歳入
歳出ニ於テ、各、百數十件ノ不當違法ヲ認メラレト云フ
コトハ注目スベキコトデ、此點ハ政友會諸君ニモ寬大デア
ルト同時ニ、又已ムヲ得ラレナカ、タト申シテ宜シ、而シテ大藏
次官ノ決算委員會ニ於ケル説明ハ率直デアリマシテ、且ツ
一般國民中、納稅義務心ニ餘ケテ之ヲ通レントスルガ如キ
弊アルノハ甚ダ遺憾デアルカラ、此義務心ノ涵養ヲ圖リタイ
ト云フ希望ハ、私共モ同意スル所デアリマシテ、納稅ハ國民
ノ一大義務、國民ノ間ニ正當ノ義務ヲ自ラ認シテ履行スル
義務ハ、公ノ觀念ヲ普及シ、徹底セシメシコトハ私共ノ常ニ
熱望シテ止マヌ所デアリマス、サリナガラシト同時ニ政府
當局ノ人モ國務ヲ執リ、國政ニ任ズル上ニ於テ、十分ノ責
任觀念アルベキコトヲ要求セザルヲ得ヌノデアリマス、申スマ
デモナク納稅ハ國民重大ノ犧牲デアリマス、彼等ハ日夜營
營トシテ儲キ、一錢二錢ノ儲カヲ積ミ、一穂一粒ヲ惜、其
苦心ノ蓄積ヲ割イテ納メルモノ、是レ納稅即チ所謂國民ノ
膏血デアリマス、此國民ノ膏血ノ集リデアル國費ヲ使フコト
ガ、往々ニシテ湯水ヲ使フガ如ク時ニハ儘カノ注意デ免レ得
ベキ場合ニ、之ヲ等閑ニ付シテ、爲ニ多大ノ國費ヲ無効ニ
歸セシメ、又監督不行爲ノ爲ニ非常ニ損失ヲ來シ、或ハ豫
算金額ノ餘リアルニ至リテ不意不用ノ品物ヲ買入レ、又無
用ノ土本ヲ起シタリ、或ハ用モ無キニ發行、還回等ヲ爲サシ
ムル等ノ事アルハ、實ニ驚入、タコトデアリマス、官吏ノ間ニ
大切ノ國費ニ對スル遺憾心ノ感得セルモノアルヲ見ル
ノハ、洵ニ痛心ノ至リデアリマセヌカ、出ス者非カ、使フ者
是カ、上下交リ利ヲ征、テ國庫シト古ノ人ハ歎イテ居リマス
ガ、今ヤ納稅スル者ガ免レトスル此義務心ノ缺乏ヨリモ、
爲政者ガ國費ニ對スル良心無キノ罪ガ重イコト果シテ幾
何デアリマセウカ(拍手)人心ノ不眞面目トナリ、思想ノ惡
化セル其實、果シテ誰ニ歸スベキデアリマセウカ、諸君、我
返ル水田ニ立テテ誰ノ女、嚴冬氷水ヲ拘スルノ老夫、彼等
農者ノ苦ヲ想ウテハ一枝ノ用紙ト雖モ無駄ニ使ハレマセウ
カ、又肩背ヲ傷ケテ峻坂ヲ登リ、風塵ニ埋レテ露店ニ坐セル
彼等商賈ノ苦難ヲ見テハ、一塊ノ炭ト雖モ輕々シク之ヲ火
鉢ニ投ズルコトモ出來ヌ譯デアリマスマイカ、巫山戯話ニ公

設公費ノ電話ヲ使ヒ、待合通ヒニ官用ノ自動車ニ乘ルスラ
是レ良心ニ慚ミテ殆ムル所ナデアリマセウカ、況ヤ茲ニ主
ナルモノ、數箇ヲ例示致シマス、是等ハ如何ニ事柄ガ重大
デアルカ、其一ハ陸軍省ノ臨時歳出第五款ニ於キマシテ、
大正八年ノ七月ニ西伯利兵隊ガ歸ルニ際シ、假宿舍トシ
テ兵隊用デモナイ上長官ノ宿舍ヲ五棟、士官、准士官、下
士官等ノ宿舍ガ二十八棟、湯場ガ五棟、合セテ三十八
棟、六万三千餘圓ハ一時用トシテ、ソレヲ建テテデアリマ
スガ、不用ノ建築物ヲ移シテ、而モ工賃ハ一坪ニ付テ百五
十九圓餘ヲ使フテ居ルノデアリマス、之ガ假設備ト云フコ
トガ出來マセウカ、殊ニ之ヲ軍備充實費カラ出シテサウシテ
政府ノ辯明ハ軍備充實ニ依ル陣營移轉ノ必要ニ基クコト云
ウテ居ル、斯ノ如キ辯明ヲ何人ガ信ズル者ガアリマセウカ、
政友會諸君モ既ニ之ヲ違法ノ中ニ算ヘテ居ラル、ノデア
ル假設備タル實狀無ク、又豫算ヲ紊ル甚シキ違法ト申サントレ
バナラヌ、又同陸軍省第三十三款第一項臨時事件費デ、
陸軍服本廠ガ、毛布ノ材料ヲ買入レタ、是ハ八年度ノ終
リニ買入レテ、其儘使ハナイデ九年度モ全ク打過ギテ、之ガ
十年度ニ至テ其儘ニ存シテ居ル、之ガ臨時其場合ニ必要
ト言ハレマセウカ、翌々年度ニ至テ向ホ其儘ニ在ルトハ如
何デアリマスカ、此事ニ付テハ千住製鐵所ハ、陸軍省ヘ厚
意ノ辯明ヲ爲スベキ善ノ千住製鐵所スラ、其辯明ニ依リマ
シテモ、明ニ豫算金額ノ餘リアルニ至リテ、不急不用ノ物ヲ
買入レタト云フコトガ明白デアリマス、ソレカラ海軍省ノ臨
時歳出第二十五款第一項、是モ臨時事件費カラ三十二
萬圓ヲ以テ鋼材千三百五十餘噸ヲ買入レタ、是ハ矢張何
等必要ノ無イ八年度ノ末ニ買入レマシタ、何等必要ノ無イ
ノニ唯無駄ニ金額ガ餘リテ居ルカラ、ソレヲ成ベク使ヒ減ラ
サウト云フ積リデ、之ヲ買入レテ置イテ、サウシテ各海軍工
應ニ向テ鋼材ガアルガ使ハヌカ、使ハヌカト云ウテ振付ヲシ
テ居ラル、振付ケテスラ向ホ十分一モ其使用ヲ申込ム者
ガ無イ、十分ノ九以上ハ振割ヲシテモマダ其儘ニ殘シテ居ル、
斯ル豫算ヲ豐富ニ積リ過ギテ、サウシテ其金額ヨリ斯ル不
急不用ナル品物ヲ買入レタト云フコトハ、洵ニ不當デアリ
マセヌカ、又海軍省ノ吳工廠ノ製鋼部薄鋼板工場新營工
事費中カラ、新設増設ノ諸設備ヲ支辨致シテ居リマス、是
等ハ休戦後數箇月ヲ經テ、豫算要求ノ目的トシタ其事業
上ノ必要ガ既ニ消滅致シテ居ル、其消滅シタ後ニナテ取
急イデ之ヲ買入レテ、十二万六千餘圓ヲ支出致シタノデア
リマス、是ハ尙ホ買入レテ其儘ニシテ置イテモ、他日ノ用ニ
ナルトモ思ハレヤウカ、併シ是ハ鋼鐵板鍛練工場ヲ造ラナケ
レバ、他日ノ用ニモ供セラレナイ不當ノ支出デアリマス、次ニ
内務省デ一ツ一委員長ノ報告ニハ内務省ノ不法ノ支出

ハ更ニ舉ゲデアリマセヌカ、内務省臨時歳出第四款港灣改
良費、其第五項ノ神戸港修築費カラ支辨致シタル官舎、
合宿所等ノ新營工事費九万六千圓足ラズノ金ハ、是ハ第
七款ノ新營費中ニ入ルベキモノヲ流用シタノデ、第五項ノ
方ニ豫算ノ金ガ多ク餘リテ居ルカラ、此違法ヲ敢テ致シタモ
ノデアル、殆ド十萬圓ノ金ヲソレカラ引去テモ、尙ホ四十何
萬圓ト云フ金ガ餘リ、使フコトガ出來ナイデソレガ繰越ニナ
テ居ルノデアリマス、又大藏省臨時歳出第二款第一項、神
戶稅關海陸運送連絡設備費ノ中カラ支辨シタ住宅設備
四万五千餘圓、是ハ十二項ノ新營費ヲ以テ支辨スベキモ
ノデアル、其金額ヲ差引イテモ尙ホ七十二万七千餘圓ト云
フ大金ヲ繰越シテ居ルノデアリマス、如何ニ金ガ豊富デア
ルカ、而シテ斯ル亂暴ナル流用、不當ナル支出ヲシテモ、僅カ
一項ニ於テ何十萬圓、寧ロ百萬圓ニモ近イ金ガ使ヒ得ナイ
デ繰越シテ居ル事實ニ顯ミテモ、如何ニ豫算ガ杜撰デア
カト云フコトガ分ルノデアリマス、ソレカラ鐵道省ノ所デ申サ
ンケレバナラヌ、鐵道省ノ歳出第一款第二項ニ於テ、改良
費デ九十一万六千餘圓ノ豫算ヲ超過致シタ、其超過ノ事
實ヲ掩蔽センガ爲ニ決算ヲ作爲シテ、調査支拂年月日ヲ
詐テ、サウシテ以テ年度區分ヲ紊ラト云フ形跡ヲ蔽ハ
ナケレバナラヌト思ヒマス、又歳出第一款第二項、改良費
ヲ以テ全國各管理局ニ於テ百九十餘リノ一般電燈増
設工事ヤ、給水設備、電話新設ノ工事費等ニ四万九千
圓ノ金ヲ出シテ居リマス、是ハ實ニ不思議デアリマスノハ、
此大正八年度ノ前年度ノ大正七年度ニハ、此費目カラ出
サズニ、歳出第一款第一項ノ事業費中カラ之ヲ支辨シテ、
サウシテ之ヲ大正八年度ニハ右ノ通り改良費カラ支辨シ
大正九年度ニハ又之ヲ充實費カラ支辨致シテ居ル、金ノ
取出シニ便利デアルト雖モ、前年ハ此款カラ出シ、本年ハ此
款カラ出シテハ都合ガ惡イカラ、他ノ費カラ支出スルト云フ
事ハ、是レ豫算ヲ守ルト云フ精神ガナイノデアリマシテ、全ク
豫算ヲ無視シタル亂暴ナリ方ト言ハナケレバナラヌ、而シ
テ之ヲ政府ニ問ヒマスルト、是ハ取扱ノ誤リデアッタ、斯ク取
扱ノ誤リト云ウテ言拔ケカ出來ルナラバ、豫算ト云フモノハ
無イコトニナツテシマフト思フノデアリマス、其他尙ホ鐵道ニ
ハ足尾線、或ハ本更津線、東海道線、茅ヶ崎線防工事、神
戶驛構内職員食堂、ソレ等ノ事ハ尙ホ澤山アリマスガ、是
等ハ此場合ニ省キマス、又朝鮮總督府ノ不法亂雜ノコトモ
既ニ委員長ノ報告中ニアリマスカラ、此際之ヲ省キマスガ、
實ニ此有様ヲ見テ如何ニ此豫算ガ亂雜ニ使ハレテ居ルカ、
政府者ノ良心ノ麻痺ヲ誠ニ私ハ心外ニ思フノデアリマス、
凡ソ稅テ衣食スル者ハ稅ニ感謝セヨ、稅ヲ使フ者ハ稅ヲ納

入。大正八年度決算、政府ハ小サナ營業者、ソレ等ハ
嚴酷ニ當テ、忙シカラ其間ニ斯ル大キナ脱稅ヲ致スヤウ
ニナ、ソノデアリマスカラ、又ハ幅稅務署ノ所得決定ノ狀況
ヲ見マスルニ、五千圓以下ノ小サナ所得者ニ對シテハ、殆
ド其調査額同様に決定額ヲ致シ居リマス、ソレカラ所
得ノ追々ニ大ナル從ウテ、此割合ノ減額ヲ加ヘ、十萬圓以
上ノ所得ニナ、調査額ノ六割餘ニ過ギナイ程ノ計算デ
租稅ヲ決定致シ居リマス、六小ノ納稅者間ニ負擔ノ均
衡ヲ失シ、衡平ヲ失フタルコトハ實ニ大ナル之ガ一ツノ例デ
アリマス、又是ヨリモ甚シキ一例ハ、福國稅務署ノ例ニ依リ
マスルト云フ、福國稅務署管内ノ主ナル營業者九名ニ付
テ、前年度ノ賣上實額三百七十四萬圓ニ對シテ、營業稅
課稅標準額二百八十餘萬圓トシテ、ソレヲ基本トシテ算出
シタ所ノ所得額十一萬六千餘圓、其十一萬六千餘圓ヲ更
ニ二割五分モ之ヲ對酌減額シテ、八萬七千餘圓ニ切下ゲ
テ居リマス、然ルニ其一方ニハ、賣上金額が僅ニ五千圓以
下ノ小營業者十數名ニ就テ之ヲ見レバ、算出營業所得額
合計ガ一萬一千餘圓ニナル、ソレニ對シテハ五割以上モ増
額致シテ居ル大營業者ニ對シテハ二割五分内外ノ減額ヲ
致シ、小營業者ニ對シテハ減額ノ代リニ殆ド五割モ増加致
シテ居ル、之ガ不公平デナクテ何デアリマセウ、其他電氣信
託會社ニ對シテ三萬五千餘圓ノ戰時利得稅ヲ不納缺損
ナラシメタ如キ、其他徵稅不足額非常ニ多ク、是等一人ノ
徵稅不足額ハ他ノ小營業者何百千ニモ及ブデ、納稅
ノ此大キナ一人デ通シテ居ルデアリマス、所謂小魚雜魚
ヲ漁テ、吞舟ノ魚ヲ逸ストハ、此事デアリマセウカ、洵ニ徵
稅ノ不公平ハ驚入ラタ次第ト言ハシケレバナリマセウ、第三、
違法ノ契約不當ノ賣買等ニ關スル事、工事ヲ請負ハシメ
物件ヲ賣買スルニ當テ、明ニ會計法ニ違背シテ、競争ニ付
スベキモノヲ故ラニ隨意契約ニ致シタモノ、又土地物件ヲ
不當ニ賣買貸借シテ巨額ノ國庫損失ヲ致シタモノハ少ク
アリマセウケレドモ、其中ニハ委員長ノ報告ニモ澤山アリマ
スカラ、今私ハ之ヲ省キマス、併シ唯、一ツ此處ニ委員長ノ
報告中ニモアリマシタ、鹿町炭礦ヲ製鐵所ニ買入レタト云
フ件デアリマス、併シ此事モ本會ノ質問ニモ出マシタカラ今
更此處ニ繰返スコトハ致シマセウ、抑、製鐵所ヲ初メ八幡ニ
極メマシタノハ、當時中國地方ニハ適當便宜利ノ候補地ハ
澤山アリ、クノデアリマス、ソレヲ特ニ八幡ニ極メテ田ヲ埋メ、又
土地ヲ切開キ、非常ナ工其他ノ手數ヲ掛ケテ、八幡ニ此製
鐵所ヲ置イタノハ、蓋シ燃料デアリ石炭、豐饒地方ニ
澤山アルカラト云フノデアリマス、然ルニ運搬モ不
便利デアリ、遠イ肥前松浦ノ鹿町炭礦ヲ買入レ、而モソレ
ヲ法外ノ高値ニ買入レタト云フコトハ、故意ニ國庫ノ損失

ヲ致シテ、サウシテ所有者ヲ助ケタト稱セラレテモ、何ノ言譯
ガ立ナメセウカ(拍手)是ハ大株主デ在ラレル中倉代議士ガ、
本議場ニ於テ辯明セラレタ其辯明ニ依ルモ、是マデ世間ノ
願ミナカタ此株ニ就テ滿株拂込デナイ、僅ニ半額カソウ
カ拂込シタ株ガ、一株ニ付八十何圓ノ配當ガアタ、斯ウ
云フ中倉君ノ御辯明デアリマスガ、此御辯明ヲ承テモ大抵
想像ハ付ク次第デアリマセウ、併シ此事ハ既ニ質問等モ出
タノデアリ、此切迫ノ場合ニ時間ヲ惜ミマスカラ私ハ此項ハ
省略致シマス、第五ニ官紀弛廢、監督怠慢ノ事、諸君一般
ニ官吏ノ責任ノ觀念ガ薄ラリデ、官紀ガ弛ミ名節廉恥ヲ重
ンゼズシテ、罪惡ハ到ル處ニ行ハレ、官吏ニシテ處刑ヲ受ケ
タル者、又今裁判中ノ者誠ニ少クナイノデアリマス、其他僅
カノ注意デ防ギ得ラル、事ガ怠惰ニ流レ、放漫ニ付セラレタ
爲ニ、種々ノ惡事醜行ガ行ハレテ、ソレ等ノ事實ハ大正八
年度決算ニ關シテモ少クナイト云フコトヲ見マス、ハ、洵ニ
慨嘆ノ至リデアリマス、此弛廢セル官紀ヲ振興シ、人心ヲ緊
引セシムルニアラザレバ前途實ニ憂慮ニ堪ヘナイ事ト思ヒマ
ス、就中津下某ノ印紙橫領事件、此事件ハ貴族院ニ於テ
モ特ニ決議ガ出テ居ルヤウデアリマスガ、神戸ノ郵便局
ノ取扱主任デアリ井上某、仁見某、ソレ等ト津下ノ共謀致
シテ大正七年ノ暮カラ大正十年三月ニ至ル間ニ於テ、神戸
局保管ノ印紙ヲ成規ノ手續モ經ナイデ、恣ニ取出シタノガ
六十萬圓、ソレカラ神戸局局長ノ名ヲ以テ請求書ヲ發行致
シテ、逓信省ノ經理局カラソレヲ受取テ、受取クモノヲ成
規ノ手續モ經ズ帳簿ニモ載セナイデ、橫領致シタ額ガ六百
八十九萬三千圓、合計橫領總額七百四十九萬三千圓ニ
達シテ居リマシタ、前後數十回ニ亙テ其犯罪ヲ繼續致シ、
其間ハ融通填補デ辻褁ヲ繕ヒ、其結局ニ於テモ尙ホ二百
三十四萬三千圓ト云フ巨額ニ上テ居リマス、之ガ關係者
トシテハ有名ナル博士、代議士、高級ノ官吏等モアリマス、
而シテ此約七百五十萬圓橫領總額ニ對シテハ、政府ハ之ニ對
テ決算委員會デ其內譯ヲ求メタニモ拘ラズ、政府ハ之ニ對
シテマダ今ニ內譯ヲ交付セラレマセウ、併シ此事ニ關シテハ
「津下事件」ノ裏面ニ伏在セル薩派及政友會一味ノ醜怪事
實」ト題セル長イ名ノ小冊子ガ各方面ニ配付サレテ居リマ
ス、ソレヲ見マス、關係代議士幾名ノ方ヤ、官吏等ノ津下
ニ送タ書面ヤ、ソレカラ契約書、其契約書ノ中ニ八十萬圓
收入印紙ヲ以テ貸付スルナント云フ文面ノ契約書、ソレ等
ノ實物ガ寫眞版ニ撮ラレテ、サウシテ額未ガ記載シテアリマ
ス、此事ノ大要ハ既ニ天下ニ公知セラレテ、本議場ニ於テモ
質問ガ出テ居リマスカラ、其詳細ニ亙テ私此際省略致シ
マス、唯津下事件ニ關シテ生ジタ實務局長身元引受人ノ
財產ニ對シテ、假處分ヲ爲シ、又假差押ヲ爲シタ事件ハ、是

入。大正八年度決算、政府ハ小サナ營業者、ソレ等ハ
嚴酷ニ當テ、忙シカラ其間ニ斯ル大キナ脱稅ヲ致スヤウ
ニナ、ソノデアリマスカラ、又ハ幅稅務署ノ所得決定ノ狀況
ヲ見マスルニ、五千圓以下ノ小サナ所得者ニ對シテハ、殆
ド其調査額同様に決定額ヲ致シ居リマス、ソレカラ所
得ノ追々ニ大ナル從ウテ、此割合ノ減額ヲ加ヘ、十萬圓以
上ノ所得ニナ、調査額ノ六割餘ニ過ギナイ程ノ計算デ
租稅ヲ決定致シ居リマス、六小ノ納稅者間ニ負擔ノ均
衡ヲ失シ、衡平ヲ失フタルコトハ實ニ大ナル之ガ一ツノ例デ
アリマス、又是ヨリモ甚シキ一例ハ、福國稅務署ノ例ニ依リ
マスルト云フ、福國稅務署管内ノ主ナル營業者九名ニ付
テ、前年度ノ賣上實額三百七十四萬圓ニ對シテ、營業稅
課稅標準額二百八十餘萬圓トシテ、ソレヲ基本トシテ算出
シタ所ノ所得額十一萬六千餘圓、其十一萬六千餘圓ヲ更
ニ二割五分モ之ヲ對酌減額シテ、八萬七千餘圓ニ切下ゲ
テ居リマス、然ルニ其一方ニハ、賣上金額が僅ニ五千圓以
下ノ小營業者十數名ニ就テ之ヲ見レバ、算出營業所得額
合計ガ一萬一千餘圓ニナル、ソレニ對シテハ五割以上モ増
額致シテ居ル大營業者ニ對シテハ二割五分内外ノ減額ヲ
致シ、小營業者ニ對シテハ減額ノ代リニ殆ド五割モ増加致
シテ居ル、之ガ不公平デナクテ何デアリマセウ、其他電氣信
託會社ニ對シテ三萬五千餘圓ノ戰時利得稅ヲ不納缺損
ナラシメタ如キ、其他徵稅不足額非常ニ多ク、是等一人ノ
徵稅不足額ハ他ノ小營業者何百千ニモ及ブデ、納稅
ノ此大キナ一人デ通シテ居ルデアリマス、所謂小魚雜魚
ヲ漁テ、吞舟ノ魚ヲ逸ストハ、此事デアリマセウカ、洵ニ徵
稅ノ不公平ハ驚入ラタ次第ト言ハシケレバナリマセウ、第三、
違法ノ契約不當ノ賣買等ニ關スル事、工事ヲ請負ハシメ
物件ヲ賣買スルニ當テ、明ニ會計法ニ違背シテ、競争ニ付
スベキモノヲ故ラニ隨意契約ニ致シタモノ、又土地物件ヲ
不當ニ賣買貸借シテ巨額ノ國庫損失ヲ致シタモノハ少ク
アリマセウケレドモ、其中ニハ委員長ノ報告ニモ澤山アリマ
スカラ、今私ハ之ヲ省キマス、併シ唯、一ツ此處ニ委員長ノ
報告中ニモアリマシタ、鹿町炭礦ヲ製鐵所ニ買入レタト云
フ件デアリマス、併シ此事モ本會ノ質問ニモ出マシタカラ今
更此處ニ繰返スコトハ致シマセウ、抑、製鐵所ヲ初メ八幡ニ
極メマシタノハ、當時中國地方ニハ適當便宜利ノ候補地ハ
澤山アリ、クノデアリマス、ソレヲ特ニ八幡ニ極メテ田ヲ埋メ、又
土地ヲ切開キ、非常ナ工其他ノ手數ヲ掛ケテ、八幡ニ此製
鐵所ヲ置イタノハ、蓋シ燃料デアリ石炭、豐饒地方ニ
澤山アルカラト云フノデアリマス、然ルニ運搬モ不
便利デアリ、遠イ肥前松浦ノ鹿町炭礦ヲ買入レ、而モソレ
ヲ法外ノ高値ニ買入レタト云フコトハ、故意ニ國庫ノ損失

ハ全ク政府が不法ニ弱者ヲ壓迫致シテ、亂暴ニモ横車ヲ挽イタ一例デアリマス(拍手)專柄ハ極テ重大デアリマス、ノミナラズ、全國九千有餘ノ各三等局身元引受人ハ、此事ノ成行ハ如何ニナルデアラウカト、皆一同憂慮ノ眼ヲ睜テ居ルノデ、天下一般ニモ關係シ、事柄ハ極テ重大デアリマスカラ、此際簡單ニ此受ヲ申上デルコトハ必要ト心得マス(謹聴下呼フ者アリ)津下某ハ實探局長デアリマス、印紙橫領ノ事實ハ實探局長ニハ何等ノ關係ナキ、全ク神戶局保管ニ係ル品物ヲ詐欺橫領シタモノデアリマス、津下ノ局長タル職務上ノ責任デアリマセズ、隨テ其局ニ何等ノ關係ハナイノデアリマス、勿論局長デアリタコト云フコトガ其犯罪ノ動機トナリ、或ハ犯罪ニ便利ナリシコトハアリトスルモ、局長デナクテモ、何人デモ犯罪得ラル、犯罪デアリマス、隨テ局長ガ資格ニ於テ國ニ及ボシタ損害デナク、津下一個人ノ犯罪デアリマス、明白何人モ疑フコトハナイノミナラズ、豫審ノ調查ヲ見マシテモ、決定書ヲ見マシテモ、井上某、仁兒某ニ對シテハ、業務上横領詐欺職務ノ罪トシテ居ル、津下ニ對シテハ、職務上ノ横領トモセズシテ、唯單ニ横領詐欺罪トシテ居ルノヲ見テモ、其要旨ハ分ルと思フ、三等局長身元引受人規則第二條ニ「身元引受人ハ其引受ヲ爲ス局長ガ選任省ニ對シ損害ノ賠償ヲ爲シ能ハサルトキハ其ノ賠償ノ責任ニ任スヘキモノトス」トアリマス、即チ引受ヲ爲ス局長ト明ニ規定シテ、局長タル資格ニ於テノ損害ノ賠償責任タルコトヲ明シテ居リマス、而シテ其局長ノ賠償責任ハ如何ナル範圍デアアルカト書ヘバ、三等局長服務規則第三條ニ於テ「三等局長ハ其保管ニ係ル官金官物若ハ郵便物ヲ損失シタルトキハ其賠償ノ責任ニ任スヘシ」トアリマシテ、其保管ニ係ル官金、官物、郵便物デアアルコトヲ明カニシテアル、然ルニ津下ハ神戶局ノ印紙橫領ノ共謀ハ致シマシタガ、實探ニ關係ハナイ、實探局長ノ保管ニ係ルモノデアナイト云フコトハ明カデアリマス、然ルニ此明白ナル規定ヲ無視致シテ、引受人平塚嘉右衛門ノ財産ヲ侵蝕分ヲシ、又假差押ヲシタ如キハ實ニ言語道斷ノ處置デアリマス、政府ガ官權ノ暴力ヲ以テ、白晝公然強盜ヲ爲スト云ウテモ程支ナイデアリマセヌカ(拍手)「ノウ」(一)殊ニ引受人規則ニハ其第一條ニ引受人ハ實價五百圓以上ノ資産ヲ所有スベキコトヲ規定致シテアリマス、デアリマス、カラ、引受人ノ引受ハ五百圓程度デアアル、五百圓程度ヲ過ギナイト云フコトハ其法令明カニシテアル、其法令ヲ見テ引受人ヲ爲ス人モアリマセウ、然ルニ斯ノ如キ強盜強盜スルト云フコトニナラハ、法令ヲ以テ政府ハ人ヲ懲イテ損害ニ陷レシムルモノト申シテモ宜シイデアアリマセヌカ、此等ニ對シテハ先年北海道ノ銅鑛厚岸ノ太田ノ三等局長ガ、保管ニ係ル官金七千圓計リヲ私消致

シマテ、ソレヲ政府ハ其當時引受人ニ請求致シマシタ所ガ、引受ハ五百圓程度ノ保證ハ致シタクレドモ、其以上ノ引受ハ出來ナイト之ヲ拒ミマシテ、其結果函館地方裁判所ノ裁判ナリマシテ、其裁判ノ結果ハ引受人ノ勝訴ニナタノデアリマス、是ハ其局ノ保管ニ係ル官金デアアル、實探局長ハ其局ニ何等ノ關係ガ無いノデアリマス、一方ハ自局ノ官金私消デアリマス、ソレヲ裁判例ガアル、況ヤ此件ノ如キハ全ク局長ノ職務ニ關係ナイ、隨テ局長ノ身元引受人ニ關係ノ無いモノヲ牽強附會シテ、引受人ニ之ヲ被シタコト云フコトハ、實ニ亂暴ト申ス外ハアリマセヌカ、津下事件ハ元々官紀紊亂監督不行届ノ結果デアリマス、監督局タル通信局ノ官吏モ此人數ニ加ハテ居リマス、ソレ等以上ニマダ幹部ニ於テモ氣厭ヲ相通ジテ居ル者ガナカタナラバ、斯ノ如キ二年有年ニ亘テ七百五十萬圓ト云フ大巨額ノ此横領ガ、數十回ニ亘テ行ハレルト云フコトガ出來ルコトデアラウカト世人ヲシテ疑ハシムル程デアリマス(拍手)然ルニ其監督不行届ノ結果ニ因ル此責任ヲ、關係モナイ引受人ニ向テ全部強要セントスルコト云フコトハ、全ク責任轉嫁ノ重キモノデアリマセヌカ、斯ノ如キ將來人ノ保證人ニナルトカ、引受人ニナルトカ云フコトハ、人ガ容易ニ出來ナイコトナリマス、隨テ全國ノ一万二近イ郵便局引受人ハ皆此成行ヲ注視致シテ居ルデアリマシテ、天下全般ニ如何ニ此事件ガ影響ヲ來シマスルカ、世間ニハ保證人ニナラテ呉レ、世話シテ呉レル人ガアリマスカラ、職務ニ就キ世ノ中ニ生活致シ、我身ヲ立テ、行クコトガ出來マスルノニ、保證スル者モナク引受ヲスル人モ躊躇スルト云フヤウニナタナラバ、天下ノ人ヲ活カシ、天下ノ人ヲ役立タシムルト云フ事ガ出來ナイコトナリハシマセヌカト(拍手)人ノ職務ヲ妨ゲ人ヲ殺シ——人ノ勸ヲ殺シ、世ノ事業ヲ害シ、世ノ事業ヲ殺スコトハ、果シテ殺許デアリマセウ、此事件ノ如キハ實ニ惡影響ヲ天下ニ及ボス、政府者トシテ亂暴極マル舉動ト言ハナケレバ相成ラスト思フデアリマス(拍手)最後ニ第六、朝鮮騷擾事件デアリマス、大正八年ノ三月一日ニ勃發致シタル朝鮮ノ萬歲騷擾是ハ八年度決算中ノ最モ重大ナモノデアリマス、當時直接ニ要シタル國費ハ、騷擾事件費、臨時取締費、臨時警務費、臨時警備電話費、臨時監獄費、ソレ等ノミヲ合セマシテモ、金額一千萬圓以上ニ及ビマシタ、又警察制度ヲ改メタ爲ニ、一箇年經常費八百萬圓計リデアタ其警察費ハ、一躍シテ千六百餘萬圓ニ上タノデアリマス、其外軍隊其他ノ増加ヲ計算致シマシタナラバ、其年々ニ増加ノ費用ハ實ニ巨額ニ及ボモノガアルデアリマス、陛下ノ愛撫ヲ給フ此新附ノ民ニ臨ムニ當リ、政府者ハ全ク此重大ナル責任ヲ顧ミズ、其政策ヲ誤リ其處置ヲ失シ、遂ニ彼等ヲシ

テ大騷擾ヲ敢テセシメルニ至テ、延テ朝鮮人民ノ將來ニ及ボセル大不幸ハ勿論、内地ノ受ケタル影響損害、果シテ幾許デアリマセウ、政府者タルモノハ上陛下ニ對シ奉リ、下國民一般ニ對シテ何ト申譯ガアリマスカ、實ニ憂慨ノ至リデアリマセヌカ、而シテ當局者ハ此騷擾ノ原因ヲ單純ニ考ヘ、自ラノ責任ニ顧ミル所ナクシテ、歐洲戰亂ノ結果ニ於テ民族自決ト云フ說ガ宣傳サレテ、ソレガ傳播シテ此騷擾ヲ惹起シタル齋藤總督ハ決算總會ニ於テ説明セラレテ居ル、是ハ海ニ露キ人々ト説明ト言ハナケレバナリマセヌカ、勿論此宣傳ガ彼等ノ氣動ニ影響シタコトハアリマセウ、又米國ノ宣教師等ノ言動ニ付テハ甚ダ遺憾トスルモノガアルノデアリマシテ、日露戰爭ノ當時ニ露探ヲ爲シタル朝鮮人ヲ死刑ニ致シタ、露探ヲ死刑ニシテ其寫眞ヲ撮シテ、サウシテ其寫眞ヲ八方ヘ持チ廻テ、恰モ日本ノ政府ガ虐殺スルカノ如ク宣傳スルヤウナコトハ、洵ニ針小棒大ノ宣傳ヲ致シマシテ、斯ノ如ヘテ火勢ヲ煽ルト云フヤウナ形跡ノアルノハ、洵ニ私ノ心外ト致ス所デアリマス、抑、朝鮮ノ國情ハ、貴族ハ政權ヲ私シ、名譽權勢ヲ特占致シ、人民ハ何等ノ名譽モ何等ノ權利モアリマセヌカ、全ク人民ニ征稅機關、唯モ一ツノ稅ヲ出ス道具ト云フヤウナ有様デアリマシタ爲ニ、一般ニ非常ニ衰頹シタマシテ、政教共ニ萎靡致シマシタ、其時ニ霍濟愚ト云フ者ガ東學黨ヲ起シタ、是ハ我が嘉永、安政ノ頃デアリマス、此霍濟愚ハ大邱デ死刑ニ處セラレマシタガ、當時享ニ至テハ教徒ガ十萬人、ソレガ孫秉熙、李容九ニ至リマシテ、李容九一時ニハ之ヲ天道教ト改メ、又侍天教ト致シ、ソレガ後ニ一進會ニナタノデアリマス、李容九ハ此一進會ノ重立者ト共ニ、日本ニ頼テ官僚貴族ト戰ヒマシテ、遂ニ朝鮮二千萬ノ民衆ヲ塗炭ノ苦ヨリ救上デルノハ、丹邦子ノ所謂大東合邦ニアルト云フノデ、是等ガ遠ニ輿論ヲ爲シテ、此合邦ナルモノハ行ハレクノデアリマス、然ルニ彼等ガ敵トシタ貴族ハ榮典ヲ授ケラレ恩賞ヲ受ケ、下民ハ何等與カル所ナキノミカ、却テ益ニ困苦ニ陥リ、我が内地五十年ニ發達致シタル法令——其法令ハ我が五十年デスラ多忙デアタ、其法令ヲ一朝ニ朝鮮ニ移シテ、法治ニ慣レザル人民ニ、所謂法令雨下以テ之ニ臨ム、又所有權ノ制ノ爲ニ燃料ノ無い人民ハ落葉ヲスラ拾ヒ取ルコトガ出來ナイト云フコトニナタ、合邦ニ功績ノアル一進會百餘萬ノ會員ハ、僅ニ二十五萬圓ヲ解散セラレ、首領ノ李容九ハ何等恩典ニ與リマセヌカ、糧食商ノ團體、儒生ノ團體ノ如キモ一向ニ顧ミラヌデ、而シテ新政ハ布カレマシテモ、警察制度ハ一向ニ改善セラレナイ、朝鮮デ名高イ答刑制度——答打ツ制度——此答刑制度ハ度セラレマシタクレドモ、ヨリ以上ノ拷問ガ行ハレ、就中朝鮮人巡查ノ如キハ日本ヲ笠ニ者、一層亂暴私曲ヲ働ク

有銀二十萬圓、餘額二萬圓、新稅増徴ハ續々トシテ年々ニ増シテ、人民ガ負擔ニ係リテ一線ノ望ヲ掛ケテ、其幸福利益ハ、殆ド衰切ラシ、有銀十萬圓、如フルニ内地人ハ新附ノ民ニ同情シテ、相共ニ手ヲ執リテ發達進歩ヲ圖ランケレバ、チラヌモノガ、弱者ニ臨ム壓迫ノ態度ヲ取リ、總督官吏ニ依附致シテ、隨分無理ナ事モ行ハレマシタ、斯様ナ次第デ彼等ハ愈々困窮境ニ陥リテ、而シテ總督ハ文化政策ヲ口ニシナガラ、政治ノ要タル人心ヲ收攬スルコト云フコトニ努メズ、官邸警衛ノ警察官ハ、寺内總督ノ時代ヨリモ尙ホ五倍モ増シテ警衛ヲ嚴重ニ致シ、道路鐵道ノ警戒、殊ニ民情觀察ト云フ旅行ノ如キハ、恰モ所感運動、威壓旅行ト云フ有様、益々朝鮮人ヲ壓迫致シテ居ル、サウ云フヤウナ有様デ、人民ハ斷アルニ所ナク、願フニ途ナキニ至リタノデアル

○議長(與繁三郎君) 荒川君ニ申シマスガ、朝鮮ノコトモ決算ニ關係ガアルカ知レマセウガ、成ベク關係ノナイコトヤ、元長ニ返ラヌヤウニ、決算ニ關シテ必要ナ事ヲ御述ニナルヤウニ望ミマス、尙ホ時間ガアリマスカラ、十二時デゴザイマスカラ是デ休憩致シマス

午前十一時五十八分休憩

午後一時十三分開議

○議長(與繁三郎君) 休憩前ニ引續イテ會議ヲ開キマス—荒川君

〔荒川五郎君登壇〕

○荒川五郎君(續) 諸君、朝鮮騷擾事件ニ付キマシテハ幾ニ說明シタ通りニ、委員長ノ報告不法六件中、三件ハ朝鮮總督府ノ決算デアリマス、斯様ニ其分量カラ申シマシテモ朝鮮騷擾事件ハ最も私共ノ決算上重キヲ置イテ居ル所デアリマス、併シ會期切迫ノ此折柄何程申シテモ限リノナイ事デアリマスカラ成ベク之ヲ切約メテ說明致ス積リデアリマス、午前ノ演說中ニ一進會ノ事、丹邦子ノ所謂大東合邦ニアリト云フヤウナ其合邦當時ノ事マデモ説イタノハ、或ハ此問題ニ直接ノ關係ナシト思ハル方モ、或ハアツタラウト思ヒマス、ソレニモ拘ラズ成ベク簡單ニ申シタノデアリマス、ガ、ソレヲ御聽下サタコトハ私ノ有難イト致ス所デアリマス、議長モ其點ニ向テ御注意ガアリマシタノモ、此御注意モ私御無理ト心得マセウ、決算ノ問題ニ朝鮮論ハナヨト御門ガ違フヤウニモ見エル所モアルノデアリマス、仍テ議長ノ注意ニ敬意ヲ表シテ成ベク省クコトニ致シマス、尙ホ午前中此朝鮮騷擾事件ノ決算ニ關スル私ノ說明中ニ、ソシナ朝鮮人ヲ煽動スルヤウナ事ヲ言フナト云フコトヲ、政友會ノ中カラ逸ベラレタ人ガアリマス(其通り)ト呼フ者アリ、其御精神ハ私尤ト思ヒマス、吾々ハ内鮮共ニ助け合ウテ、前途ノ

安寧幸福ヲ期セナケレバナラヌ場合ニ、倭等朝鮮人ヲ徒ニ煽動致シテ、サウシテ此朝鮮統治ノ害ヲ來スヤウナコトガ、テハ、ソレハ甚ダ相濟マヌ次第デアリマス、私共帝國ノ一臣民トシテ、國ヲ思フ上ニ於テハ、斷ジテ諸君ニハ諫ラヌノデアリマス、此點ニ於テ吾々ハ寸毫モ倭等朝鮮人ニ向テ之ヲ煽動シテ、サウシテ此治安ヲ妨ゲルヤウナコトハ毛頭無イト云フコトヲ、豫メ御承知置キテ願ヒマス、其御批評ナサタ方モ其積リデ批評セラレタノデアリカラ、私決シテ之ヲ惡意ニハ解釋致シマセウ、同ジクソレハ國ヲ思フ誠意ニ出タコトト信ジマスルケレドモ、ソレハ朝鮮ノ今日ノ事情ヲ御承知ナイガ爲デアル、斯ノ如キ位ノコトデ、朝鮮ヲ煽動スルカ云フヤウナ問題ニハ斷ジテ關係ハ無イデアリマス、苟モ此壇上ニ立テテ此大事ナ問題ヲ演說スルニ當テ、是ハ言々句々責任ガアルノデアリマス、其點ハ豫メ皆様ノ特ニ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、午前ニ朝鮮騷擾事件ノ說明中ニ二十二時ガ來マシテ茲ニ休憩トナリマシタ、其休憩前ニ引續イテ此決算ノ精神ヲ說明致サナケレバナラヌデアリマスルガ、其演說ヲ休憩致シタ所ハ、齋藤總督赴任以來文化政策ヲ執ルト云フコトヲ口ニセラレナガラ、實際ノ有様ハ如何デアルカ單風ヲ脱イデ九腰デ行カレタノハ宜イケレドモ、其精神ニ於テ相變ルコトノ無イノハ、齋藤總督ハ豫備ノ軍人デ、ソレガ朝鮮總督ノ任命ヲ拜セラルルヤ我政府ハ特ニ手續ヲ執テ之ヲ現役ニ復セラレ、コトニナクデアリマス、若シ之ガ九腰デ文化政策ヲ以テ朝鮮ノ統治ニ臨ムト云フコトナラバ何故ニ殊更ニ面倒ナ手續ヲシテ、サウシテ現役ニ列スルノ御裁可ヲ仰グニ至タノデアリカ、此事實——此大ナル事實、既ニ此口ト腹ガ違フト云フコトガ明ニ證明シ得ラル、デアリマセウ、殊ニ朝鮮ニ臨ムル、以來、一方ニ實際ニ於キマシテハ、ソレ等ノ文治ニ進ム成績ハ現ハレヌ許リデアリマセウ、午前ニ一寸ソコマデ申シテ居リマシタガ——申シタ通りニ武斷政治——武斷政治ノ骨頂トモ言ハレテ居、タ寺内總督、其總督ノ時代デシテ、總督官邸ノ警衛ハ十二名ノ警察官ガ交互ニ警衛シテ居、タデアリマス、然ルニ齋藤總督ニナツテハ、ソレヲ五倍ニ増シテ六十名ノ警察官ヲ以テ晝夜嚴重ニ警戒致サレテ、威力ヲ以テ朝鮮人ニ臨ムノ狀ハ實ニ甚シイ、而シテ朝鮮全道、各鐵道道路、其他總テノ方面ニ有ユル警戒、有ユル警衛ヲ嚴重ニ施シテ、時ニハ地方ノ民情ノ觀察ヲセラル、總督並ニ總監ガ特ニ巡迴セラル、有様ハ數日前ヨリ……

○議長(與繁三郎君) 荒川君ニ再ビ注意シマス、唯今ハ大正八年ノ決算ノ議題デアリマス、朝鮮統治問題ハ議題外デアリマス

〔ヒヤ——ト呼フ者アリ〕

○荒川五郎君 御聽ナサイ議長ハ決算ガ問題ダト言ハレ

マシタ、其通りデアリマス、大正八年度ノ決算ノ、所謂騷擾事件費ナルモノ、其事件費ナルモノ、其事件ガ不當デアルト云フ、此決算ニ對スル決議ノ說明デアリマス(拍手)併シ議長モ二度モ注意セラル、如ク議事ヲ急イテ居ラル、コト、思ヒマスカラ、成ベク簡單ニ說明致シマス、左様御承知ヲ願ヒマス、總督ハ豫メ他方カラ警察官ヲ集メテ、サウシテ十分出來得ル限リ戒嚴ヲ施シテ、而シテ數多ノ官吏ヲ率井テ巡迴シ旅行セラル、ノハ、恰モ我ガ總督ノ威風ニ恐レト云フ風ニ、朝鮮人ヲシテ畏怖シテ退ガレト云フガ如キ、恰モ威壓旅行壓制巡迴ヲセラル、如キコトガ、即チ文化政策デアリマセウカ、ドウシテ是デ朝鮮ノ民心ヲ收攬スルコトガ出來マセウカ(ヒヤ——)諸君ノ中ニアレ程朝鮮ノ事情ヲ御承知ナイト云フコト、此代表者ノ中ニ斯ノ如キ人ガアルト云フコトハ、朝鮮前途ノ爲ニ甚ダ憤慨ニ堪ヘヌ次第デアリマス(拍手)茲ニ一例トシテ朝鮮總督ノ巡迴ガドウ云フコトハ、此問題ヲ決スルニ必要ダラウト思ヒマスカラ茲ニ述ベマス、即チ總督並ニ總監ガ巡視セラル、時ニハ、豫メ一定ノ日程ヲ作テ、サウシテ沿道ニ、他地方カラ警察官ヲ呼集メテズラリト警戒ヲ致シ、ソレカラ總督ニ面謁ヲ請ウテ、民情ナドヲ申上ゲシメルコトモセラル、其面會謁法ガ行ハレテ居ル、ソレハ如何ニヤラル、カト言ヘバ、道ノ知事ガ人選シテ、此人ナラ宜シイト云フコトヲ調ベタ者ノ名前ヲ隨行ノ役人ニ申シ出テ、ソレカラ隨行ノ役人ハ其經歷ヲ聽キ、サウシテ陳情スル要點ヲ聽イテ是等ノ陳情要點ヲ十分隨行ノ役人ガ調ベテ、然ル後ニ戰々兢々トシテ之ヲ總督並ニ總監ノ前ニ持出シ、サウシテ初デ茲ニ人民陳情ナルモノガ行ハレタデアリマス、斯ノ如キ有様デドウシテ地方ノ民情ガ分リマセウカ、サウ云フ譯デアリマシタ、地方ノ事情ヲ知ッタ者、此地方ノ名望家、ソレ等ノ者デアテモ、道ノ知事、總督府ノ役人ニ因縁ノ無イ者、知ラレヌ者、從來ノ經歷ニ於テ詳シクナイ者ハ一切ガ拒絕セラレテ居ル、階前千里門外万里ト云フコトガアルガ、朝鮮ノ總督ハマルデ巡迴シ地方ノ人ヲ斥ケテ居ルノデアリマス、其中ニ最も甚シイノハ、總督ガ鎮南浦觀察ノ時ニ、警察署ハ其前ニ大活動ヲ致シテ、地方ノ青年ヲ三十何人モ悉ク之ヲ留置場ニ留置致シテ、ソレカラ愈々其日ガ近寄リマスルヤ、總督カラ案内狀ヲ出シ、其案内狀ニハ總督ガ此度巡視セラル、ニ付テ、鎮南浦ノ向フノ白翎島——其白翎島ヲ觀察ニ行カレラカ、此招待ヲ受ケタ者ハ、總督ト同ジ軍艦ニ乗ッテ、サウシテ白翎島ニ渡ッテ、白翎島ヲ觀察スルヤウニト云フ其案内狀ヲ受ケタ者ハ驚イテ、是ハ尙有難イ、總督ト軍艦ヲ共ニシ、共ニ白翎島ニ到リ、白翎島デ晝食ヲ招バレテ、總督ニ隔意ナク我ガ朝鮮ノ民情ヲ訴ヘ得ルコト、思ウテ居リマシタ、サウ

シテ其時間が来ルヤ此軍艦ニ乗テ待テ居リマスルコト云フ
ト、凡ソ時間ガ来テモ總督ノ姿ガ見エマセヌ、其中ニ其軍艦
ガ煙ヲ吹イテ出テ、白翎島ニ行ク、白翎島ニ行テ待テ居
リマシテモ總督ハ見エナイ、而シテ時刻ガ移テ、更ニ軍艦出
發ノ合圖ヲ受テテ軍艦ニ乗テ歸ルト、總督ガ居ラヌ、一同
ガ白翎島ニ行テ待テ居ル間、總督ハ鎮南浦ヲ視察シテ
ソレカラ兼二浦ヘ引揚ゲテシマッタ、斯ル人間ヲマルデ白翎
島ニ押込テ、禁錮シテ、サウシテ此無人ノ間ニ鎮南浦ヲ視
察セラレタ、其用意其事、ソレガ文化ヲ以テ我ガ人民ヲ支
配シテ政治ヲ致ス官吏ノヤリ方デアリマセウカ、斯ノ如キ有
様デアッテ、人民ハ益々離叛スルコト云フコトハ寧ろ當然デハ
アリマスマイカ、朝鮮ノ實際ハ斯ウ云フ有様デアリマス、殊ニ
朝鮮ノ警察官等ガ拷問亂暴ヲ致スコトハ、齋藤總督モ認
メテ居ラレル、是ハ傳統的ニアラノデ、改メタイガ直ラヌト
總督モ之ヲ認メテ居ル、斯様ナ中ニ立テ人民ハ有ユル不
平、有ユル困難、有ユル惡慮ニ出會ウテ、之ヲ訴ヘル道モナク
願フテ出ル法モナイ、凡ソ人ハ斯ル場合ニ會フテ、我ガ心情
ヲ訴ヘル所モナイ、願フテ出ル所モナクアッテハ、海ニ人生す
前暗黒デアル、此暗黒ノ裡ニ在ル所謂無告ノ民デアリマス、
斯ル彼等ハ無告ノ民トナテ居ル状態デアル、彼等ヲ驅テ
斯様ナ有様ニ陷ラシメ、已ムナク窮鼠却テ猫ヲ咬ム、彼等ヲ
シテ自暴自棄ノ舉ニ出ズルノ外ナイヤウナ境遇ニ至ラシメ
タ、彼等ノ此事情、此心情、寔ニ人道ノ爲ニ、我ガ帝國ノ爲
ニ痛嘆ノ至リデアリマセヌカ、日韓併合ノ御詔勅ニハドウ
アリマスカ、此詔勅ヲ總督以下ハ御承知デアルカドウカ、私
共ハ此大御心ヲ注ガセ給フタル御詔勅ヲ、總督以下ノ役人
ハ毎朝職務ヲ執ル前ニ之ヲ捧讀致シテ、各其誠意ヲ誓ヒ、
然ル後此事務ニ當ルベキモノト思フデアリマス、然ルニ此
詔勅ノ御聖旨スラモ辨ヘナイデ、斯ノ如キ有様ニナリ、總督
以下ノ人ハ、此大事ノ御聖旨ヲ如何ニ御承知デアルカト
云フコトヲ疑ハザルヲ得ヌデアリマス、諸君(ソレガ決算ト
何ノ關係ガアル)緩クリヤレト呼フ者アリ、之ガ分ラヌカ、僅
ニ此政策ヲ誤タガ爲ニ、其一面ニ於テ一千餘萬圓ノ國費
ヲ費シ、爾來何千萬圓ト云フ國費ハ之ガ爲ニ、此統治ノ仕
方ヲ誤タガ爲ニ、國民全般ノ負擔ガ増シテ居ルコトデア
ルカ、國民ノ代表者タル者ハ此大問題ニ付テ深切ニ考ヘ、サ
ウシテ將來ノ爲ニ此禍根ヲ除クコトニ努ムベキハ吾々國民
ノ代表者ノ大ナル責任ト言ハナケレバナラヌデアアル、從來
決算ガ意外ニ閑却セラレテ居ルト云フコトハ、斯ノ如ク豫
算ヲ無視シ、亂雜ナルコトヨリ起テ來ルト考ヘルノデアリマ
ス、吾々ハ時間ヲ急ガナケレバナラヌデアリマスカ、斯ルコト
ヲ打捨テ何モナク過ギルト云フコトデアレバ、議會ハ要ラナ
イコトニナリテシマフデアアル(ヒヤ)以上ハ略シ、飛

飛ビニ申シタコトデアリマスカ、要ハ盡シマセヌカ、之ヲ約
言致スト此朝鮮騷擾事件、之ヲ起シタ原因、其原因ノ第一
ハ恩賞ノ不統一ニアル、一進會員百餘萬人彼等ハ合邦ノ
爲ニ、平和ノ爲ニ、ドレダケノ生命、財産、心血ヲ費イダコト
デアラウカ、然ルニ彼等ハ唯當時十五萬圓ノ金ヲ以テ解散
セシメラレ、ソレガ首領タル李容九ノ如キハ何等恩賞ニ與
ルコトナク、彼等ノ斯ノ如キ場合ニ當テ不平ノ起ルト云フコトモ
當然デハナイカ、殊ニ彼等ガ仇ノ如クニシテ居ル所ノ貴族、ソ
レ等ハ恩賞重ク隨テ非常ニ大ナル意外ノ懸隔ヲ來シタ
云フコト、此恩賞不當ト云フコトガ第一ノ原因ト思フ、第
二ハ警察權ノ濫用、此事ニ付テバ彙ニ豫算ノ際ニ大要説
明致シ、又齋藤總督モ此警察權ハ思フヤウニ行カナイト言
ウテ屢々嘆息ヲ洩サレテ、自カラ其點ニハ率直ニ自分ノ威信
ノ行ハレナイ、政治ノ思フヤウニ行カナイコトヲ述ベラレテ居
リマスカ、ソレモ此處ニ略シマス、第三ハ新稅増稅ノ苛重、
殆下内地ノ同様ノ新稅増稅ヲ行テ、彼等ハ以前ニ増シテ
征稅機關ノ有様ニナテ居ル、第四ハ彙ニ申シタ法令雨
下法治ニ慣レザル朝鮮人ガ、其新制度、新法令ノ送迎ニ違
アラバ、彼等ノ知ラヌ間ニ幾多ノ法令ガ發セラレ、爲ニ彼等ハ
之ヲ知ラズシテ法網ニ罹ルヤウナ事實ガアルデアリマス、第
五ハ財產處分ノ不當是モ前ニ少シク述ベマシタ、第六ニ官
吏任免ノ不當、第七ニ朝鮮總督府ノ人ハ最モ力ヲ盡シ
テ注意シ研究シ、朝鮮人ノ民情、事情、精神ヲ知ラナケレバナ
ラヌ、然ルニ朝鮮ノ宗教並ニ精神界ノコトハ朝鮮ノ官吏ハ全
ク無理解デアルト云フコト、人ノ心ガ分ラナイデドウシテ政治
ガ出來マセウカ、此朝鮮人ノ宗教、其他精神界ノコトニ更ニ研
究セラレテ居ナイ、是レ政治ガ方圓拘攣相客レナイ所以デア
リマス、第八ハ總督以下ノ食言、白翎島ニ同行シヤウト言
テ、サウシテ之ヲ拒絶シタコトノ如キ、一々舉デレバ澤山アリ
マスガ、是モ只今ノ場合略シマス、第九ガ墓地制度、驛田屯
土ノ開放ニ關スルコト、此事ハ說明致セバ是ダケデモ一時
間以上ニモ及ビマスカ、是モ中ニ事重大デアリマス、第十ニ筵
取締ニ關スルコト、是モ中ニ事重大デアリマス、今ヤ朝鮮ニ
崇神人組合ナルモノガアッテ、内地人ガ此組合ヲ設ケテ、彼
等ハト筵二類スル事デ、ドレダケ朝鮮人ヲ苦メテ居リマスカ、
而モ内地人ニ對シテハ更ニ取締ガ付ケラレナイデ、而シテ朝
鮮人ノ壓迫ヲ加ヘラレ、此事實ヲ有ノ儘ニ見テ、何人カ
之ニ不滿ノ念ヲ起サズニ居ラレマセウカ、供シ此事モ此場
合省略致シマス、先ツ以上申シタ十箇條ノ如キハ、朝鮮騷
擾ヲ起シタル大ナル原因ト思フデアリマス、然ルニ總督ハ
前ニ申シタ如ク、歐洲大戰ノ結末ニ於テ、民族自決ノ說ガ
亞米利加カラ傳播シテ、之ガ傳染セラレテ、斯ノ如キ事ガ起
キタデアルト云フ、斯ル單純ナ考デ、サウシテ此大切ナ人

身ノ上ニ臨マレト云フコトハ、實ニ斯ノ如キ事ノ起ルノモ
寧ろ當然ト言ハザルヲ得ヌト思フデアリマス、斯様ナ次第
デ、政友會内閣ニナテ初テ、此決算ヲ審議スルニ方リ、尊
敬スベキ政友會諸君ノ此爲政ノ上ニ、斯ル決算ヲ汚サレタ
コト、殊ニ此多クガ朝鮮事件デアルト云フコトハ、諸君ニ對
シテモ同情ニ堪ヘナイデアリマス(拍手)諸君ハ成ベク違
法ヲ認メナイヤウニ、出來得ル限り寛大ヲ以テ臨マレトシ
タル其諸君ガソレデスラ此朝鮮事件ニ於テ斯ル大ナル不
法ヲ認メラレナケレバナラヌ事ニナタト云フコトハ、返ス
モ諸君ノ爲ニモ御同情申ス次第デアリマス、諸君其事實ハ
諸君ノ認メラレタモノモアリマス、認メラレヌモノモアリマス
ガ、朝鮮ニ官有物ノ民間ニ拂下ゲタルソレ等ノ事實ニモ不
當ガアル、更ニ此朝鮮ノ役人ノセラレタ事ヲ、茲ニ一二決算
ノ上カラ説明ヲ致スト云フコトハ、此場合必要ト心得マス、
朝鮮總督府ノ支出ニ係ル巡査服、此巡査服ノ冬服三千
何著ト云フモノヲ六萬何千圓掛ケテ買入ラレタ、所ガ此巡
査服ハ全ク使用ニ適シナイ粗惡ナルモノデ、總督府買入
レテ之ヲ各道ニ配付セラル、ヤ、各道警察部デハ此巡査服
ハ使用ニ堪ヘナイ、粗惡デアッテ使ハレナイカ、之ヲ引換
テ貫ヒタイト云ウテ續々トシテ之ヲ返シテ來タ、凡ソ本部カ
ラ地方ニ來タ物ハ少々ノ粗末ナコト位ハ誰デモ勘辨致スマ
スカラ、サウ分ルモノデハナイデアリマス、然ルニ其下級ノ
役人ガ總督府ニ對シテ、此巡査服ハ使用ニ堪ヘナイト云
フノ、續々トシテ引換ヲ請ウタト云フ此事實ヲ見テモ如何
ニ此朝鮮總督府ノ政治ガ亂暴デアルカ、役人等ノ心得ガ
如何ニアルカト云フコトノ明カナ證據デアリマセヌカ、ソ
レカラハ又實ニ驚入ッタヤリ方デアル、是ハ巡査ノ刀デス巡
査ノ刀ヲ買上ゲセラル、ニ、第一回ノ契約、第二回ノ契約
ト出來タ、第二回ノ契約ハ大變ニ高ク出來タデアアル、然
ルニ此第一回ノ契約期間中ニ納メタ品、即チ第一回ノ納品
デアルベキモノ、之ヲ第二回ノ契約品トシテ受取テ、非常
ニ高ク契約シタ、第二回ノ契約品デアルトシテ第一回ノ期
間中ニ納メタモノヲ受取テ、サウシテ第一回ハドウセラレタ
カト云ヘバ、第一回ノ期限ガ來デモ納入ヲシナイ、サウシテ
期限ガ濟ンダ其後ニナテ之ヲ五箇月以前ニ戻テ、此時ニ
延期ノ願ヲシタト云フコトニ續ウテ、延期ノ願ヲ一月ノ日付
デ出サセ之ヲ三月ニナテ解約シタト云フコトニ胡麻化シタ
即チ五月ニナテ一月ニ戻リ、一月ニ延期ヲ乞ウタモノデア
ルト拵ヘテ、而シテ三月ニ解約シタモノデアルトシテ居ル、驚
イタヤリ方デアリマセヌカ、總督府ニハ平清盛ハ居リマス
マイカ、御日サンヲ戻スドコロデハナイ、御月サンヲ戻シテ居
ル(拍手)平清盛ハ暴逆ヲ行ウタガ、是ハ實ニ平清盛以上ノ

ヤリ方デアリマセヌカ、五箇月以前ニ戻テサウシテ延期ヲ願ウテ、五月ニナタモノノ三月ニ解約シテ如ク致シテ、而シテ第一回ノ期限中ニ納メタノハ第二回ノ契約品アルガ如ク裝ウテ、謂ハ僅カナ巡査ノ刀デアルケレドモ、刀モ金ガ積レバ高クナル、而シテ其高イ分ヲ拂ウタ如クスルト云フコト、斯様ナ有様デハ朝鮮ノ總テノ豫算、朝鮮ノ決算ナルモノハ皆是ト同様デアラウト言ハレモ仕方ハナイデアリマセヌカ(拍手)斯ル亂雜ナル事ヲ之ヲ麗々シク辯明致シテ、驚ヲ爲ニスル世ノ中ガアテモ、此事實ヲ糊塗スルコトハ出來マスマイ、斯ノ如キ此決算中ニ現レタル事實ハ、宛ニ我が政府ノ大切ナル政治ノ責ヲ示スベキ決算ヲ汚スコト大ナリト言ハナケレバナラヌデアリマス、斯ウ云フ有様デアリマスカラ、朝鮮總督府ノ政治ガ決算ノ上ニ現レル所ハ、吾々ハ實地ヲ見ズ、唯此報告書ニ依テ、サウシテ大正十一年ノ今日ニズトシテ大正八年ノ其跡形ヲ書面ノ上デ調べスラ、斯ル亂雜亂雜ナル事ヲ數メ發見スルニ至テハ、朝鮮ノ總テノ政治ガ果シテ如何ニ在ルコト云フコトハ、之ヲ以テモ想像ニ餘リアル次第デアルト思フデアリマス、諸君、凡ソ事ノ成ルハ成ルノ日ニ成ルニ非ズ、因ツテ來ル所ガアルデアリマス、朝鮮總督府事件ノ其原因ハ斯ノ如クニシテ起テ居ルデアリマス、總督等ノ之ニ對シテ辯明セラルト云フノハ以テノ外ト言ハナケレバナラヌト思フデアリマス、而シテ此事件タルヤは大正八年三月一日ニ起キタコトデアリマスガ、其前年大正七年ノ秋頃カラ此兆候ハ既ニ表シテ居、桑港ヤ、ホノル、或ハ上海等カラモ穩カナラヌ報告ハ續々トシテ來テ居、タノデアリマス、又ソレドコロデアリマセヌカ、大正八年ノ初ニハ此東京ノ眞只中ニ於テ、斯ル朝憲紊亂ノ獨立騒動ヲ行フト云フ突飛ナ事ガアタデアリマセヌカ、斯様ナ此事實ハ少シク注意ヲ拂フモノナラバ直ニ分ル筈デア、苟クモ責任ノ地位ニ立テ、此 陛下ノ愛撫シ給フ民ニ其心ヲ保セシムルコトニ努ムル者デア、タナラバ、此禍ヲ未然ニ防グコトハ海ニ易々タルコトデア、タナラバ、此禍ヲ未然ニ防グコトシテ是等ノ事實ヲ看過致シ、事發スルニ當リ、周章狼狽、遂ニ斯ル大失態ヲ招イタ事ハ、實ニ國家ノ大不幸、大不面目デアリマス、私ハ何ノ爲ノ政府デア、ルカト言ハザルヲ得ナイ、諸君ハ過去ノ事デア、ルカト言ウテ之ニ注意ヲ拂ハレマセヌカ、其當時ニ巨額ノ費用ヲ使、タノミナラズ、此結果トシテ年々ノ國ノ負擔ハ如何デア、ルカ、一體ニ官吏ハ阿諛苟且ハ盛ニ行ハレ、正言諍論ハ行ハレズ、一例ヲ舉レバ朝鮮全道ノ面ニ巡査駐在所ヲ設クルニ當リマシテ、此巡査駐在所ヲ設クル費用ハ僅カ名許リノ官費ヲ出シテ、アトハ皆人民ノ寄附ヲ募、タノデアリマス、全體内地デ警察官署ヲ造ルニモ、人民ニ寄附ヲ強要スルト云フコトハ甚ダ宜ク

ナイト思フデアリマス、況ヤ此法治ニ慣レナイ、殊ニ警察ヲ敬視スルガ如キ國情ニ在ル此朝鮮ニ於テ、官憲「サーベル」威カヲ以テ寄附ヲ強要致シテ、サウシテ各地方警察官ハ其寄附金額ノ多イヲ誇リト致シテ、其事ヲ報告致セバ總督ハ其報告ニ書上グラレタ寄附金高ヲ見テ、人民悅服ノ兆トセラレ、又總督ハ朝鮮ニ一ツノ自衛團ガ出來タ人民ガ自衛團ヲ造、アルヤウニナタノハ、大變朝鮮人民ガ安定シタノダト決算委員會報告セラレ、又甚シキハ或所デハ内地人、朝鮮人ノ婦人ガ共同耕作シタ、是ハ實ニ雙方ガ打解ケテ證據デア、ル、ソレカラ又或ル報告ニ依ルト風呂ヲ沸カシテ、風呂ガ沸イタカラ來テ吳レト言ウテ案内シタ、何ト雙方打解ケテ居ルデアハナイカ(「簡單」「簡單」ト呼フ者アリ)以テ朝鮮ハ獨立運動ガ止シタノデア、ル、人民モ安定シタ證據デア、ルカ言ウテ報告シテ居、ル、何ゾ知ラン朝鮮全道二千萬ノ人ガ居、ル、其ノ中ニ一ツツ斯ウ云フ事實ガアルノハ(「簡單」「簡單」ト呼フ者アリ)實ニ所謂兩夜ノ星デア、ル兩夜ノ星(「簡單」「簡單」ト呼フ者アリ)實ニ所謂兩夜ノ星デア、ル兩夜ノ星ノ事實ヲ見テ、サウシテ朝鮮ガ安定シタト言フノハ實ニ驚入、タコトデア、ルデアリマセヌカ(拍手、發言スル者多シ)斯ル千ニ一ツ、兩夜ノ星ノ此一ツツ事業ヲ舉ゲテ、ソレヲ珍重ガテ報告セラレバ、ソレデ以テ全道ガ治マタ如クニ總督ハ決算委員會ニ其報告ヲセラルト云フハ、實ニ幼稚極マルト言ウカ、非常識極マルト言ハウカ、朝鮮ノ廣イ中ニハ一ツヤニ二ツハ其位ノ事ハアリマセヌカ、馬ニハ乘、テ見ヨ、人ニハ添合、テ見ヨ、御五人ハ添合、テ憐ヲ共ニスレバ、サウ云フヤウナ打解ケタコトハ一ツヤニ二ツハアルノガ當然デアリマス、然ルニ全道ニ僅ニ一ツツノ例ガア、タト言、テ、ソレヲ以テ朝鮮ガ安定シタルガ如ク考ヘルト云フニ至、テハ、驚入、タ事ト、言ハナケレバナラヌ、此小ナル事實、鬼ノ首デア、ルデアリマセヌカ、此珍事實ヲ以テ此處ニ説明セラレ、朝鮮ト東京ハ遠フカラ此議院内デソレヲ一ツツ言ハレ、バ成程ト得心シテ聽カ入ガアルカモ知レナイ、又只今色トト批評セラル、人ハ或ハ失禮ナカラ耳ガ痛イノデ、サウ云フヲ妨害セラル、ノカモ知レナイ(「何ダ何ダ言フノダ」ト呼フ者アリ、議論騒然)或ハ一向御承知ナクシテ、サウ言フノカ、發言スル者多シ)分リマセヌカ、之ガ分ラヌヤウデア、ルコトヲ妨、グ言スルナド、云フノハ驚入、タ次第デア、ル、斯ノ如キ事ヲ總督ガ屬々シク決算委員會デ報告スルコトハ、朝鮮ノ前途ニ向、テ實ニ吾々ハ此朝鮮總督ノ聲明ヲ聽イテ、一層細キ感ヲ持、タザルヲ得ヌデア、リマス(拍手)朝鮮總督府ニ於テハ朝鮮人ガ今ヤ續々トシテ朝鮮カラ國外ニ出、テ行キマス、其ノ出、テ行クノ、内地人ガ這入り來、テソレデ押サレ結果デア、ルガ如ク言ハレテ居、リ

マスケレドモ、十年前以來朝鮮ニ在住スル内地人三十萬人、其人數ハ減ルトモ更ニ増加シタノデアリマス、實際ニ減リ居、ルノデアリマス、減リマスケレドモ、内地人デ子供ガ出來マス、或ハ總督府ノ官吏ヲ増シマス、其官吏ヤ子供ガ殖エテ、漸ク減、ル人數ガ三十萬ヲ償、ウテ居、ル有様デアリマス、故ニ朝鮮人ハ國外ニ出、ヅルノハ内地人ニ押サル、結果デナイト云フコトハ明カデア、ル、彼等ガ國外ニ出、テ行キマスノハ、全ク總督政治ノ批政ノ明カナル表徴ト言ハナケレバナラヌ、彼等ガ目的モナイノニ住、タレタ故郷ヲ棄、テ去、ル、其心情ハ實ニ同情ニ堪、ヘナイデアリマス、彼等ガ去、テ他、ニ行キマスノハ、決シテ他、ニ理由アルデア、ルハ、他、ニ求、メテ良イ處ガアルノデア、ルハ、日々ノ困難、日々ノ不安、其不安困難ヨリ已、ムヲ得、ズシテ彼等ハ斯ノ如キ有様ニナルデアリマス、而シテ彼等ガ郷里ヲ去、テ國外ニ出、マスルニハ、嚴重ナル旅行券制度ナルモノガアリマス、其旅行券ナルモノハ一人々々ニ原籍ヨリ戶籍ヲ詳シク書上、テサウシテ一人毎ニソレニ寫眞ヲ附、ケテ總督府ノ證明ヲ貰、ウテ、之ガ無、ケレバ國外ニ出、モ出、ルコトガ出來、ナイデアリマス、然、ルニ彼等ハ其規則ヲ知、ラス者ガ多イデアリマス、朝鮮ニ居、テ安、ンズルコトガ出來、ナイ、前途ノ不安、目前ノ困難、已、ムヲ得、ズ彼等ハ僅、カナイ身代、ヲ賣、拂、テ、一家相、拂、ヘテ國外ニ出、デントスレバ、此旅行券ガ無、イガ爲、ニ警察官ニ追、還、サレ、テモ彼等ハ歸、ルニ家ハ無、イ、行、クニ方ハ無、イ、遂、ニ彼等ハ溝、壑ニ轉、ズルノ外ハナイ

○議長(與繁三郎君) 荒川君三度注意シマス、君ノ演說ハ只今ノ議題ニ關係ナイト認、メマス

○議長(與繁三郎君) 御默リナサイ

○議長(與繁三郎君) 關係アリト呼、フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 關係ナシト呼、フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 公平ナル議長ハ本員ニ向、テ警戒ヲ加、ヘラレタ、此警戒ト云フ意味ガ能、ク私ニハ分、リマセヌカ、先程カラ申、ス如ク、我が大正八年度ノ決算中不當ナル支出ハ澤、山アル、其上ニ不法ナルモノガ總數ノ半分モ朝鮮ニアルデアリマス、隨、テ其説明ニハ少シク力ヲ入、ル、ヲ要スルト思、ウテ辯明、茲ニ至、タケレドモ、公平ナル議長モ大變ニ時間ヲ急、グレ様子デア、リマセヌカ、議長ニ敬意ヲ表、シテ成、ベク之ヲ切、詰、メテ本問題ヲ速ニ結論ニ入、ルコトヲ努、メマス(拍手)斯様ナ次第デ、彼等朝鮮ノ人民ハ歸、ルニ家モ無、ク行、クニ方モ無、イ、一家ハ溝、壑ニ轉、ズルノ外ハナイ、斯様ナ窮、地ニ陷、タ者ガ多イデアリマス、而シテ其旅行券制度ナルモノハ朝鮮——日本ノ國外ニ出、ヅルノデア、ルハ、朝鮮カラ内地ニ

來ルノスラ同旅行券ガ要ルノデアリマス、斯ノ如キ壓制、
斯ノ如キ抑壓、即チ物ヲ言ハレヌヤウニ口ヲ抑ヘ、歩ケナ
イヤウニ足ヲ縛リ、口ヲ抑ヘラレ足ヲ縛ラレ、ソレダ彼等ガ
邊ニ自暴自棄ニ至リ、斯ル騷擾事件ヲ起シタト云フコトハ、
蓋シ彼等ノ心情ニ對シテ已ムヲ得ヌ所ト認メナケレバナラ
ヌ、彼等ガ益ニ無法ナ事ヲシタコトハ遺憾トスル所デアリマ
ス、陛下ノ赤子ヲ撫スル所以デアリマセウカ、海ニ是等ノ事
實ハ政府失政ノ責任極テ重大ナルモノト認メ、デアリマス
(拍手)以上ノ次第デアリマス、吾々ハ茲ニ國民黨ノ
諸君ト共ニ八年度決算ニ對スル決議ヲ致シマシテ、其決議
ハ四項ニ分レテ居リマス、第一項ハ徵稅ノ不公平ヲ申シタ
ノデアリマス、茲ニ大要説明シタルソレガ即チ此項ニ當ル
デアリマス、即チ「租稅ノ徵收ニ付テハ世上苛斂誅求ノ聲高
キモ決算審査ノ結果ニ依レハ苛斂誅求ハ多ク小資本家ニ
對スル事實ニシテ大資本家ニ對シテハ却テ往々寛大ニ過キ
脫稅ノ事實少カラズ不當ト認ム」是ハ即チ徵稅ノ不公平ト
云フ、此八年度決算ニ於ケル政府ノ不當ヲ決議シヤウト思
フノデアリマス、ソレカラ第二項ハ豫算ヲ濫費シ、國民國家ニ大
ナル損失ヲ來シ、ソレ等ノ事實ハ海ニ政府ノ不注意怠慢ノ事
蹟ガ少クナイノデアリマス、ソレハ「豫算ノ剩餘アルニ乘シテ
不急不用ノ支出ヲナシ計畫粗漫ヲハ不注意ノ爲メ甚シ
キ損失ヲ招キ又ハ官有財產ヲ不當低廉ニ拂下ケ若クハ貸
付クル等國費濫消ノ弊多シ特ニ豫算ノ年度區分ヲ紊リ豫
算ノ款項ヲ流用シ豫算目的外ノ支出ヲナシ其他法規ニ反
シテ諸負契約ヲ締結シタルモノアリ不當ノ甚シキモノト認
ム」之ガ決算各省ニ亙テノ總體トシテ、政府者ガ實ニ良心
庶幾シタル爲ニ斯ル損害ヲ不幸ヲ國民ニ與ヘタル大體ノ意
味デアリマス、其中ニ付テ特ニ重要ト認メタル第三項官
紀ヲ紊リ又ハ監督怠慢ニ依リ失政ノ跡少シトセス就中津
下某ノ印紙橫領事件ノ如キ失態ノ甚シキモノト認ム、此件
ハ上下兩院ヲ通ジテ一濃厚ナル貴族院スラ此點ニ向テ
未ダ會テ例ノナク、決算ニハ例ノナク決議ヲ貴族院ガ出
スト云フコトハ、之ヲ以テモ知得タル、ノデアリマス、吾々
之ヲ第三項ニ於テ特ニ茲ニ之ヲ書上ゲタ次第デアリマス、
第四「朝鮮騷擾事件ハ事實突發タルガ如キモ政府ガ統
治ノ政策ヲ誤リ失政百出朝鮮ノ民心ヲ離反セシメタル結
果ニ外ナラズ而シテ其鎮撫並ニ善後ノ爲メ巨額ノ國帑ヲ
費シ尙且多ク其效果ヲ舉クルヲ得サルハ不當ノ甚シキモノ
ニシテ政府ノ責任極メ重多ナリト認ム、右決議ス、此四
項ガ若々大正八年度ニ對シテ出來得ル寛大ヲ以テ密査
シタル結果、已ムヲ得ズト認メテ茲ニ決議シタル大綱デアリ
マス、茲ニハ滿堂ノ諸君(反對)ト呼フ者アリ)諸君ノ公平

ナル態度ニ立チ(反對)賛成(下呼フ者アリ)論斷ヲ願ヒタ
イノデアリマス、勿論大正八年度ハ政友會内閣ノ仕事デア
リマス、政友會ノ諸君ガ之ニ反對セラレ、或ハ此私ノ演
說ニ向テ種々妨害ヲセラレヤウトスルモノ、強チ私ハ咎メハ
致シマセヌ、併シ此既往ニアツタ事實、活キタル事實ハ抹殺
スルコトガ出來ヌノデアリマス(拍手)活キタルモノヲ消スコ
トハ出來ナイノデアリマス、諸君ハ議會ニ於テ多數ヲ以テ隨
分橫車ヲ引カレマス、此決算ノ事實ハ現レテ天
下ニアルノデアリマス、此活キタル事實、ソレニ向テ諸君ハ
果シテ之ヲ抹殺スルコトガ出來マセウカ、會計検査院ハ嚴
正ナル茲ニ審判ヲ致シテ、サウシテ此報告書モアリ、更ニ政
府ノ辯明書モアル、是等ヲ對照比較シテ此事實ヲ見レバ明
カナル次第デアリマス、與黨ト雖モ此明白ナル事實ニ對シ
之ヲ否認セラレルト云フコトニナレバ、諸君ハ又共ニ虛言家
トナルノ責ヲ相負ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、幸ニ
諸君モ冷靜ナル態度ニ立チ、公平ナル御判斷アランコトヲ
希望致シマス(拍手)
○議長(與黨三郎君) 此少數意見ニ賛成ガアリマス、カ
(賛成三郎君) 下呼フ者アリ
○議長(與黨三郎君) 成規ノ賛成アリト認メマス、仍テ
少數意見ハ修正案トシテ成立致シマシタ、是ヨリ討論ヲ始
メマス、牧野良三君
○牧野良三君 本員ハ大正八年度歳入歳出ノ總決算、
並ニ大正八年度各特別會計歳入歳出決算ニ對シマシテ、
委員長報告ノ通り些少ノ遺憾ハ之ヲ已ムヲ得ザルモノトシ
テ、大體政府ノ執來リタル所ヲ是認セント欲スル者デゴザリ
マス、殊ニ本員ハ時局ノ影響ヲ最も多ク受ケテ、其豫算ノ
多額ナルト、其費目ノ多岐多端トニ於テ、會テ其比ヲ見ナ
カシ大正八年度ノ豫算ニ對シテ、政府ガ斯クマデニ誠實ニ
而シテ斯クマデニ有效ニ使用セラレタルコトニ對シテ、滿腔
ノ敬意ヲ拂ハント欲スル者デアリマス、然ルニ反對黨ノ代表
者ヨリ只今名ヲ修正意見ニ藉リテ甚ダ其意ヲ得ザル非難
攻撃ヲ敢テセラレマシタ、(ノウ)ト呼フ者アリ)本員ハ
甚ダ心外トスル所デアリマス、茲ニ餘儀ナク所見ヲ開陳シ
テ、切ニ是等ノ諸君ニ反省ヲ乞ハント欲スル者デゴザリマス、
第一、只今修正意見トシテ述べラレタル四項目ヨリ成ル決
議ナルモノハ、徒ニ誇大ナル言辭ヲ弄シテ、鬼面人ヲ爲カサ
ントスル頗ル無責任ナルモノデアリマス、第一決議ト稱セラ
レタルモノ、第一項ヲ拜見致シマス、租稅ノ徵收ニ付テハ世
上苛斂誅求ノ聲高キ云々ト云フ事ヲ謳テ居ラレマス、此點
ニ對シテ本員ハ其然ラザル事ヲ簡單明瞭ニ具體的材料
ニ依テ舉示致シマス、會計検査院ノ大正八年度歳入歳

出決算検査報告書ノ第五頁、上欄ヲ御覽ヲ願ヒタイ、其
上欄ニハ租稅ノ徵收不足ニ屬スルモノガ九十二件、此金
額ガ五十八萬六千圓ニ上テ居リマス、然ルニ租稅ヲ徵收
シ過ギタルモノト云フノガ僅ニ二十八件デ、其數ハ十七萬二
千圓ニ上テ居リマス、若モ現内閣ノ租稅徵收ガ寛大デア
リナガラ此事實ヲ以テ苛斂誅求トハ何レニ於テ之ヲ言ハ
ルカ、殊ニ大正八年度ノ政府歳入ノ歳入決算ヲ見マセバ經
常部十億六千三百萬圓、臨時部七億四千五百萬圓、合
計十八億八百萬圓ノ大豫算デアリマス、大決算デアリマス、而
シテ此中租稅ノ收入決算ハ六億七千二百萬圓デ、豫算ノ四
億九千三百萬圓ヨリハ一億八千萬圓ノ増徴ヲ見タ、其中
僅ニ二十八件シカ徵收過ニ屬スルモノガナク、云フコトヲ
諸君ハ御記憶ヲ願ヒタイノデアリマス、更ニ第二項ニ行キマ
スルト、政府ハ豫算ノ年度處分ヲ紊リ、款項ノ流用ヲ敢テ
シタト云フコトヲ言テ居ラル、ガ、諸君本員ハ之ヲ決算
ノ常任委員ニ選バレマシテ、調査ト審議ト二日ヲ經ルコトガ
前後二十幾日ニ及ビマシタ、而モ政府ガ大正八年度ノ豫
算ヲ行使スルニ當テ、款項ヲ紊リタルノ事實ハ一モ之ヲ發
見スルコトヲ得ナカッタノデアリマス、凡ソ政府ノ決算ノ中、
豫算ノ款項ヲ紊リタル位大ナル不當トナル不正トハゴザイマ
セヌ、而シテ決算ノ總會席上之ヲ荒川五郎君ヨリ摘示セ
レマシタノ、本員ハ汲々乎トシテ之ヲ荒川五郎君ヨリ摘示セ
ハ御返答ニ窮セラレタノミナラズ、他ノ諸君ハ又無責任ニ荒
川君ヲ捨テ、他ヲ顧ミテ居ラレタルノデアリマス、斯ノ如クシ
テ本員ハ全ク憲政會ノ虛構ノ言、言懸リヲ爲シテ以テ政府
ヲ傷ケントスルモノデアルト云フコトヲ發見致シマシタ、心中
甚ダ不快ノ感ゾ懷イタノデアリマス、第一項ト云ヒ、第二
項ト云ヒ、徒ニ國民ノ惡感情ヲ挑發スベク、強烈ナル文句
ヲ撰ビ、其他四項目、五項目、總テ此類デアルト云フコトヲ
諸君ニ報告スルコトヲ私ハ忘レテハナラナイノデアリマス、嘗
ニ之ニ止ラズ、決算ノ委員會ニ於キマシテ、其他ニ於テ、政
府ノ外米ノ管理ニ付テ、若クハ製鐵所ノ鹿町炭礦ノ買收
ニ付テ、不快ナル非難ト議論トヲ敢テセラレ、又實業郵便
局長、事件或ハ朝鮮ノ統治ノ現狀ニ付テモ、亦頗ル心外ニ
堪ヘザル言說ヲ敢テセラレテ居ルノデアリマス、本員モ亦其
爲ニ遂ニ默スル能ハズ、爰ニ數言ヲ費サザルヲ得ザルヲ深ク
遺憾トスル者デアリマス、但シ朝鮮總督統治ノ事ニ付キマ
シテハ、同僚ノ林代議士ヨリ詳細ヲ述べラレルト云フコトデ
アリマス、本員ハ外米ノ管理、鹿町炭礦事件並ニ寶
塚ノ郵便局長事件ニ付キマシテ、聊カ所見ヲ述べタイト存
ジマス、先ツ農商務省所管ノ外米管理ヨリ述べタイト思ヒ

マス、憲政會議者ノ此點ニ關スル非難ハ、政府ノ外米管理ハ徒ニ其時機ヲ失シ、其方法ヲ誤リ、爲ニ多額ノ損害ヲ國家ニ負ハシメタルハ失態ノ甚シキモノデアルト云ハレハノデアリマス、即チ曰ク、大正八年ニ於ケル必要米ノ不足ニ對シテ、政府ハ同年内ニ外米五六百萬石ヲ入レサヘスレハ、ソレト云フコトニ努メタリマス、其結果トシテ、民間ノ買付ハ著々トシテ進ミ、大正七年ノ暮十一月、御承知ノ如ク關稅ヲ撤廢シテカラ、十二、一、二、三、四ト前後六箇月ノ間ニ三百五十萬石カラノ外米ヲ買付ケルコトガ出來マシタ、然ルニ斯ノ如クニシテ民間ノ輸入ノ旺盛ナルトキニ、政府ガ是ト競爭シテ買付ヲ開始シタナラバ、民間ノ輸入ヲ阻止スルノミカ、產地ノ値段ヲ躍上ゲルニ止マル、斯様ナル弊害ヲ貽スノ外何等得ル所ナキコトハ、諸君モ亦之ヲ認メナケレバナラヌト思フデアリマス、斯ノ如クニシテ政府ハ不斷ノ努力ヲ以テ、民間ノ買付情況ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ、前内閣ノ爲ニ與奮シタ所ノ國民ノ心ヲ次第ニ安定セシムルコトヲ得タノデアリマス、然ルニ不幸ニモ此四五頃ヨリ、我國ニ米ヲ輸出スル所ノ諸國ニ於テ、米ガ非常ニ不作ノ結果トシテ、俄ニ輸出ガ禁止セラレタ、又續ニテ東京ニ於テモ、暹羅ニ於テモ、非常ニ輸出ガ困難トナリマシタル結果、米價ガ非常ニ昂騰ヲ始メタノデアリマス、其結果トシテ此儘當業者カ買付ノ米價ガ高インデアリマスルカラ、最早彼等ノ手ニ於テ算盤ハ合ハナクナタテ來タノデアリマス、是ニ於テ、五月ノ半ヨリ至レリトシテ、管理令ヲ適用スルノ舉ニ出デ、今ノ半ヨリ用意ヲシテ、六月七月ノ二箇月ニ於テ既ニ二百二十萬石ノ約束ヲシ、又其外ニ陸軍省ヨリ保管轉換ヲ受クルモノガ四十餘萬石、合セテ百六十餘萬石ト云フモノヲ用意シタノミナラス、又某國ニ於テ相當ナ手配ヲ爲スコトガ出來タ結果トシテ、同年ノ端境期ニハ諸君御承知ノ如ク、米價ノ昂騰ヲ見ルコトナク、即チ相場ノ激變ヲ見ルコトナクシテ、國內ノ民心ノ安定ヲ得タト云フノハ、全ク政府ノ施設其當ヲ得タル結果デアルト云ハナケレバナリマセヌ(拍手)諸君當時ノ外米ノ値段百三十圓、若クハ百四十圓ニマデ騰リマシタ、内地米ノ値段ハ此半以下デアッタト云フコトヲ考ヘタナラバ、恐ラク諸君ト雖モ思半バニ過ゲルモノガアルダラウト思フデアリマス、之ニ對シテ憲政會議ノ諸君ハ、大正七年ノ暮カラ大正八年ノ春ニ於テ、政府ガ一時ニ官權ヲ以テ五六十萬石モ買付ケテ置イタナラバ、此八月前後ニナシテ、高イ米ヲ買フ必要ガナカッタアラウト非難サレハノデアリマス、サリナガラ若モ政府ガ此期間ニ於テ、輸入シタ全額五百四十萬石ヲ、素人デアアル所ノ政府、御役人デアアル所ノ政府ガ、自ラ輸入ノ責任ヲ負ウテ、果シテ其責任ヲ果スコトガ出

替ノ途ヲ闕滿ニスルコトニ努メマシタ、第四ニハ當時最モ困難トセラレタル所ノ船腹ノ供給ニ努メ、第五ニハ鐵道ノ運賃割引ヲ爲シ、大ニ鐵道ノ無貨運送マデモ斷行シテ以テ、即チ政府ノ此助長政策ト、民間當業者ノ實業的手腕ト、此二者相俟テ米ノ自由輸入ニ聯カテ停滯モナカラシムルト云フコトニ努メタノデアリマス、其結果トシテ、民間ノ買付ハ著々トシテ進ミ、大正七年ノ暮十一月、御承知ノ如ク關稅ヲ撤廢シテカラ、十二、一、二、三、四ト前後六箇月ノ間ニ三百五十萬石カラノ外米ヲ買付ケルコトガ出來マシタ、然ルニ斯ノ如クニシテ民間ノ輸入ノ旺盛ナルトキニ、政府ガ是ト競爭シテ買付ヲ開始シタナラバ、民間ノ輸入ヲ阻止スルノミカ、產地ノ値段ヲ躍上ゲルニ止マル、斯様ナル弊害ヲ貽スノ外何等得ル所ナキコトハ、諸君モ亦之ヲ認メナケレバナラヌト思フデアリマス、斯ノ如クニシテ政府ハ不斷ノ努力ヲ以テ、民間ノ買付情況ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ、前内閣ノ爲ニ與奮シタ所ノ國民ノ心ヲ次第ニ安定セシムルコトヲ得タノデアリマス、然ルニ不幸ニモ此四五頃ヨリ、我國ニ米ヲ輸出スル所ノ諸國ニ於テ、米ガ非常ニ不作ノ結果トシテ、俄ニ輸出ガ禁止セラレタ、又續ニテ東京ニ於テモ、暹羅ニ於テモ、非常ニ輸出ガ困難トナリマシタル結果、米價ガ非常ニ昂騰ヲ始メタノデアリマス、其結果トシテ此儘當業者カ買付ノ米價ガ高インデアリマスルカラ、最早彼等ノ手ニ於テ算盤ハ合ハナクナタテ來タノデアリマス、是ニ於テ、五月ノ半ヨリ至レリトシテ、管理令ヲ適用スルノ舉ニ出デ、今ノ半ヨリ用意ヲシテ、六月七月ノ二箇月ニ於テ既ニ二百二十萬石ノ約束ヲシ、又其外ニ陸軍省ヨリ保管轉換ヲ受クルモノガ四十餘萬石、合セテ百六十餘萬石ト云フモノヲ用意シタノミナラス、又某國ニ於テ相當ナ手配ヲ爲スコトガ出來タ結果トシテ、同年ノ端境期ニハ諸君御承知ノ如ク、米價ノ昂騰ヲ見ルコトナク、即チ相場ノ激變ヲ見ルコトナクシテ、國內ノ民心ノ安定ヲ得タト云フノハ、全ク政府ノ施設其當ヲ得タル結果デアルト云ハナケレバナリマセヌ(拍手)諸君當時ノ外米ノ値段百三十圓、若クハ百四十圓ニマデ騰リマシタ、内地米ノ値段ハ此半以下デアッタト云フコトヲ考ヘタナラバ、恐ラク諸君ト雖モ思半バニ過ゲルモノガアルダラウト思フデアリマス、之ニ對シテ憲政會議ノ諸君ハ、大正七年ノ暮カラ大正八年ノ春ニ於テ、政府ガ一時ニ官權ヲ以テ五六十萬石モ買付ケテ置イタナラバ、此八月前後ニナシテ、高イ米ヲ買フ必要ガナカッタアラウト非難サレハノデアリマス、サリナガラ若モ政府ガ此期間ニ於テ、輸入シタ全額五百四十萬石ヲ、素人デアアル所ノ政府、御役人デアアル所ノ政府ガ、自ラ輸入ノ責任ヲ負ウテ、果シテ其責任ヲ果スコトガ出

來タカドウカト云フコトハ、本員等怪シムノミナラス、幸ニ芽出度ク輸入ガ出來タトシテモ、一石ノ損害ヲ僅ニ僅ニ二十圓ト見積ラデモ、此合計ガ五千四百萬圓ト云フ莫大ノ損失ヲ豫想シナケレバナリナイデアリマス、幸ニモ現内閣ガ下圖忠治君ヤ、仲小路廉氏ノ官僚的意見ヲ容レナカッタガ爲ニ、少額ノ損害ヲ以テ事足リタト云フコトハ、諸君ト吾々ハ共ニ政府ノ施設其宜シキヲ得タ事ニ對シテ、多大ノ敬意ヲ表サナケレバナラヌト思フデアリマス、加之若モ憲政會議者ノ言ハレバヤウニ、大正八年ノ夏ニ至ラバ米價ガ外國米ハ百三十圓ニモ、百四十圓ニモナルト云フコトガ判テ居タナラバ利ニ敏イ商人ガ何ゾ之ニ手ヲ出サズニ居リマセウ、況ヤ現ニ政府ハ彼等ニ手ヲ出サシテ各種ノ便宜マデ圖テ居タノニ、當時外米デ儲ケタ商人ノアルト云フコトヲ何人モ聽クコトガ出來ナカッタノデアリマス、斯ル他愛モナイ駄々ヲ控ネテ以テ政府ヲ攻撃セントスルコトハ、大政黨ノ手前些ト御憤ミアラント希望スルノデアリマス、更ニ賣却ノ點ニ付キマシテ、是ハ高木正年君デアリマシタカ、憲政會議ノ諸君ヨリ、政府ノ外米ヲ賣却スルニ當テ常ニ時期ヲ一定セズ、突然之ヲ行フガ如キハ徒ニ市場ヲ動搖セシメル、又一部商人ヲシテ此間ノ消息ハ間知セシメテ、徒ニ奇利ヲ博セシムル弊害ヲ生ズルハ、斯様ナ非難ヲ致シタノデアリマス、此非難ハ遺憾ナガラハ、上ノ御考ニナリマシタ非難デアリマス、八年度決算ノ上カ、過去ノ事實ト云フ上カラ、何等讀マレル所ノ事實ガ無いト本員ハ斷言スルニ憚ラヌデアリマス、若モ毎月一定ノ量ヲ以テ平均賣シテ、米穀ノ調節ガ出來ルナラバ、政府ハ何モ心配ハ致シマセヌ、政府ノ役人ニ何モ頭ノアル人ヲ置ク必要ガコザイマセヌ、國民ガ要求シテモ一定ノ量、國民ガ要求シナイデモ一定ノ量ヲ賣ルト云フ機械的ノ販賣ヲスルコトガソレガ即チ諸君ノ官僚式デアアル、諸君ノ言説ガ外米ノ管理ニ關シテ官僚式デアアルト云フコトヲ、本員ハ慙マザルヲ得ナイデアリマス、第三ニ又諸君ノ非難ニ曰ク、政府ハ外米ノ處分方法ヲ誤ッタ結果トシテ、六千萬石カラノ殘米ヲ生ジタ、而シテ未ダ三十五六萬石カラノ持米ヲ持テ居ルト云フヤウナコトハ失當ノ甚シキモノデアアル、斯様ニ言ハレ、ノデアアル併ナガラ五萬ヤ十萬ノ持米デハ玄人ニ足許ヲ見透サレテ、調節ナドノ出來ルモノデアナイト云フコトハ、諸君御承知デアラウト思フ、苟モ政府ニシテ眞ニ米穀ノ管理ヲシヤウトスルナラバ、政府自ラ數十萬石ノ米ヲ持テ、政府ハ何時デモ買込ム、政府ハ何時デモ賣出スト云フ勢ト勢力ヲ示シテ、茲ニ市場ヲ警戒セシム、米穀緩和ノ力ガ出來テ來ルト思フ、諸君ノ非難ハ要スルニ實際ニ中ラヌハ勿論、空想トシテモ中ラズ、理想トシテモ中ラズ、畢竟時

勢ニ合セザル官僚的議論トシテ御撤回アランコトヲ、切ニ
本員ハ衆議院議員ノ名譽ノ爲ニ望ム次第アリマス(拍手)
外米ニ開スル點ハ是位ニ止メマシテ、次ハ所謂實務郵便局
長事件ナルモノニ一言ヲ致シタト思ヒマス、此事件ハ其金
額ニ於テ甚ダ少クナイノデ、其金額ガ各方面ノ投資ニ用キ
ラレテ居ルト云フ點、又之ガ融通ヲ受ケタル者ノ中ニハ、政
黨員ガアリ、代議士ガアリ、若クハ地方長官ガアルト云フ工
合ニ多數其中ニ名士ガアルト云フコトニ於キマシテ、何等
カ裏面ガアル犯罪ノ如クニ思ハレタノデアリマスルガ、實ハ事
件トシテ極テ單純ナル一犯罪事件ナリト過ギナイノデアリマ
ス(「ウー」ト呼ブ者アリ)然ルニ本院ノ議員ガ之ヲ政
治問題トシテ論ジ、甚シキニ至リテハ内閣彈劾ノ一項目デア
ルカノ如クニ叫バル、ニ至リマシテハ、其淺薄ト其躁狂ナル
態度ヲ惜マザルヲ得ナイノデアリマス(「ヒヤ」ト呼ブ者アル
リ)本員ハ餘儀ナク茲ニ此事案ノ性質ト、之ガ責任ノ歸趣
トヲ明カニスル爲ニ、聊カ説明セザルヲ得ナイノヲ深く遺
憾トスル者デアリマス、本事案ハ實ハ行政監督ニ關スル一
事務上ノ事案ニ過ギナイト云フ點ガ、却テ逋信大臣ニハ
多大ノ苦衷ヲ與ヘタコトヲ思ハナケレバナラスノデアリマス、蓋
シ逋信大臣トシテハ、本件ヲ單ナル行政監督ニ關スル一事
務上ノ事案ニ過ギナイヲ言テ突ク放スノハ、餘リニ逋信大
臣ノ責任觀念ガ強イノデアリマスサリト此問題ヲ理解シ
テ見レバ、政治上ニハ勿論、事務上ニモ累ヲ大臣ヤ次官ニマ
デ及ボスベキ問題デナイ、斯ノ如クニシテ事案其モノト政治
的方針ト、此ニツノ間ニ苦シマレタ結果、遂ニ率直ニシテ
眞摯ナル我が逋信大臣ガ、此壇上ニ出テ肅然トシテ洵ニ恐
縮ニ堪ヘマセヌト云フ御挨拶ヲサレタト云フコトハ、諸君モ
亦御承知ノ通りデアリマス、當時大臣ノ心中ヲ察スル者ハ、
何人モ此恐縮ノ一言中ニ無量ノ感慨ヲ看取シテ、實ニ御
氣ノ毒ニ感ジタノデアリマス、然ルニ事案ヲ解セズ負フベカ
ラザル責任ヲ負ハレタル大臣ノ率直ナルニモ關セズシテ、執
拗ニモ此決算ノ場合ニ於テ、尙且ツ内閣彈劾ノ場合ニ於
テ、之ヲ持出スト云フノハ、何タル淺薄ナル仕方デアリマス
カ事體抑、前後三年ニ亙ル此巨額ノ犯罪ヲ、何ガ故ニ長
ク発見スルコトガ出來ナカッタト云フコトニ付キマシテ、本
員等ハ決算委員會ノ席上慎重ニ此事案ヲ審議シタル結
果、ソレニハ洵ニ然ルベキ不幸ナル事由原因ノアルコトヲ發
見致シタノデアリマス、ソレハ以前ハ郵便切手ヤ收入印紙
ノ出納ニ付キマシテハ、毎月各現業局ヨリ報告ヲ徴スルコ
トニナリテ居タノデアリマスルガ、明治四十二年事務簡捷ニ
依テ此事ガ廢止セラレ、更ニ大正二年ニ至リ第二回ノ行
政整理ノ結果トシテ、本省カラ毎年現業局ニ於ケル同所檢
査ノ實地調査ノ人員全部ガ削除セラレタノデアリマス、斯

ノ如ク致シマシテ、ソレ以來ハ本省ハ是等ノ事ニ付キマシテ
ハ、書面審理ヲ以テ監督スルコト云フコトヲ原則トスルコト
ニナリタノデアリマス、其結果現物ノ保管出納ハ、専ラ之ヲ
當該郵便局長ノ責任ト爲シ、又年少クトモ一回ノ出納檢
査ハ之ヲ監督局デアル所ノ地方逋信局ノ責任トスルコトニナ
リマシテ、斯ノ如クシテ今回ノ事案ニ付テハ現業局長ナル
所ノ神戸郵便局長、其直接ノ監督局デアル大阪逋信局長
等ガ直接ノ責任ヲ負ハサルニ至リタノデアリマス、遺憾ハ即
チ遺憾ナリト雖モ亦已ムヲ得ナイ結果デアルト云ハナケレバ
ナラス、然ラバ此制度ハ惡制度デアリカドウカト云フト、本
員ハ遺憾ナガラ是ハ惡制度デアリト御答ヲシナケレバナラス
(此時發言スル者アリ)靜ニ御聽キヲ願ヒマス、凡ソ各般ノ
事務ニ付テハ、人物ノ信用ヲ主トシテ、煩瑣ナル手續上ノ
手續ヲ簡略ニスルコト云フコトハ、現在事務處理上ノ原則デ
アリマス、明治四十二年ニ於テ事務簡捷ヲ爲シ、大正二年
ニ於テ行政整理ノ結果、人物ノ信用ヲ主トシテ、煩瑣ナル
手續上ノ手續ヲ略スルノ方法ヲ執ラレタコトハ、吾人ノ之
贊成ノ意ヲ表セザルヲ得ナイノデアリマス、然ラバ當該局長
ノ人物評價上、逋信省ガ不注意ノ點ガアツタカト申シマス、
是亦現ニ當時ノ神戸ノ郵便局長ハ、東京大學出身ノ法學
士デアリテ、逋信部内ニ於テ十年以上ノ經驗ヲ有シテ居ル
立派ナル現業局長デアリ、又大阪逋信局長ハ部内ニ於ケル
有數ナル紳達ノ士デアリコトハ、何人モ異論ノナイ事實デア
リマス、此事件ノ發生ガ、而モサウ云フ人ノ下ニ起リタト云フ
コトハ、又之ヲ遺憾トスルノ外ナイノデアリマスガ、更ニ茲ニ
注意ヲ要スルノハ、本事案ハ他人ノ指摘ニ依テ発見シタノ
デナクシテ、逋信省自ラガ発見スルニ至リタト云フ點デアリマ
ス、既ニ述ベマシタ如ク、逋信省トシテハ定員ガ少クナリ、豫
算ガ少クナリタリ拘ラズ、現業局ニ對スル實地ノ検査監督ヲ
等閑ニ付シテ居ナカッタ、事務簡捷ト行政整理ノ結果、十分
ナラザルニ拘ラズ、尙且ツ現業局長ノ調査ニ手ヲ盡シタ結
果大正十年二月本省ノ經理局長ガ神戸郵便局ニ赴キ調
査ノ結果、此事案ヲ発見シタト云フ點御留意ヲ願ヒタイノ
デアリマス(三年目デヤナイカ)ト呼ブ者アリ)暫ク御聽キ下
サイ、更ニ是カラ述ベマス——更ニ本件ガ時局ノ生シタ事件
ノ一ツデモアルト云フコトニ、深ク御注意ヲ諸君ガ有セラル
ルコトヲ希望スルノデアリマス、何トナレバ時局ノ發生以來、
最モ急激ニ事務ノ膨脹致シタノハ、逋信官署以上ノモノハ
ナイノデアリマス、唯サヘモ事務ノ膨脹シテ人手ヲ要スル所
ヲ、却テ世間ノ人物拂底ノ大勢ハ、逋信省ノ門ニ押寄セテ
來テ、事務ニ堪能ナル職員ヲ民間ノ事業ニ奪ハレ、宛ニ角其結
果公衆關係ノ現業員ガ手不足トナリ、能率低下等ノ結果、
世上ノ非難攻撃ヲ甚ダシク招イタト云フコトハ諸君御熟

知ノ事デアリマス、斯ノ如クニ致シマシテ、當該現業局長ハ
公衆事務ノ改善ト云フコトニ終始努力カスルノ結果、局内
事務ノ監督ト云フコト、整頓ト云フコトカ、不知不識ノ間ニ
部下主任ニ任セラレタト云フコトニ成リタリ、來タコトハ遺
憾ニ存ジマス、遺憾ハ即チ遺憾デアリマスガ、此點ニ御留意
ヲ願ヒタイ、而シテ時局ノ此大變摯デ一番多ク受ケタルハ、
監督局ノ大阪逋信局デアル、現業局デハ神戸郵便局長
ト云フコトハ、諸君モ御諒承下サルコトデアラウと思フ、斯
ノ如ク致シマスル、諸君モ御諒承下サルコトデアラウと思フ、
ノ關係カラ、必ズ途中ニ於テ発見セラレナケレバナラスニ拘ラ
ズ、三年間モ発見スルコトヲ得ナカッタト云フノハ、何カ茲ニ
特別ノ事情ガナケレバナラスト云フ風ニ見ラレハ、ハ九デア
ル、併ナガラソレハ時局ノ關係上殘念ナコトニハ、此時分カ
ラ各地トモ主要ナル都會ノ局ニ於ケル收入印紙ト、郵便局
切手ノ賣上高ト云フモノガ、激減致シテ來タノデアリマス、加
之神戸郵便局ノ數字ニ見マシテモ、大正七年度ニ於ケル賣
上高——印紙ノ賣上高ハ千二百四十萬圓デアリマス、然
ルニ八年度ハ八百五十萬圓ニ減リマシタ、九年度ハ更ニ減
テ六百萬圓ニナリマシタ、此六百萬圓ニ更ニ横領サレタ額
ヲ合シテモ、尙且ツ八年度ニ較ブレバ百萬圓餘リ減リタ
ノデアリマス、斯ノ如キ狀況デアリマシテ、若モ切手ノ賣上
高、取扱高ガ増加ヲ致シテ居ルナラバ、此點ニ向テ多大ノ
注意ヲ喚起スル點トナツタカモ、知レヌケレドモ、年々減リツ
ツアル時ニ減ツタ儘デ、横領ノ犯罪ガ行ハレテ居タノデ、早
速発見スル事ヲ得ナカッタト云フ事實ニ對シテモ、諒解ヲシ
ナケレバナラス(拍手)事情ハ正ニ斯ノ如ク、津下某ノ爲ニハ
此犯罪ヲ實行スルニハ打テ付ケノ狀況ガ幾ツトナク重ナ
テ居ルノミナラス、其半面ニ於テ逋信當局ト致シマシテハ犯
罪ヲ発見スルコトノ出來ナイ幾多ノ事情ガ斯ノ如ク重ナリ
居タノデアリマス、斯ノ如キ事情ノ下ニ於テ爲サレタル一犯
罪的事案ヲ、單ニ其形式ヨリ見テ非難シ攻撃スルノハ、政
治家トシテハ本員ハ餘リニ淺薄デアリ、政黨トシテハ餘リニ
輕薄デアリカト云フコトヲ疑フノデアリマス(拍手)或ハ斯ル
事件ヲ發生セシメタルニ拘ラズ、何等ノ善後策ヲ講ジナイカ
ト云フナラバ、或ハ綱紀肅正ノ問題トモナリマセウ、或ハ責
ムベキ事案トモナリマセウ、併ナガラ此事案ハ逋信省自ラガ
発見シ、自ラガ之ヲ處置シ、而シテ其善後策ニ付テハ頗ル周
密ナ手續ヲ定メテ、現ニ今年度ノ豫算ニモ之ヲ計上シテ諸
君ノ協賛ヲ求メ、銳意刷新ト改善トニ努メテ居ル、其爲ニ
此事案發生シテ、全國幾萬ノ通信官署ニ對シテ、嚴重ナル
戒ヲ垂レテ以テ、斯ル事ナキヲ期セラレテ居ルト云フ點ニ對
シテモ、諸君ハ亦大ナル同情ヲ寄セナケレバナラス、而シテ此
取扱ヲ改正サレタル事項ニ付テハ、本員此處デ述ベルノ煩

ヲ遊ケマシテ、之ヲ速記録ニ掲載致シタト思ヒマス

○議長(奥繁三郎君) 松岡ノ後デナケレバ許シマセヌ

○牧野良三君(續) ドウ御檢閲ノ願ヒマス

○議長(奥繁三郎君) 序ニ牧野君ニ注意致シマスガ、牧野君ノハ隨分議題カラ外レテ居ル所ガアリマスカラ、已ムヲ得ナイカ知レマセヌガ、餘リ議題ニ違イ事ヲ御述ニナラスヤウニ望ミマス

○牧野良三君(續) 承知致シマシタ—或ハ又憲政會ノ人モ—二百何十萬圓ト云フ金ノ借主ノ中ニハ、地方長官ガ居リ、或ハ議員ガ居リ、政黨員ガ居ル以上、如何ニ諸君ガ辯明ヲ致シテモ、現内閣トノ間ニ何等カノ關係ガアルト云フコトヲ信ゼザルヲ得ナイト云フガ如キ、極テ不謹慎ナル言辭ヲ弄シテ、地方デハ大向ノ喝采ヲ博シテ居ラレト云フコトヲ承ルニ至ラデハ、本員誠ニ残念ニ堪ヘナイノデアル、斯ノ如キ不謹慎ナル演說ヲサレカラシテ、吾々同志ノ間ニモ之ニ對抗スル言辭ヲ用井ナケレバナラヌコトヲ遺憾トスルノデアリマス(君ノ方デモ言フデヤナカ)ト呼フ者アリ)本員ハ決シテ述べタコトハアリマセヌ、サリナガラ此點ニ關シテ遺憾ナガラ秘密ニスベキ事項デアリマスケレドモ、申シテ以テ諸君ノ御參考ニ供シタイ、即チ津下某ヨリ借受ケタル金ノ借主ノ中ニハ、立派ナ憲政會黨員モアルノミナラス、又津下ヲ實察局長ニ採用シタ内閣ノ何レノ何大臣デアラカ(拍手)是ハ申ス迄モナク大隈内閣ノ下ニ於ケル憲政會ノ大臣デアリマス、而モ津下ハ大正三年ノ十二月ニ有馬ノ郵便局長在任中、郵便切手、印紙ノ不正ナル販賣ヲ爲シタル應ニ依ラテ、其職ヲ辭サナケレバナラナクッタ、然ルニ翌大正四年、而モ露骨ニモ大隈内閣ノ有名ナル總選舉ノ十數日前ニ書面ヲ出シテ、更ニ三月ノ十八日ト云ヘバ即チ選舉ノ二日前デアリマスガ、此日ニ實察郵便局長ニ任ズル事ニナラデ居ルノデアリマス、而モ其津下某ナル者ハ現ニ只今モ憲政會ノ幹部ヲシテ居ラレル某代議士ノ當時熱心ナル運動ニ從事シテ居ルヤウナ事案スラ有ルノデアリマス(拍手)謂ベテ行キマスレバ、斯ル事實マデモ暴露スル、斯ル事實ヲ言合、テ、茲ニ於テ事件ヲ葬リ去ラウトスル者デアリマセヌ、唯願クハ斯ル事マデ本員等ノ口カラ言ハナケレバナラヌト云フヤウナコトニ、諸君ノ言辭ガ陋劣ニナラザルコトヲ希望シテ止メタイト存ズルノデアリマス(拍手)本員ハ衆議院議員ノ名譽ノ爲ニ之ヲ申シマセヌ、尙ホ荒川君ノ主張ヲ

(此時發言スル者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 靜ニ

○牧野良三君(續) 尙ホ荒川君ヨリ身元保證ノ件ニ對シテ、如何ニモ現内閣ガ官權ヲ以テ非違ヲ逞ウスルガ如ク言ハレマシテ其ノ例トシテ、北海道釧路厚岸郡ノ太田村郵便局長ノ事案ヲ出サレマシタガ、是ハ荒川君ノ御間違デナケレバ宜イガト思ヒマスガ、假ニ間違デナイトシテモ、ソレハ明治二十八年ノ事案デアリマス、其後幾多ノ判例ハ遞信省ノ爲シタル行爲ヲ認メテ居ルノミナラス、本件ハ純然タル法律問題デアリマスルカラ、之ヲ裁判所ノ事案トシテ私ハ茲ニ之ヲ論ズルコトヲ避ケタイト思ヒマス、更ニ最後ト致シマシテ私ハ鹿町炭礦事件ニ付テ一言セザルヲ得ナイコトヲ深く遺憾トスル者デゴザイマス、是ハ滿鐵問題デ世間ニ對シテ意外ナ味ヲ占メラレタル憲政會ノ諸君ガ、同ジ柳ノ下ヲ搜シテ以テ手ニセラレタル單ナル棒千切ニ過ギナイノデアル、炭礦ナドニハ餘リ明ルクナイ筈ノ田中善立君ガ、二度モ三度も質問セラレルト云フコトニ對シテ、本員ハ一種言フベカラザル臭味ヲ感ジテ居ラタノデアリマス、其後今度ハ貴族院デハ若槻禮次郎氏ガ妙ナ腰付ヲシテ、製鐵所長官ニ一綱掛ケテ見ルナド、甚ダ以テ臭味ヲ増スノ感ジガアタノデアリマス(ヒヤ—)ト呼フ者アリ)然ルニ果然去十五日ノ内閣彈劾演說ノ此境上ニ、背後ノ人ト目指シテ居リマシタル總務、憲政會ノ總務本田恒之君カラ急、此處ニ現レテ、鹿町炭礦ノ買収ヲ以テ現内閣ヲ彈劾スベキ一重要ナル事案デアルト斷言、而シテ我ガ政友會ノ長老タル中倉萬次郎翁ヲ難ジテ、醜惡陋劣ナル言辭ヲ繰返サレタノデアリマス、本員ハ茲ニ速記録ヲ持參致シマシタケレドモ、茲ニ之ヲ讀ムグルニ忍ビナイノデアル、同君ハ中倉翁ヲ先輩、長老人格者扱ヲシナガラ、實ハ裏ニ於テ疑問ノ人デアアル、醜惡ナル人デアアル、不正ナル人デアアルト云フ風ニ斷ズルニ至ラデハ、實ニ中倉翁ノ名譽ニ對スル暗殺デアリマス、毒殺デアリマス、驕殺ト私ハ信ズルノデアアル

○議長(奥繁三郎君) 牧野君ニ注意シマスガ、本案ノ議題ニ關係ノナイ、議題外ノコトハ許シマセヌ

(議長公平)ヤリ給ヘヤリ給ヘ(ト呼フ者アリ)

○牧野良三君(續) 以テ我ガ白仁長官ガ初メ製鐵所ノ幹部ヲ疑ハシメ、又累ヲ現政府ニ及ボサントスルノハ、私ハ極テ醜惡陋劣ナル態度デアルト思フノデアル、謂ベテ見レバ御本人ノ言ハル、如ク、中倉萬次郎翁ト本田君トハ同ジ長崎縣選出代議士デ、互ニ競争セラレタコトノアル間柄デアルト云フコトデアリマス、政治家ト云フ者ハ斯ノ如キ爭マデモ議政壇上デシナクチャナラヌカト思フト、私ハ立憲政治ノ前途ノ爲ニ甚ダ之ヲ歎ク者デアリマス(拍手)本員ノ解シマスル所ニ依リマス、此事ノ起リハ鹿町炭礦重役ニシテ、同炭礦ヲ製鐵所ニ賣付ケマシタル所ノ濱野某ト云フ人ガ、會社ニ對スル代金ノ不正横領ニ關スル刑事被告人トナリマシタノガ、抑、問題トナラデ、炭礦ノ買手ハ製鐵所デアルト云フコト、會社ハ此爲ニ妙カラザル利益ヲ得タト云フコト、

會社ノ監査役ニハ政友會ノ代議士ニシテ九州ノ長老デアアル中倉萬次郎氏ガ居ラレト云フコトガ問題トナリ、當時恰モ議院ニ於キマシテハ滿鐵問題デ世間ヲ騒ガシテ居ル時デアッタ爲ニ、某ト云フ工學士ガ山田潤二君ノ向フヲ張テ、印刷物ヲ天下ニ流布シタト云フノガ抑、骨子デアリマス、本件ガ問題ニサレマシタノハ昨年ノ三月デアリマス、從來滿一箇年ニ互ル間ノ憲政會ノ御苦心ハ察シマスケレドモ今日ニ至ルデ猶一匹此處カラ飛出スコトガナカッタト云フコトヲ以テ、如何ナル事案デアアルト云フコトハ諸君ノ想像ニ餘ルコトデアラウト思フ(拍手)抑、本案ノ非難ノ要點ハ、決算委員會ニ於ケル非難ノ要點ハ第一炭量ガ少ナイ、第二ハ炭層ガ薄クテ作業ガ困難デアアル、此二點ヨリ之ヲ鑑ミ炭礦デアルト言ハレテ居ル、第三ニハ之ヲ三百萬圓ト云フガ如キ多額ノ金ヲ買フノハ怪シカラヌ、即チ攻撃ハ此三點デ主張サレテ居ルノデアリマス、此三點ヲ諸君ガ冷靜ニ判斷サレバ材料トシテ、二三ノモノヲ舉ゲマスレバ、礦區ノ面積ハ四百六十七萬坪デアリマス、場所ハ長崎縣ノ北松浦郡デアリマス、價格ハ附屬土地、建物ヲ合セテ今言フ三百萬圓デアアル、又製鐵所ガ此炭礦ニ目ヲ著ケマシタノハ今カラ十三年前ノ明治四十二年デアリマス、爾來製鐵所ハ技師ヲ派遣シテ調査研究ヲ遂グルコト七回ニ及ンデ居リマス、且ツ附近ノ礦區一帯ハ先年既ニ製鐵所ノ手ニ買收済ニナラデ居リマス、又賣買ノ交渉ヲ今開始メマシタノハ大正八年ノ八月デアリマス、又賣買ノ成立シ、且ツ登記ヲ爲シタノガ大正九年ノ三月三十一日デアリ、此點ガ即チ反對黨ノ人々ガ附ケタム肝腎ノ點デアアル、何トナレバ大正九年ノ五月十日ノ總選舉ガ行ハレタ四十日前デアルト云フ點ニ、諸君ノ眼ガ輝イタト私ハ信ズルノデアリマス、以上ノ諸點ヲ頭ニ置イテ、惜テ非難ノ第一ニハ松浦郡ニハ鹿町炭礦ト同質ノ炭礦ガ尙ホ數十萬アル、ソレガ坪五十六錢デ買タモノヲ坪五十九錢ト云フガ如キ高價ニ賣ルト云フコトニナラタト云フ事ハ、是ガ非難ノ中心點トナラデ居リマスルガ、此中心點ニ對シマシテ本員ハ唯、一言ヲ以テ事實ヲ明ニスルコトガ出來ルト思フ、即チ同一礦區内ニ於キマシテ、會社ガ當時一箇買込ミタイト言、熱心ニ運動ヲ致シマシタル麻生太吉氏所有ノ三十萬坪ト云フ炭礦ガ、坪一圓デモ御斷リスルトアテ拒絕サレテ以テ今日ニ至ラデ居ルト云フ事實デアリマス、其炭礦坪五十九錢デ製鐵所ガ買、タコトガ何デ怪シムベキ事案デアリマセヌ、更ニ問題ヲ第二ノ非難ニ移シマスレバ、即チ炭質ニ關スル問題デアリマス、此點ニ付テ憲政會ノ諸君ハ鹿町炭礦ノ炭ハ惡質デアルト言、テ居ラレトデアリマス、然リ本員モ亦憲政會ノ言ハレル如ク惡質デアルトコトヲ認メマス、即チ普通ノ「ボイラー」、所謂普通ノ家庭用

トシテハ如何ニモ惡質デゴザイマセウガ、其惡質ダト言ハレ
ル點ガ、即チ製鐵所當局ガ凝テ流シタ大事ナ點アルト云
フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、即チ其惡質ト云フ
ノハ炭ガ固マル點ナノデアリマス、其固マルノガ製鐵所ニ
於テハ、製鐵原料タル所ノ石炭「コークス」トシテ大切ナ
點アルト云フコトヲ知ラナケレバナラヌ、又此炭坑ヲ製鐵
ガ手ニ入レルト云フコトハ、我國製鐵ノ獨立ニ數歩ヲ進メ
ル重要ナル事案ナノデアリマス、ノミナラズ、此炭坑——是等
ノ地方ノ炭坑ヲ製鐵所ガ掘テ居ルト云フコトハ、内外ノ製
鐵所ニ必要ナル炭ヲ牽制スル上ニ於キマシテモ、非常ニ重
大ナル點アルト云フコトヲ御諒解ヲ願ヒタイノデアアル、又
第三ニ出炭量デアリマス、反對ノ人ハ鹿町炭坑ノ炭ノ出
ル量ハ一年ニ二萬噸ニ過ギナイ、然ルニ製鐵所ガ「コークス」
ノ原料其他ニ於テ使フ所ノ炭ハ六十萬噸デアアル、如何ニ優
良ナル炭デモ、六十萬噸使フ所ニ二萬噸位ハ僅ニ三十
分ノ一デアアル、斯ウ云フヤウナ少ナイ量ノ炭坑ヲ掘テ、高
金ヲ出シテ買テ、何デソレガ重要デアアルカト非難サレテ居
ルデアリマス、是ハ實ハ非難サレル人ガ、基本炭ト配合
炭トゴチャニセラレタ議論デアリマス、近頃以テ製鐵所
側ノ人ハ迷惑至極ノ非難ナノデアリマス、何トナレバ六
十萬噸要スルト云フノハ、基本炭デアリマス、此基本炭ニ
配合炭ヲ加ヘテ以テ「コークス」ヲ拵ヘル鹿町炭坑ノ炭ハ
即チ配合炭デアリマス、製鐵所ガ配合炭トシテ一年ニ要
スル所炭ハ二十萬噸若クハ二十四萬噸宜イノデアアルノ
デアリマス、而シテ此點ニ於テ、憲政會ノ諸君ハ二十萬噸シカ
出ナイト云ハレルコトハ、事實デアリマス、會社ガ採掘シテ
居タ時代トシテハ、事實デアリマス、之ヲ製鐵所ノ手ニ移
シマシテ以來、五萬噸宛ヲ採取シテ居リマス、ノミナラズ、外
國ヨリ——支那ヨリ仰グ所ノ石炭ノ量ト價格如何ニ依リマ
シテハ今日ヨリ更ニ二十萬噸トシ、十五萬噸トシナケレバナ
ラヌト云フ計畫ガ既ニ進ミ、アルト云フコトモ御諒解ヲ願
ヒタイト思ヒマス、斯ノ如ク反對黨ノ諸君ノ言ハレル
事實ト云フモノハ、話ニモ問題ニモナラナイ趣意ノモノデア
ルト云フコトヲ頭ニ置カレタイノデアリマス、(拍手)更ニ第四
點ト致シマシテ、炭層ニ關シテ、反對者ハ鹿町炭坑ノ炭層
ハ薄クハ八寸デアルト云ハレルノハ、何ガ故ニ斯ノ如キ虛構ナ
事ヲ言ハレルカ、炭層ト云フモノハ、具體的事實ニ現ハレテ
居ルモノデアリマス、鹿町炭坑中最モ重要ナル鹿町五尺三
寸層ト書ハレテ居ルモノハ、此層キハ三尺八寸ヨリ、薄キモ
向本且ツ九寸ヲ下ラナイノデアリマス、是ガ即チ製鐵所ノ欲
ム所デアアル、鹿町炭坑ノ大切ナル炭脈デアリマス、現ニ製

ダヲ以テ、立派ニ鹿町五尺ヲ明カニ致シテ居ルノデアリマ
ス、而シテ會社側ハ、從來一番上ノ三枚物ノミヲ掘ッテ居
タノデアリマス、製鐵所ノ目的トスルノハ、此鹿町五尺
層ガ目當デアラフノミナラズ、更ニ此下ハ大瀨五尺ト云フ
六尺炭ノアルト云フコトモ、亦大ナル期待ヲ以テ買ハレタ
云フコトモ知ラナケレバナラヌノデアリマス、ノミナラズ之ヲ
買ヒマシテ後、製鐵所ハ豫定ノ如ク「ボーリング」ヲ入レテ見
マスト、此鹿町五尺ト大瀨五尺トノ間ニハ、尙「ディー」層
「層」ニツツ有力ナル炭層ヲモ發見スルニ至ラタト云フコ
トモ、諸君ノ頭ニ置イテ頂キタイト思ヒマス、更ニ第五ト致
シマシテ、假算炭量ノ總量デアリマス、採取スルコトノ出來
ル石炭總量ノ點デアリマス、反對黨ノ人ハ、此石炭ノ量ガ
僅カ三十萬噸五十萬噸ニ過ギナイト云フノデアリマス、製
鐵所ノ主張、政府側ノ主張ハ、實ニ千八百萬噸以上アルト
云フノデアリマス、諸君五萬ヤ十萬ノ差ナラバ議論ニモナリ
マセウ、喧嘩ニモナリマセウ、三十萬噸ト千八百萬噸トノ差
デアルト云フコトニ、諸君又茲ニ御注意ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス、(拍手)本員ハ五倍ノ百五十萬噸トハ申シマセウ、十倍ノ
三百萬噸ナリトモ申シマセウ、五十倍ノ千五百萬噸ガ一噸
タリトモ切レタナラバ、其時改メテ憲政會ノ誹謗スル諸君ニ
御目ニ懸リタイト云フコトヲ此場合ニ公言致シテ置キマス、
借此計算ハ全面積ノ總量ヲ四千二百三十萬噸ト見マシテ、其
中カラ良質ノモノヲ七割トシテ、約二千萬噸三千萬噸良
モノガアル、其中カラ半分少シ上シカ取レナイモノト見、即
チ六割シカ採取出來ナイモノト見テ、約千八百萬噸ト云フ
數字ガ出テ來ルノデアリマス、或ハ本田恆之君ハ此壇上デ、
此炭坑ニハ斷層ガ多イト言ハレタ、成程斷層ハアリマス、
併シナガラ斷層アルナラバ、途中ニ炭ノ無イ部分ガ出
來マス、鹿町炭坑ノ斷層ハ縱斷層デアリマス、デアリマス
カラ地上ヨリ距離、ソレニ差等ガアデモ、其區域内ニ於
ケル炭ノ量ニハ、少シモ關係ガナイト云フコトモ亦御了承ヲ
願ヒタイト思ヒマス、(地球ノ心マデ掘ルカ)ト呼ブ者アリ、サ
ウ云フヤウナ御疑問ガ出マス、此點ニ對シテ單純ニ申
上ダテ置キマセウ、地球ノ中心マデ掘リマセウデモ、第一層
ハ六百尺、ソレカラ今ノ大瀨五尺ニ至ルマデハ七百尺ニ過
ギナイノデアリマス、是ダケ御參考ニ申上ダテ置キマス、第六
ト致シマシテ價格ノ點デアリマス、此點ニ對シテ反對黨ノ
人々ハ、鹿町炭礦會社ハ坪八厘位ヨリ三錢位ヲ買集メタ
モノデアアル、ソレヲ五十九錢ト云フヤウナ多額ヲ以テ製鐵所
ガ買タノハ、怪シカラヌト云ハレルノデアリマス、昔々三厘
五厘三錢ヲ買タモノ、今日五十九錢ヲ賣レタト云フノガ
何デソレガ不思議ガゴザイマセウ、元來鹿町炭坑ト云フ
ハ、本田君ハ御承知デアリマス、各方面ニ種々ナ斷層ガ

大小錯綜シテ、幾多ノ所有者ノ手ニアリマシテ、殆ド犬牙
錯綜ノ形ニナテ居リマシタノヲ、問題ノ人演野某ガ、日露
戰爭後ヨリ之ヲ徐々トシテ買集メマシテ、約二十年間ニ苦
心シテ買集メタモノヲ、會社ガ引受ケタノデアリマス、而シテ
時代ガ時代デアリマシタカラ、安イモノ、中ニハ五六厘ノモ
ノモアタデアリマセウ、又ソレ以下ノ踏倒シ値段ガ買シタ
域モアラウト存ジマス、又長イ年ノ間ノ事デアリマス、カ
相當ノ高イ値段ヲ買上ダテ部分モアルト云フコトヲ御承知
ヲ願ヒタイ、此議場ニ於テ諸君ハ物價ガ騰貴シタト云フ事
實ヲ現ハシテ、以テ現内閣ヲ攻撃サシタ其人ガ、昔三錢
ヲ買タモノ、今日五十九錢ヲ賣レタト云フコトヲ怪シマレル
ニ至ラデハ、本員ハ其心事ヲ寧ろ怪マナケレバナラヌノデア
リマス、(拍手)試ニ之ヲ事實ニ付テ見マスレバ、最近會社ガ炭
坑ヲ買集メタル當時ノ炭價ガ——會社ガ買集メタル當時ノ
炭價ハ、噸漸ク四五圓デアリマシタガ、製鐵所ガ買上ダマシ
タル當時ノ炭價ハ一噸二十四圓、五圓シタト云フコトハ
諸君モ之ヲ認メザルヲ得ナイ事實デアラウト思ヒマス、此點
ニ關シテ、本員ハ當時ヨリ製鐵所ガ買上ダテ居リマシタル
本溪湖炭、開平炭、高島炭、三池炭及鹿町炭ニ對スル太
正六年ヨリ九年ニ至ル價格ノ高低表ハ、速記録ニ議長ノ
御許シヲ得テ掲載シタイト思ヒマス、尙ホ反對者ハ、製鐵所
ハ必シモ此鹿町炭ヲ買ハズトモ、附近ニハ優良ナル高島
炭ガアルハナイカ、斯様ニ委員會ニ於テモ、此壇上ニ於テ
モ御攻擊ニナテ居ルノデアリマス、如何ニモアノ地方ニハ立
派ナ高島炭ガアリマス、高島炭ハ非常ニ高價ナ炭
デアリマシテ、爲ニ製鐵所ハ餘リニ値段ガ高イノデ、大正十
年度ニハ買フ事ヲ斷ツタ位ノ事實デアアルコトモ御調査ヲ願
ヒタイ、又三池炭ノアルコトモ存ジテ居リマス、此三池炭ハ
硫黃分ヲ含シテ居ルト云フノデ、製鐵所ハ餘リ歓迎致サ
カ、タト云フコトデアリマス、三池炭デラ大正十年度ニハ
二十圓以下デアハ御斷リヲシタイト云フノデ、先方カラ製鐵
所ニ炭ヲ賣ルコトヲ斷ツテ來タト云フコトモ亦御調査ヲ願
ヒタイノデアリマス、此事實ヲ見マスレバ、如何ニ製鐵所ガ鹿
町炭ヲ買シタ事ガ有要デアリ、有力デアルト云フコトガ立證
シ得ルコトデアラウト存ジマス、(拍手)以上ヲ以テ大體ノ骨
子ヲ終リマス、一體何故ナレバ憲政會ノ諸君ハ、斯ル問題
ヲ議政壇上ニ提ゲテ、公人ヲ傷ケラレントスルノデアアルカ、議
者ガ醜態ナル事ト云フデ指彈セラル、ノモ、斯ル問題ヲ
此議政壇上ノ問題トセラル、カラ言ハル、非難デアルト覺
テナケレバナラヌ、單リ本問題ニ於ケルノミナラズ、更ニ幾多
ノ事案ガ此壇上ニ現ハレ、殊ニ其場合ニ於テ、國民黨ノ關
直彦氏ガ、未ダ裁判ガ確定シナイト云フコトヲ以テ、政治上
ノ責任ヲ免レントスルコトハ、政治家トシテ定ニ卑劣ナル態

度デアルト非難シテ居ラレル、此點ハ本員モ亦寔ニ味フベキ至言デアルト謹聴致シマシタ、サリナガラシレハ自ラ罪ヲ認メタル明ナル事案ニ對シテコソ正シイ議論デアリマセウ、然ルニ本員自ラ天ヲ仰ギ地ニ俯シテモ、金輪際左様ナ事實ハナイト主張スル者ニ對シテ、此壇上デ政治的ニ罪ヲ斷ゼンカスルガ如キハ、ソレガ政治家ニ與ヘラレタル特權デアリマスカ(拍手)此點ニ對シテ諸君ハ十分御反省アラシコトヲ希望スルノデアリマス、私ハ諸君ガ本員ガ是マデニ論ジマシテモ、尚且ツ鹿町炭ニ對スル疑念ガ去ラヌトナラバ、諸君自ラ此議論ヲ此壇上ニ於テセラル、場合ニ於テ、若シ其點ニ一點ノ不正ガナイト云フコトガ明ニナタナラバ、我自ラ議員ヲ辭職シテ天下ニ自己ノ責ヲ明ニスルト云フコトヲ、此處デ明瞭ニシテカラ攻撃セラレタイト云フコトヲ希望スルノデアリマス、院內ノ言論ハ院外ニ於テ責任ヲ負ハナイト云フ憲法五十二條ノ規定ヲ待ンデ、言論自由ノ此壇上ニ登ラ、無闇ニ公人ヲ中傷スルヤウナ惡毒瓦斯ヲ撒布スルコトハ許シマセヌ、無闇ト公人ヲ中傷スル爆烈彈ヲ投ゲルコトハ許シマセヌ、本員等此點ニ於テ如何ニモ悲慘ナ事ハ、茲ニ此鹿町炭坑ニ斯ノ如キ事實ガ無イト云フコトヲ明ニ致シマシテモ、青天白日ナ身トナデモ、諸君ガ一度立テタ所ノ大黒柱ノ五寸釘ハ諸君ノ手デ抜イデモ、後トデ千年掩フコトノ出來ナイ穴ノアクト云フコトヲ諸君自身ハ思ハナレバナラヌ、ドンナニ事案ガ青天白日トナリマシテモ、諸君ガ一度罵詈謗ヲシタナラバ、其人ハ社會的ニ大ナル打撃ヲ受ケルト云フコトハ御承知置キテ願ヒタイ、私ハ此意味ニ於キマシテ、願クハ不謹慎ナル言論ヲ此帝國議會ノ壇上ヨリ一掃セラレンコトヲ希望シテ此壇上ヲ降ル者デアリマス(拍手起ル)

【參照】(一)

印紙切手類ノ取扱ニ關シ改善シタル事項

從來ノ取扱 正

一、年四期ニ局長名ヲ以テ請求スル文書ニハ從來局長ノミヲ押捺セシ

二、本省ヨリ發スル現品ノ送付書ハ從來請求局ニノミ送付セシ

一、局長職印ノ外ニ尙局長ノ認印ヲ押捺セシメ又請求書ニハ順次連續番號ヲ附セシメ且文字ノ改描ヲ許サス
二、正副二通ヲ作リ一通ハ請求局長ニ觀展ニテ送付シ一通ハ所轄通信局長ニ送付ス又此ノ送付書ニハ各局毎ニ順次連續番號ヲ附ス

三、現品ノ受領書ハ從來物品會計官吏ノ職印ノミ押捺セシ
四、印紙切手類ノ格納倉庫ハ從來高額ノ分ト否トヲ區別セサリシカ
五、格納倉庫ヨリノ出納ハ從來物品會計官吏ニ於テ立會者ノ下ニ之ヲ行ヒシ
六、倉庫ノ檢査ハ從來局長物品會計官吏各毎月一回之ヲ行フノ規定ナリシ
七、從來印紙切手類ノ受拂計算報告ハ年一回本省ニ提出セシ
八、受拂多數ノ物品會計官吏ニシテ從來人事會計ノ事務ヲ兼掌セシ
九、從來通信局ノ實地檢査ハ毎年一回ナリシ

三、更ニ局長ノ認印ヲ加印セシム
四、高額ノ分ハ局長室ニ別ニ金庫ヲ備ヘ別途ニ保管シ其ノ出納ハ物品會計官吏立會ノ下ニ局長ヲシテ自ラ之ヲ執行セシム
五、更ニ局長ヲモ之ニ立會ハシム
六、檢査執行後毎月所轄通信局長ニ其ノ結果ヲ報告セシメ所轄通信局長ハ三箇月毎ニ之ヲ本省ニ報告ス
七、毎月一回提出セシメ且右計算ト出納官吏ノ收納金トノ對照ヲ一層勵行セシム
八、差向キ神戸、京都、橫濱ノ三局ニハ會計課ヲ置キ印紙切手類ノ出納事務ヲ取扱ハシム
九、常時受拂多數ノ局ニ對シテハ少クトモ六箇月毎ニ又ハ隨時ニ臨局シテ實地檢査ヲ行ハシム
一〇、今後ハ毎年一回必ラス實地檢査ヲ行フコト、シ十一年度豫算ニ於テ所要人員ヲ要求シリシカ

【參照】(二)

大正六年 大正七年 大正八年 大正九年
本溪湖 一六〇〇 二九〇〇
開平 一三、六二 二九、〇〇 二六、一五 二二、四〇

高嶋 三〇、〇〇 三五、〇〇 三二、三八 三〇、二五
三池 八、七五 一六、五〇 一二、五〇 一二、四〇
鹿町 九、八〇 二四、〇〇 二五、〇〇 二一、三〇
○本田恆之君 只今ノ牧野君ノ御演說ニ、私ノ一身上ニ關スル事ガ多イヤウデゴザイマス、此場合ニ於テ私ノ一身ニ關スル點ダケヲ辯明致シタイト考ヘマス
○議長(與繁三郎君) 本田君、一身上ノ辯明ナラバ此場合計シマス

【本田恆之君登壇】

○本田恆之君 只今牧野君ガ、私ガ過日不信任案上程ノ際ニ演說ヲ致シマシタ趣意ヲ辯駁セラレテ、私ガ中倉万次郎君ヲ傷ケンガ爲ニ、アノ演說ヲナシタ如ク御論評ニナタト云フ趣デアリマスガ(其通リ)謹聴ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 靜ニ……

○本田恆之君(續) 是非非常ナル誤解デアリマス、不肖ナガラ私ハ中倉万次郎ト云フ長老ノ方、而モ同縣ノ人、一個人ヲ傷ケテ自ラ快トスル者デハ決シテアリマセヌ、私ガ當時中倉万次郎君ヲ私ノ演說ノ一部ニ引合ヒニ出シマシタ云フハ、私ノ主張致シマシタル事實ガ正確デアル、寸毫モ違ヒガナイ、其事實ハ中倉君ガ能ク承知シテ居ラレル、中倉君ガ密接ナル關係ガアリマス爲ニ、能ク承知シテ居ラレルト云フ爲ニ中倉君ニ及ンダ次第デアリマス、其事柄ハ當時演說中ニモ一通リ申上ゲテ置キマシタガ、アノ時私病中デアリマシテ、咽喉ヲ痛メテ居リマシタ爲ニ、私ノ演說ノ趣意ガ議場ニ徹底シナカタノ非常ニ遺憾ニ考ヘテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ此場合ニ於キマシテ、私ガ中倉君個人ヲ攻撃ヲシタノデハナイ、其演說ノ大趣意ハ此處ニアルト云フコトヲ一言申上ゲテ置キタイノデアリマス、私ガ「シ、マチ」ト言ヒマスガ、字デハ鹿町ト書キマス、鹿町ヲ買収シタノハ非常ニ不當デアルト申シタノハ、製鐵所デハ只今牧野君モ言ハレル通り、其鹿町ニ包含シテ居ル石炭ノ量ハ千八百萬噸アルノデアルカラ、噸當リニスレバ十五錢ニシカ當ラナイカラ決シテ不當ナモノヲ買入レタモノデナイト云フコトヲ、昨年モ製鐵所ガ各辯シテ居リマスカラ、是ガ虛偽ノ答辯デアルト云フコトヲ攻撃シタノデアル、其虛偽ノ證據ト云フモノヲ私ガ供シマシタノハ、製鐵所自身ガ派遣シテ調査ヲ致シマシタル技師ノ報告書ヲ見マスレバ、鹿町炭坑ノ炭層ハ二重ニナリテ居ル、上層ノ方ハ地下六十尺デアリマシテ、是ハ通常鹿町炭層ト申シマス、其下ニアリマス下層ノ方ハ餘程深イノデ、只今ハ七百尺以下ニ大瀬炭層ト云フモノガアルト云フ御演說デアリマシタガ、私ノ謂ヘマシタ所デハ二千尺以下ニ二千尺以下ニ大瀬炭層ト云フモノガアル、此二ツノ炭層ニ含有シテ居ル量ガ千八百萬噸デアルト斯ウ言ハレル

ノデアリマスガ、製鐵所自身ノ派遣セラレマシタ技師ノ報告
三依テ見マシレバ、成程上層ノ鹿町炭層ト云フ方ハ、地
六十尺デ既ニ探炭ニ著手シテ居リマスカラ、炭層モ亦其
厚サモ能ク分リマス、然ルニ下ノ大瀬炭層ト云フモノハ「ボー
リ」本立テタコトハナイノデアリマス、ソレハ派遣セ
フ技師自身ノ報告ニ「ボーリ」立テ、見テ、検査ヲ
シナケレバ能ク分ラナイケレドモ、凡ソ大瀬炭層ト云フモノ
ハ炭ノ厚サガ二尺四寸二分アルモノト想像スル、此二尺四
寸二分アルモノガ、四百七十坪ノ全面積ニアルモノトシ
テ、サウシテ是ガ六分マデ採掘スルコトガ出來ルトスレバ、八
百万噸ト云フモノガ、大瀬炭層ノ方ノ炭ノ含有量アル、其
上ニモテ行テ、鹿町炭層ノ方ガ平均二尺二寸モ炭ノ厚サ
アル、此二尺二寸ノ炭ガ全面積ノ四百四十坪全部ニ
アルモノト致シマスレバ、此方ハ九百万噸アル、九百万何万
噸ト云フ端數ガアリマシタガ、約ソ九百万噸アル、合セテ
千八百万噸ノ炭ガ含有サレテ居ル見込アル、併ナガラ是
ハ「ボーリ」立テ、見ナケレバ、正確ナ事ハ出ナイト云フ
報告ガ、即チ製鐵所ガ派遣シタ技師ノ報告書ノ大要デアリ
マス、未ダ「ボーリ」立テ、見ナケレバ、正確ナ事ハ出ナイト云フ
炭ガアルデアラウト云フ想像ヲシタ報告書ヲ基ニ致シマシテ
其報告書ハ僅ニ半紙一枚、其報告書ヲ基ニ致シマシテ、鹿
町炭層ニ含有シテ居ル炭量ト云フモノハ千八百万噸デア
ルカラ、一噸當リ十五錢ニシカ當ラヌカラ、決シテ高イモノ
ヲ買ッテノデアリト云フ政府ノ答辯ヲ私ハ駁撃シタノデア
リマス、ソレカラ尙此炭ハ僅ニ三厘、高イ所デ三錢、安イ所ハ
三厘位デア買要タモノデアアル、ソレヲ一坪當リ三厘カ三錢
デア買ッテ來タモノノ、五十九錢ト云フ高値、殆ド或ル部分ハ
三百倍、或ル部分ノモノハ二百倍ト云フ高値デア買入レタト
云フノハ、不當ノ買収デアアル、餘リ不當ノ買収ヲシタカラ、此
斡旋盡力シタ人ハ、非常ナ特殊ノ報酬ヲ貰ッテ居ルト云
フ點ヲ私ハ説明シタノデアリマス、所ガ只今牧野君ノ御話
デハ、ソレハ昔々三厘、五厘、或ハソレ以下デア買ッテ物モアリ
マセウガ、物價騰貴ノ今日ニナリテ五十九錢デア買ッテノハ、
不思議ハ無イデアハナイカト言ハレマスガ、如何ニモ其通り、
昔々買集メモノデゴザイマスナラバ、サウ云フ議論モ立チマセ
ウケレドモ、鹿町炭層ノ四百七十坪ノ大部分ハ、大正九年
ニ至テ買受ケタト云フコトヲ私ハ斷言スル(拍手)甚シキニ
至リマシテハ、其中田川雪一ト云フ人カラ鹿町炭礦會社ガ
買入レマシタノハ、即チ濱野治八ト云フ人ガ専務取締ヲシ
テ居ル、鹿町炭礦會社ガ買入レマシタノハ、大正九年三月
二十七日デアリマス、大正九年三月二十七日ニ、安イ所デ
三厘高イ所デ三錢デア買ッテモノノ、二日間ヲ置キマシテ、三
月三十一日ニ政府ガ五十九錢デア買入レタト云フ事實ニナ

テ居ル、ソレハ鹿町炭礦ノ中ニモモト古イ只今牧野君ノ言
ハレマシタヤウニ、十年モ十五年モ前ニ買入レタ分モアリマ
ス、其時分必ズシモ私ハ無イト否定ハ致シマセヌ、併ナガラ
鹿町炭礦ハ三百萬坪ト昔カラ地方デハ稱ヘテ居リマスガ、
ソレヲ製鐵所ニ賣ラントスル場合ニ於テ遠ニ擴ゲル必要ガ
アリ、中ニハ即チ田川雪一其他ノ人モカラ買ヒマシタ十一
人若クハ十二人カラ買ヒテ居ルノデアリマスガ、是等ノ人カ
ラ買ヒマシタノデ、遠ニ四百七十萬坪、約五百萬坪ニ増シ
テ居リマスガ、其増シマシタ殆ド二百万坪ト云フモノハ、高
クテ三錢、安イ所ハ三厘、若クハソレ以下ニ當テ居ル、古
カラ買入レタ申シマシテモ、大正八年是ハ私今日記錄
ヲ持ッテ來マセヌカラ、確ニ昨日ヲ明言スルコトハ出來マセヌ
ガ、大正八年頃デアアル、只今幸ニ私ノ頭ニ殘ッテ居ル記憶ニ
依レバ、田川雪一ノ如キハ、繰返シテ申シマス、三月二十七
日ニ買ッテ、同月ノ三十日ニ賣ッテ、三百倍デア買入レルト云
フノハ正當デアアルヤ否ヤト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、ソ
レデ私ハ唯自分ノ想像ヲ以テ論ズルノデアアリマセヌヨ
想像ヲ以テ論ズルノデアアリマセヌ、即チ田中善立君ガ質問
セラレタ...

如ク言ハレマシタノハ、私ノ一身ニ重大ナル關係ガアリマス
カラ、茲ニ是デケテ辯明致シテ置キマス(拍手)
○議長(與繁三郎君) 高草美代藏君
〔高草美代藏君登壇〕
○高草美代藏君 先刻委員長カラ御報告ニ相成リマシ
タ大正八年ノ歳入歳出決算並ニ同年度特別會計決算ニ
對シマシテ、先刻荒川君カラ少數ノ意見ヲ御述ベニナリマ
シタノデアリマス、即チ吾々ハ此決議案ニ賛成者ノ一人ト
致シマシテ、聊カ賛成ノ意見ヲ述ベル積リデアリマス、申ス
迄モナク、凡ソ決算ハ豫算ニ件ヒマシテ重大ナル事柄デアリ
マシテ、御承知ノ如ク豫算ハ事前ニ於テ之ヲ監督シ、決算
ハ事後ニ於テ之ヲ監督スル、最も重大ナル事柄デアリマス、
豫算モ決算モ、相共ニ決シテ輕重大小ノ差別ノ無イト云フ
コトハ申スデモナイ事デアリマス(拍手)此重大ナル職責ノ上
カラ致シマシテ、決算ヲ審査致シマス場合ニ於キマシテハ御
互ニ全ク此黨派心ヲ去リ、而シテ公平ニ熱心ニ極メテ冷靜
ニ其條理ヲ盡スト云フコトガ、當然ノ事ト吾々ハ信ジテ居
ルノデアリマス(拍手)唯今牧野君ハ少數意見ニ付キマシテ
色々辯護ヲ爲サレ、色々反駁ヲ爲サレタノデアリマス、成程
政府カラ申シマス、洵ニ立派ナ辯護デアッタノデアリマス、
非常ニ立派ナ辯護デアッタノデアリマス、サレバ政府カラ言ヒ
マスルト或ハ豫期以上ノ效果ガアッタコト、思ヒマスカラシ
テ、若シ之ガ既定ノ法律デモアリマシタラ、政府カラ牧野君
ニハ金鵝勳章功一級ガ下ルカモ知レマセヌ然レドモ決シテ
國民ハ之ヲ肯ジマセヌ、更ニ肯ゼザルミナラズ、國民ハ非常
ニ憤慨スルデアラウト私ハ思フノデアリマス(拍手)大正八年
度ノ各決算ニ對シマシテ、會計検査院ノ検査報告書ニ依
リマス、先ヅ一般會計歳入ニ於キマシテ、第一ニ課稅標準
ノ決定其宜シキヲ得ザルモノガ四十一件アルノデアリマス、
金額ガ六百五十萬圓、第二ニ課稅ノ決定緩慢ナリシガ爲、
徵收ノ途ナキニ至リタルモノ十二件、金額五十五萬餘圓、
三、監督上不注意ナリシガ爲、租稅拂込ヲ遲延セシメタルモ
ノ二件、金額二萬圓餘、四、監督上ノ注意ヲ缺キ、多額ノ稅
金ヲ通脱セシメタルモノ四件、其金額六萬七千圓、五、租
稅ノ徵收不足ニ屬スルモノ九十二件、之ガ金額五十八萬
餘圓、六、租稅徵收過ニ屬スルモノ十八件、金額十七萬二
千圓餘、七、土地使用料ノ決定低廉ニ失シタルモノ一件、
金額二萬七千圓餘、八、監督上十分ナリシガ爲、課稅價格
ヲ低トシ、登錄稅ヲ騙取セラレタルモノ一件、金額九百三
十圓、九、名目物品勞力ノ寄附ニ藉リ、歳入ニ編入スベキ寄
附金ヲ別途ニ整理シ、經費ニ移用シタルモノ一件、金額百
三十幾萬圓、十、立木其他物件ノ代價ヲ歳入ニ編入セズ、
直ニ之ヲ使用シタルモノ一件、金額一萬千圓餘、十一、過

○議長(與繁三郎君) 本田君ニ注意シマスガ、アナタノ身
上ニ關シテ、牧野君ノ發言ニ對スル答辯ヲ...
○本田恆之君(續) ソレデスカラ、私ハ決シテ茲ニ中倉万
次郎君ヲ傷ツケナイト云フコトヲ言デ居ルノデアリマス
○議長(與繁三郎君) ソレハ分ッテ居リマス、一身上ノ辯
解ナラバ許シマス
○本田恆之君(續) 私ハ決シテ自分ノ想像ヲ以テ議論ヲ
シタノデアリマセヌ、田中善立君ガ演說ノ時分ニ引用サレ
マシタ所ノ、證據書類トシテ添付サレマシタル鮎川甚五右
衛門ト云フ人ノ鑑定書ガ附イテ居リマス、是ハ諸君速記錄
ヲ御覽下サルト、速記錄ニ載ッテ居リマス、是ハ検査局ガ調
査スル所ガアッテ、素人デハ分リマセヌカラ、炭礦專門家探
礦冶金專門ニ修メマシタ工學士ノ鮎川甚五右衛門ト云
フ人ニ検査局ガ命令ヲ致シマシテ、鑑定ヲサセタノデアリマ
ス、鮎川工學士ハ製鐵所ノ買収ニ關スル書類ヲ取調ベ、尙
ホ鹿町炭礦ノ實地ニ臨ミマシテ、坑ノ内外ヲ詳細ニ取調ベ
タ結果ガ、即チ鮎川君ノ意見トシテ検査局ニ報告サレタ書
類ガ、速記錄ニ載ッテ居リマスカラ、諸君ノ御覽ヲ願ヒ
マス、私ハ此專門家ノ鑑定ヲ私ノ議論ノ基礎ニ置イタノデ、
決シテ私自身ガ想像や、或ハ他人カラ傳聞シタ事實ニ依
テ、此議場デ公言スル次第デアリマセヌ、検査局ガ專門家
ニ命ジテ鑑定セシメタ其鑑定書ニ基イテ、私ハ此不當買
入ト云フコトヲ論評シタニ對シテ、牧野君ハ何カ私ガ中倉万
次郎君一個人ヲ傷ツケンガ爲ニ、茲ニ此鹿町炭坑ヲ論評シタ

テ居ル、ソレハ鹿町炭礦ノ中ニモモト古イ只今牧野君ノ言
ハレマシタヤウニ、十年モ十五年モ前ニ買入レタ分モアリマ
ス、其時分必ズシモ私ハ無イト否定ハ致シマセヌ、併ナガラ
鹿町炭礦ハ三百萬坪ト昔カラ地方デハ稱ヘテ居リマスガ、
ソレヲ製鐵所ニ賣ラントスル場合ニ於テ遠ニ擴ゲル必要ガ
アリ、中ニハ即チ田川雪一其他ノ人モカラ買ヒマシタ十一
人若クハ十二人カラ買ヒテ居ルノデアリマスガ、是等ノ人カ
ラ買ヒマシタノデ、遠ニ四百七十萬坪、約五百萬坪ニ増シ
テ居リマスガ、其増シマシタ殆ド二百万坪ト云フモノハ、高
クテ三錢、安イ所ハ三厘、若クハソレ以下ニ當テ居ル、古
カラ買入レタ申シマシテモ、大正八年是ハ私今日記錄
ヲ持ッテ來マセヌカラ、確ニ昨日ヲ明言スルコトハ出來マセヌ
ガ、大正八年頃デアアル、只今幸ニ私ノ頭ニ殘ッテ居ル記憶ニ
依レバ、田川雪一ノ如キハ、繰返シテ申シマス、三月二十七
日ニ買ッテ、同月ノ三十日ニ賣ッテ、三百倍デア買入レルト云
フノハ正當デアアルヤ否ヤト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、ソ
レデ私ハ唯自分ノ想像ヲ以テ論ズルノデアアリマセヌヨ
想像ヲ以テ論ズルノデアアリマセヌ、即チ田中善立君ガ質問
セラレタ...

如ク言ハレマシタノハ、私ノ一身ニ重大ナル關係ガアリマス
カラ、茲ニ是デケテ辯明致シテ置キマス(拍手)
○議長(與繁三郎君) 高草美代藏君
〔高草美代藏君登壇〕
○高草美代藏君 先刻委員長カラ御報告ニ相成リマシ
タ大正八年ノ歳入歳出決算並ニ同年度特別會計決算ニ
對シマシテ、先刻荒川君カラ少數ノ意見ヲ御述ベニナリマ
シタノデアリマス、即チ吾々ハ此決議案ニ賛成者ノ一人ト
致シマシテ、聊カ賛成ノ意見ヲ述ベル積リデアリマス、申ス
迄モナク、凡ソ決算ハ豫算ニ件ヒマシテ重大ナル事柄デアリ
マシテ、御承知ノ如ク豫算ハ事前ニ於テ之ヲ監督シ、決算
ハ事後ニ於テ之ヲ監督スル、最も重大ナル事柄デアリマス、
豫算モ決算モ、相共ニ決シテ輕重大小ノ差別ノ無イト云フ
コトハ申スデモナイ事デアリマス(拍手)此重大ナル職責ノ上
カラ致シマシテ、決算ヲ審査致シマス場合ニ於キマシテハ御
互ニ全ク此黨派心ヲ去リ、而シテ公平ニ熱心ニ極メテ冷靜
ニ其條理ヲ盡スト云フコトガ、當然ノ事ト吾々ハ信ジテ居
ルノデアリマス(拍手)唯今牧野君ハ少數意見ニ付キマシテ
色々辯護ヲ爲サレ、色々反駁ヲ爲サレタノデアリマス、成程
政府カラ申シマス、洵ニ立派ナ辯護デアッタノデアリマス、
非常ニ立派ナ辯護デアッタノデアリマス、サレバ政府カラ言ヒ
マスルト或ハ豫期以上ノ效果ガアッタコト、思ヒマスカラシ
テ、若シ之ガ既定ノ法律デモアリマシタラ、政府カラ牧野君
ニハ金鵝勳章功一級ガ下ルカモ知レマセヌ然レドモ決シテ
國民ハ之ヲ肯ジマセヌ、更ニ肯ゼザルミナラズ、國民ハ非常
ニ憤慨スルデアラウト私ハ思フノデアリマス(拍手)大正八年
度ノ各決算ニ對シマシテ、會計検査院ノ検査報告書ニ依
リマス、先ヅ一般會計歳入ニ於キマシテ、第一ニ課稅標準
ノ決定其宜シキヲ得ザルモノガ四十一件アルノデアリマス、
金額ガ六百五十萬圓、第二ニ課稅ノ決定緩慢ナリシガ爲、
徵收ノ途ナキニ至リタルモノ十二件、金額五十五萬餘圓、
三、監督上不注意ナリシガ爲、租稅拂込ヲ遲延セシメタルモ
ノ二件、金額二萬圓餘、四、監督上ノ注意ヲ缺キ、多額ノ稅
金ヲ通脱セシメタルモノ四件、其金額六萬七千圓、五、租
稅ノ徵收不足ニ屬スルモノ九十二件、之ガ金額五十八萬
餘圓、六、租稅徵收過ニ屬スルモノ十八件、金額十七萬二
千圓餘、七、土地使用料ノ決定低廉ニ失シタルモノ一件、
金額二萬七千圓餘、八、監督上十分ナリシガ爲、課稅價格
ヲ低トシ、登錄稅ヲ騙取セラレタルモノ一件、金額九百三
十圓、九、名目物品勞力ノ寄附ニ藉リ、歳入ニ編入スベキ寄
附金ヲ別途ニ整理シ、經費ニ移用シタルモノ一件、金額百
三十幾萬圓、十、立木其他物件ノ代價ヲ歳入ニ編入セズ、
直ニ之ヲ使用シタルモノ一件、金額一萬千圓餘、十一、過

當ノ減價償却ヲ爲シタル會社ノ計算ヲ認可シ、記當金ノ
總收三至ラザリシモノ一件、金額五萬二千圓餘、十二、過
當ニ材料製品ノ格下ヲ爲シ、作業益金ヲ減殺シタルモノ一
件、金額六千三百餘圓、十三、過當ニ材料ノ加へ、違約處
分ヲ爲シタルモノ一件、金額百八十圓餘、十四、歳入金ノ
納付ヲ遲延シ、所屬年度ヲ齎リタルモノ一件、金額千百餘
圓、十五、豫定價格ノ算定其宜シキヲ得ズ、低價ニ物件ノ
繰下ヲ爲シタルモノ一件、金額四百七十五圓、合計百七
十八件、金額九百三十二萬九千九百餘圓、ソレカラ一般會計
ノ歳出ニ付キマシテ、一、豫算目的外ノ支出ヲ爲シタルモノ
八件、金額百四十萬圓、二、工事施行上ノ注意ヲ缺キ、國庫
ニ損失ヲ及ボシタルモノ五件、金額二千七萬圓餘、三、虛構
ノ事實ニ對シテ支出ヲ爲シタルモノ十件、金額一萬二千圓
餘、四、競争入札ニ付スベキ工事及物件ノ購買ヲ隨意契約
ニ依リタルモノ五件、金額二百九十九萬圓餘、五、豫算ノ剩餘
アルニ飛ビ、不意ノ物件ヲ購入シタルモノ二件、金額四十
一萬九千圓餘、六、豫算ノ使用其宜シキヲ得ザルモノ七件
金額十七萬六千圓餘、七、監督其宜シキヲ得ズ、出來形設
計ニ違背シタル粗造ノ工事ニ對シ、之ガ代金ノ全部ヲ仕拂
ヒタルモノ三件、金額十五萬圓餘、八、物件ヲ購入スルニ當
リ、請託ノ爲メ國庫ニ損失ヲ及ボシタルモノ一件、金額九
十七萬三千圓餘、合計四十一件、金額五百五十九萬圓餘、
特別會計歳入ニ於キマシテハ、一、過當ノ減價償却ヲ爲シ
タル會社ノ計算ヲ認可シ、配當金ノ徵收三至ラザリシモノ
一件、金額五萬八千餘圓、二、租稅ノ徵收不足ニ屬スル
モノ一件、金額五千二百圓餘、三、低價ヲ以テ土地ノ拂下
ヲ爲シタルモノ一件、金額二千五百萬圓餘、四、物品ノ拂
下ニ當リ、歳入歳出ヲ混同シタルモノ一件、金額四萬九千
圓餘、五、競争入札ニ付スベキ物件ノ貸下ヲ隨意契約ニ依
リタルモノ一件、金額二萬九千圓餘、六、過當ニ對酌ヲ加
へ、違約處分ヲ爲シタルモノ一件、金額二萬八千圓餘、七、
假收入金ノ整理ヲ遲延シ、拂戻ヲ爲サザルモノ一件、金額
百三十一萬圓餘、其他不當ナルモノ一件、金額六千三百
圓餘、合計八件、金額百六十二萬八千圓餘、特別會計歳
出ニ於テ、一、豫算目的外ノ支出ヲ爲シタルモノ十三件、金
額二十六萬圓餘、二、電力ノ購買契約其宜シキヲ得ズ、國
庫ニ損失ヲ及ボシタルモノ一件、金額四萬五千圓餘、三、
工事施行上ノ注意ヲ缺キ、國庫ニ損失ヲ及ボシタルモノ六
件、金額二十三萬五千圓餘、設計上適當ノ注意ヲ缺キ、
且粗造ノ工事ニ對シ、之ガ代金ノ全部ヲ仕拂ヒタルモノ一
件、金額六萬三千圓餘、五、事實ヲ作爲シ、年度所屬ヲ齎
リ、且正當債主ニ非ザル者ニ對シ仕拂ヲ爲シタルモノ一件、
金額一萬八千七百圓餘、六、物品購入上注意周到ヲ缺キ

タルモノ二件、金額八萬五千圓餘、七、年度内竣功セザル
工事ニ對シ、工費ヲ支出シタルモノ一件、金額二萬六千圓
餘、八、物件ノ購入ニ當リ、年度所屬ヲ齎リタルモノ二件、
金額五萬二千圓餘、九、地方費ニ對スル補助其當ヲ得ザ
ルモノ一件、金額七萬圓、十、豫算ノ使用其宜シキヲ得ザ
ルモノ三件、金額五十一萬九千圓餘、十一、物件ノ購入ニ當
リ、措置其宜シキヲ得ズ、國庫ニ不利ヲ來シタルモノ一件、
金額八十五萬五千圓餘、十二、高價ヲ以テ不意ノ物件ヲ
購入シタルモノ一件、金額十四萬七千圓餘、十三、虛構ノ
事實ニ對シテ支出ヲ爲シタルモノ一件、金額八千七百圓餘、
十四、競争入札ニ付スベキ物件ノ購入ヲ隨意契約ニ依リ
タルモノ一件、金額四千七百圓餘、十五、豫算不足ノ爲メ決
算ヲ作爲シ、所屬年度ヲ齎リタルモノ二件、金額二百五十
二萬八千圓餘、十六、物件購入代價ノ増増ヲ爲シ、且ツ不
良品ヲ檢收シ、遲滞ノ責任ヲ免除シタルモノ一件、金額十
七萬七千圓餘、合計四十三件、金額五百七十四萬圓餘、
尙ホ官金ニ於テ、一、國庫金額預入利率ノ協定其宜シキヲ
得ズ、國庫ニ不利ヲ來シタルモノ一件、其他不當ナルモノ一
件、合計二件、官有物件ニ於テ、一、官有財產ノ交換ニ當リ、
官有財產管理規則ニ違背シ、且ツ土地ノ評價低廉ニ失シ
國庫ニ損失ヲ及ボシタルモノ一件、二、印紙切手類ノ出納保
管ニ關シ、監督其宜シキヲ得ズ、國庫ニ損失ヲ及ボシタルモノ一
件、合計二件、以上總計二百四十四件、金額六千九百餘
圓、來リマシタル如ク、歳出入其他ニ關シテ、不當若クハ不法ノ
處置ヲナシ、或ハ怠慢ニ依リマシテ、國庫ニ巨額ノ損失ヲ來
シタコトハ、實ニ歴代ノ内閣中、現内閣ヲ以テ最も其甚シキ
モノ、中ニ數ヘルトコトガ出來ルノデアリマス(拍手)然ルニ牧
野君ノ辯明演說ニ依リテ見マスルト、先刻牧野君ハ大正八
年度ハ最も經費ノ膨脹シタル年デアラフ、而シテ政府ノ非常ニ
誠實ニ金ヲ使ヘテ居ル、此點ニ於テハ政府ニ敬意ヲ表スルト
斯ウ言ハレタノデアリマス、何タル私ハ是ハ暴言デアラウカト
思フノデアリマス(ヒヤ)(拍手)今數ヘ來テ見マスルト、
殆下三百有餘ノ斯ウ云フ不當支出或ハ不法支出ガアルノ
デアリマス、然ルニ洵ニ誠實ニ立派ニ使ヘテ居レタ、洵ニ政府
ニ敬意ヲ表スルト云フコトハ、何タル不都合千萬ナル申サレ
方カト、私ハ洵ニ遺憾ニ存スルノデアリマス(拍手)其中デ荒
川君ヨリモ申述ベラレタル後ノ津下某ノ印紙檢領事件ノ
件デアリマス、是ハ失態ノ最も甚シキモノデアリマス、先キノ
牧野君ノ言葉ヲ藉リマスルト、此事件ハ左程不都合デハナ
イト云フヤウナ意味ヲ言ハレタノデアリマス、先ツソレハ第一
ニドウ云フコトカト云フト、此事件ガ起キタノハ、一ツハ事務
簡捷ノ爲メアル、又モウ一ツ注意ヲシテ賁ハナレバナラヌ
ノハ、他人ガ此失態ノ事件ヲ發見シタルニアラズシテ、通信

省自ラガ發見シタト云フコトモ、注意シテ賁ハナレバナラ
スト云フ御話ガア、タノデアリマス、ソレカラ其次ニハ此七、
八年ハ時局ノ爲ニ非常ニ人ガ不足ヲ告ゲテ、ソレガ爲ニ人
手ガ足ラザリシ爲ニ斯ウ云フ事ガア、タノデアリマス、
ハレタヤウデアリマス、ソレカラ其次ニ津下三等郵便局長ヲ
推薦シタルハ、現内閣ニアラズシテ、大隈内閣ノ時代デア
アルカラ吾々ハ其責任ガ無イカノ如ク御話ガア、タノデア
リマス、是ハ委員會ニ於キマシテモ、局長ハ何レノ時代ニ推
薦ヲサレタカ、任命ヲサレタカト云フコトヲ、荒川君ガ體力質
問ヲサレタト申サレタヤウデアリマスガ、其當時私モ確ニ記
憶ニ存シテ居リマス、政府當路者ハ恰モ其質問ヲ待タルガ
如クソレハ現内閣ニアラズシテ、即チアタ方ノ大隈内閣
ノ時代デアルト、恰モ質問ヲ待タルガ如キ形式ニ於テ答辯
ガア、タノデアリマス、假令其當時推薦サレタカラト云テ、其
責任ヲ免レルコトハ出來ヌデアリマス、又事務ガ簡捷ニハ
タ爲ニ、サウ云フコトガ出來タト仰シヤリマスガ、成程事務ハ
幾ラカ簡捷ニナタカモ知レマセヌ、法規モ簡捷ニサレタカモ
知レマセヌ、併ナガラ事務簡捷ニナリ、法ガ簡捷ニサレタト云
フガ爲ニ、此責任ヲ免レルコト云フコトモ、是亦出來ヌデア
リマス、況ヤ是ガ唯一時ニ起テ事デアハナイ、二年モ三年モ
續イタノデアリマス、其間ニ之ヲ發見セナシタト云フコトハ一
法ノ簡捷ノ爲メデアハナイ、是ハ所謂監督怠慢ノ致ス所デア
ルノデアリマス(拍手)又時局ノ爲ニ人手ガ足リナカク、ソ
レガ爲ニ此犯罪ガ起キタト仰シヤリマスガ、是ガ亦一時ノ事デ
アリマス、サウ云フ言譯モ出來マスセウガ、即チ二年三年
ノ長キ間ガ續イタノデアリマスカラ、若シ監督十分ニシ
タナラバ、二年振リニモ人ヲ増スコトガ出來マセウ、況ヤ三
年振リニモ大ニ人ヲ増スコトハ出來ルノデアリマスカラ、人
手ガ不足ノ爲ニ此責任ヲ免レルコト云フコトハ、何タル言ヒ
振リデアリマセウ(拍手)私ハ當ニ監督不行局ノ爲ニ斯ノ如
キ事ガ出來テ、國家ニ非常ナ巨額ノ損失ヲ來スト云フノミ
ナラズ、之ガ爲ニ大ニ官紀ヲ紊亂シ、綱紀ヲ紊亂スルト云フ
點カラモ、私共ハ甚ダ此事件ハ失態ナリト致スノデアリマス
(拍手)過日委員會ノ席上ニ於キマシテ、誰方カラカ此事件
ヲ政府當路者ニ御尋ネニナリマシタラ、其時ニ野田通信大
臣ハ此件ニ付テハ洵ニ恐縮汗顔ノ至ニ堪ヘヌト言ハレタコトハ
獨リ吾々ノ決算ノ委員會ニ於テノミナラズ、其他貴族院ノ
席上ニ於カレテモ、確ニ此事ヲ言ハレテ居ルト思フノデアリ
マス、然ルニ先刻モ牧野君ノ辯護演說ヲ聽イテ見マスルト、
是ハ單純純事デアアル、而シテ今ノ私ガ申上ゲタヤウナ事デ、
殆下責任ハ無イカノ如ク答辯ガア、タノデアリマス、是ハ前ニ
私ヨリ申上ゲマシタヤウニ、政府ガ思フテ居ラレ以上ノ技

野君ハ辯護ヲセラレタノデアリマス、併ナガラ此津下事件ダ
ケハ、如何ニ世間ニ申シテ居リマスル横暴ニ至ラザルナキ政友
會ノ諸君ト雖モ(ヒヤ)「何ヲ言フ」ト呼フ者アリ)失態
凡ソ三百件ニ近キ諸案件ノ中、此問題ダケハ承認ヲ與ヘル
ト申スコトハ、良心ニ洵ニ慚デラレト見エマシテ、前ニ委員
長ヨリノ報告サレタル通り、印紙切手類ノ保管出納等ニ付
テハ、從來監督手續上、周到ノ注意ヲ缺ケル所アルヲ認ム
ルヲ以テ、將來一層注意スベシ、斯ウ云フコトニナラテ居ル
デアリマス、併ナガラ此希望事項ヲ附セラレタルト云フコト
ハ、政友會ト致シマシテハ、私ハ洵ニ大奮發、洵ニ大出衆ノ
事ト思フノデアリマス(拍手)併ナガラ何ゾ政府ヲ責ムルノ
定ニ緩キヤト云フ感ゾ、私想フノデアリマス(拍手)斯ノ如
キ事件ハ、實ニ空前ノ出来事デアッテ、直シ又絶後ノ大失態
ト私共考ヘルノデアリマス、(拍手)之ガ爲ニ官紀ヲ紊亂シ、
洵ニ綱紀ヲ紊亂スルコトハ、實ニ鮮少ニアラズト私ハ信ジテ
居ルノデアリマス、凡ソ人ヲ正サント欲スレバ、先ツ自分自ラ
自分ノ身ヲ正シウシナケレバナラヌノデアリマス、而シテ政府
諸公ハ、近時次第ニ民心ノ動搖ヲ憂ヒ、此思想ノ惡傾向ヲ
來シタルト云フコトヲ、非常ニ心配サレテ、屢、地方長官ニ訓
令ヲ發シ、屢、地方長官ニ内訓ヲ發シテ、而シテ之ヲ成ベク善
導スルコトニ盡サレテ居ルノデアリマス、併ナガラ此訓令若
クハ内訓ヲ發スル本家本元タル政府ガ、斯ノ如キ此監督ヲ
怠慢シテ、而シテ近來ノ如ク到處官規紊亂、綱紀廢廢ス
ルニ至ラデハ、千百ノ訓令、千百ノ内訓決シテ其效果アルベ
キモノデアリマセヌ(拍手)況ヤ此事件ニ係リマシタ岡山
縣知事ノ如キ、又同縣知事ノ任命シタル同縣ノ某警察署
長ノ如キ、兩者何レモ不正ヲ働キ、大失態ヲ演ジタル所ノ
津下某ガ、共ニ多額ノ金錢ヲ借テ居ルト云フコトハ滿堂
諸君ハ御承知デアラウト思フノデアリマス(拍手)而シテ斯
ノ如キ借財ハ、假令政府ガ辨明セル如ク、貸借——此ノ如
キ貸借ハ個人關係ニ依ルノデアッテ、決シテ公職ノ上カラ何
等不都合ト認メズ斯ノ如キ此言振リハ——此辨明、此政府
ノ庇護ニハ實ニ官紀ヲ紊リ、實ニ綱紀ヲ紊スモノデアリマシ
テ、其罪決シテ輕クナイノデアリマス、況ヤ官吏ノ職務紀律
ノ第十四條三項セルガ如キ、其分ニ應ゼザル負債ヲ爲ス者
ハ過失ノ一タルヘシトアリマス、然ラバ是コソ實ニ其分ニ應
ゼズ、其度ニ超エタル借財デアリマセヌカ(拍手)然ルニ今
日迄何等ノ處置ヲセズ、何等ノ處罰ヲセスト云フコトハ、何
等ノ政府ノ失態デアリマセウ、私共ハ實ニ此風紀ノ上カラ、
官紀ノ上カラ之ヲ嘆クノデアリマス、尤モ此僅ニ共ニ金ヲ借
リマシタ——知事ト一結ニ金ヲ借りマシタガ、僅ニ二千五六
百圓ヲ借りマシタ自分ノ部下ノ警察署長ハ、其當時諭旨
ニナリマシタ何カデ罷マシタ、所ガ是レ以上大キク、二万

幾千圓ノ金ヲ借リタ其知事ハ、今日迄依然トシテ其職ニ居
ルノデアリマス(借リヤウニ依テ違フト呼フ者アリ)而シテ
此現在知事ハ、依然トシテ矢張岡山縣知事トシテ居リマス
ルガ、而シテ總テノ縣下ニ於ケル社會カラ、其無責任、其不
道徳ヲ非難攻撃セラレルニモ拘ラズ、依然トシテ今日其位
置ニ晏如タル如キハ、政府ガ賞罰ノ觀念ニ乏シク、而シテ責
任ノ思想ニ冷淡ナル(國家社會ノ爲ニ洵ニ慨嘆セザルヲ得
ヌノデアリマス(拍手)然ルニ牧野君ハ先刻是等ニ對シテハ
此問題ハ頗ル簡單ダト仰シヤリマシタガ、私ハ簡單ニアラズ
シテ、頗ル重大ナル事件ト致シマシテ、政府ハ特ニ此件ニ付テ
ハ其責任ヲ帶ビタル、ガ當然ト思フノデアリマス(拍手)吾
等ガ決議案ヲ出シマシタ其案件ニ對シマシテ、二三私ハ爰
ニ例ヲ舉ゲテ賛成ノ意ヲ表セヤウト考ヘルノデアリマス、先
ツ最初ニ租稅收入ガ頗ル不公平デアッテ、苛歛誅求ハ此小
資本家ニ多クシテ、大資本家ハ幾ニモ荒川君カラ御遊ベニ
ナリマシタヤウニ、稅稅ヲシ、若ハ減額ヲシテ取テ居ルコトガ
多イト云フ御話ガアリマシタ、正ニ其通りデアリマス、先ツ第
一ニ此八幡稅務署ノ徵收ニ係ル三十七萬一千五百五十
六圓、歲入臨時部第十四款戰時利得稅、第一項戰時利
得稅ニ於テ、同署ノ徵收ニ係ル十六萬幾千圓餘ノ金デア
リマス、是ハ管内納稅者二千二百五十四名ノ所得額三
百七十四萬三千九百二十六圓、及五十七名ノ利得額百
七萬九千九百三十三圓ニ對スル稅額デアリマシテ、抑モ同署ニ於ケ
ル所得決定ノ狀況ヲ見マスルト、連年所得調查委員會ニ
於テ調査額ニ對シテ削減程度ガ著シク妥當ヲ缺クモノナリ
ト認メマシタガ故ニ、之ヲ段々調ベテ見マスルト、其答辯ノ
要旨ハ、從來所得調查委員會ニ於ケル多大ノ削減ヲ認容
シタル人、稅務執行上、圓滿ナル解決ヲ企圖セシ結果ナルモ、
大所得者ニ對スル多大ノ削減最モ考慮ヲ要スルモノナリト
認メ、漸次反省ヲ促シ、十年度ニ於テハ、尙容認シ能ハザル
百七十四名ニ對シ、政府決定ヲ行ヒ、多年ノ弊風ヲ改メタ
リト、斯ウ申スノデアリマス、併シナガラ本件所得決定ノ狀況ヲ
見マスルト、五千圓以下ノ小所得者ニ對シテハ、調査額ニ對シ
九割内外ヲ取テ居ルノデアリマス、而シテ其所得ノ大ナル
ニ從ヒ、漸次遞減ヲ致シテ、十萬圓以上ニ在リテハ、六割餘
ニ過ぎザルノ計算デアッテ、大小納稅者間、負擔ノ權衡ヲ得
ザルノミナラズ、管内大納稅者ハ全國各地ニ御承知ノ通りニ
商店ヲ有スル者多キヲ以テマシテ、當初ノ決定ニ於テ、其削
減甚シキニ於テハ、店舖所在地ノ同業者トノ間、負擔ノ輕
重ヲ來タシ、稅當ヲ缺クモノト謂ハナケレバナラヌノデアリマ
ス、而シテ西川某外五名ノ東京市日本橋區所在營業所
得ノ如キ、永代橋ノ稅務署ニ於テ、經濟界其外實際ノ狀
況ヲ調査致シマスルト、所得額五十萬五千餘圓ニ對シ、十

六萬五千餘圓ヲ削減シ、又大阪市東區ノ所在外村某ノ
營業所得ノ如キ、東稅務署ヨリ十八萬圓ノ通報アリタルニ
拘ラズ、之ヲ十四萬四千圓ニ減額シテ、調査委員會ニ之ヲ
提案シテ、同會ガ更ニ之ヲ九萬七千餘圓ニ削減ヲシテ居ル
デアリマス、森某ニ對スル通報額十萬九千餘圓ヲ八萬七
千餘圓トシテ提案シタルニ、之ヲ尙ホ減額シテ五萬七千餘
圓ニ削減ヲシテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ狀況ニシテ永代
橋稅務署ノ如キ、同一狀態ノ營業者九名ニ付キ、悉ク其
調査額ヲ以テ決定ヲシテ、サウシテ基本ニ對スル所得割合
八分五厘、東稅務署ニ於テハ其割合ガ四分四厘ナルニ比
シ、本署ハ僅ニ二分五厘内外ニ止マルガ如キハ、甚ダシク其
權衡ヲ失スルト同時ニ、即チ餘計ニ納ムル所得ノアリマスル
者ニハ之ヲ少ナクシ、少ナク取ル者ニハ此率ヲ多クスルト云
フコトハ、吾々其甚ダ不當ヲ認メザルヲ得ヌノデアリマス(拍
手)又監督不行届ノ爲ニ、國庫ニ損失ヲ來シタル件ハ、澤山
アルノデアリマシテ、即チ此大阪專賣支局ノ支出ニ係ル六
萬五千餘圓ハ、大阪市鶴町ニ建設シタル鹽ノ倉庫三棟、總
建坪九百坪ノ新營、其他工事費七萬三千七百五十圓ノ
内デアリマシテ、八千五百十九圓八十錢ハ專賣局歳出第
一款專賣局作業費第二項事業費ノ支辨ニ屬スルモノデア
リマシテ、本件ノ敷地ハ、大阪築港ノ際、埋立テタル部分デ
アルノニ、其事業ハ側柱及荷持柱ノ下ノ長サ二間末口四
寸ノ九太二本乃至四本ヲ打込ミ、六寸角二ツ割リノ長サ
二尺ノ盤木ヲ置キ、其上ニ拾土臺トシテ杉ノ四寸角ヲ置
渡シ、且ツ敷地ノ周圍ニ建物ニ密接シテ、上幅一尺八寸深
サ一尺八寸乃至三尺ノ假下水ヲ設ケ、内側ニ限リ土留板
ヲ附スルニ止メ、九年三月竣工シタルモノニ係リ、四月以後
ヨリ包裝鹽ノ倉入ヲ爲シタルニ、五月下旬ニ至リテ、地盤ノ
低下ト共ニ、第一號及第三號ノ兩倉庫ハ、桁行ノ約半分ニ
互リ、一二寸水水測ニ傾斜シ、倉庫ノ片方ガ殆ンド孕出シ
テ、急速補修ノ必要アリトシ、五千餘圓ヲ以テ二重張りト
爲シ、而シテ此側柱ノ壁ヨリ荷持柱又ハ控杭ニ非常ナモノ
ヲ取付ケマシテ、サウシテ色ミナコトヲヤリマシタガ、餘程是
ガ崩レテ仕舞タト云フヤウナ、斯ウ云フヤウナ不都合ナル事
ヲヤッテ居ルノデアリマス、之ハドウカト云ヒマス、全ク監督
不行届ニ依ッテ、斯ノ如キ非常ナ失態ヲ來シタノデアリマス、
ソレカラ競争入札ニ付スベキ工事及物件ノ購買ヲ、隨意契
約ニ依リタルモノノ澤山アリマスルガ、其中デ一二ノ例ヲ舉
ゲマス、第十項ニ此兵器藥費ガアルノデアリマシテ、是ハ
陸軍兵器本廠ノ支出ニ係ル五萬九千餘圓デアリマス、是ハ
同廠ノ委託ニ基イテ、陸軍被服本廠ニ於テ隨意契約ニ依
リ大正九年二月天滿織物株式會社ヨリ、單價三十九圓
四十八錢ヲ以テ購入シタル兵器格納棚覆——覆フ物ニ使

ヒマス所ノ此生雲齋百五十反ノ代金アリマス、右ハ競
争入札ニ付スベキモノト認メマシテ之ヲ段々調ベテ見マス
ト、斯ウ云フコトヲ言フ、其答辯要旨ハ被服ニ屬スル生雲
齋ハ特殊品ナルガ故ニ、被服本廠ニ於テ隨意契約ニ依リ購
入ヲ爲シタルモノナリト云フニアル、然レドモ本件ト同一ノ
目的ヲ以テ、同時期ニ大阪小倉兩兵器支廠ヲシテ調辦セ
シメタルハ、孰モ之ハ競争入札ニ依リ、前者ハ三十二圓九
十錢、後者ハ二十九圓九十九錢ノ違ヒガアルノデアリマス之
ハ特殊品トシテ購入スルノ要ナク、縱ヒ被服本廠ニ購買ヲ
委託スルモ、被服用ニアラザルヲ以テ、全ク之ハ競争入札ニ
付スベキモノデアリマス、是非モ非常ナ不當ナコトデアリマス、ソ
レカラ「簡單」簡單ト呼フ者アリ「簡單」ニヤリマス「謹謹謹
聽」緩クリヤリ給ヘ「又ハ」叮嚀ニト呼フ者アリ其大ハ吳
海軍經理部ノ支出ニ係ル八万九千幾百圓ノ金デアリマス
之ハ吳工廠火藥新營工事費デ、十二万九百二十圓六十
錢ノ内デアリマスシテ、三万一千七百四十一圓三十錢ハ、
大正七年度三屬スルモノデアリマスシテ、火藥庫ノ新營ト共ニ、是
等ノ内外ニ電燈設備ヲ爲スニ過ギザルモノナルヲ以テ、之ヲ
一般ノ會計ニ付シ難キ事由アリトハ決シテ認メヌノデアリ
マス、然ルニ何故カ之ヲ隨意契約ニ依リマシテ、一般ノ競争
入札ニ付セヌト云フコトハ、甚ダ之ハ不當ト吾々共ハ認メ
ルノデアリマス、ソレカラ過當ナル斟酌ヲ加ヘテ、國庫ニ不利
益ヲ來シタル件ガ澤山アルノデアリマス、其一二ノ例ヲ舉ゲ
マス、即チ此文部省ノ徵收ニ係リマス、岡山醫學專門學
校ノ本館並寄外三庫改築工事請負契約解除ニ對シ、
違約金トシテ、林引會社本社組ヨリ納付セシメタルモノデ
アリマシテ、其金額ハ僅ニ三百八十六圓デアリマスガ、右工事ハ
確定價額四万六千三百圓ニ對シ、大正八年八月七日、四
万六千二百五十圓ヲ以テ同會社ニ落札シ、請負契約ヲ締
結シタルモノナルニ、同月二十日ニ入札見積額ニ違算アリト
シ、解約ヲ申出デタルヲ以テ、同年十月二十七日、契約ヲ
解除シ、而シテ契約保證金四千六百五十圓ノ百分ノ四ニ
相當スル前掲百八十六圓ノ金額ヲ徵收スルニ止メ、差額
四千四百六十四圓ヲ免除シタルモノデアリマス、依テ是ガ
事由ヲ色ニ調ベテ見マス、當局ノ答辯ノ要旨ハ事件入
札當時ニ於テハ、時間ノ關係上、物價ノ騰貴殆ト停止スル
所ヲ知ラザルノ狀況ナリシヲ以テ、請負者ガ違算ヲ理由ト
シ解約ヲ申出タルハ不都合ナルモ、多少酌量スベキ餘地ガ
アルノヲ認メ、而シテ文部省工事及物件入札及請負規則
第二十九條ニ依リ、特ニ契約保證金ノ百分ノ四ヲ沒收ス
ルニ止メタルト云フデアリマス、然レドモ同規則第二十條
ニ於キマシテ、落札人落札ノ日ヨリ五日以内ニ契約ヲ締結
セザル時ハ、入札保證金ノ全部ヲ政府ノ所得ト爲スベキ旨

ノ規定ガアルニ由テ之ヲ觀マシテモ、契約締結後全ク之ヲ
履行セザル者ニ對シテ、僅ニ契約保證金ノ百分ノ四ヲ徵收
スルニ止ムガ如キハ、彼此權衡ヲ失スルノミナラズ、落札金
額ト確定價格トノ差ガ僅カ五十五圓ニ過ギザルニ對シテ、違
算ヲ理由トシテ、違約處分ニ多大ノ斟酌ヲ加ヘテ、違約金
ノ大部分ヲ免除スルト云フガ如キハ、全ク其措置ノ不當ナ
ルコトヲ吾々ハ認メルノデアリマス（拍手）ソレカラ其次ニ鐵
道院ノ徵收ニ係ル二万八千七百七十九圓ノ金デアリマス、是
ハ大正七年四月ニ東京市ノ芝區山路某ノ請負ニ係ル西
條線第六工區、及同年八月久米合名會社ノ請負ニ係ル
津和野線第六第八兩工區ノ建築工事費百十四万二千
餘圓ノ内、僅ニ三十三万九千餘圓ノ工事ヲ成功シタルニ
止マリ、尙ホ八十三万三千餘圓ノ未成部分アルニ對シ、請負
人ヨリ解約ヲ出願セル爲之ヲ許容シ、違約金トシテ徵收シ
タルモノデアリマス、抑、右請負工事ハ、其竣工期限ヲ前者
ハ八年十月、後者ハ九年六月、及十年一月ト定メ、請負人
ヨリ本契約ノ解除ヲ請求シタルトキハ、違約金トシテ請負
金額ノ十分ノ一以内ニ於テ、鐵道院ノ定ムル金額ヲ徵收ス
ル約款ヲ設ケタルモノナルニ、孰レモ物價勞銀ノ暴騰ヲ理
由トシ、契約解除ヲ出願セルヲ以テ、山路某ニ對シテハ、八
年四月未成部分七万八千餘圓ニ對シ、三十七百餘圓、久
米合名會社ニ對シテハ、同年五月未成部分七十七百餘圓、
千餘圓ニ對シ、二万五千圓ノ違約金ヲ徵收シ、之ヲ許容ス
ルニ至リタルモノデアリマスシテ、其違約金ハ未成部分ニ比シ
僅ニ百分ノ四内外ニ當リ、從來解約高ノ十分ノ一ヲ下ラ
ザル程度ノ違約金ヲ徵收セル例ニ比シ、甚シク寡少ニ失スル
ノデアリマス、斯ウ云フ不公平ナ事ヲヤルノデアリマスソレ
カラ豫算ノ剩餘アルニ乘ジテ、不急ノ物品ヲ購入シタルモノ、
是モ幾ツモアリマスガ、唯一ノ例ヲ茲ニ舉ゲマス（モウ止
メ給ヘ）緩クリヤリ給ヘト呼フ者アリ是ハ陸軍被服本廠ノ
支出ニ係ル十萬六千六百六十六圓ノ金デアリマスガ、大正九年
三月三十一日ニ、千住製絨所ヨリ購入シタル毛布製作材
料二等複生反毛十萬六千六百六十六封度ノ代價デアリマスシテ、
現品ハ購入後引續キ同所ニ保管ヲ依託シテ、未使用ノ儘
十年度ニ至レルモノデアリマス、右八年度内必要ナキ物品
ヲ購入シタルモノト認メ、之ガ事由ヲ色ニ調査シテ見マス
ト、其答辯ノ要旨ハ、複生反毛ノ使用ニ付テハ、價格ノ關
係上有利ナルヲ認メ、之ガ購入ヲ希望シタルニ、年度末ニ至
リ物價騰貴ニ伴フ豫算約百萬圓ノ令違アリシニ依リ、直ニ
購入スルコト、シ、九年度ニ於テ千住製絨所ヲシテ毛布絨
其他ノ工料製作ヲ爲サシムル計畫ヲ以テ、之ガ材料ヲ準備
シタルモノナルモ、同所ノ軍絨製作ニ於テ「メリノール」羊毛ヨ
リ生ズル反毛ヲ使用スルノ有利ナルヲ認メ、該計畫ヲ變更

シ、複生反毛ハ十年度ニ於テ使用スルコト、爲シタルモノニシ
テ、作業上ノ翌年度所要材料ヲ若干準備スルコトハ已ム
ヲ得ザルモノト云フニ在ルノデアリマス、然レドモ本件物品
ノ賣却ニ關シ、千住製絨所ノ説明スル所ニ依レバ、賣却セ
ル複生反毛ヲ使用シ得ザリシハ、九年度ニ於ケル毛布絨ノ
注文ヲ僅少ナルト、其注文品ハ八年度内製造ニ著手シタル
モノナルヲ以テ、之ニ充當シタルト云フモノナルヲ以テ、答
辯ハ事實ト認メ難ク、物價騰貴ニ基テ豫算ノ不足ヲ補足ス
ル本費ヲ以テ、後年度所要ノ材料ヲ準備セシムル爲ニ、此ノ
如ク多量ノ物品ヲ購入スルガ如キハ、失當ノ措置ト認メ
ナケレバナラヌノデアリマス、此故ニ吾々ハ非常ニ之ヲ不都
合ト認メテ居ルノデアリマス、ソレカラ其次ニ海軍省經理局
ノ支出ニ係ル三十一万九千五百十三圓餘ノ金デアリマス
是ハ製鐵所ヨリ購入セル各種鋼材千三百五十三圓餘ノ
代價デアリテ、艦船修理用トシテ年度末ニ迫リ購入シタルモ
ノナルヲ以テ、之ガ事由ヲ色ニト當局ニ尋ネテ見マス、其
答辯ノ要旨ハ、當時艦船ノ修理用鋼材ノ必要アリシ際、偶
製鐵所ニ在庫品アリシヲ以テ、將來ノ修理用材料トシテ
購入セリト謂フニ在ルノデアリマス、然レドモ大正九年十月
吳海軍工廠ニ就キ之ガ實地ヲ検査スルニ、本品ハ三月末
日同工廠ニ現品ノ納入ヲ爲サシメタルモノニシテ、九年七
月ニ至リ横須賀外二工廠ニ分配ノ目的ヲ以テ所要數ヲ
照會シタルニ對シ、僅ニ三百三十餘圓ノ申込アリシニ止リ、他
ハ所要ノ見込ナク、其儘保管シ居ルノ狀況デアリテ、年度末
ニ迫リ之ヲ購入スルノ必要ガアルト云フコトハ、決シテ認メ
ラヌノデアリマス、之ヲ要スルニ即チ豫算ノ剩餘アルニ附
込シテ不急ノ物品ヲ購入シタル不都合ノ措置デアリマス、拍
手ソレカラ東京砲兵工廠ノ支出ニ係ル十四万七千八百
四十圓ノ金デアリマス、是ハ大正七年十二月東京市日本
橋區野澤某ヨリ購入シタル「ニッケル」四万九千二百八十
圓ノ代價ニシテ、八年五月現品ヲ受入レタルモノデアリマス、
右ハ其單價一圓三圓ニ當リ、高價ト認メラル、ノミナラズ、
當時相當ノ在庫品アリシヲ以テ、購入ヲ爲スノ要ナキモノ
ト認メテ、色ニ調査ヲ致シテ見マス、ト當局ノ答辯ノ要旨
ハ、七年度ヨリ八年度ヘ持越高ハ一見多量ナルガ如キモ當
廠最大作業能力ヲ實現スルコトキハ、六箇月ヲ維持スルニ過
ギズ、且歐洲戰爭ノ狀況ハ本品ノ供給上ノ不調ノ障礙ヲ來
スヤモ保シ難ク、隨テ作業計畫安全ヲ期スル爲、多量ノ豫備
量ヲ必要トスル、然ルニ七年五月初旬ニ於テ野澤某ヨリ十
五万圓單價三圓ニテ供給方申出デタルモ、其納期ハ輸出
禁止又ハ航海中ノ危險等ヲ顧慮シ、當時確知スルヲ得ザ
リシヲ以テ、輸入確定スル毎ニ其數量ニ對シ七年度中ノ條
件ニテ契約ヲ締結スベシトノ口約ヲ爲シタルモノデアリテ、當

本年度豫算外額建設費三十六万七千餘圓、改良費三十九万七千餘圓ニ對シ、甚シク其額ヲ超過シ、豫算ノ經理宜シキヲ得ズ且ツ歲出所屬年度ヲ審ルモノト認メルノデアリマス、仍テ之ガ事由ヲ鐵道大臣ニ質問致シテ見マスルト、鐵道大臣ノ辯明ハ大正八年度ハ歐洲戰爭終熄後初回ノ年度ニシテ、之ガ豫定計畫ハ特別ノ注意ヲ爲シタルモ、戰後ノ經濟界ハ豫想ニ反シ、意外ニ波瀾ヲ極メ、豫算執行上周知ノ注意ト臨機ノ處置トヲ要シ、就中工事材料中ノ調達困難ナリシ結果、年々相當ノ未納繰越テ見込ニ準備シタル諸材料ニ豫想以上ノ納入アリ、爲ニ配給物品ヲ貯藏品トシテ繰越スノ已ムヲ得ザルニ至レリ、而シテ其物品請求券又ハ決算取消ニ係ル物品ヲ決算前ニ使用シタルハ、札帳保線事務所ニ於テ誤テ貸借ノ意味ヲ以テ使用シタル轉轍器ニ止リ、又請負工事ニ在リテハ、年度末マデ現場ニハ幾分ノ未拂出來高アリシモ、當省債務ノ確定ハ工事物件ノ竣工受渡、或ハ當省ノ任意ニ執行スル既成高檢査ニ依ルモノナルヲ以テ、歳出整理ハ凡テ法規ニ基キタルモノデアラテ、所屬年度ヲ混淆シタルコトナシ、唯物品代ニ關シ其運送費ヲ既ニ建築改良費ニテ決算シ、登記ヲ了シタル用地代ヲ未決算ト爲シタル誤扱若干アリシハ遺憾トスル處ナルモ、建築改良ノ如キ繼續事業ニ在リテハ、格別弊害ヲ認メヌト云フノデル、然レドモ本件工事材料品ニ付テハ、既ニ各決算負擔場所ノ所要工事に用テシテ請求券ヲ發行シ、配給ヲ受ケタルモノニ係レルヲ以テ、從來ノ取扱上當然本年度ノ決算ニ整理スベキモノニ屬シ之ガ運送費ヲ本年度ノ決算ト爲シタルハ誤扱ニ非ザルノミナラズ、甚シキハ既ニ當該年度内使用濟ニ係ル物品ニ對シ、單一形式上ノ取消ヲ爲シ、其負擔ヲ翌年度ニ移スガ如キハ法規ニ反スルモノニシテ、辯明ノ如ク札帳保線事務所ニ止ルコトナキハ實地檢査ノ際確認セル處ニシテ、單純ナル誤謬ニ基クモノト認メ難シ、又請負工事ニ在リテハ、宮崎建設事務所ニ於ケル九万四千餘圓ハ、出來高檢査官吏出張ノ事實ニ徴シ、年度内既成高檢査ヲ爲シタルモノナルニ、九年度ニ至リ檢査ヲ爲シタルモノノ如ク整理シタルモノニシテ、此外既ニ請負人ニ於テ竣功届ヲ提出シ、或ハ既成高檢査ヲ願出タルニ對シ、建設局ヨリ各建設事務所ニ對シ一般ニ方法ヲ指示シ、之ガ檢査ヲ遲延シ年度内支拂ヲ爲サザリシモノ頗ル多ク、其額百万圓内外ニ達シ、又ハ保線事務所ニ於テ工事請負人ニ對シ代金ノ支拂ニ代ヘ、出來高證明書ヲ交付セルモノアルガ如キ事實ニ徴シ、故ラニ事實ヲ作爲シ、豫算超過ノ支出ヲ避ケタルモノト認メザルヲ得ヌノデアリマス、以上一二ノ例ヲ舉ゲマシタガ、其例證ハ頗ル多イノデアリマス、之ヲ舉ゲマシレバ、連モ五時間ヤ八時間ニハ盡サヌノデアリマスケレドモ、私ハ時間ガ

切迫致シマシカラ、諸君ニ敬意ヲ表スル爲ニ是デ止メテ置キマス、尙ホ私ハ連アベキ事ハ澤山アル、朝鮮問題、米價問題ガアリマス、是ハ後刻高木正年君カラ詳シク述ベラルル答デアリマス、私ハ以上ノ理由ニ依リマシテ、少數意見ニ賛成ヲ致スノデアリマス(拍手)

○鈴木錠藏君 議長

○議長(與繁三郎君) 政府ノ人デ通告ガアリマシタガ、今其人ハ席ニ居リマセヌ——鈴木錠藏君

○鈴木錠藏君 討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

〔賛成〕(賛成)「下呼フ者アリ」

○議長(與繁三郎君) 討論終結ノ動議ニ定規ノ賛成ガアルト認メマス、起立ニ依テ決シマス、討論終結ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔賛成者 起立〕

○議長(與繁三郎君) 多數——仍テ討論ハ終結サレマシタ、採決致シマス、修正意見中委員長ノ報告ニ係ル分ヲ除キタル其他ノ部分ニ付テ採決致シマス、少數意見ノ中ニハ委員長ノ報告ト合致シテ居ル部分モアリマス、故ニ其部分ヲ除イテ、其他ノ部分ニ付テ採決致シマス、賛成ノ諸君ハ起立

〔宣告ガ分リマセヌ〕「下呼フ者アリ」

○議長(與繁三郎君) 御座ハリナサイ——二度宣告シテ居ルノデゴザイマスガ、モウ一度徹底スルヤウニ言ヒマス、此少數意見中、委員長ノ報告ニ係ル部分ト同一ナルモノヲ除キ、其他ノ部分ニ付テ採決致シマス、之ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔賛成者 起立〕

○議長(與繁三郎君) 起立少數——次ニ委員長ノ報告ニ付テ賛否ヲ起立ニ依テ決シマス、委員長ノ報告ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔賛成者 起立〕

○議長(與繁三郎君) 起立多數——仍テ本案ハ委員長ノ報告通リ是認スルコトニ決シマシタ(拍手)

○鈴木錠藏君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ政府提出貴族院送付取引所法中改正法律案、及政府提出貴族院送付感化法中改正法律案ヲ各別ニ議題ト爲シ、第一讀會ノ續ヲ開キ、各委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラレシコトヲ望ミマス

〔賛成〕(賛成)「下呼フ者アリ」

○議長(與繁三郎君) 鈴木君ノ議事日程變更ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更サレマシタ、取引所法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長川原茂輔君

取引所法中改正法律案(政府提出貴族院送附)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一取引所法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十四日

取引所法中改正法律案委員長 川原茂輔

衆議院議長與繁三郎殿

〔川原茂輔君登壇〕

○川原茂輔君 所得稅法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ報告致シマス(間違ヒマシタ「下呼フ者アリ」)所得稅ハ間違ヒマシタ、取引所法デアリマス、本案ハ委員ニ付託セラレマシタ以來、委員會ヲ開キマスルコトガ四回、而シテ委員諸君ハ此問題ニ餘程精通セラレシ人モアリマシテ、其應答モ詳細ヲ盡シタノデアリマス、本案ハ四十四回ニ提出セラレマシタノ其内容ハ同一デアリマス、現行取引所法ハ二十六年ノ制定ニ係リマシテ、爾後幾多ノ改廢ヲ加ヘラレマシタクレドモ、經濟界ガ非常ニ發達ニ伴ヒマシテ、改正ヲナシテハ實物取引ヲ助長シテ、無謀ナル振興取引ヲ抑制シテ、以テ公正ナル公定相場ヲ示シ、其機能ヲ發揮セシメントスルノ理由デアラシタノハ、凡ソ大要四點デアリマス、其第一點ハ取引所組織ニ一種ノ區別ガアル、一ツハ株式組織、一ツハ會員組織デアル、此株式組織ハ會員組織ハ各相當ノ證據ガアルモノデアラデ、試ニ諸外國ノ實例ヲ徵シテ見マシレバ、當業者ノ取引團體ヲ本體トスル會員組織ヲ以テ理想トシナケレバナラヌト言フガ如キ者アレドモ、我國ノ株式組織ノ取引所ハ、四十餘年ノ歴史ヲ有シ、我が國情ニ依テ今日ノ發達ヲ爲シ、其採ルベキ點モ亦甚ダ多イデアアル、故ニ全國取引所ヲ劃一的ニ會員組織ニスルガ如キハ、大ニ考慮ヲシナケレバナラヌ必要アルヲ以テ、株式組織、會員組織兩方面ノ長短ヲ補ヒ、之ヲ整理シテ、實情ニ適合セシメ、其實現ヲ速成セシムルコトヲ以テ、第一點デアリマス、第二點ハ從來ノ株式組織ノ取引所ハ、賣買取引ノ安固ヲ期スル爲ニ、擔保ノ責任ニスベキモノトシテアタノデアリマス、然レドモ大體取引物ハ、本來當局者自ラ擔保ノ責任ニ當ルト云フコトヲ以テ、本旨トスベキモノナルニ第三者タル取引所ガ之ヲ負フガ如キ制度ハ、我が國情之ヲ必要トスル事情ガアルノデアアル、併シ其長所モ亦之ヲ認メナケレバナラヌノデアアルガ、諸種ノ弊害ノ根元ハ看過スルコトガ出来ナ

イ、仍テ經濟界ノ實情ニ徴シテ取引所ニ擔保責任ヲ負ハシメ、必要アル場合ニ於テハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケテ、其實際ノ必要ニ適應セシメナケレバナラヌト云フガ理由ノ第一點デアリマス、第三點ハ取引期限ヲ徒ニ長カラシムルノ不健全ナル振興取引ヲ多カラシムル虞ガアリ、故ニ長短相制シテ取式ノ實物化ヲ期シ、堅實眞摯ノ機關トラシメナケレバナラヌト云フ理由デアリマス、第四點ハ有價證券ガ振機物件タル性質上、取引スル事情ガ必然的ニ差金決済ヲ伴フコトハ明白ノ事實デアアル、仍テ是等ノ取引ヲ爲ス市場ハ、總テ取引所法ニ依テ之ヲ律スルコト、シタノデアアル、更ニ其他ノ商品ニ付テモ、取引所外ニ於テ差金取引ヲ爲ス取引所類似ノ取引ヲ爲スコトヲ嚴禁シ、社會ニ害毒ヲ流スコトハ之ヲ防遏シナケレバナラヌト云フ理由デアリマス、是等ノ理由ヲ聽取リ、委員會ニ於テハ十分ノ審議ヲ盡シマシテ、貴族院修正ノ通りニ滿場一致ヲ以テ同意ヲシタノデアリマス、特ニ茲ニ實際的ノ問題トシテ、御報告ヲシテ置カナケレバ、將來行政官ノ心理上ニ於テ、若シ間違ガ起ルトキニ於テハ、經濟界ニ及ボス影響ハ多大ナモノデアルト云フ意味ヨリ、幾多ノ質問應答ヲ重ネマシテ、其解釋上取扱上ニ付テハ悉ク速記ニ載テ居ルノデアリマス、即チ本案ガ若シ實施セラレマシタ結果ハ、或ハ經濟界ニ意外ノ變動ヲ及ボシハシナイカト云フコトガ、非常ニ憂懼セラレタル點デアリマス、此實際的ノ御話ヲ申上ゲマスレバ、例ヘバ東京若クハ大阪其他ノ株式取引所ニ於テ、其取引所ガ満期ニ至ル、満期ニ至リマシタ場合ニ於テ、此株式組織ヲ強制的ニ會員組織ニ爲シハセナイカト云フ一點ガ、非常ニ心配セラレタ所デアリマス、之ニ付テ特ニ幾多ノ應答ヲシマシタ結果、法ノ精神即チ農商務大臣ノ答辯、行政官トシテノ取扱フ順序上ヨリ答辯セラレマシタコトハ、其取引所ガ満期ニ至テ、其取引所ガ株式組織トシテ之ヲ許ス、強テ農商務省トシテハ、會員組織ニセナケレバ許サナイト云フ手心ハシナイノデアアル、併ナガラ將來更ニ起ル所ノ取引所ニ對シマシテハ、株式組織トシテハ許サナイ、即チ理想タル所ノ會員組織ヲ以テ之ヲ許可スルノデアアル、斯ウ云フ譯デアリマス、仍テ一部ノ人ニ於テ例ヘバ東京株式取引所ノ株式、或ハ大阪株式取引所ノ株式ノ如ク五十圓拂込ガ二百圓乃至三百圓ト云フエライ價格ヲ成シテ居ルモノガ、満期ニ至テ更ニ繼續ヲ願ヒマシタ場合ニ、會員組織ニセナケレバ許サナイト云フ結果ヲ現シマシタラバ、其株式ヲ持テ居ル人ハ非常ナル損害ヲ受クルノデアアル、併モ其取引所其モノガ、是非其是マデノ通り株

式組織ニセナケレバナラヌト云フ出願デアルナラバ、則チ之ヲ許ス、斯ウ云フ譯ノ答辯ヲ得マシテ、此點ニ付テハ大ニ安心ヲセラレタ領デアリマス、ソコデサウスルト事實ニ於テハ現在ノ株式取引所ハ、未來永却株式組織デアルト云フコトノ結果ヲ得タリマス、ソレカラモウ一ツ此新法ノ中ニ取引所ノ諮問機關、言ヒ換フレバ即チ調節ト謂フモノ宜ウゴザイマセウガ、之ニ向テ商議員ト云フモノヲ若干置クモ云フ法文ガアルノデアリマス、之ニ向テ政府委員ハ貴族院ニ於テ、取引所側ノ役員ト仲買人側ト約ソ同數ノ商議員ヲ置イタル宜カラウカト考ヘテ居ル、斯ウ云フ御答辯ガアタサウデアル、之ニ對シテ委員ノ方ヨリ、取引所側ヨリ假ニ四名、仲買人側ヨリ假ニ四名、十人トスレバ、跡ニ人殘ル、其二人ハ即チ此取引事業ニ經驗アル功勞アル人ヨリ商議員ヲ任命シテ、而シテ相互ノ意思ノ疏通ヲ圖リ、此事業ノ發達完成ヲ期シタナラバドウデアラウカト云フ希望ヲ述ベラレタデアリマス、之ニ對シテ政府ハ未ダ勅令ノ制定ハ致シマセヌ、此勅令ハ獨リ農商務省ノミヲ以テ爲シ得ザル事デアリマス、只今ノ例ヘバ四、四、二ト云フガ如キ事ハ、大ニ考慮ヲ致シマセウト云フ答辯ヲ得タリマス、以上ノ數點ニ依テ往復致シマシテ、而シテ各黨各派此本案ノ成立ニ同意セラレ、即チ滿場一致ヲ以テ貴族院修正通り決定シタノデアリマス、本會ニ於テモ滿場一致御賛成ヲ希望致シマス(拍手)

○議長(奧繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○鈴木錠藏君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定アラランコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 異議ナシト認メマシテ、本案ノ第二讀會ヲ開キマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)——感化法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス委員長高見之通君

官報號外 大正十一年三月二十五日 衆議院議事速記第三十四號

感化法中改正法律案(政府提出貴族院送付)

報告書 第一讀會ノ續(委員長報告)

一感化法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十四日 感化法中改正法律案委員長 高見之通

衆議院議長奧繁三郎殿

〔高見之通君登壇〕

○高見之通君 政府提案ニ係ル感化法中改正法律案ノ經過ヲ御報告致シマス、此感化法ハズト以前ヨリアルノデアリマス、少年法案ナルモノガ出來マシタ爲ニ、少年法ニ於キマシテハ、十四歳カラ十八歳マデヲ取扱フノデアリマス、然ルニ感化法モ十八歳以下トナリマス、故ニ、十四歳十八歳ハ二重ニナルコトデアルカラ、此所デ感化法ヲ改正シテ十八歳十四歳ニ改メマスルト云フト、彼此均衡ヲ保ツト云フコトデ此改正案ガ提出サレタノデアリマス、又少年法ニ依テ少年審判所ヨリ時ニ、感化院ニ送ルト云フコトノ規定ガアリマス、此規定ニ依テ感化法モ改正シテ、少年審判所ヨリ送ラレタル者ト云フ一箇條ヲ加フル必要ハ、第二ノ改正ノ趣意デアリマス、少年審判所ハ御承知ノ如ク其數極メテ少イ、感化院ハ各縣ニ在ル、是ニ於テ地域ニ衝突ガアリマス、少年審判所ノ無イ方面ニ於テハ、此法律ハ感化院從來ノ通りニスルト云フノガ、附則ニ於テ自然改正ノ結果トシテ第三點デアリマス、以上三點ニ付テ十分ニ審議致シタル結果、總テ適當ナル改正ナリト信ジマシテ、特別委員會ニ於キマシテハ全員一致ヲ以テ可決シマシタデゴザイマス、本會議ニ於テモ、滿場一致御賛成アラランコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(奧繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○鈴木錠藏君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定アラランコトヲ望ミマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

感化法中改正法律案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク、委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)——日程第三、農業倉庫業法中改正法律案第一讀會ノ續ヲ開キマス委員長報告ヲ求メマス、中倉万次郎君

第三 農業倉庫業法中改正法律案(花城永渡君外四名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

〔中倉万次郎君登壇〕

○中倉万次郎君 只今日程ニ上リマシタ農業倉庫業法中改正法律案委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、此案ハ花城君ノ提出ニナリマシタ案デアリマス、此提出案ノ全部ヲ申上デマス、第一條中「穀物若ハ藁若ハ又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル藁物」ヲ「穀物藁若ハ砂糖若ハ又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル藁物」ニ改メ、第十五條中「穀物」ノ下ニ「砂糖」ヲ加フ、是ダケノ案デアリマス、委員會ハ數回開キマシテ調査ヲ致シマシタ、此案ハ修正致シマシテ可決ニナリマシタデアリマス、其修正ノ文字ハ「穀物砂糖」トアリマス、中ニ「藁若ハ」ト入レマシテ、其下ノ「若ハ藁」ト云フヲ削リマシタ、ソレカラ二行目ノ一番終リニ「改メ」トアリマス、ノ改メ左ノ一項ヲ加フト云フコトニ致シマシテ、其一項ハ「第一項砂糖ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」ソレカラ十五條中「穀物」ノ下ニ「砂糖ヲ加フト云フ」ヲ「又ハ藁」ヲ「藁又ハ砂糖ニ改ム」是ダケ修正ヲ加ヘタノデアリマス、此全文ヲ朗讀致シマス、斯様ニナリマス、第一條中「穀物若ハ藁若ハ又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル藁物」ヲ「穀物藁若ハ砂糖若ハ又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル穀物若ハ又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル藁物」ニ改メ、左ノ一項ヲ加フト云フコトニ致シマシテ、其一項ハ「第一項砂糖ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」第十五條中「又ハ藁」ヲ「藁又ハ砂糖」ニ改ム此通り修正ヲ致シマシテ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス(拍手)

○議長(奧繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○鈴木錠藏君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

八三三

四 牧野ノ保護、維持ニ關スル事項ヲ制定スルコト

獎勵金ノ交付、官行造林ノ設定、植樹獎勵金ノ交付等法

規ノ保護ノ下ニ、年々頗ル多額ノ獎勵金ヲ御交付ニナリマ

シテ、即チ本年迄ニハ、先般吾々ノ手ニ御而ニナクヤウナル成績ヲ擧ゲテ居リマスノデアリヤス、又政府ハ開墾助成法ナルモノヲ、數年前帝國議會ノ協賛ヲ經テ御出シナリマシテ、サウシテ開墾理立干拓開田等ヲ爲ス者ニ付テモ、十分ナル助成金ヲ御交付ニ相成リマシテ、之ヲ獎勵ニナシテ居リマスル、是ハ洵ニ國策トシテ其當ヲ得タモノデアリマス、斯ノ如ク致シマシテ我國ノ産業ハ、其目的ニ向テ相當ノ發達ヲ致シテ居ルニモ拘ラズ、獨リ畜産業ノ現況ガ甚シク之ニ伴ヒマセヌ所以ノモノハ、其根本問題タル所ノ牧野法ト云フモノ、制定ガアリマセヌ爲ニ、其保護獎勵ニ關シマスル國策ト云フモノヲ今日更ニ闡却サレテ居リマスルト云フコトハ、實ニ國家ノ爲ニ吾々ハ慨歎ニ堪ヘヌ者デアリマス、現在我が帝國ニ於テ三百五十万町歩ノ原野ハ、現今ノ國家ノ規定ニ依リマスル法律ニ依リマズレバ、早晚造林又ハ開墾セラルベキモノト解釋ヲ下サヌケレバナリマセヌ、世人ハ此原野ト云フモノ、存在ヲ、甚シク土地ノ利用ノ不經濟ナルモノト唱道シテ居ルケレドモ、決シテソナチモノデハナイノデアリマス、此畜産ヲ發達セシメント欲セバ、牧草ヲ造ル所ノ原野ト云フモノヲ、相當ニ國家ガ之ヲ法律ヲ以テ保護致シマセヌケレバナラヌモノト、私ハ確信ジテ疑ハヌノデアリマス、ソコデ私ノ希望致シマス所ノ牧野法ナルモノハ、凡ソ左ノ事項ヲ希望スル所ノ法令デアリマス、以テ畜産業ノ振興ノ基礎ヲ速ニ御確立アランコトヲ熱望スルノデアリマス、第一ハ牧野ノ定義ヲ明ニスル事、第二ハ牧野ト開墾地植林地等ノ管理區分ヲ明ニ制定セラル、事、第三ハ牧野ノ整理及設備ヲ令スル事、第四ハ牧野ノ保護維持ニ關スル事項ヲ制定スル事、第五ハ牧野ノ整理設備維持ニ關シ獎勵金ヲ國庫ヨリ交付サル、事、是ハ獨リ私ノ持論デハアリマセヌ、此件ハ大正十年ノ十二月ニ開催致サレマシタ所ノ第四回全國畜産組合代表者ノ會議ニ於キマシテモ、是ト殆ト同様ナル希望條件ヲ以テ當局者ニ願フテ居ルノデアリマス、現在畜産ガ我國ニ於テ不振デアデ我國ニ比シテ甚ダ劣テ居リマスルト云フコトハ、此馬政ノ現狀ニ見テモ明カアル、佛國ノ如キハ八十一頭アルハ、米國ノ如キハ三百四十頭アル、獨逸國ノ如キハ六十九頭アルニモ拘ラズ、我日本ハ僅三十頭シカ無イト云フヤウナ次第デアリマス、此事ニ付テハ此印刷物ニ詳シク書イテゴザイマスルカラ喋々ヲ要シマセヌガ、私ノ此建議案ト云フコトニ付テ、最モ必要デアルト云フガ、此中ニ書イテアル、即チ放牧採草地ノ擴張及其管理ノ改善ヲ爲サヌケレバナラヌト云フコトガアル、此放牧採草地ハ產馬事業ノ基礎デアルカラ、必要ナ地積ヲ供給シテ、管理ヲ改善シテ草ノ生育ヲ保護スルト云フコトハ、極デ

產馬政策上必要ナモノデアルト云フコトガ此中ニモ書イテアルノデアリマシテ、是ハ即チ私ハ決シテ御土產案デアリマセマ、公體農商務省ニ於テ、今日迄馬政ヲ斯ノ如ク閑却サレタト云フコトハ、私ハ甚ダ遺憾ニ堪ヘヌデアリマスカラ、這ニ諸君ニ於テモ御賛成アラント望ミマス

○鈴木鐵藏君 本案ハ土井權大君提出農業組合法案外十一件ノ委員ニ、併セテ付託セラレコトヲ望ミマス

「賛成」賛成「下呼フ者アリ」

○副議長（稻谷義三君） 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第五、曆法改正ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、早川龍介君

第五 曆法改正ニ關スル建議案（早川龍介 君提出）

（早川龍介君登壇）

○早川龍介君 是ハ簡單ニ理由書ニゴザイマスガ、詳シク申述ベマスルト殆下一時間餘モ掛リマセウト存ジマス、茲ニ記載致シテ居リマスモノヲ御承認ヲ得マシテ、之ヲ速記ニ掲載ヲ致シマスルコトニ致シタイ、ソレドウン御賛同アラムコトヲ願ヒマス

〔參照〕

本按ニ對スル所見ヲ述ベテ御贊同ヲ得タイト存ジマス抑モ曆法ナルモノハ天地間ノ人生ニ於ケル如何ニ大切ナルモノデアルカハ頗ル考慮ヲ要スルコトデアリマシテ又曆ガ我が國體ト儀禮ニ大ナル關係アルコトモ考ヘネナラヌ事ト思ヒマス天地ハ其源始終局ノ幽遠ニシテ人知ノ及ブ可キデアリマセヌガ此ノ天地ノ間ニ生ズル人ニハ必ズ終始ガアルコトハ申迄モアリマセヌ故ニ天ノ運行即チ日輪ノ輝キヲ地ニ受ケテ此間ニ人ヲ生ジ人ガ集テ國ヲ爲スニ至テ初テ規矩準繩度量權衡ノ必要ヲ生ジ有形無形ノ法律ヲ定メテ秩序整然トシテ國ノ體ヲナスノデアリマシヨウ即チ國體ハ建國ノ歴史ヨリ今日ニ至ル動カス可カラザル體デアテ一ツノ人間ガ母腹ヲ出テ今日ノ人トナリ居ル現在ト同様デ一國一國ノ體ハ人間各ノ異ルガ如ク同ジデアリマセヌ人間ノ元始ニ附テハ種々議論ガアリマスガ一定ノ見解ハアリマセヌ故ニ申ス必要ハアリマセヌガ我が皇國ハ天照皇天神ガ高祖デアテ我が天皇ハ高祖ノ系子デアテ皇國ノ大道ハ天地ノ道即チ日月星ノ運行ヲ踏マセ給フノデアル明治天皇ハ明治元年三月神明ニ誓ハセ給ヒ萬民保全ノ道ヲ立ントステ五ヶ條ノ御誓文ヲ發セラレタノデス其第五條ニ舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシトアリ又明治五年四月ノ御教憲ニハ天理人道ヲ明カニスヘキ事トアリ明治大帝

ハ終始一貫シテ天理ヲ以テ人ノ行ク可キ道トシテ天地ノ公道ニ則リ日祖ノ神勅ヲ守リ給フ神武天皇ノ詔ニ今諸房已ニ平ク海内無事郊ヲ以テ天神ヲ祀ル可シ以テ大孝ヲ申ルモノナリトアリマス以後歷代ノ天皇此ノ皇道ヲ踏マセ給フニヨリ天津日嗣ト申シ日ノ御子ト申シ奉ルノデアリマシヨウ夫レ天地ノ公道トハ日神ノ東ヨリ西ニ進マル、道ヲ緯ト云ヒ冬至ヨリ夏至ニ至リ復テ冬至ニ回ラル、道ヲ經ト云フ天ノ一方ヲ以テスレハ冬至ニ始テ冬至ニ終ル可キモ地ノ道ハ天ノ十字ニ對シ良巽坤乾ノ斜形タル×字形タルニヨリ天ノ東西南北ト地ノ良巽坤乾トヲ合シテ米字形ノ八方トナレリ八咫ノ鏡八咫ノ曲玉ヲ神寶トシ皇位繼承ノ寶器タルノデス天地ノ間ニ住メル人ノ道トシテハ冬至ノ日ヨリ四十五日ヲ經タル四十六日ノ立春ヲ以テ年ノ始トスルハ即チ天地ノ公道デアラネバナラヌデアシヨウ神武天皇ガ國原ニ於テ即位ノ大禮ヲ行ハセラレタルノハ立春ノ元日デアテ郊ニ天神ヲ祀テ大孝ヲ申フト仰セラレタルノガ日本國ノ大道デアルノデアシヨウ東西ノ道之ヲ緯ト云ヒ南北ノ道之ヲ經ト云フ神ハ天地ノ經ナリ儀ハ人ノ道ナリ人トシテ禮儀ナケレハ人ニ非ラス人ニシテ禮儀ナケレハ禽獸ニ異ルコトナシ故ニ禮儀ヲ正シクセザレバ國家ノ秩序ハ立タサルベシ儀禮ヲ正シクセントスルニハ曆本ニ據ラサル可カラズ正月元旦ハ年ノ始メトシテ年始新元ノ禮儀ヲ行フモノデアリマス此ノ年始ノ禮ガ土地ト處ト身分職業ニ據テ異リ居ルノ現狀ハ如何デアリマス斯ノ如キ現狀デ民心ノ一致ヲ叫ブハ實ニ木ニ據テ魚ヲ求ムルモノデアリマシヨウ斯ク中カラバ現在ノ曆デ皆々意氣ヲ併セテヤレバヨイデアハ無イカト申ス人モ有リマセウガ夫レ出來ヌハ現在ノ曆ガ我が國體ト民心トニ合致セヌ羅馬曆デアラカラス大古神武天皇ノ時ヨリ應神天皇ノ頃マデハ眞ノ氣候ヲ以テ元トセル曆法ガ行ハレタノデアリマセウガ支那曆ガ來テヨリ月ノ盈缺ヲ本トセル大陰曆ガ行ハレタノデスカラ明治五年ニ羅馬法王ゲリゴリー十三世ノ製作ニ係ル羅馬曆ガ大陰曆ニ對スル幾分ハ太陽ノ運行ニヨル曆デアル處ヨリ太陽曆ノ名ヲ以テ且ツ西歐ノ物質進步ニ脅威セラレ四年目ニ閏月ノアルト云フ會計上ノ不便又ハ世界共通ト云フ西洋崇拜等ニヨリ君側ノ奏上ニヨテ御發詔ニナタモノト思ハレマス爾後岩倉右府ガ維新創造ノ際ニ於ケル三大失策トシテ算ヘラル、中ノ一ツニ此改曆ガ加ヘラレテ居ルノデス蓋シ當時此曆法ガ羅馬曆ト云フ事實ノ名ヲ以テシタナラバ必ズヤ明治大帝ハ御採用ニナラナカッタニ相違ナイト思ハレマス爾來五十年間此ノ曆ヲ布カル、モ國民ノ多數ガ自ラ背コウト云フ惡意デモナク事

更ニ抵抗スルノ意味デモナクシテ現行曆ノ年始ハ唯ニ申譯トシテ門ニ松ヲ立テ學校ト役場位ニ年始ノ挨拶ヲ爲ス計リデ心カラノ祝辭ハナサヌデアル又ナシ得ラレザルモノハ年ノ始メヨリ寒ニ入テ寒クナル時ニ當リオ芽出タイト云フガ如キ言葉ヲ以テ年始ノ祝辭ニ噓ヲ言ヒタルト云フハ良心ニ快カラザルコトデアラベシ我國ノ大道ハ眞事ト云フコトヲ旨トシテ來リシ大自然ノ教化中ニ産シ來タ日本國民ノ同ジ兼ルコトハ理アルコト、思ハネバナリマスマイ天地ノ公道ヲ基礎トセザル教育、天地ノ公道ヲ基礎トセザル宗教、天地ノ公道ヲナミスル政事、民心ノ動亂、思想紊錯、政テ怪ムニ足ラズアル政事ノ主腦ガ公道ニ背キ誠意ナキニヨリ教育ノ精神ニ缺陷ヲ生ジ少年ガ教育ノ進ムニ從テ祖先ノ業ヲ守ルノ念薄ラキ殊ニ農業者ノ如キハ村落ノ居住ヲ嫌ヒ男女共ニ農業ヲ鄙シテ都市ニ移リ田園將ニ荒蕪ニ歸セントスルノ傾キガアルデアリマセヌカ多額ノ教育費ヲ散ジテ此傾キヲ生スル精神ノナキ教育ハ寧ろナキニ如カラザルモノデアルト思ハル、ノデアリマス推古天皇ノ憲法ニ曰ク詔ヲ承ケテハ必ズ謹メ若ハ之ヲ天ニ則リ臣ハ之ヲ地ニ則トシ天覆ヒ地載セテ四時順行スレハ萬氣通スルコトヲ得トアリマス、乃チ陛下ノ御惱ハ日ノ蝕ノ如キデアラガ御健康デアラセラル、時ヨリハ一倍三倍數倍ノ勵精盡力ヲ以テ輔弼シ奉リ寢食ヲ忘レテ奉行ノ内變ハ十一月四日ニシ其一ヶ月前即チ十月四日ニ宮内省ヨリ發セラレタル御容體書ナリ如何ナル必要アッテ斯ル發表アリシカチハ斯カ、御容體ハ事實ニ幾分ノ相違アルカヲ疑フモノデアス若シ御容體發表ノ必要アリトセハ政務ヲ見ワナワセラレハ御健康ニ宜シカラサル旨ノ一語ニシテ足レルコト、思ヒマス殊ニ第二項ノ文ニ至テハ事實ニ相違アルモノト信シテ悲泣落涙ニ堪ヘザルコトニシテ斯ク發表セラレハ國外ニ迄デ響クコトニシテ何共言語ニ絶シ言葉ダニ出ヅル能ハヌコトデアリマス 皇后陛下 攝政殿下 各皇子ニ於ケラレテハ如何ニ御悲シ給フカヲ拜察シ奉レバ唯々慨歎落涙ノ外ハアリマセヌ 今上陛下ハ御病身ニハアラセラル、モ賢明ナル 攝政殿下ヲ始メ四柱ノ皇子ヲ設ケサセラレテ近キ御歷代ニハ稀ナル御功德デアラセ給フコトハ國民ノ深ク頌贊シ奉ル處デアリマス此事ニハ原氏ハ關係ナカリシカ授爵御沙汰ヲ豫防シテ平民ノ名ヲ銜フ氏ノ腦底ニハ如何ナル企畫ノ伏在セシヤ今ハ現世ノ善惡ガ消滅シタル一片ノ基石ニハ云フベキコトモナイノデアリマスガ此ノ勤王者ノ意志ヲ繼承シツ、アル首相ハ天地ノ公道ヲ如何ニ解セラル、ヤ公道ヲ明カニセ

トスレバ先ツ以テ曆法ノ改正ヲナスベシデアリマス以上ノ陳述ハ本員ガ曆ト國體曆ト國家曆ト國民トノ關係ニ據ル意見ヲ述ベタノデス然ラバ如何ナル曆ヲ用ユレバヨイカト申セバ四十年來一貫専心ニ曆法ニ就テ家ヲ去リ身ヲ顧ミズ研究シテ成レル徳島縣人藤茂三郎氏ノ中正曆ナルモノデアリマス是ガ現今ノ羅馬曆以上ノ日本ノ大古曆デアリテ太陽曆ノ名ニ背カヌモノデアリマスセウヨリ學者デアリマスセウカヲ幾分不備ナ點ハアリマセウカラ之ヲ元トシテ皇國曆ヲ製出シテ日本ニ行フコトニシタイノデス此ノ中正曆ニ賛成ノ人ハ二千餘ニ達シ其重ナル人々ニハ物集博士ヲ始メ十數人ノ博士ヨリ後藤市長平沼大審院長田子社會局長等モアリマス曆法ノ詳細ハ註ニ致サレマスセウ委員會議リマスガ終リニ申テ置キタイノハ昨冬紐育タイムスニ日本ノ文明ハ一新ヲ要スト

トシテ日本ハ最近七十年間ニ於ケル物質文明ノ進歩ヲ誇リ居ルモ汽車鐵橋製鐵所ヲ以テ直ニ人類ノ最大偉業ナリトナスヲ得サルト共ニ軍艦ハ高尚ナル人類ノ作品ト稱シ難シ日本ハ宜シク其物質的事業ヨリモ更ニ偉大ナル精神的事業ヲ成就シテ世ニ誇ルヘキナリ今日先進國ト目セラル、西歐國ノ手ヨリ文明ノ炬火ヲ奪ヒ從來模倣者ニ甘シタル舊套ヲ脱シ世界ノ先驅者トラサル可カラズト評セリ其底意ノ善惡ハ聽者ノ意見ニ任スベクモ日本ノ至誠公道ノ精神ニ富メル舊時ニハ敬服シ居ルモノ、如シ故ニ若シ日本ニミ改曆ヲ行フニ懸念アラバ世界ノ各國ニ於テ舊法改正ヲ叫ビツ、アル機會ニ際シテ日本ニ關レタル正シキ曆法ヲ提議シテ同意ヲ求ムルニ勤メタキコトニナリ實ニ伊勢ノ神宮ヨリ羅馬法王ノグリゴリー曆ノ發行ハ恐レアルコト、思ヒマス大要ヲ述ベテ御贊同ヲ得タイト思ヒマス

○鈴木錠藏君 本案ハ福井三君外四名提出、奈良ニ美術學校建設ニ關スル建議案外八件ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第六、毛織物ノ廉價供給ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、多木久米次郎君

第六 毛織物ノ廉價供給ニ關スル建議案
(多木久米次郎君外二名提出)
毛織物ノ廉價供給ニ關スル建議案

洋服ハ漸次國民ノ常用ト爲リ毛織物ノ需要年々激增スト雖其ノ價格甚タ不廉ナル爲需要者ヲシテ殆ト苦痛ニ堪ヘサラシムルモノアリ政府ハ製造業者ノ保護ニノミ偏セズ須ラク原料供給ノ便宜ヲ計リ或ハ關係物貨ノ關稅ヲ減免スル等之カ價格ノ低下ニ努メ國民大多數ノ利益ヲ期セラレンコトヲ望ム

右建議ス
○鈴木錠藏君 本案ハ提出者ノ説明ヲ省略シテ、土井權太君提出農業組合法案外十二件ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第七、行政整理ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、山本悌二郎君

第七 行政整理ニ關スル建議案(岡崎邦輔君外二十六名提出)
行政整理ニ關スル建議案

行政各部ノ制度及其ノ機關ヲ整備統一改善シテ其ノ運用ヲ敏活ニシ依テ以テ政務ノ能率ヲ増進シ政策ノ徹底ヲ獲得シ併テ政費ノ緊縮ヲ計ルハ刻下ノ急務ナリ政府ハ須ラク速ニ案ヲ立テ之ヲ斷行ス(シ)

右建議ス
○山本悌二郎君登壇
○山本悌二郎君 行政整理ニ關スル建議案ノ説明ヲ致シマス、此建議案提出ノ理由ハ、建議案ニ附帶セル所ノ理由書ニ依ッテ、大體明カデアラウト存ジマスガ故ニ、私ハ極テ簡單ニ之ヲ敷衍シテ申上ゲルコトニシタイト思ヒマス、行政整理ハ歷代ノ内閣ニ於テ幾度カ企テラレタノデアリマス、而シテ幾度カ又實行サレタノデアリマス、併ナガラ其多クハ、單ニ一時ノ經費ヲ節約緊縮スルト云フ目的ニ止タノデアリマスノミナラズ、其節約緊縮ナルモノモ、唯ダ總經費ノ上ヨリシテ其一割ヲ減ズル、乃至ハ其二割ヲ減ズル所謂天引ト云フヤウナ方法ニ依ッテ場合ガ甚ダ多イデアリマス、行政ノ制度組織ノ根幹ニ適ッテ此行政ノ整理ヲシ、其結果トシテ經費ノ節約ヲ來スト云フ徹底ノ行政整理ト云フモノハ、未ダ行ハレテ居ラナカッタデアリマス、而シテ今日現在ノ事情如何ト顧ミマスレバ、當ニスノ如キ意味ニ於ケル所ノ徹底ノ行政整理ヲ爲スベキ時機ニ到達シテ居ルト私ハ信ズルデアリマス、例ヘバ制度ノ上ニ於キ、機關ノ上ニ於テモ、統一ヲ缺イテ居ル事柄ハ一ニシテ足りマセズ、

極テ卑近ナ數例ヲ申セバ、貿易及海外ノ企業ニ關スル事柄ニ付テハ、農商務省、外務省、大藏省、急ク之ニ關係ヲシテ居ル、之ヲ管掌シテ居リマスルガ故ニ、此海外事業若クハ海外貿易ノ當事者ト云フモノハ、何レノ省ニ附クノガ適當ナルカ、殆ド之ニ迷フコト云フ狀態デアル、又馬政ノ如キハ陸軍ニ馬政局ト云フモノガアッテ、主トシテ馬政ノ事ヲ掌ラレカト思ヘバ、又農商務省ニハ畜産ニ關スル所ノ掛ガアル、勞働問題ニ付テハ農商務省モ關係シ、乃至ハ内務省モ之ニ關係シテ居ル、更ニ又教育方面カラノ一例ヲ申シマスレバ、陸軍ノ方デハ陸軍ニ特殊ノ學校ヲ持ッテ居ルカト思ヘバ、之ニ類似シタルモノハ、矢張同ジク文部省所管ノ學校ノ中ニモアル、航空事業ノ如キハ、之ニ付テハ既ニ建議案モ出テ居リマスケレドモ、海軍ニ航空ニ關スル掛ガアル、陸軍ニモ同ジク之ニ類シタモノガアルノデアル、サウカト思ヘバ又文部省ノ下ニ、即チ大學ニ之ニ關スルノ研究所ガ設ケラレテ居ルト云フヤウナコトデアルノミナラズ、國勢院マダ之ニ矢張關係シテ持ッテ居ルト云フヤウナコトデ、一ツノ航空事業ト云フコトニ對シテ、四ツノ省ガ各自之ニ關係シテ居ルト云フヤウナコトニナッテ居ル、斯様ナ事ハ當然何レニカ統一スベキモノデハナイカ、斯様ニ本員ノ如キハ考ヘルノデアル、サウカト思フト又更ニ分割ヲ要スル所ノ事柄デアル、ソレハ此議會ニ於テモ既ニ議員ノ諸君ノ方面カラモ唱道サレタ問題デアリマスケレドモ、今日農商務省ト云フ此農業、商業、工業ヲ兼ネタル所ノ一國務省ニ於テハ、其仕事ノ分量ガ餘リニ多過ギテ居ルト云フコトノ實情デアル、商工ノ事柄ハ非常ニ其量ニ於テ増加シテ居ルニ拘ラズ、一方農業方面ニ於テハ小作問題、是等ノ農業勞働問題、農業小作問題、食糧ノ問題、食糧増殖ノ問題、是等ハ當然非常ナル努力ヲ以テ、之ヲ完成シナケレバナラヌ事業ガ横ハッテ居ルノデアル、更ニ又勞働問題ニ付テハ只今申上ゲル通り、各省ニ引張風ニナッテ居ルヤウナ今日ノ狀態デハ、此重大ナル所ノ勞働問題ト云フモノヲ解釋スルト云フコトニハ、甚ダ物足りナイノデアル、勞働立法、勞働行政、前途勞働ノ問題ニ付テ爲スベキ事ハ實ニ山ノ如ク横ハッテ居ルノデアル、是等ハ内務省農商務省ノ一部分ノ片手間ノ仕事トシテ解決スベキモノデハナイノデアル、寧ろ別ニ勞働ニ關スル獨立專門ノ省ナリ院ナリト云フモノヲ設ケテ、此所ニ於テ此重大ナル問題ヲ研究モシ、實行モシテ行クト云フコトニ相成ラナケレバナラヌト私ハ信ズルノデアル、又拓殖省或ハ拓殖院ト云フヤウナモノヲ、茲ニ新設シナケレバナラヌデハナイカト云フ聲モ此頃高クナッテ居ル、是モ強チ初ヨリ否認スベキ問題デハナインデアッテ、大ニ此行政整理ハ場合ニ於テ考慮スベキ問題デアルト思ヒマス、前年拓殖省ト云フモノガ設立サレテ、是

行政整理ニ關スル建議案

が幾許モナラズシテ廢省ニナリト云フコトヲ理由ト致シマシテ拓殖務省ナド、云フモノヲ此際新ニ設ケルト云フコトハ、必要ガ無イト唱ヘル向モアルヤウデアリマス。私共ハ左様ニ考ヘテ居ナイノデアル。朝鮮、臺灣、關東州ノ租借地、是等ノ經營開發ニ於テ、果シテ成功スルヤ否ヤト云フトコトハ、我が此物資ニシテ、人口非常ニ稠密ナル所ノ我が日本帝國ニ取テハ、實ニ重大ナル問題デアリト私ハ信ズルノデアリマス。故ニ此新領土及本土ヲ打テ一團トシテ、此合ニセル所ノ帝國ノ基礎ノ上ニ、領土政策ト云フモノヲ立テ、行カナクハナラヌト思フノデアリマス。是ガ今日ハ或ハ大藏省ノ所管ニナリテ居テ見タリ、或ハ内閣ノ直屬ニナリテ居テ見タリ個々分立シテ、其政策モ統一ヲ缺クト云フコトニナリテ居ルガ故ニ、是ハ矢張時代ノ進運ニ適應シテ、適當ナル獨立ノ機關ヲ設ケル必要ガアリハセヌカト考ヘルノデアリマス。更ニ各省ニ互ニテ見渡シテ見マス、同一ノ仕事ヲ各省ニ於テ銘々各々其係ヲ設ケ、其機關ヲ設ケテ、之ヲ行ウテ居ルト云フコトガ非常ニ多イノデアリマス。例ヘバ品物、即チ官廳ニ一國家ニ要スル所ノ此品物ヲ購入スル場合ニ於テモ、同一ノ物品ヲ各省ニ於テ各々勝手ナ方法ニ依テ、勝手ナ價格ニ依テ購入シテ居ルト云フハ有様デアル。我が國費ノ大部分一十五億ノ國費ノ大部分ハ、實ハ此物件費デアリト云フコトハ諸君御案内ノ通りデアル。即チ政府ナルモノ國家ナルモノハ、消費者ノ中ノ最も大ナル消費者デアリト云フコトハ、此個々分立シテ同ジ購買同ジ購入ヲシテ居ルト云フコトハ、何等カノ形ニ於テ統一シタナラバ、是ニ於テ節約スルコトハ、甚ダ大ナルモノデハナイカト信ズルノデアリマス。又小サイ事デアリマス。拂下品ニシマシテモ、或ハ備品等ニ致シマシテモ、一ツノ廳ニ於テハ品物有餘ヲ拂下ヲシテ居ル、其同一ノ品物ガ他ノ省ニ於テハ缺乏シテ居ルガ故ニ、新ニ之ヲ新調シ若クハ購入シナクハナラヌト云フヤウナコトモシテ居ルノデアリ。斯様ナ事モ一ツノ機關ニ總メマシタナラバ、恐ラク有無相通ズル方法ヲ發見スルコトガ出來ハシナイカト思フノデアリマス。(簡單ニシ給ヘ)ト呼フ者アリ。

○副議長(粕谷義三君) 靜ニ...

○山本悌二郎君(續) 其他營繕ノ仕事等ニ於テモ、又土木ノ仕事等ニ於テモ其通りデアル。各省ガ銘々ニ入用ナ物ヲ自分ノ手ニ於テ建造シ、自分ノ手ニ於テ土木營繕ト云フモノヲ實行シテ居ルノデアリマス。是モ同ジク一ノ手ニ總メタナラバ、下ノ位ナ節約ガ出來ヤウカ、實ニ其額ハ決シテ少イモノデハナイト私ハ信ズルノデアリマス。又補助金等ニ於テモ同ジク其通りデアル。之ガ各省ノ間ニ於テ同一ノ補助金ヲ與ヘラレタモノモ、往々ニシテ發見致シテ居ルノデアリ

マス、一省ノ中ニ於テモ亦各件々ニ依テ補助ヲスル、其金額性質甚ダ統一ヲ缺イテ居ルモノガアルコトヲ私ハ發見致シマス。斯様ナ事柄ハ何レカニ一纏メニシテ之ヲ行フコトノ、極メテ良好ナル結果ヲ齎スト云フコトハ、何人ニモ明カデアラウト思フ。現ニ米國等ニ於テハ、之ヲ既ニ行テ居ル實例ガアルノデアリ。此各省ノ同一ナル仕事ハ、之ヲ一ツノ官廳ニ纏メテ其手デ之ヲ統一シ整理シテ、成ベク豫算實行ノ上ニ節約ヲ圖ルト云フ制度ハ、是ハ即チ米國ニ於テ實行致シテ居リマスガ、最新ノ報告ニ依テ見マス、即チ二月三日ノ大統領ノ「アドレス」ニ依テ見マス、過去僅ニ四箇月ノ豫算實行ニ於テ、千四百萬弗ノ經費ヲ此方法ニ依テ節約シ得タト云フコトヲ報告シテ居ルノデアリマス。斯様ナ實例モ既ニアルノデアリマス。其通りニ出來ルカ否ヤハ趣意ニ依テ見ナクハ分リマセヌカレドモ、少クモ斯ノ如キ趣意ニ依テ行政上ノ統一ヲ圖テ、同時ニ經費ノ緊縮節約ヲ圖ルト云フコトハ、必要デアルノミナラズ、必ズ相當ノ目的ヲ達セラレ得ベキモノト私ハ信ズルノデアリ。斯様ニ根本ヨリ其制度機關ヨリ改正ヲシテ行タ行政整理デアリナラバ、是ガ即チ眞ノ行政整理デアテ、之ニ依テ政策ノ徹底ヲ期スルコトモ出來マセウ、之ニ依テ政務ノ能率ヲ増進スルコトモ出來マセウ、之ニ依テ經費ノ節約ヲ圖ルコトモ出來マセウ、即チ此根本的ノ行政整理ニ依テ得ル所ノモノハ、洵ニ國家ノ政策ノ上ニ於テ重大ナル效果ヲ齎スモノト信ズルノデアリマス。現内閣ハ高橋總理大臣ガ大命ヲ拜シテ以來日尙ホ淺イノデアリマス。恐クハ是カラシテ著々其經綸ニ著手スルコト、考ヘルノデアリマス。故ニ、此經綸一ツトシテ斯ノ如キ根本的徹底的ノ行政整理ヲ爲スト云フコトハ、恐クハ政府ニ於テモ異存ノナイ所デアアルノミナラズ、喜ンデ之ヲ其政綱一ツトシテ、實行スルデアラウト私ハ信ズルノデアリマス。故ニ此建議ニ基イテ、政府ハ速ニ此徹底的ナル行政整理ヲ斷行スベシト云フノガ、即チ此建議案ノ趣旨デアルノデアリマス。願クハ滿場一致ヲ以テ御協賛アラントヲ希望致シマス。

○鈴木錠藏君 本案ハ議長指名ヲ以テ、特ニ二十八名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス。

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス。仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第八、恩給年限ノ加算ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス。加藤紋右衛門君。

第八 恩給年限ノ加算ニ關スル建議案(加藤紋右衛門君外二名提出)

恩給年限ノ加算ニ關スル建議案 恩給年限ノ加算ニ關スル建議案 恩給年限ノ加算ニ關スル建議案

恩給年限ノ加算ニ關スル建議案 恩給年限ノ加算ニ關スル建議案 現行官吏恩給法ハ官吏任命ノ日より起算シ在職十五年以上ニシテ恩給ヲ受クルノ資格ヲ生スルモ任命以前ニ於ケル雇員在職年數ハ一日モ加算スルコトナシ而シテ現ニ諸官廳ノ判任官中ニハ事務熟練者ノ登用及定員ノ關係上ヨリ數年若クハ十數年以上雇員トシテ在職者ヨリ登用任命セラレタル者甚タ多ク此等ノ官吏ハ五十歲以上ニシテ尙且恩給年限ニ達セサル者多シ斯ノ如キハ官吏ニ準シテ刑法上ノ制裁ヲ受ケ官吏服務規律ニ從フヘキ雇員ニ對シテ甚タ不當ナリト認ム依テ政府ハ速ニ官吏ノ恩給年限通算ニ際シ雇員在職年數ノ一部ヲ加算シ得ルノ規定ヲ設ケラレムコトヲ望ム 右建議ス

○加藤紋右衛門君 簡單デアリマス。當席ヨリ恩給年限ノ加算ニ關スル建議案發言ノ御許シヲ願ヒマス。只今上程サレマシタ建議案ハ、第四十三議會ニ於テ本會議ヲ通過シタ建議案デアリマス。内容ノ大略ハ理由書ニ、アリマス。詳細ハ委員會ニ於テ説明ヲ致シマス。願クハ全會一致御賛成アラントヲ希望致シマス。

○鈴木錠藏君 本案ハ永屋茂君外二名提出、巡查看守退隱料及遺族扶助料改正法律案外十二件ノ委員ニ、併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス。

〔贊成〕(贊成)ト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ハ御異議ナシト認メマス。仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第九乃至第二十三ハ同一委員ニ付託シタ建議案デアリマス。一括議題トスルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 御意議ナシト認メマス。仍テ日程第九外十四件ヲ一括シテ議題ト爲シ委員長ノ報告ヲ求メマス。岩本平藏君

第九 樞原神宮第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(高草美代藏君提出)

樞原神宮第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(高草美代藏君提出)

第十 樞原神宮第二回宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(八木逸郎君外五名提出)

樞原神宮第二回宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(八木逸郎君外五名提出)

報告書

一 樞原神宮第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(高草美代藏君提出)

二 樞原神宮第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案(八木逸郎君外五名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十七日

樞原神宮第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案外一件委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

岩本 平藏

(別紙)

樞原神宮第二期宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案

樞原神宮第一期宮域規模擴張及建物修築ハ近ク豫定ノ如ク略其ノ完成ヲ見ルニ至ルヘシト雖該事業ハ既往十年間ノ事業ニ屬シ時世ノ進運ニ伴ハス規模尙狹隘ニシテ神威ノ尊嚴ヲ維持スルコト困難ナル狀態ニ在リ政府ハ宜シク陸軍省ヲ維持スルコト困難ナル狀態ニ在リ中樞タルヘキ靈宮トシテ鑑ミ更ニ速ニ永遠ノ大計ヲ樹テ引續キ第二期擴張及修築ノ事業ヲ企畫實行セラレムコトヲ望ム

右建議ス

第十一

新田神社昇格及宮號復稱ニ關スル建議案(萩亮君外四名提出)

報告書

一新田神社昇格及宮號復稱ニ關スル建議案(萩亮君外四名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十七日

新田神社昇格及宮號復稱ニ關スル建議案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

岩本 平藏

第十二

縣社一條神社ヲ別格官幣社ニ昇格ニ關スル建議案(坂本素魯哉君外四名提出)

報告書

一 縣社一條神社ヲ別格官幣社ニ昇格ニ關スル建議案

(坂本素魯哉君外四名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十八日

縣社一條神社ヲ別格官幣社ニ昇格ニ關スル建議案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

第十三

官幣小社電門神社境域擴張ニ關スル建議案(中村清造君外二名提出)

報告書

一 官幣小社電門神社境域擴張ニ關スル建議案(中村清造君外二名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十八日

官幣小社電門神社境域擴張ニ關スル建議案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

第十四

寛仁、文永及弘安ノ役ニ於ケル殉難志士奉祀ニ關スル建議案(中村清造君外二名提出)

一 寛仁、文永及弘安ノ役ニ於ケル殉難志士奉祀ニ關スル建議案(中村清造君外四名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十八日

寛仁、文永及弘安ノ役ニ於ケル殉難志士奉祀ニ關スル建議案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

第十五

宮崎神宮勅祭社陞進ニ關スル建議案(長峰與一君外三名提出)

報告書

一 宮崎神宮勅祭社陞進ニ關スル建議案(長峰與一君外三名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十八日

宮崎神宮勅祭社陞進ニ關スル建議案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

第十六

官幣大社伊弉諾神社ヲ伊弉諾神社ト改稱並同神社境內整理擴張費國庫補助ニ關スル建議案(木下甚三郎君提出)

報告書

一 官幣大社伊弉諾神社ヲ伊弉諾神社ト改稱並同神社境內整理擴張費國庫補助ニ關スル建議案(木下甚三郎君提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十八日

官幣大社伊弉諾神社ヲ伊弉諾神社ト改稱並同神社境內整理擴張費國庫補助ニ關スル建議案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

第十七

別宮狹野神社昇格ニ關スル建議案(陣軍吉君外三名提出)

報告書

一 別宮狹野神社昇格ニ關スル建議案(陣軍吉君外三名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

別宮狹野神社昇格ニ關スル建議案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

第十八

神社調査會設置ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)

報告書

一 神社調査會設置ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

神社調査會設置ニ關スル建議案委員長

第十九 官國幣社國庫供進金増額ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出) (委員長報告)

報告書

一官國幣社國庫供進金増額ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

官國幣社國庫供進金増額ニ關スル建議案委員長
岩本 平藏

衆議院議長奥繁三郎殿

第二十 府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出) (委員長報告)

報告書

一府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案(岩崎勳君外十二名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案委員長
岩本 平藏

衆議院議長奥繁三郎殿

第二十一 乃木神社昇格ニ關スル建議案(植竹龍三郎君外二名提出) (委員長報告)

報告書

一乃木神社昇格ニ關スル建議案(植竹龍三郎君外二名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

乃木神社昇格ニ關スル建議案委員長
岩本 平藏

衆議院議長奥繁三郎殿

第二十二 古刹寺保存法改正ニ關スル建議案(木下謙次郎君外五名提出) (委員長報告)

報告書

一古刹寺保存法改正ニ關スル建議案(木下謙次郎君外五名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

古刹寺保存法改正ニ關スル建議案委員長
岩本 平藏

衆議院議長奥繁三郎殿

第二十三 宗教法制定ノ調査機關設置ニ關スル建議案(高見之通君外九名提出) (委員長報告)

報告書

一宗教法制定ノ調査機關設置ニ關スル建議案(高見之通君外九名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

宗教法制定ノ調査機關設置ニ關スル建議案委員長
岩本 平藏

衆議院議長奥繁三郎殿

(岩本平藏君登壇)

○岩本平藏君 只今上程サレタル日程第九以下十四案ハ、神社佛閣ニ關スル重要ナル問題デアリマスカラ、成ベク丁寧ニ各案ニ付テ御報告ヲ致シタイと思ヒマス、時間モ頗ル切迫ヲ致シテ居リマスノデ、同一ノ意味合ノモノヲ一括シテ報告ヲ致シタイと思フデアリマス、先ツ第一、日程第九、第十ノ兩案ハ、櫻原神宮第二回ノ宮域擴張及建物修築ニ關スル建議案デアリマシテ、是ハ高草美代藏君提出ソレカラハ本逸郎君外五名ノ提出、此兩案ハ内容ハ同様ナル建議案デアリマス故ニ、委員會ニ於キマシテハ便宜上之ヲ併合致シマシテ、審議スルコトニ致シタイデアリマス、而シテ提案者ノ理由ヲ聽キ、及政府當局ノ意見ヲモ聽取リマシテ、サウシテ之ヲ併合致シ、此建議案ノ趣意ヲ修正致シテ可決致シタノデアリマス、即チ建議案ノ修正致シマシタノハ、櫻原神宮第一回宮域規模擴張及建物修築ハ近ク豫定ノ如ク略其ノ完成ヲ見ルニ至ルヘシト雖該事業ハ既往十年間ノ事業ニ屬シ時世ノ進運ニ伴ハス規模尚狹隘ニシテ神威ノ尊嚴ヲ維持スルコト困難ナル狀態ニ在リ政府ハ宜シク隆昌ヲ冀リナキ帝國ノ將來ト國民崇敬ノ中樞タルヘキ靈宮トニ鑑ミ更ニ遠ニ永遠ノ大計ヲ樹テ引續キ第二回擴張及修築ノ事業ヲ企畫實行セラレムコトヲ望ム右建議案ノ斯ウ云フ風ニ修正ヲ致シマシテ、滿場一致ヲ以テ可決シタノデアリマス、而シテ此案ヲ可決スルニ付キマシテ、更ニ一ツノ希望トシテ斯ウ云フ問題ヲ附加ヘタノデアリマス、即チ御存ジノ通り櫻原神宮ノ背面ニアル所ノ畝傍山、此畝傍山ハ御料林デアリマス、此畝傍山ヲ矢張此神社ノ境内ニ編入シタイ、即チ之ヲ内務省ニ移管スルコトノ手續ヲ交渉シテ貰ヒタイ、是ハ既ニ本年伊勢皇太神宮ノ彼ノ山ヲ、宮内省カラ内務省ノ方ヘ移管致シマシタ實例モアリマスカラ、斯様ニ致シマシテ、此畝傍山ノ方モ此境内ニ編入シテ貰ヒタイ、斯ウ云フ希望ヲ附加ヘテ決議致シタノデアリマス、其次ハ日程第十一、第十二、第十三、ソレカラ第十五、第十六、第十七、第二十一、此各案ハ何レモ神社ノ社格昇進、或ハ境内擴張、凡ソ内容ハ同様ナモノデアリマシテ、是等モ皆提案者ノ熱心ナル御説明ガアリマシテ、政府當局ノ意見モ聽取リタノデアリマス、其中ニハ政府當局ニ於テ更ニ慎重ニ調査ヲシタ上デナイト、直ニ同意スルコトノ出來ナイト云フモノモアリマシタ、併ナガラ委員會ニ於キマシテハ、總テ滿場一致ヲ以テ原案ノ通り可決シタノデアリマス、ソレカラ日程第十四ノ寛仁、文永及弘安ノ役ニ於ケル殉難志士奉祀ニ關スル建議案、是ハ中村君外三名ノ提出デアリマスガ、此建議案モ慎重ニ審議ヲ致シマシタガ、色モ政府ニ於キマシテモ、直ニ此弘安ノ役ノ殉難ノ志士ヲ奉祀スルコト云フコトヲ致シマスノハ、矢張是ト同様ニ他ニモ斯ウ云フモノモアルカラ徐々ニ調査ヲ致シ、慎重ノ手續ヲ致シタイ、斯ウ云フコトデアリマシタガ故ニ、是モ原案ノ通りニ可決ヲ致シマシタ、日程第十八、第十九、第二十、此三案ハ各派聯合ノ建議案デアリマシテ、神社調査會設置ニ關スル建議案、官國幣社國庫供進金増額ニ關スル建議案、府縣社以下神社經費國庫補助ニ關スル建議案、此以上三案モ何レモ委員會ニ於キマシテハ、滿場一致ヲ以テ原案ノ通り可決致シマシタ、其次ニ日程第二十二、是ハ古刹寺保存法ノ改正ニ關スル建議案デアリマシテ、御存ジノ如ク此古刹寺保存法ノ第十六條ニハ二十萬圓ト云フ限ヲシテアルノデアリマシテ、今日我國ノ國寶及特別建造物等ノ修繕ヲ致スベキモノハ、約二千三百四十萬圓ノデアリマスカラ、今日ノ此金額デ以テスルト、今後百二十年モ

致サナケレバ、ソレヲスルコトガ出來ナイト云フコトデアリマシテ、是デハ到底古社寺保存ヲ何時ノ世ニナラセモ完全ニスルコトガ出來ナイ、故ニ此十六條ノ二十萬圓ハ、是ハ今日ヨリ三十年モ前ニ定メタル金額デアリマスカラ、今日ハドウシテモ増額ヲスル必要ガアルノデアリマシテ、是非之ヲ相當ニ改正シタイ、又古社寺ノ保存ニ付テハ十分ノ注意ヲスルヤウニ、斯ウ云フ所ノ建議デアリマシタノデアリマスカラ、是亦滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決致シタノデアリマス、日程第二十三宗敎法制定ノ調査機關設置ニ關スル建議案、此案ハ御存ジノ如ク我國ノ宗敎法ハ制定ニ付テハ、今迄モ相當考慮ヲ致シ調査モ致シマシタガ、種々ナル宗敎、即チ佛敎ニモ幾派モアル、神道或ハ耶蘇宗、澤山アリマスカラ、到底今日マデ完全ト宗敎法ノ制定ハ出來ナカッタノデアリマス、併ナガラ政府ニ於キマシテモ、今日矢張相當其必要ヲ認メテ調査機關ヲ作ラント欲シツ、アル、又若干ノ費用ヲ計上致シテ居ルコト云フコトデアリマス、此建議ハ頗ル政府ニ於テモ歡迎スルデアアル、斯ウ云フ意味合デアリマシタカラシテ、是亦滿場一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、以上第九ヨリ第二十三ニ至ル所ノ委員會ニ於ケル經過、並ニ結果ハ前陳ノ通りデアリマス、何卒本會ニ於テモ御賛成アラント望ミマス（拍手）

○鈴木錠藏君 日程第九乃至第二十三ニ至ル十五件ヲ一括シテ、委員長ノ報告通り、可決確定アラント望ミマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○副議長（粕谷義三君） 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——次ニ日程第二十四乃至二十九ハ、同委員ニ付託シタル議案デアリマスカラ一括シテ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メヤウト思ヒマス御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長（粕谷義三君） 御異議ナイト認メマス——日程第二十四三津濱港築港國庫補助ニ關スル建議案外五件ヲ一括シテ議題ト致シマス、矢野丑乙君

第二十四 三津濱港築港國庫補助ニ關スル建議案（成田榮信君外五名提出）（委員長報告）

報告書
一三津濱港築港國庫補助ニ關スル建議案（成田榮信君外五名提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十三日
三津濱港築港國庫補助ニ關スル建議案委員長 田中 定吉

衆議院議長與繁三郎殿

第二十五 鎮南浦築港完成ニ關スル建議案（牧山耕藏君提出）（委員長報告）

報告書
一鎮南浦築港完成ニ關スル建議案（牧山耕藏君提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十三日
鎮南浦築港完成ニ關スル建議案委員長 田中 定吉

衆議院議長與繁三郎殿

第二十六 朝鮮多爾島築港ニ關スル建議案（牧山耕藏君外六名提出）（委員長報告）

報告書
一朝鮮多爾島築港ニ關スル建議案（牧山耕藏君外六名提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十三日
朝鮮多爾島築港ニ關スル建議案委員長 田中 定吉

衆議院議長與繁三郎殿

第二十七 新潟築港ニ關スル建議案（丸山嵯峨一郎君外十四名提出）（委員長報告）

報告書
一新潟築港ニ關スル建議案（丸山嵯峨一郎君外十四名提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十三日

新潟築港ニ關スル建議案委員長 田中 定吉

衆議院議長與繁三郎殿

第二十八 青森築港國營ニ關スル建議案（北山一郎君外十五名提出）（委員長報告）

報告書
一青森築港國營ニ關スル建議案（北山一郎君外十五名提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十三日
青森築港國營ニ關スル建議案委員長 田中 定吉

衆議院議長與繁三郎殿

第二十九 大湊開港ニ關スル建議案（阿部武智雄君外六名提出）（委員長報告）

報告書
一大湊開港ニ關スル建議案（阿部武智雄君外六名提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十三日
大湊開港ニ關スル建議案委員長 田中 定吉

衆議院議長與繁三郎殿

〔粕谷副議長議長與繁三郎殿

〔矢野丑乙君登壇〕

○矢野丑乙君 委員會ノ經過ヲ極テ簡單ニ御報告致シマス、三津濱港築港國庫補助ニ關スル建議案、成田榮信君外五名ノ提出デアリマス、三津濱ハ愛媛縣ノ中心ニアル所ノ港デアッテ、他日四國橫斷鐵道、即チ松山カラ高知ニ達スル鐵道ガ出來ル時分ニナリマス、高知縣ト愛媛縣ノ支關口ニナル故ニ、最モ必要ナ港灣デアアルカラ、是ニ國庫補助ヲシテ戴キタイト云フ趣旨デアリマス、委員會ニ於キマシテハ慎重審議ヲ致シマシテ、政府委員ノ大體ニ於ケル賛成ヲ得マシテ、滿場一致デ可決致シマシタ、日程第二十五鎮南浦築港完成ニ關スル建議案、鎮南浦ハ御承知ノ通り朝鮮ニ於キマシテノ要港デゴザイマス、韓國時代ニ於キマシテ四百五十萬圓ノ豫算デ茲ニ開門式、丁度仁川ニアルヤ

漢學振興ニ關スル建議案委員長

衆議院議長與繁三郎殿 戸水 寛人

第三十二 東洋文庫設立ニ關スル建議案

(澤來太郎君外七名提出)

報告書 (委員長報告)

一 東洋文庫設立ニ關スル建議案(澤來太郎君外七名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十四日

東洋文庫設立ニ關スル建議案委員長 戸水 寛人

衆議院議長與繁三郎殿

第三十三 奈良ニ美術學校建設ニ關スル建議案(福井甚三君外四名提出)

報告書 (委員長報告)

一 奈良ニ美術學校建設ニ關スル建議案(福井甚三君外四名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十四日

奈良ニ美術學校建設ニ關スル建議案委員長 戸水 寛人

衆議院議長與繁三郎殿

第三十四 理化博物館建設ニ關スル建議案(鈴木隆君外四名提出)

報告書 (委員長報告)

一 理化博物館建設ニ關スル建議案(鈴木隆君外四名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十四日

理化博物館建設ニ關スル建議案委員長 戸水 寛人

衆議院議長與繁三郎殿

第三十五 北海道帝國大學ニ法、文、理學部増設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)

報告書 (委員長報告)

一 北海道帝國大學ニ法、文、理學部増設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十四日

北海道帝國大學ニ法、文、理學部増設ニ關スル建議案委員長 戸水 寛人

衆議院議長與繁三郎殿

第三十六 北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)

報告書 (委員長報告)

一 北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十四日

北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案委員長 戸水 寛人

衆議院議長與繁三郎殿

(「戸水寛人君登壇」)

○戸水寛人君 日程第三十一、漢學振興ニ關スル建議案、是ハ前議會ニ於テモ提出セラレタノデアリマシテ、私ガ提出ノ理由ヲ説明シテ、佐々木安五郎君ガ熱烈ナル賛成演說ヲ致シマシテ、委員會ニ於テモ本會議ニ於テモ、全會一致ヲ以テ可決シタコト云フコトハ、諸君モ御記憶ト考ヘマス、今議會ニ於テハ山本梯二郎君ガ説明ノ勞ヲ執ラレマシテ、副島義一君ガ賛成演說ヲセラレマシタ、尙ホ又本案決議前ニ於テ、佐久間啓莊君ガ演說ヲセラレルト云フコトデゴザイマス、私ガ報告ヲスルニ方テ、重ネテ説明ヲスルト云フコトダケハ略シテ置キマス、唯ダ委員會ノ經過ヲ報告致シマスガ、委員會ニ於テハ文部當局者及大藏當局者ノ意見ノ聴キマシタ、文部當局者ハ直ニ此案ニ賛成セラレマシテ、實行

ノ方法ニ付テハ研究ヲ爲メテ具體的ノ案ヲ作テ、大藏當局者ト相談ヲスルト云フコトデゴザイマシタ、又大藏當局者モ此案ニ賛成セラレマシテ、文部省カラ具體的ノ案ガ出レバ、經費ニ付テ相談ヲスルト云フコトデゴザイマス、デゴザイマスカラ、或ハ來議會ニ於キマシテ、此案ハ採用セラレテ、豫算ニモ計上セラレ、コト、期待シテ居リマス、委員會ニ於テハ無論全會一致ヲ以テ可決シタノデアリマス、次ニ第三十二、東洋文庫設立ニ關スル建議案、是モ矢張前議會ニ於テ提出セラレタコトガアルデアリマシテ、同ジク全會一致デ本會議ヲ通過シテ居リマス、即チ澤來太郎君ガ提出セラレテ居タノデアル、哀シイ哉澤來君ハ先達病氣ニナリテ、既ニ故人トナリタマハレテ居ル、而シテ本案ノミガ此世ノ中ニ存在シテ居ルト云フ譯デアリマシテ、私ガ報告ヲ爲スニ方テハ、無量ノ感ニ打タレテ居リマス(拍手)委員會ニ於テハ政府ノ意見ヲ求メマシタ所ガ、直ニ之ニ賛成致シマシタノデ、全會一致ヲ以テ可決シテ居リマス、日程第三十三、奈良ニ美術學校建設ニ關スル建議案、之ニ付テモ矢張政府ノ意見ヲ求メマシタ所ガ、同ジク賛成ガアッタノデ、委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ可決シマシタ、日程第三十四、理化博物館建設ニ關スル建議案、是モ前同様に全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、日程第三十五、北海道帝國大學ニ法、文、理學部増設ニ關スル建議案、是モ矢張同様に委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ可決シマシタ、日程第三十六、北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案、是モ矢張同様に委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ可決シタ次第デゴザイマス、ドウゾ本會ニ致シマス(拍手)

○議長與繁三郎君 日程第三十一ニ付テ賛成演說ノ通告カアリマス、佐久間啓莊君

(「佐久間啓莊君登壇」)

○佐久間啓莊君 餘リ少クナリマシタ、貴重ノ時間ノ割愛ヲ願フ、漢學振興ニ關スル賛成ヲ致シ、尙ホ提出者ノ一員ニ加ヘリマシタコトニ付キマシテ、私ノ心得ヲ申上ゲテ諸君ノ御教示ヲ仰ギたいと思ヒマス、デゴザイマス、此漢學振興ト云フコトハ段々御議論モアリマスシ、又先輩諸賢ヨリ十二分ニ御説明ニナリテ居リマスカラ、何等私ヨリ茲ニ更メテ申上ゲル必要モナイノデアリマス、私ガ偏ニ此漢學振興ト云フコトヲ熱心ニ希望シテ居リマス所以ハ、異多クモ明治十五年デゴザイマスガ、明治大帝ヨリ幼學綱要ヲ編纂セシメラレ各學校ニ賜ハタノデアリマス、其際御勸諭ヲ下シ賜ハタノデアリマス、洵ニ私ハ恐懼ニ堪ヘヌ、今日此人心ノ動搖惡化ヲ來シタ、或ハ此御勸諭ノ趣旨ヲ忘レタ國民ガ居リハセヌカ、又教育ノ上ニ付テ、宜シク此御勸諭ノ趣旨

ガ徹底ヲシテ居ルカ否カト云フコトガ疑問デゴザイマス、又國民一般ガ此御勅諭ヲ能ク承知シテ居ルカ否カト云フコトモ、私ハ疑問トシテ居ルノデゴザイマス、故ニ此議會ヲ通シテ、一般ノ青年處女ニ此御勅諭ノ趣旨ヲ知ラシタト思フノデゴザイマス、只今其御勅諭ヲ拜寫致シタモノヲ捧讀致シマス、唯誤ナキヲ恐懼ニ存スル次第デゴザイマス、明治十五年十二月ニ賜ハタ幼學綱要御勅諭ノ際御下シニナタ御勅諭ヲ捧讀シテ、諸君ノ御清聴ヲ煩ハシマス、拜讀道徳ハ教育ノ主本、我朝支那ノ專ラ崇尚スル所、歐米各國モ亦修身ノ學アリト雖、之ヲ本朝ニ採用スル未タ其要ヲ得ス、方今學科多端、本末ヲ誤ル者鮮カラズ、年少就學最モ當ニ忠孝ヲ本トシ仁義ヲ先ニスヘシ、因テ儒臣ニ命シテ此書ヲ編纂シ、聖下ニ頒賜シ明倫修徳ノ要茲ニ在ル事ヲ知ラシム、斯様仰セラレタノデゴザイマス、其他此幼學綱要ヲ編纂セシムルニ、諸君御承知ノ通り、故元田侍講ガ主ニナタ編纂セラレタノデアリマス、其元田侍講ハ御勅諭ノ趣旨ヲ奉體シテ、幼學綱要ノ序文ノ一節ニ斯ウ言ハレテ居ルノデアリマス、〔簡單〕時間ハ御急ギデアリマセウガ、是ハ大切ダト思ヒマスカラ〔謹聽〕一般ノ人ニ知ラシタト思ヒマス、諸君ハ既ニ御承知デアリマセウ、祖宗天ニ繼イテ極ヲ建テ人ヲ教ヘ民ヲ化ス、一ニ至誠ニ出テサルハ莫シ、是レヲ以テ民皆ナ純一正直、父子ノ親篤ク而シテ君臣ノ義明ナリ矣、六經我ニ傳ハリシヨリ仁義道徳ノ説、益明ニ愈、廣シ、世運隆替學科迭興スト雖モ則チ復タ焉ニ加フル莫シ、夫レ道徳ニ本イテ而シテ知識ニ達シ、彝倫ニ始テ而シテ事業ニ及フハ教養ノ要ナリ、故ニ之ヲ道クニ仁義ヲ以テシ、之ヲ教フルニ忠孝ヲ以テス、天下ノ民ノ志ヲシテ一ニ茲ニ定マラシムレハ則チ其ノ智ノ進ム所其ノ才ノ成ル所言辭ニ發シ行實ニ顯ハレ、事業ニ施スルモノ仁義忠孝ニ出テサル莫シ、苟モ志向未タ定マラス、而シテ知識才藝ヲ務ラ専ラニスレハ、則チ德性ヲ殖シ教化ヲ傷ク、其ノ害言フニ勝ユヘカラス、宇内ヲ遠觀スルニ其ノ華夏ト稱ヘ文明ト稱スルモノ、猶ホ叛亂ヲ免レス、是レ他無シ、智力ヲ先ニシテ而シテ仁義ヲ後ニスレハナリ、苟モ仁義ヲ後ニシテ而シテ智力是レ競ヘハ、則チ甲乙相軋リ上下交ニ爭ヒ、奪ハスハ鬭カス夫レ是ノ如クハ則チ天下ノ亂何ヲ以テ止マンヤ、夫レ三尺ノ童モ忠孝ニ死スルヲ知ルハ我が國故有ノ俗ナリ、豈列聖ノ崇フ所此ニ在リ而シテ習慣ノ久シキ所以ニ非ス耶、風移リ俗易リ民唯知識才藝ニ務メ、本ヲ棄テ末ヲ超エ遂ニ將ニ仁義忠孝ノ何物タルヲ知ラサルニ至ラントスレハ、則チ其弊害何所ニカ底止センヤ、今幼稚ノ兒、智慧未タ定ラス、慣染猶淺シ、是ノ時ニ於テ先ツ之ヲ教フルニ仁義忠孝ノ道ヲ以テシ、浸漬涵育、習ヒ性ト成リ、道徳是ニ由テ以テ淳ク、彝倫是ニ由テ以テ正シク、風俗ノ

美、聲教ノ懿、將ニ上世ニ度越シテ面シテ宇内ニ冠絶スルモノ有ラントス矣、是ガ幼學綱要ノ序文ノ一節ニ書イテアルノデアリマス、〔拍手〕今日此歐洲戰亂等ニ由テ人心ガ惡化動搖スルト云フコトハ、全ク根柢ノ教旨ガ無イノデアリマス、藝學ヲ先ニシテ仁義道徳ノ教ヲ後ニシテ結果デアル、明治十五年ニ既ニ先帝ハ今日アル御憂慮遊バサレテ、幼學綱要ヲ下サレ、又詔ヲ賜タテ次第デアラウト恐察致ス次第デアリマス、〔拍手〕幸ニ漢學ヲ振興シ、此幼學綱要ノ中ニ御承知ノ通り、四書、五經、忠經、孝經等ノ中ヨリ拔萃セラレ、而シテ實例ヲ示サレテアルノデアリマス、斯ノ如キ方法ヲ以テ漢學ヲ振興シ、青年ヲ教育スルト云フコトハ、必要急務ノ事ト存スル次第デアリマス、ドウカ此案ノ全院一致ノ御賛成ハ固ヨリ、以後此學ノ振興セラレシコトニ御心配御盡力下サランコトヲ切ニ、御願致シテ置キマス、〔拍手〕

○議長〔與繁三郎君〕 日程三十一、東洋文庫設立ニ關スル建議案ニ賛成演説ノ通告ガアリマス、中野寅吉君

〔中野寅吉君登壇〕

○中野寅吉君 是ハ御笑ニナラナイヤウニ——私ハ澤來太郎氏トハ平素知合ノ間柄デアリマス、黨籍ハ異ニシテ居リマス、ケレドモ、平素私ノ際ノ際ノ關係上能ク知テ居ルガ人デゴザイマス、此東洋文庫設立ニ關スル建議案ヲ澤君ガ出スシ付キマニテハ、亦胸中密ニ期スル所ガアタノデゴザイマス、今日澤君ガ此世ニ在ラレタナラバ、此壇上ニ立テ必ズ諸君ノ前ニ一場ノ演説ヲシテ、御賛同ヲ求メ得ベキ機會ガアタラウト信ジマス、然ルニ不幸ニシテ鬼籍ニ入ラレタト云フコトハ、洵ニ痛惜ノ至リニ堪ヘナイ次第デアリマス、私ハ簡單ニ澤君ノ此提出サレタ東洋文庫ニ對シテ、一言ヲ申シテ諸君ノ御賛同ヲ乞ヒタイト思フノデアリマス、是ガ澤君ガ政治上ニ盡サレタ其終リノ提案デアリマシテ、諸君ノ御手許ニモアル如ク、此各種ノ財政經濟ノ調査ハ彼ノ人ノ最モ得意トサレタ所デ、先日私ガ國有林野ノ演説ヲスル時モ、澤君ノ此調査ヲ引用シテ申上ゲタウナ次第デアリマス、併シ澤君ノ頭ハ決シテ財政經濟ト云フ物質ノ方面ノミニ非ズ、精神上ニ於テモ東洋文庫設立ニ關スル此建議案ト云フモノニ依テ茲ニ躍如トシチ認メルコトガ出來ル、申ス迄モナク東洋ニハ東洋ノ自ラノ氣風ガアル、東洋ガ西洋カブレヲシテ、詰ラヌ過激思想ナドヲ宣傳シテ來ルト云フコトハ東洋ノ爲ニハ以テノ外デアアル、之ヲ澤君ガ此ニ見ル所アデ、サウシテ此東洋文庫ノ設立ヲ茲ニ高潮サレテ、戸水博士ノ申サレル如ク、之ニ付テハ一人ノ御異議ガ無カト云フコトデアリマス、更ニ本會議ニ於テモ、東洋ニハ東洋ノ自ラノ氣風ガアル、我會津ニハ我ガ會津自ラノ會津ガアル、魂ガアル、九州ニハ九州ノ氣風ガアル、關東ニハ關東ノ權威ガアル、中京ニハ中京ノ權威

ガアル、四國ニハ四國ノ權威ガアル、即チ大キク言ヘバ東洋ニハ東洋ノ何人ニモ侵スコトノ出來ナイ所ノ大權威ガアルト云フコトハ、之ニ依テモ認メラレルノデアリマス、サウスルニハ終始一貫此東洋ノ本當ノ味ヲ吸收スルニ急ゲハナラナイ平素星亨氏ガ人ト座談スル間ト雖モ、始終書物ヲ離サナカト云フコトハ皆サン御承知デアル、星亨氏ガ書物ヲ離サヌト云フコトハ、即チ絶ヘズ此思想ノ吸收ニ急ラナカ、タト云フ、大隈侯モ死ス迄又人ノ話ヲ聽クコトニ挽マナカ、是亦思想ノ吸收ニ急ラナカト云フ印デアル、故ニ東洋ニハ東洋特有ノ文庫ヲ設立シテ、サウシテ絶ヘズ東洋ノ氣風ヲ吸收シテ、東洋ノ氣風ヲ是デ宣傳シテ行クト云フコトハ、是ハ人ノ爲メデヤナイ、東洋ヲ何所マデモ泰山ノ安キニ置イテ行クト云フ、即チ自分ヲ保護スル一ツノ道具ニナルト思フノデアリマス、此ニ澤君ガ見ル所アデ、サウシテ此提案ヲシテ、永ク此白玉樓中ノ人トナタト云フコトハ、澤君ノ即チ最後ノ一言ヲラウト思ヒマスカラ、皆サン何卒滿場一致ヲ以テ、澤君ヲ弔フ意味ニ於テ御賛成アラントコトヲ偏ニ希望シマス

○鈴木錠藏君 日程第三十一乃至三十六ノ六件ヲ一括シテ議題ト爲シ、委員長報告ノ通り可決確定アラントコトヲ望ミマス

〔贊成〕〔贊成〕〔下呼フ者アリ〕

○議長〔與繁三郎君〕 鈴木君ノ勸諭ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ勸諭ノ如ク此六案ハ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ、日程三十七乃至四十六ハ同一委員長付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題トシ委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長秋本喜七君

第三十七 重信川改修ニ關スル建議案〔成田榮信君外五名提出〕

報告書

一重信川改修ニ關スル建議案〔成田榮信君外五名提出〕
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十五日
重信川改修ニ關スル建議案委員長
衆議院議長與繁三郎殿 秋本 喜七

第三十八 利根運河國有ニ關スル建議案

〔本多貞次郎君外六名提出〕
〔委員長報告〕

報告書

一利根運河國有二關スル建議案(本多貞次郎君外六名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十五日

利根運河國有二關
スル建議案委員長
秋本 喜七

衆議院議長奥繁三郎殿

第三十九

木曾川外二川架橋速成ニ關スル建議案(加藤久米四郎君外二名提出)
(委員長報告)

報告書

一本會川外二川架橋速成ニ關スル建議案(加藤久米四郎君外二名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十五日

木曾川外二川架橋速成
ニ關スル建議案委員長
秋本 喜七

衆議院議長奥繁三郎殿

第四十

宮河内谷川改修國庫補助ニ關スル建議案(岡順次君外三名提出)
(委員長報告)

報告書

一宮河内谷川改修國庫補助ニ關スル建議案(岡順次君外三名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十五日

宮河内谷川改修國庫補助
ニ關スル建議案委員長
秋本 喜七

衆議院議長奥繁三郎殿

第四十一

多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(前田

米藏君外九名提出)

(委員長報告)

第四十二 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(高木正年君外五名提出)
(委員長報告)

報告書

一多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(前田米藏君外九名提出)
一多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(高木正年君外五名提出)
右ハ本院ニ於テ二案ヲ併合シ表題ヲ「多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議」トシ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月十五日

多摩川改修費及水源涵養費國庫
支辨ニ關スル建議案外一件委員長
秋本 喜七

衆議院議長奥繁三郎殿

(別紙)

多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案

多摩川改修費及ニ附帶スル水源涵養費ヲ國庫ニ於テ負擔シ速ニ完全ナル治水計畫ヲ實施セラレムコトヲ望ム
右建議ス

第四十三

阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助増額ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)
(委員長報告)

報告書

一阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助増額ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

阿武隈川阿賀川改修工事費國庫
補助増額ニ關スル建議案委員長
秋本 喜七

衆議院議長奥繁三郎殿

第四十四

淀川改修増補工事速成ニ關スル建議案(吉川吉郎兵衛君提出)
(委員長報告)

報告書

一淀川改修増補工事速成ニ關スル建議案(吉川吉郎兵衛君提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

淀川改修増補工事速成
ニ關スル建議案委員長
秋本 喜七

衆議院議長奥繁三郎殿

第四十五

狩野川改修ニ關スル建議案(岩崎勳君外一名提出)
(委員長報告)

報告書

一狩野川改修ニ關スル建議案(岩崎勳君外一名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

狩野川改修ニ關スル建議案委員長
秋本 喜七

衆議院議長奥繁三郎殿

第四十六

千代川改修速成ニ關スル建議案(山本藤助君外一名提出)
(委員長報告)

報告書

一千代川改修速成ニ關スル建議案(山本藤助君外一名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月二十三日

千代川改修速成ニ關
スル建議案委員長
秋本 喜七

衆議院議長奥繁三郎殿

〔秋本喜七君登壇〕

○秋本喜七君 只今議題トナリマシテ重信川改修ニ關スル建議案、本案ハ政府ノ意見ヲ徵シマシタ所、政府ニ於テ賛成ト稱セラレマシタ、ソレデ委員會ニ於テハ滿場一致ヲ以テ本案ヲ可致シマシタノデアリマス、利根川運河國有ニ關スル建議案、本案ニ付キマシテハ委員會ハ政府ノ意見ヲ徵シマシタ所、政府ニ於テモ本建議ノ趣意ニハ御賛成ヲ表セラレマシタノデ、委員會ハ全會一致ヲ以テ之ヲ原案ノ通り決定ヲ致シマシタ、第三十九ノ木會川外二川架橋速成ニ關スル建議案、本案ニ付キマシテハ提出者ヨリ詳細ナル説明ガアリ、又政府ノ御意見ヲ聽キマシタ所、既ニ此木會川ニハ三重、愛知ノ兩縣ニ於テ協定セラレテ、七年間計畫ヲ以テ架橋ノコトニ相成テ居リマシタ所、七箇年ト云フモノヲ四箇年ニ縮メテ本案ハ架橋ヲシタイト云フ御意見デアリマス、尙又外二川——長良川、揖斐川ノ二川モ、同時ニ國庫ヨリ工費四分ノ三ノ補助ヲ與ヘテ、同時ニ之ガ架橋ヲシタイト云フコトノ御意見ガアリマシタ、本案モ原案ノ通り委員會ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、宮河内、谷川改修國庫補助ニ關スル建議案、本案ニ付キマシテモ、政府ノ意見ヲ徵シテ、原案ノ通り委員會ハ全會一致ヲ以テ決定ヲ致シマシタ、多摩川改修及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案、本案ハ前田米藏君外九名提出ノ分ト、高木正年君外五名ヨリ御提出ニナリマシタ、此兩案ハ同一ナル内容ノモノデアリマスル故ニ、本案ヲ合併致シテ一括トスルコトニ致シマシテ、多摩川改修費、之ニ附帶スル水源涵養費ヲ國庫ニ於テ負擔シ、速ニ完全ナル治水計畫ヲ實施セラレンコトヲ望ムト云フコトニ修正ヲ致シマシタ、審議ノ末本案モ委員會ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助増額ニ關スル建議案、本案ニ付キマシテモ、政府當局ノ意見ヲ聽キマシタ所、政府ニ於テモ本案ニハ頗ル賛成ノ意ヲ表セラレマシタ、本案ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、淀川改修増補工事速成ニ關スル建議案、本案ニ付キマシテモ、政府ニ於テ賛成ヲ表セラレマシタ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、狩野川改修ニ關スル建議案モ、政府ニ於テ賛成ノ意ヲ表セラレマシテ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、千代川改修速成ニ關スル建議案、本案モ政府ノ意見ヲ徵シマシタ所、政府ニ於テモ本案ニハ賛成ノ意ヲ表セラレマシタ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、次第デアリマス、此段御報告ヲ致シマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、即チ日程三十七、三十八、三十九、四十並四十三、四十四、四十五、四十六ハ總テ修正モナクシテ委員長報告ノ通り、四十一、四十二ハ委員會ハ一案トシテ修正サレテ居リマス、只今委員長報告サレタ通り、斯ノ如ク決スルコトニ御異議ナシト認メマシタ、故ニ委員長報告通り可決確定ヲ致シマシタ、日程第四十七、食料品配給設備ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、委員長渡邊修君

第四十七 食料品配給設備ニ關スル建議案

案(山本余太郎君外三名提出) (委員長報告)

報告書

一 食料品配給設備ニ關スル建議案(山本余太郎君外三名提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十七日

食料品配給設備ニ關スル建議案
衆議院議長奥繁三郎殿
渡邊 修

食料品配給設備ニ關スル建議
國民ノ生活改善並衣食住費ノ輕減ハ我々國焦眉ノ急務ナリ此等ノ目的ヲ達成スルカ爲ニハ國家ノ施設ヲ必要トスルモノ多アルヘシト雖就中最緊急ニシテ且實行容易ナルハ冷蔵庫庫冷藏船冷藏車等ノ如キ食料品配給ノ設備ヲ助成セシムルニ在リ政府ハ速ニ之ニ對スル適當ノ施設ヲ講シ大正十一年度ヨリ之ヲ實施セラレムコトヲ望ム

〔渡邊修君登壇〕
○渡邊修君 簡單ニ報告ヲ致シマス、本案ハ過日本會ニ於キマシテ、提案者タル山本君ヨリ詳細説明ヲサレマシタ如ク、物價調節ノ問題ハ近來朝野共ニ随分ヤマカシキ問題デアリマス、故ニ此物價ヲ調節スルト云フコトハ、極メテ必要ナ事デアリマス、併ナガラ一概ニ物價ヲ調節スルト云フ譯ニハ行カナイ點ガアル、中ニハ之ヲ調節シテ、餘リ下ゲテハ宜シクナイト云フ品物モアルシ、又調節ヲシヤウト思フモノ、世界ノ物品ヲ調節ノ出來ナイ品物モアルノデアリマス、例ヘバ米ノ如キ今日以下ニ之ヲ低下スルト云フコト

ハ、農家ノ經濟狀態ニ大變ナ影響ガアルノデアリマス、故ニ之ハ考ヘ物デアアル、又生絲ノ如キ、ハ是ハ寧ろ高價方宜シイ、高ク外國へ賣ル方ガ日本ノ經濟ニ大ニ利益デアアルト云フヤウナ譯デアリマス、又棉花デアルトカ、或ハ砂糖デアルトカ、石油デアルトカ云フヤウナ品物ハ、是ハ日本ノミデ以テ之ヲ調節シヤウト思フモノ、世界ノ物品デアリマス、日本ダケテハ是ガ調節ガ出來ナイト云フヤウナモノ、餘程限ラレテ狹クナルデアリマス、故ニ主ニ此副食物——副食物ノ中デモ殊ニ肉類、魚類、或ハ野菜類、果物、卵ト云フヤウナ此副食物ノ調節スルト云フコトガ目下ノ急務デアアル、併シ之ヲ調節ヲ致シマスル爲ニハ、冷藏船、冷藏庫、冷藏車ヲ拵ヘマシテ、配給ヲ便ニスルト云フコトガ最も必要デアアル、仍テ政府ニ於テハ此冷藏船、冷藏庫、冷藏車ノ建設ヲシ、又民間ニ向テモ是等ノ設備ヲ獎勵シ、尙ホ必要ノ場合ニ於テハ、相當ノ補助ノ道ヲ開クト云フコトガ相當デアルト云フ此案ノ趣意デアリマス、委員會ニ於キマシテハ、審議ノ結果、總テ賛成ヲシタノデアリマス、尤モ此原案中ニ大正十一年度ヨリトアリマスルコトハ餘リ窮屈ニ過ル、政府ノ意見モ聽キマシテ、大正十一年度ヨリト云フコトヲ削除致シマシタ、滿場一致ヲ以テ原案ノ通り可決ヲ致シマシタ、此段報告致シマス(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ委員長報告ノ通り可決確定アラシコトヲ望ムマス
〔賛成〕(賛成ト呼フ者アリ)
○議長(奥繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク即チ委員長報告通り可決確定致シマシタ、日程第四十九乃至五十六ハ同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題ト致シマス、委員長八木逸郎君(四十八ノガ一ツ特別ノガアルト呼フ者アリ)
○議長(奥繁三郎君) 四十八ハ後ト廻シニシマセウ

第四十九 植物病理研究所設置ニ關スル建議案

建議案(伊藤廣幾君提出) (委員長報告)

報告書

〔八木逸郎君登壇〕
一 植物病理研究所設置ニ關スル建議案(伊藤廣幾君提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十八日

植物病理研究所設置ニ
關スル建議案委員長
八木 逸郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第五十 墓地及埋葬取締規則中改正ニ
關スル建議案(松下禎二君提
出)

報告書
(委員長報告)

一墓地及埋葬取締規則中改正ニ關スル建議案(松下
禎二君提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十一年三月十八日

墓地及埋葬取締規則中改
正ニ關スル建議案委員長
八木 逸郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第五十一 醫師法中改正ニ關スル建議案
(八木逸郎君外十一名提出)

報告書
(委員長報告)

一醫師法中改正ニ關スル建議案(八木逸郎君外十一
名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十一年三月十八日

醫師法中改正ニ關スル建議案委員長
八木 逸郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第五十二 國立體育研究所設立ニ關スル
建議案(八木逸郎君外十一名
提出)

報告書
(委員長報告)

一國立體育研究所設立ニ關スル建議案(八木逸郎君
外十一名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十一年三月十八日

國立體育研究所設立ニ
關スル建議案委員長
八木 逸郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第五十三 花柳病豫防法制定ニ關スル建
議案(大林森次郎君外七名提
出)

報告書
(委員長報告)

一花柳病豫防法制定ニ關スル建議案(大林森次郎君
外九名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十一年三月十八日

花柳病豫防法制定ニ
關スル建議案委員長
八木 逸郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第五十四 「タール」色素並ニ「カラメル」
使用取締ニ關スル建議案(大
林森次郎君外一名提出)

報告書
(委員長報告)

一「タール」色素並「カラメル」使用取締ニ關スル建議案
(大林森次郎君外一名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十一年三月二十三日

「タール」色素並「カラメル」使用
取締ニ關スル建議案委員長
八木 逸郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第五十五 衛生行政機關ノ統一擴大ニ關
スル建議案(山田永俊君外五
名提出)

報告書
(委員長報告)

一衛生行政機關ノ統一擴大ニ關スル建議案(山田永
俊君外五名提出)

右、本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十一年三月二十三日

衛生行政機關ノ統一擴大
ニ關スル建議案委員長
八木 逸郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第五十六 藥品新製劑及滋養品等ノ取締
ニ關スル建議案(山田永俊君
外五名提出)

報告書
(委員長報告)

一藥品新製劑及滋養品等ノ取締ニ關スル建議案(山
田永俊君外五名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也

大正十一年三月二十三日

藥品新製劑及滋養品等ノ
取締ニ關スル建議案委員長
八木 逸郎

衆議院議長奥繁三郎殿

「八木逸郎君登壇」

○八木逸郎君 第四十九ノ植物病理研究所設置ニ關スル
建議案、之ニ對シテ政府ハ農商務省ノ所管ノ植物研究ヲシ
テ居ルモノヲ盡ク寄セテ一ノ病理研究所ニスルト云フコトハ
至難デアルガ、此建議者ノ精神ハ頗ル吾々ハ敬意ヲ表スル次
第デアリマスカラシテ、此事ノ趣意ハ賛成ヲスルト云フコトデ
アリマシタ、右ニ依ッテ全會一致可決ヲ致シマシタ、其次ノ
墓地及埋葬取締規則中改正ニ關スル建議案、是ハ否決サ
レマシタカラシテ、一悉後ニ一寸其否決ノ理由ヲ申スコトニ
致シマス、其次ノ醫師法中改正ニ關スル建議案、此等ニ付
キマシテハ政府ハ全然同意ヲ致シマシテ、而シテ建議者ノ
申出ニ賛成ヲシテ、成ベク法律案ヲ制定シテ、次ノ議會ニ
出スト云フ言明ヲ得マシテ、是亦可決ヲ致シマシタ、其次ハ
國立體育研究所設立ニ關スル建議案、之ニ付テモ文部内務
ノ政府委員ガ出マシテ、全然雙手ヲ舉ゲテ賛成セラレマシ
テ、其趣意ハ結構ナ事デアルカラ、政府ハ大ニ考慮ヲ費ス、斯
ウ云フ辯明ヲ得マシテ、是亦滿場一致可決ヲ致シマシタ、其
次ハ花柳病豫防法制定ニ關スル建議案、之ニ向ッテモ政府
ハ大ニ必要ヲ感ジテ、此事ニ付テ現ニ大日本醫師會ニ諮問
ヲシテ居ル譯デアルカラ、大ニ研究シテ上デ此法律ヲ發布シ
タイト云フ考ヲ持ッテ居ルト云フコトデ、此建議案ヲ可決致

〔松下嶺二君登壇〕

シマシタ、其次ニ「カラム」使用取締ニ關スル建議案、是ハ飲食食物ニ色ヲ著ケルモノ、中ニ有害ナモノガアルカラシテ、此有害ナルモノヲ取締シテ、國民ノ健康ヲ保持シタト云フ精神デアリマシテ、頗ル結構ナル事デアルト云フコト也、滿場一致デ可決致シマシタ、其次ニハ衛生行政機關ノ統一擴張ニ關スル建議案、是ハ政府ハ心持好ク此必要ヲ感ゼラレテ、衛生ノミナラス、全體ノ官制ニ向テ大ニ企畫シテカレバナラヌ、是ハ近キ未來ニ於テヤリタト思フヲ云フ精神デアリマシテ、是亦滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、其次ハ藥品新製劑及遊藝品等ノ取締ニ關スル建議案、是ハ色々名ヲ著ケテ善イモノ出マヌガ、惡イモノ出マヌカラ、之ヲ檢ベテ能ク研究シ、或ハ分析ヲシテ、其結果ヲ報告サレタト云フコトデアリマシテ、是亦異議ナク可決致シタ、次第デアリマス、前ニ保留ヲ致シテ置キマシタ基礎及埋葬規則中改正ニ關スル建議案ハ、是ハ松下君ヨリ毎年提出セラレルノデ、或ハ法律案トナリ、或ハ建議案トナリ、變テ居リマス、其趣意ハ餘リ變テ居リマセヌノデ、面シテ松下君ノ申サレル趣旨ハ、現在ノヤウナ時間制デ埋葬スルト云フコトヲ避ケテ、屍體デアルト云フ確證ヲ得タ其確證ヲ得ヘテ、ザウシテ埋葬スルコトニシタト云フノデアリマス、理窟ハ餘程結構ナモノ、ヤウデアアルノデアリマス、併ナガラ其方法ヲ計メテ見マス、吾々ハ少シモ首肯スルコトガ出來ナイノデアリマシテ、醫師ガ死亡届ヲ書ク前ニ於テ、檢屍官ト云フモノヲ拵ヘル、而シテ此檢屍官ハ巡査戶籍吏或ハ役場吏員ヲ檢屍官トシテ使フ、是等ノ檢屍官ガ死骸ヲ視テサウシテ死シタト云フ檢案ヲ書イテ、其書イタモノニ依テ醫師ガ死亡届ヲ出ス、斯ウ云フヤウナ御考デアリマシテ、或ル意味カラ考ヘテ見タナラバ、醫師ハ死シタト云フコトノ判斷ガ出來ナクテ、是等ノ人ガ檢案ヲ書イタ後ニ、教ヘテ實テ死亡届ヲ書クト云フ意味ニモ取レルノデアリマス、ミナラス、其ニ於テハ檢屍官、檢屍官ト云フコトヲ言ハレマス、其檢屍官ノ事ヲ御導シマス、餘リ深ク御承知ガナクテ政府ヲ調ベラレタノハ餘程遺憾ト云フモノハ認メナクテ、ザウシテ、檢屍官ガ視テ四十時間若クハ七十時間經過タモノデアアルト云フ檢案ニ依テ、始メテ埋葬スルコトニナラ居ルノデ、若シ左様ナ事ヲ致シマシタナラバ、日本デハ非ナ困窮ノ盛スル譯デアアルノデアリマス、實シ事ハ邊記録ヲ御調ベ下サタナラバ能ク判ルノデアリマシテ、到底日本デ採用スルコトノ出來ナイ事ト存ジマシタ、是ハ遺憾ナガラ否決ニナタノデアリマス、此段報告ヲ致シマス

○議長(與繁三郎君) 日程第五十二付テ討論ノ通告ガアリマス、松下嶺二君

○松下嶺二君 只今上程セラレタル墓地及埋葬取締規則中改正ニ關スル建議案ニ對シテ、委員長ノ報告セラレタル事ニ私ハ反對スル者デアリマス、吾々人類ノ終局ハ、申スマデモナク、棺ノ中ニ收マリ、地下ニ冷ニ且ツ靜ニ眠ルコトデアルト云フコトハ何人モ疑ハザル所デアアル、披山蓋世ノ英雄モ才人佳人モ、田夫野人モ、共ニ此運命ニ逢テスルノデアアル、然ルニ我國ニ於ケル現行法ハ極メテ不完全ナルモノデアアル、其不完全ナル法ヲ改正スルノハ刻下ノ急務デアアルデアアル、然ルニ此案ヲ拒絕セントスル者ハ、即チ生ニ執着シテ、死ヲ厭ミルニ似タキ輩ノ爲ス事ト私ハ思フノデアリマス、死ハ人生ノ中デ最も悲シムベキコトデアアル、隨テ慎重ナル態度ヲ以テ之ヲ判斷シ、且ツ其埋葬許可ノ方針ハ事實ヲ參照シ、科學の基礎上ニ之ヲ築成シナケレバナラヌノデアアル、歐米ノ文明國ニ於キマシテハ、夙ニ的確ナル死體ノ無キ者ヲ葬ルコトハ、色々ノ過、若クハ罪惡ヲ造ルモノデアアルト云フコトヲ知テ、多數ノ學者ニ依リマシテ、幾百種類ノ單行書類ナドガ刊行サレテ居ル、同時ニ其國ノ政府當局ニ於キマシテモ、成ベク其過ヲ少カラシメントスル目的デ、特殊ノ法律ヲ制定シテ居ルノデアリマス(分リマシタト呼ブ者アリ)然ルニ我國ニ於キマシテハ、墓地及埋葬取締規則ト名ケル明治十七年十月四日ノ太政官布達ガアルノデアアル、現今ニ於キマシテモ此ハ金科玉條ニナタレ居ルノデアアル(例年ノ事デアアルカラ分テ居ル)謹聽下呼ブ者アリ)此不完全極マル太政官布達ハ、勿論現在ニ於テモ有効デアアルデアアル、併ナガラ此布達ハ極メテ不完全ナルモノデアアルガ、我國ノ人ハ之ヲ不完全ナリトモ思ハス、又此法令ヲ不都合トモ思ハズシテ、満足シテ居ルト云フコトノ事實ヲ悲シムノデアアル、故ニ私ハ一昨年及昨年ハ之ヲ法律案トシテ提出シ、又本年ハ之ヲ建議案トシテ提出シタノデアリマス、委員會ニ於テ否決セラレ、又本議會ニ於テ否決セラレントシテ居ルノハ、私ノ頗ル遺憾トスル所デアリマス、埋葬取締規則第三條ニハ「死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレバ埋葬ハ火葬ヲナスコトヲ得ス」ト規定シテアル、由來此時間制ハ何等ノ意義ガ無キモノデアアル、死ヲ判定スルノ資料トナスコトハ出來ナイモノデアアル、試ニ此時間制ニ付テ當局者ノ其意義ヲ尋ネテ見マス、何等答フルコト無ク、唯「然レ現行法ニ不都合ナル點ハ認メマセヌト云フダクニ過ぎナイ、呼吸及、血行即チ血液ノ循環ガ共ニ絶エタル所謂死ノ直後、又ハ一定ノ時間中ニハ如何ニ博識ナル醫師ト雖モ、眞死デアアルヤ假死デアアルヤ判定スルコトハ出來ナイノデアリマス、併ナガラ一定ノ時間ヲ經過スレバ、眞死者ニ於キマシテハ死體ト云フモノガ現ハレル、假死者ニ於

テハ假令二十四時間、又ハ一週間或ハ其レ以上ヲ經過シマシテモ死體ハ現ハレナイノデアアル(腐テシマフ)ト呼ブ者アリ)腐ルコトハ決シテナイノデアアル、ソレデアリマスカラシテ、現行法ニ依リマスレバ、假死者ヲ誤テ葬ルコトガナイトモ言ハレナイノデアアル、私ハ斯ノ如キ假死ノ例ガ多數我國ニアラコトヲ熟知シテ居リマス、然ルニ此假死者ハ其假死ノ狀態ニアル時間ノ長短如何ニ拘ハラス、一定ノ時ガ來レバ自ラ蘇生スルモノデアアル、故ニ之ヲ輕キシタ地中ニ葬ルベキモノデアハ決シテナイノデアリマス、是レ時間制ノ無意義ナル所以ノデアアル(分リマシタト呼ブ者アリ)マダ御分リナラヌデセウ、又眞死ニ死シタ且ツ刑事上ニ何等關係ノナキ死體ヲバ、死後二十四時間モ其儘ニ安置シテ置ク必要那邊ニ在リヤ、徒ニ傳染病——私ガ此處ニ言フ傳染病ナルモノハ法定傳染病バカリデハナイ、色々ノ種類ノ傳染病ヲ意味シテ居ルノデアリマス、此傳染病ノ傳染ノ危險ノ度及家族ノ悲嘆ノ度ヲ増サシメルダケデアリマス、加之我國ニ於キマシテハ埋葬ニ日柄ヲ選ブ風習ガアリマス、ソレデアリマスカラ、時シテハ數日ノ久シキニ亙テ葬ルコトノ出來ナイコトガアル、斯ノ如キモ亦時間制ヲ採用シタル弊ノ一端デアリマス、醫師法第五條ニハ「醫師ハ自ら診察セシシテ診斷書處方箋ヲ交付シ若クハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セシシテ檢案書若クハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス」ト規定シテアル、ソレデアリマス、醫師ハ診療中ノ患者ガ死シタ場合ニ於テハ多クハ檢案セズシテ直ニ死亡診斷書ヲ書クノデアアル、而シテ官公吏ハ此醫師ノ死亡診斷書ニ依リマシテ埋葬ヲ許可スルノデアリマス、而シテ死後檢案ヲ爲スガ如キ場合ハ極テ稀デアアル、醫師ノ死亡診斷書ト云フモノハ、多クハ場合ニハ死ノ狀態ニアルト云フコト位シカ意味シテ居ナイノデアリマス、決シテ假死ト眞死ト區別シテ眞死ノ場合ニミ之ヲ認メルモノデアアリマセヌ、死ノ直後ニ於テハ如何ニ博識多才ノ醫者ト雖モ、眞死ト假死ト判別スルコトガ出來ナイノデアリマス、唯偶然其眞死ヲ鑑定ガ命中スルニ過ぎナイノデアアル、ソレデアリマス、醫師ノ死亡診斷書コソ埋葬上ニ有力ナモノデアリマス、但シ我國ニ於キマシテハ死因統計、疾病ノ統計、其他色々ノ衛生統計上ニ醫師ノ死亡診斷書ヲ統計材料トナス場合ガ非常ニ多イ、ソレデアリマスカラ、私ハ埋葬許可ニ先テ、醫師ノ死亡診斷書ヲ徵シテ、統計資料ノ散漫ヲ成ベク避ケント希望シタノデアアル、現ニ昨年及一昨年提出シタ所ノ法案ニ付此點ヲ幾度モ委員會ガ説明シタノデアアル、埋葬ニハ死體檢案書一通デ宜シイ、併ナガラ同時ニ醫師ノ死亡

診斷書ヲ做シテ其病氣ノ原因其他ニ付テ、統計ノ資料ヲ得タイト云フコトヲ申シタノデアリマス、反對論者ノ論據ハ

○議長(奥繁三郎君) 松下君ニ御尋ネシマス、時間ハ延長シテ居リマスガ、マダ長クナリマスガ、尙ホ長クナリマシレバ夕食ヲシナイ人モアリマスカラ、暫時休憩シヤウト思ヒマス

○松下禎二君 サウ長クハ掛ルマイト思ヒマス

○議長(奥繁三郎君) 暫時休憩致シマス

午後六時五十二分休憩

午後七時八分開議

午後七時八分開議

○議長(奥繁三郎君) 休憩前ニ引續イテ會議ヲ開キマス
〔定數ニ足リマセシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 定數ヲ誤ルベテ見マス——今出席數ハ定數ニ滿チマセヌ、故ニ本日ハ是デ散會致シマス、明日ハ豫テ御通知シテゴザイマス如ク、午前十時ヨリ開會致シマス

午後七時十分散會

〔衆議院速記録第二十七號(六四〇頁)信託法案ニ關スル
指田委員長報告演說ノ參照〕

信託法案說明書

第一章 信託發達ノ概況

我國ニ於ケル信託ハ會社ノ經營スル營利事業トシテ急速ノ發達ヲ來セリ信託本來ノ性質ハ無償ニシテ他人ノ爲ニ財產權ヲ領有シ之ヲ管理處分スルノ制度ニシテ營利ノモノニ非ス英國ニ於テハ今仍舊原則トシテ此ノ主義ニ依リ又其ノ經營者ニ付テモ英國ニ於テハ法律上敢テ法人タルヲ妨ケスト雖實際ニ於テハ信託ノ經營ヲ目的トスル法人ハ其ノ發達甚ダ迅速タリ英國ニ移入セラルルニ及ヒテ漸ク其ノ性質ヲ變シ信託ハ有償ナルヲ原則トシ營利的信託卽チ信託業ト共ニ信託業ヲ營ム會社卽チ信託會社ノ勃興ヲ來スニ至レリ而シテ此ノ所謂信託業ハ信託會社ト共ニ又我國ニ移植セラルルニ至リタルモノト是見レ我國ニ於ケル信託力會社ノ經營スル營利事業トシテ頗ニ發達ヲ始メタル所以ナリ

信託ハ特殊ノ財産制度ニシテ其ノ權利關係ノ性質ヨリ云フモ亦其ノ發生原因タル法律行為ヨリ云フモ私法上特別ノ地位ヲ有ス而シテ信託業トハ信託ノ營業信託會社トハ信託業ノ當リ會社ト云フニ外ナラス然モ我國ノ信託業ハ本來ノ信託ノ外附屬ノ業務トシテ宏ク委任ノ業委任若ハ寄託等ノ性質ヲ有スルニ過キサル業務例ヘハ會社ノ整理又ハ合併ニ關スル業務 債證券ノ管理又ハ登錄ニ關スル業務、債券ノ元利金及株式ノ配當金ノ取立及支拂ニ關スル業務等ヲ包含シ 信託會社ハ是等固有業務ニ附隨ノ信託業ノ外保險業又ハ銀行等ヲ兼營スルモノナリ

我國ニ於ケル信託業モ大體米國ニ於ケルカ如ク信託ト信託ニ
非ザルモノトナリ總務セリ信託ニ關スル一般法ヲ有セサル我國
ニ於テハ信託業ナル名稱ノ爲ニ頗ル信託ノ觀念ナラシメ
メタルノ以テ信託ハ前述ノ如ク特別ノ財産制度ニシテ私法
上特權ノ權利關係ヲ生スル點ニ於テ其ノ存在ノ價値ヲ有ス信託
託業ハ之ヲ以テ其ノ中心事業トセサルヘカラスルハ言フ俟ク
ス一般信託法ノ制定ハ此ノ義ヲ闡明スルノ使命ヲ有スルモノ
ナリ

我國ニ於テ法制上初メテ信託ヲ認メタルハ明治三十三年日本
興業銀行法ナリ即チ同法第九條第四號ニ「地方債證券社債券及
株券ニ關スル信託業務」トアリ明治三十八年擔保附信託信託法
ノ發布ト共ニ興業銀行法ヲ改正シテ廣ク信託業務トセリ興業
銀行以外ノ特殊銀行ニシテ法令上信託業務ヲ營ムモノハ朝鮮
銀行(明治四十四年)臺灣銀行(大正三年)及北海道拓殖銀行(大
正五年)ナリ茲ニ茲ニ各定款ニ依ルハ何レモ單ニ信託業務ト云フ

轉ニ注シニ認メテレタル信託業者ハ右列記ノ銀行ニ止ル然ル
ニ異ノ處ノ會社若ハ個人等ニシテ信託ノ營業トスルモノ即チ信
託業者ノ數ハ過去數年間ニ於テ急遽ノ増加ヲ爲セリ大藏省銀
行局ノ調査ニ依レハ大正九年九月末ニ於テ信託業者營業會社

ノ數四百二十五組合及個人ノ信託票者二十六ニシテ總計四百五十一ヲ算セリ食社ニ付テハ資本總額八千九百七十餘圓一會社平均十九萬八千餘圓ナリ

國必シモ一定セスト雖大體ニ於テ範圍ヲ吾國ノ信託會社ニ採リタルモノトス

二號ニ詳細ノ規定ヲ設ケ同法ハ他債ニ擔保ヲ附スル場合ニ於
 テ法律關係ヲ簡約ニシ且擔保ノ適用ヲ確實圖ラシムルモ
 ノルヲ以テ擔保權ノ享有尙使ニ付信託ノ法律ヲ應用シタルモノ
 ナリ擔保附託債信託ハ一總信託ニ關スル特別制度ナルノ點ヨリ
 觀ルトキハ信託制度上ノ一局部ヲ爲スニ過キスト雖其ノ業務ノ
 範圍ヲ明確ニシ且其ノ信託的法律關係ヲ詳細ニ規定スルノ點ニ
 於テ我國唯一ノ信託法ト云フコトヲ得從テ此ノ種ノ信託及信託
 業務ハ自ラ別個ノ地位ヲ有シ獨立ノ發達ヲ爲シ來リタルモノ
 トス

營業以外ニ於テモ吾人ノ日常經驗スル事項ニシテ信託的關係ヲ構成スルモノ、勸カラス或ハ俱樂部學會等ニシテ法人ナラサルモノ、財産ハ其ノ首長若クハ代表者ノ名義ヲ以テ之ヲ所有シ例ヘバ不動産ノ登記銀行ノ預金ヲ爲スヲ通例トス又發起人若ハ主催者等ニ於テ或ハ個人ニ寄贈スル爲或ハ特別ノ因ノ二供用スル爲等々募集スルノ事例ハ新開雜誌等ニ常ニ見ル所ニシテ其ノ募集ヲクル財産ハ其ノ因ノ成就スルマデハ發起人若ハ主催者ノ多寡ニ依リテ之ヲ管理スルヲ例トセリ又財産隱匿ノ意思ニ非スシテ種々ノ事情ニ依リ自己ノ財産ヲ他人ノ名義ニ於テ保管セシムルノ事例勸カラス又頼母子講ノ會則ニ依リ會員ニ對スル一切ノ給

權及志ニ附隨スル擔保權ヲ會主ニ信託シ會主ノ名義ニ於テ之ヲ管理セシムルコトモ通常行ハル所ナリ又遺兒教育資金ノ管理ニ付テ集マリタル資金ハ故人ノ友人義名ニ於テ費任ヲ以テ確實有利ニ處テ保管シ遺兒教育ノ圖的ノ爲ニミ之ヲ使用スルモノトシ管理者ハ其ノ圖的ヲ達スル爲ニ適當ト認ムル支出ヲ爲シ之且相當ト認ムルトキハ發起人ノ協議ヲ經テ殘存資金ヲ遺族ノ一家ニ與フルモノト定メタル事例アリ是レ卽チ遺兒教育ノ圖的ヲ信託ノ關係ニシテ惟フニ此ノ如キ事實ハ世間ニ其ノ例少カラスルヘシ莫ノ他家族間ニ於ケル財産ノ管理殊ニ戶主死亡シ相續人仍幼冲ナル場合ニ於ケル財産ノ保護ニ付テハ信託ニ因リ時勢變管理ノ制度ヲ設ケナハ以テ時勢救済ノ一助ト爲スヲ得ヘシ獨チ此ノ方面ニ於テモ亦十分信託ヲ利用スルノ餘地存スト謂フヘシ

以上ハ我國ニ於ケル信託發達ノ概況ナリ要スルニ我國ニ於テモ信託の現象ハ實際ニ於テ諸般ノ關係上既ニ多ク存在スト雖未タ一般ノ財産制度トシテ利用セラルルノ域ニ達セザリシカ信託業ト共ニ信託會社ノ制度米國ヨリ輸入セラルルニ及ヒ信託其ノモノノ範圍モ亦急速ニ擴張セラレツツアリ然ルニ信託ハ特種ノ法律關係ヲ成スル財産制度ニシテ我民族商法ノ法則

ヲ以テシテハ未タ以テ當事者ノ關係ヲ律スルニ充分ナラス而
カモ其ノ法律關係ハ頗ル廣汎複雜ニシテ到底判例ノ規範定ル
ヲ俟ツヘキニ非ス成文法ノ制ヲ採レル我國ニ於テ殊ニ然リト
ス左レハ此ノ時ニ當テ所謂信託ノ私法上ノ權利關係ヲ明確ニ
シ關係當事者ノ利益ヲ相當ニ保護シ以テ信託ノ目的ヲ達成
セシムルコトニ法律上ノ保障ヲ與フルコトハ信託ノ發達上頗
ル緊急ノ事項ナリ

第二章 信託ニ關スル現行法

信託ニ關スル現行ノ法見ハ未タ甚々タリ前掲日本興業銀行
法第九條朝鮮銀行法第十七條臺灣銀行法第五條北海道殖産銀
行法第七條營業稅法第一條及擔保附信託法アルニ過キス銀行
法ニ於テハ單ニ信託ノ業務ヲ行フコトヲ得ル旨ヲ定メ稅法ニ於
テハ信託業ニ營業稅ヲ課スル旨ヲ定ムル止ル信託ノ實體的法
律關係及信託業ニ付テ規定ヲ設クルハ擔保附信託法アルノ
ミ而カモ此ノ法律モ信託ノ一部ヲ規定スルニ外ナラサルコト前
ニ述ヘタル所ナリ一般ノ信託及信託業ニ關シテハ未タ法律ノ制
定ヲ見ス而シテ今同立案セラレタル信託法案ハ信託一般ニ關ス
ル立法ヲ目的トスルモノナリ

第三章 信託ノ地位

本案ハ信託ニ關スル一般ノ私法上の權利關係ノ通則ヲ定ムルヲ目
的トス即チ民法ニ對シ特別法タル地位ヲ有スルモノト謂フヲ得
ヘシ而シテ今同大藏省ノ提案ニ係ル信託法案ハ營業トシテ爲
ス信託ノ引受即チ信託業ノ保護、監督ヲ主眼トスルヲ以テ信託
ノ實體關係ニ付テハ原則トシテ信託法ニ依ルハ勿論ナリ唯營業
的見地ヨリシテ實體關係ニ付多少ノ特別規定ヲ設ケタル點ニ於
テハ信託法ノ特別法ト謂フヘシ又擔保附信託法ニ規定スル
信託ハ附信ニ附スヘキ物上擔保權ノ信託ニ限ルヲ以テ是亦一般
信託ノ通則タル信託法ニ對シ特別法ノ關係ヲ有スルモノトス

第四章 信託ノ觀念

抑モ財產ノ所有者カ自ラ其ノ財產ヲ管理處分スルハ至當ノ狀態
ナリ又他人ヲシテ其ノ財產ノ管理處分ヲ爲サシムトスルニハ
代理權ノ授與ニ依リテ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ代理人ハ
自ラ權利ヲ有スル者ニ非スシテ權限ニ基キ本人ノ爲ニ其ノ財產
ノ管理處分ヲ爲スコトヲ得是亦現行ノ法制上通常ノ事態ナリ然
ルニ更ニ一步ヲ進メテ其ノ財產ノ權利自體ヲ他人ニ與フルモ之
ヲシテ專ラ自己ノ爲ニ其ノ財產ヲ管理處分セシムルノ關係ヲ生
スル場合アリ此ノ場合ニ於テハ委託ヲ受ケタル者ハ其ノ財產ノ
權利者ト爲ルニ雖管理處分ニ因リテ自ラ利益スルコトヲ得ス其
ノ利益ハ舉ケテ之ヲ他人ニ歸セシムルコトヲ要スルノ地位ニ立
ツモノトス是レ即チ所謂信託ノ關係ナル信託關係ニ於テ管理處
分ノ目的タル財產權ヲ信託財產ト謂ヒ管理處分ヲ委託スル者ヲ
委託者其ノ委託ヲ受ケタル者ヲ受託者ト謂ヒ管理處分ノ利益ヲ受
ケル者ヲ受益者ト謂フ即チ信託ハ其ノ一面ヨリ觀レハ信託財產
ヲ受託者ニ移轉シ受益者ノ爲ニ之ヲ管理處分セシムルモノト謂
フヘク又他ノ一面ヨリ觀ルコトキハ受託者カ信託財產ヲ享有シ受
益者ノ爲ニ之ヲ管理處分スルノ義務ヲ負フモノト云フコトヲ得

ヘシ本案ニ於テ此ノ觀念ヲ前提トセルコトハ第一條第四條第七
條第九條第十五條第十六條第十七條第十九條第二十二條第二十
八條第三十一條其ノ他法案ノ全體ヲ綜合シテ之ヲ確認スルコト
ヲ得ヘシ

信託ハ財產ノ管理處分ヲ目的トスルヲ以テ身分權其ノ他財產權
以外ノ權利ニ付テハ信託ノ關係ヲ生セス單純ナル事務ノ處理ニ
付テモ亦然リ又信託ハ財產權ノ名義ヲ與ヘテ管理處分ヲ爲サシ
ムル制度ナルヲ以テ後見人又ハ遺產管理人ノ爲ス財產ノ管理ノ
如キハ信託ニ非サルナリ

第五章 信託ノ種類

信託ハ種々ノ標準ニ依リテ之ヲ類別スルコトヲ得レトモ本案ノ
解説ニ必要ナルモノハ二アリ

(一) 目的ニ依ル區別

信託ハ目的ノ公私ニ依リテ之ヲ公益信託(Public Trust)及私
益信託(Private Trust)ノ二種トス公益信託トハ社會公共
ノ福利ヲ增進スルヲ目的トスルモノニシテ例ヘハ宗教ノ宣
布、教育ノ普及及又貧民ノ救助等ヲ目的トスル信託ノ如シ
私益信託トハ個人ノ利益ヲ目的トスルモノニシテ私人間ノ
財產ノ管理處分殊ニ遺產處分ノ方法トシテ英米ニ於テ汎ク
行ハル所ナリ本案ニ於テハ公益信託及私益信託ヲ併
セテ規定シタルモ公益信託ニ特殊ナル事項ニ付テハ第六十
六條以下ニ之ヲ規定シタリ

(二) 形態ニ依ル區別

信託ノ當事者ハ委託者、受託者及受益者ナリ此ノ三者ハ各
別個ノ人格者ナルアリ然ラサルアリ從テ信託ノ形態ニ二様
アリ

イ、委託者ト受益者トカ同一人ナルモノ

此ノ種ノ信託ハ委託者カ自己ノ爲ニ信託ヲ設定スル場合
ニ生ス即チ財產ノ所有者カ其ノ財產ヲ他人ニ信託シテ管
理セシメ之ヨリ生スル利益ヲ自己ニ交付セシメ及信託終
了ノ場合ニ於テ其ノ財產ヲ自己ニ返還セシムルヲ目的ト
スル信託ナリ

ロ、信託ノ當事者カ各別人ナルモノ

是レ即チ第三者ノ爲ニスル信託ニシテ例ヘハ甲カ其ノ所
有ノ不動產ヲ友人乙ニ信託シ之ヲ換價シテ國債ヲ買入レ
之ヲ管理シテ其ノ收益ヲ友人丙ノ遺子丁ニ與ヘテカ獨立
ノ生計ヲ營ムニ至ラハ其ノ時ニ於ケル信託財產ノ全部ヲ
之ニ與フヘシト定メタル場合ノ如シ

第六章 信託ノ行爲

信託ノ設定ヲ目的トスル法律行爲ヲ本案ニ於テ信託行爲ト謂フ
第一條ニ依レハ(一)信託トハ財產權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ
他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財產ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムル
ヲ謂フトアリ他人ヲシテ管理又ハ處分ヲ爲スノ義務ヲ負ハシム
ルモノナルヲ以テ其ノ契約ナルヲ常理トス(二)財產權ノ移轉其
ノ他ノ處分ヲ爲シテ其ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルモノナル
ヲ以テ信託契約ニハ財產權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ必要トスル

コト亦明ナリ

信託ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(第二條)信託ハ婚姻幼兒
ノ爲ニスル財產ノ管理其ノ他死後ニ於ケル財產處理ノ方法ト
シテ殆ト行ハレ多大ノ功用ヲ致セルハ英米社會ノ實際ナリ我國
ニ於テモ亦同様に目的ニ利用セラルヘキハ蓋シ想像スルニ難カ
ラス而カモ遺言ヲ以テ信託ヲ爲シ得ルヤ否ニ付テハ民法ノ解釋
上多少ノ疑ナキニ非サルヲ以テ本案ニ於テハ信託ハ遺言ヲ以テ
之ヲ爲スコトヲ得ルノ義ヲ明ニス遺言ヲ以テ信託ヲ爲スニ付テ
ハ民法ノ定ムル遺言ノ形式ニ依ルヘキハ當然ナリ本案ニ於テハ
遺言ト信託契約トヲ包含セシムルカ爲メ特ニ信託行爲ト云ヘリ

遺言ニ依リテ信託ヲ爲シタル場合ニ於テ遺言ハ效力ヲ生スルモ
受託者トシテ指定セラレタル者カ引受テ管理セサルコトナキヲ保
セス此ノ場合ニ於テハ遺言ノ目的ヲ達スル爲利害關係人ヲシテ
裁判所ニ受託者ノ選任ヲ請求スルコトヲ得シム(第四十九條第
二項)

信託行爲ハ私益信託ニ於テハ當然當事者ノ自由ニ屬スレトモ公
益信託ニ於テハ主務官廳ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(第六十八條)

第七章 信託ノ當事者

(一) 委託者ニ付テハ本案別ニ制限ヲ設ケス法律行爲ヲ爲シ得
ル者ハ何人モ信託ヲ爲スヲ得ヘシ但シ信託ニハ財產權(信託
財產)ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ要スルヲ以テ處分ノ能力ヲ有ス
ル者タルヲ要スルハ勿論ナリ

(二) 受託者ニ付テハ制限ヲ設ケテ未成年者、禁治產者、準禁治產
者及破產者ハ或ハ智能ノ發育充分ナラス或ハ精神ニ缺陷アリ
或ハ財產上ノ信用ヲ失墜セル者ナルヲ以テ何レモ受託者タル
コトヲ得サルモノトス妻ハ夫ノ許可アルコトキハ受託者タルコ
トヲ得(第五條)法人亦其ノ目的ノ範圍內ニ於テ信託ヲ引受タ
ルコトヲ得ヘシ

營業トシテ信託ノ引受ヲ爲スニハ信託業法ノ規定ニ依リ主務
官廳ノ免許ヲ受ケタル信託會社ナルコトヲ要ス信託ノ引受ハ
民法上ノ行爲ナレトモ營業トシテ之ヲ爲ストキハ商行為タリ
(第六條)

(三) 受益者ニ付テハ別ニ制限ヲ設ケス但シ特定ノ財產權ニ付
法令ニ於テ其ノ享有ヲ禁止セラレタル者ハ名ヲ信託ニ藉リテ
其ノ權利ヲ享有スルコト同一ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ス(第十
條)故ニ例ヘハ土地ノ所有權ヲ日本人タル受託者ノ名義トシ
外國人ヲ受益者トシテ之ニ所有權者タルト同一ノ實益ヲ與
ルカ如キ信託ハ無効ナリ

受益者ハ信託行爲ノ當時特定セルアリ例ヘハ甲カ友人乙ノ子
丙ノ爲ニ財產ヲ友人丁ニ信託スル場合ノ如シ此ノ場合ニ丙カ
未タ出生セス後胎セルモ信託ノ成立ヲ妨ケス又行爲ノ當時
ニ特定セルアリ例ヘハ俱樂部員、會員ヲ受益者トスル信託
ノ如シ俱樂部員、會員ハ時々變移スルヲ以テ豫メ信託行爲ヲ
以テ之ヲ特定スルコトヲ得ス公益信託ニ於テハ受益者ハ常ニ
特定セス

受益者ノ特定セサル場合ハ勿論未タ存在セサル場合例ヘハ受

爲者トシテ指定セラレタル子カ未タ生レサル場合ニ於テハ是等ノ者ノ利益ヲ保護シ信託ノ實行ヲ確保スル爲メ信託管理人ヲ置キ受益者ニ代リテ裁判上裁判外一切ノ行爲ヲ爲サシムルモノトス(第八條)

(四) 委託者ト受益者トハ相承スルコトヲ妨ケス第五十七條ハ之ヲ前提トスル規定ナリ然レトモ委託者ト受益者トハ相承スルコトヲ得ス蓋シ委託者ハ信託上ノ債務者ト受益者ハ其ノ債權者ナルヲ以テ兩者相承スルルハ債權債務ノ混交ヲ來スヲ以テナリ但シ例ヘハ俱樂部其ノ他團體員ノ爲ニシテ信託ニ於テ委託者タル會員、幹事カ同時ニ會員トシテ受益者タルヲ得シメ又債務者ノ財産ヲ債權者ノ一人ニ信託シ總債權者ノ爲ニ債務ノ整理ヲ爲サシムル場合ニ委託者モ亦債權者ノ一人トシテ受益者タルヲ得シムルハ頗ル便宜トスル所ナリ依リテ數人ノ受益者アリテ利害共通ノ關係アル信託ニ於テハ委託者モ亦受益者ノ一人タルコトヲ得ルモノトス(第九條)

(五) 委託者ト受益者カ同一人ナル場合ヲ除ケハ本案ニ認ムル信託行爲ハ第三者ノ爲ニシテ契約ニシテ受益者ハ信託行爲ノ當事者ニ非スト雖民法第五百三十七條ニ依リ利益享受ノ意思表示ヲ爲スヲ要セスシテ當然信託ノ利益ヲ享受スルモノトス但シ信託行爲ニ起リ異ナル定メ爲シタルトキハ其ノ定ニ從フハ勿論ナリ(第七條、商法第四百二十八條ノ二)

第八章 信託ノ目的

公益私益ヲ問ハズ信託ノ目的ハ適法ナルコトヲ要ス苟モ適法ナラズ如何ナル事項ヲ目的トスルモ法律上制限ナシ不法ノ目的ヲ有スル信託ノ無効ナルハ民法ノ原則ニ依リ本案ニ於テハ脫法信託及詐害信託其ノ他ニ付二三ノ規定ヲ置ケリ

(一) 法律上或ル財產權ノ享有ヲ禁セラレタル者ニ信託ヲ利用シテ之ヲシテ其ノ權利ヲ享有スルト同様に利益ヲ收メシムル目的ヲ以テスル信託ハ無効ナリ是レ第十條ニ依リ明ナリ同條ハ一面受益者ノ制限タルト共ニ又一面脫法信託ノ禁止ト見ルコトヲ得

(二) 訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トシテ爲ス信託ハ無効ナリ是レ訴訟ノ弊ヲ生スルノミナラス裁判所ニ於テ辯論ヲ爲スヲ樂トスル者ノ出廷ヲ禁スルコトヲ得ル民事訴訟法ノ規定(第二百二十七條)ヲ避脱スルモノト謂フヘキヲ以テナリ(第十一條)

(三) 民法第四百二十四條ノ取消權ヲ擴張シテ詐害信託ノ取消ヲ容易ニシ以テ財產隱匿ノ爲ニ信託ヲ濫用スルノ弊ヲ防止セムトス即チ取消ノ條件ヲ簡單ニシ設定者タル債務者カ惡意ナル以上相手方タル委託者ノ善意惡意ハ之ヲ問ハサルモノトス(第十二條第一項)

然レトモ受益者ニ對スル關係ニ於テハ受益者カ信託ニ依リ將來受クヘキ利益及既ニ發生セル請求權ニシテ未タ辨濟期ニ到ラサルモノニ付テハ信託取消ノ效果ヲ及ボスモ其ノ既ニ受ケタル利益ニ付テハ受益者カ之ヲ受ケタル當時詐害信託ノ事實ヲ知リ又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ知ラザリシ場

合ニ非サレハ取消ノ影響ヲ及ボササルモノトシ以テ受益者ノ正當ノ利益ヲ保護シタリ(同條第二項)

(四) 委託者ハ信託財產ノ占有ニ付委託者ノ占有ノ瑕疵ヲ承繼ス(第十三條第一項)抑モ占有ノ瑕疵ノ有無ハ占有者ノ權利ニ重大ナル影響ヲ及ボスコトハ民法ノ規定スル所ナリ而シテ委託者ハ信託行爲ニ因リ民法上完全ニ信託財產ヲ取得スト雖結局自ラ其ノ財產ニ依リ利益ヲ享クルモノニ非サルヲ以テ委託者以上ニ之ヲ保護スルノ必要ナシ依リテ委託者ノ占有ニシテ惡意、強暴其ノ他ノ瑕疵アルモノナルニ於テハ其ノ瑕疵ハ委託者ニ承繼セラレ委託者ノ占有ノ瑕疵アルモノト爲シタリ故ニ例ヘハ委託者カ動產ノ惡意ノ占有者ナルトキハ其ノ動產ヲ善意ノ委託者ニ信託スルモ委託者ハ民法第四百九十二條ニ依リ其ノ動產ヲ取得スルコトヲ得ス若シ然ラストセハ惡意ノ委託者ハ自ラ受益者トナリテ其ノ動產ヲ善意ノ委託者ニ信託シ以テ眞ノ權利者ヲ害シテ不當ノ利益ヲ收ムルノ弊ヲ生スヘケレハナリ

手形其ノ他ノ有價證券ノ占有ニ付テモ亦同様ナリ(同條第二項、商法第二百八十二條、第四百四十一條參照)

第九章 信託財產

(一) 信託財產タルコトヲ得ヘキ財產ノ種類ニ付テハ一般法タル本案ニ於テハ別ニ制限ヲ設ケズ但シ該財產ノ他處分スルコトヲ得ル財產ナルコトヲ要スルハ勿論ナリ

(二) 信託財產ハ一ノ資產(Estate)ヲ成シ假令其ノ形ヲ變スルモ其ノ其ノ資產ニ屬スルモノハ總テ之ヲ信託財產トス例ヘハ家屋ヲ信託シタルトキハ其ノ賣却代金ハ信託財產タリ其ノ燒失シタル場合ニ於ケル保險金亦然リ案第十四條ニ於テ信託財產ノ管理處分滅失毀損其ノ他ノ事由ニ因リテ委託者カ得タル財產ハ信託財產ニ屬スト云ヘルハ此ノ義ニ外ナラス

(三) 信託財產ニ屬スル物ト受益者ノ固有財產ニ屬スル物トノ間ニ附合、混和等ノ事實生シタルトキハ信託財產及固有財產ハ共ニ委託者ノ所有ナレトモ假令各別ノ所有者ニ屬スルモノト看做シ民法第二百四十二條乃至第二百四十八條ノ規定ニ從ヒ其ノ附合、混和物ニ付受益權ノ歸屬ヲ定ムルモノトス信託財產ニ屬スル物ニ委託者カ加工シタル場合モ亦然リ一人ノ委託者カ二口以上ノ信託ヲ引受ケタル場合ニ其ノ各信託財產ノ間ニ於テモ亦同様ノ關係ヲ生ス(第三十條)

(四) 信託財產又ハ固有財產ト他人ノ財產トノ間ニ附合、混和等ヲ生シタル場合ハ當該民法ノ適用アリ

第十節 信託ノ公示

信託ハ之ヲ第三者ニ對抗セシムル必要上公示方法ヲ設クルノ要アリ依リテ登記又ハ登錄ノ制アル財產權ニ付信託ヲ設定スルトキハ信託ノ登記登錄ヲ爲スヘキモノトス今同信託法ノ制定ニ伴ヒ不動產登記法ヲ改正スルハ之カ爲ナリ又因信託證券社會債券等ノ有價證券ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ニ信託財產ナルコトヲ表示シ且株券社會債券ニ付テハ株主名簿又ハ社會債券簿ニ其ノ信託財產タルコトヲ記入スヘキモノトス(第三條)

第十一章 信託財產ノ保護

(一) 信託財產ハ委託者ノ所有ニ屬スト雖委託者ハ受益者ノ爲ニ之ヲ管理處分スルヲ要ス(第九條、第四條、第七條)自ラ信託ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス(第九條)故ニ委託者ハ信託財產ヲ以テ自己ノ固有債務ノ擔保ニ充ツルコトヲ得ス即チ信託財產ハ一般債權者ノ共同擔保ニ屬セサルモノトス從テ一般債權者ハ之ニ對シテ強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得ス(第十六條)但シ二ノ例外アリ(1)信託財產ニ付信託前ノ原因ニ因リテ生シタル權利(例ヘハ抵當權、先取特權等)ニ基ケル場合(2)信託事務ノ處理ニ因リテ生シタル權利(例ヘハ信託財產ニ修繕ヲ加ヘタル場合ニ於ケル修繕料ノ債權)ニ基ケル場合即チ是ナリ(同條)

右ノ制限ニ反シタル強制執行及競賣ニ對シテハ信託財產ノ所有者タル委託者ノミナラス信託ノ他ノ當事者タル委託者其ノ相續人及受益者ニ於テモ亦之ニ對シ民事訴訟法ニ依リ異議ヲ主張スルコトヲ得(同條)

(二) 委託者カ同一ノ相手方ニ對シ信託財產ニ屬スル權利ヲ有シ同時ニ固有ノ債務ヲ負フ場合(例ヘハ信託財產ヲ預入レタル銀行ニ對シ委託者カ固有ノ取引ニ於ケル債務ヲ負フ場合)ニ於テハ民法ノ規定ニ依リハ相殺ヲ爲スコトヲ得ルモ本案ニ於テハ特ニ之ヲ禁止ス(第十七條)之ヲ許セハ信託財產ヲ委託者ノ固有債務ノ擔保ニ充ツルコトヲ得シムルト同一ノ結果ヲ生スレハナリ

(三) 信託財產ハ委託者ノ相續財產ニ屬セス(第十五條)蓋シ信託財產ハ委託者自己ノ爲ニシタルモノニ非サルカ故ニ其ノ相續人ニ歸セシムル謂ナキノミナラス信託ハ信任ヲ基本トスル關係ナルヲ以テ委託者死亡スルトキハ其ノ任務ハ終了シ相續人ヲシテ之ヲ承繼スルヲ得シメサルヲ當然トスレハナリ

(四) 信託財產ハ委託者ノ固有財產ト分別シテ之ヲ管理スルコトヲ要ス(第二十八條)是レ管理ノ混合ハ往々ニシテ信託違反ノ誘因タルノミナラス信託財產ハ一方ニ於テ信託義務ノ基本タリ一方ニ於テ委託者ノ固有債務ニ對スル共同擔保ヲ爲ササルモノナルヲ以テナリ委託者カ數口ノ信託ヲ引受ケタル場合ニ於テ其ノ各口ノ信託財產ノ管理亦然リ(同條)唯タ信託財產タル金錢ニ付テハ之ヲ分別スルハ困難ナリ故ニ計算ヲ分別スルヲ以テ足レトス(同條)

(五) 委託者カ不法ニ信託財產ヲ管理ヲ混合シタルトキハ直チニ之ヲ分別復舊スルノ責任アルノミナラス(第二十九條第一項)其ノ混合中損失ヲ生シタルトキハ委託者ハ分別シテ管理シタルトスルモ仍損失ヲ生スヘキコトヲ證明スルニ非サレハ不可抗力ニ因リ損失ニ付テモ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス(第二十九條第二項)

(六) 信託財產ノ管理方法ハ分別管理ニ付テハ法律ノ嚴規ニ依

ルヘキハ勿論(四)其ノ他管理ノ方法例ヘハ公債ニ放資シ土地ニ放資スルカ如キニ信託行爲ノ定ムル所ニ依ルヘキハ(一)ニ設テ所ナリ但シ金錢ノ管理方法ニ付テハ別ニ勅令ノ定ムル所ニ依ラシム(第二十一條)要スルニ信託財產ノ管理ハ利益ノ多カランコトヲ望ムヨリモ寧ろ確實ヲ主トスヘキハ信託ノ性質上當然ノコトナリ

委託者カ定メ置キタル管理方法カ事情ノ變更ニ因リ却テ不利益トナリタルトキハ當事者ハ其ノ管理方法ノ變更ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(第二十三條)

(七) 受託者カ管理ノ失當ニ因リ信託財產ニ損失ヲ生セシメ又ハ信託ノ本旨ニ反シテ信託財產ヲ處分シタルトキハ之ヲシテ其ノ損失ヲ填補シ信託財產ヲ原形ニ復セシム(第二十七條)故ニ例ヘハ信託財產ヲ不當ノ廢價ニ賣却シ又ハ現金ヲ死藏シテ利殖ノ途ヲ怠リタル場合ニ於テハ其ノ損失填補ノ責任ニ任スヘク又信託財產ヲ以テ貸家ヲ經營スルヲ目的トスル信託ニ於テ受託者カ信託ノ本旨ニ反シテ株式ヲ買入レタルトキハ受託者ハ再ヒ相當ノ家屋ヲ取得シテ信託財產ヲ復舊スルノ義務ヲ負フモノナリ

(八) 受託者カ信託ノ本旨ニ反シテ信託財產ヲ處分シタルトキハ受託者ハ其ノ處分ノ相手方又ハ轉得者ニ對シテ其ノ處分ヲ取消シ以テ信託財產ヲ取戻スコトヲ得(第三十一條)即チ信託上ノ權利義務ハ之ヲ當事者間ノ關係ニ止メス第三者ニ對シテモ之ヲ對抗スルコトヲ得ルモノトナリ然レトモ之カ爲ニ第三者ニ不當ノ損害ヲ及ホスヘキニ非サルハ勿論ノ事ナリ依リテ信託財產ニ付登記登錄ノ制アルモノニ付テハ信託ノ登記登錄アルコトヲ條件トシ其ノ制ナキモノニ付テハ第三者カ權利取得ノ當時受託者ノ違法處分タルコトヲ知リタルカ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラサルコトヲ條件トシテ取消權ヲ行フコトヲ得ルモノトス(同條但書)

受益者數人アルトキハ其ノ一人カ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ效果ハ他ノ受益者全員ニ及フモノトス(第三十二條)

第十二章 受託者ノ義務權利及責任

甲 受託者ノ義務

(一) 受託者ハ信託行爲ノ定ムル所ニ從ヒ信託財產ノ管理又ハ處分ヲ爲スコトヲ要ス(第四條)信託ノ基本ハ信託行爲ニ依リテ定マル受託者ハ信託財產ノ所有權ヲ有スト雖其ノ管理處分ハ嚴ニ信託行爲ノ命令ニ範疇ヲ遵守スルコトヲ要ス是レ信託ノ本旨ナリ

(二) 受託者ハ信託ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スルコトヲ要ス(第二十條)信託財產ハ受託者ノ所有ニシテ受託者ハ自己ノ物トシテ之ヲ管理處分スルモノナリト雖信託ノ性質上其ノ財產ノ管理處分ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ之ヲ爲ササルヘカラス是亦信託ノ本旨ノ一ナリ

(三) 受託者ハ帳簿ヲ備ヘ各信託ニ付其ノ事務ノ處理及計算ヲ明ニスルコトヲ要シ且信託引受ノ際及毎年一回一定ノ時期ニ於テ各信託ニ付財產目録ヲ作ルコトヲ要ス(第三十九條)尚利害關係者ノ請求ニ應ジ何時ニテモ右ノ書類ヲ閱覽ニ供シ且受益者其ノ他信託當事者ノ請求アルトキハ右ノ外信託事務ノ處理ニ關スル一切ノ書類ヲ示シ且事務ノ處理ニ付テ説明ヲ爲スヘキモノトス(第四十條)

(四) 受託者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託財產ヲ固有財產ト爲シ又ハ信託財產ニ付權利ヲ取得スルコトヲ得ス(第二十二條)故ニ例ヘハ信託財產ヲ賣却スル場合ニ於テ自ラ買方トシテ其ノ權利ヲ取得スルヲ得サルハ勿論他人ノ名義ヲ利用シテ間接ニ之ヲ取得スルヲ得ス又信託財產ヲ貸付ケムトスル場合ニ他人ノ名義ヲ以テ自ラ其ノ借主ト爲ルコトヲ得サルカ如シ是レ受託者カ其ノ義務ニ違反スルノ弊ヲ誘致スルノ虞アルヲ以テナリ然レトモ信託財產ヲ處分スルノ必要ニ迫リ而カモ適當ノ買手ナキカ如キ已ムヲ得サル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ得テ適當公正ナル條件ヲ以テ自ラ之ヲ固有財產トスルハ敢テ法ノ禁スル所ニ非ス(同條)又例ヘハ信託財產カ土地所有權ニシテ先代カ其ノ土地ノ上ニ地上權其ノ他ノ權利ヲ有シタル場合ニ於テ受託者カ其ノ權利ヲ相續スルハ妨ナキ所ナリ(同條)此ノ場合ニ於テハ民法ノ權利混同ノ法則ノ適用ヲ排除スルノ要アルヲ以テ特ニ之カ規定ヲ設テ(同條)又所有權以外ノ權利例ヘハ地上權カ信託財產タル場合ニ於テ受託者カ其ノ土地ノ所有權ヲ取得スルハ亦法ノ禁スル所ニ非ス此ノ場合ニ於テモ權利ノ混同ヲ生セシムヘカサルハ勿論ナリ(第四十一條)

(五) 受託者ハ必ス親ラ信託事務ヲ處理スルヲ要ス信託行爲ヲ以テ代理ヲ許容シタル場合又ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ非サレハ他人ヲシテ自己ニ代リテ其ノ事務ヲ處理セシムルコトヲ得ス已ムコトヲ得サル事由アルトキト雖信託行爲ニ絕對ニ代理ヲ禁シタル場合亦然リ是レ蓋シ信託ハ受託者其ノ人ニ對スル信任ヲ基礎トシテ設定セラレタルモノナルヲ以テナリ(第二十六條)

乙 受託者ノ權利

(一) 受託者カ信託財產ノ管理其ノ他信託事務ノ處理ニ要シタル費用、爲ニ受ケタル損害及信託財產ニ關シテ負擔シタル租稅ハ信託財產ヨリ其ノ補償ヲ受クルコトヲ得ルモノニシテ之カ爲受託者ハ自ラ信託財產ヲ賣却シ他ノ權利者ニ優先シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ルモノトス(第三十六條)尙受益者カ信託ノ利益ヲ享受スルノ意思アル以上ハ受託者ヲシテ自己ノ爲メニ信託事務ヲ處理セシムルモノト謂フヲ得ヘキヲ以テ受託者ニ對シテ費用、損害、補償ヲ請求シ又ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得ヘシ(同條)從テ受託者カ其ノ受益權ヲ放棄シタルトキ即チ信託ノ利益ヲ享受スルノ意ナキコトヲ表示シタル場合ニ於テ費用負擔ノ義務ナキハ

當然ナリ(同條)公益信託其ノ他受益者不特定ナル場合又ハ未タ存在セサル場合ニ於テモ亦同様ナリ(同條)

(二) 受託者ハ信託事務ノ處理ニ付報酬ヲ受クルコトヲ得サルヲ本則トス但シ特約アル場合及營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ハ例外ナリ(第三十五條)利害關係者ノ請求ニ因リ裁判所カ選任スル受託者ニ對シテモ事情ニ依リ信託財產ヨリ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ得(第四十九條第四項)

丙 受託者ノ責任

(一) 受託者ノ責任ハ受益者ニ對スルモノト第三者ニ對スルモノトノ二アリ對受益者ノ關係ニ於テハ信託義務履行ノ責任ハ信託財產ノ限度ニ止ル(第十九條)故ニ例ヘハ信託財產カ天災其ノ他受託者ノ過失ニ因ラスシテ減少シタルトキハ受託者ノ義務亦終ラ告ク即チ受託者ハ過失ナキ以上信託財產ノ増減ニ付毫モ損益スル所ナキナリ是レ即チ信託ノ本質ニシテ消費寄託ト性質ヲ異ニスル要點ナリ

(二) 受益者ニ對スル關係ニ於テモ受託者ノ義務違反ノ責任ハ民法上債務不履行ノ原則ニ依リ固ヨリ信託財產ノ限度ニ止ルモノニアラス寧ろ受託者ハ自己ノ固有財產ヲ以テ無限ニ賠償ノ責ヲ負フヘキハ勿論ナリ

受託者カ法人ナルトキハ當事者ノ信任ハ寧ろ懸ツテ理事者ニ存ス故ニ法人タル受託者カ信託義務ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ違反行爲ヲ共行(例ヘハ決議ニ賛成シ又ハ決議ヲ實行シタル)理事者ハ各自連帶シテ其ノ責任ニ任スルモノトス(第三十四條)

(三) 對外關係ニ於テハ受託者ノ責任ハ無限ナリ租稅株金ノ拂込其ノ他信託事務處理上ノ債務ト雖一切個人トシテ責任ヲ負フコト普通ノ取引ノ異ナラス但シ信託事務ノ處理ニ要シタル費用ニ付テハ信託財產ノ上ニ優先權ヲ有シ且受益者ニ對シテ之カ補償ヲ請求スルコトヲ得ルハ前段説明ノ如シ(第三十二條)

(四) 受託者數人アル場合ノ權利義務

(一) 受託者數人アルトキハ信託事務ハ共同シテ之ヲ處理スルコトヲ要ス但シ信託行爲ニ事務ノ分掌ヲ許シ其ノ他信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ニ從フハ勿論ナリ(第二十四條)

受託者カ共同シテ事務ヲ處理スル場合ニ於テモ相手方ヨリ受託者ニ對スル意思表示ハ其ノ一人ニ之ヲ爲ストキハ他ノ

受託者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生スルモノトス(同條)

(二) 信託財産ハ受託者全員ノ共有トス(特ニ合有ト稱スルハ數人カ各個ニ持分ヲ以テ一ノ財產權ヲ有スル共有關係ニ非スシテ數人ノ共同シテ一ノ權利ヲ有スル狀態ヲ謂ヒ其ノ間ヨリ持分ノ觀念ヲ容レズ又從テ分割ノ法則ヲ適用スヘカラス權利ノ行使ハ各員ノ合同ヲ要シ一人カ死亡又ハ退任スルトキハ信託財產ハ仍舊其ノ共有ニ歸シ(第五十條第二項) 職員一人トナレハ單獨ノ權利トナル其法ノ所謂「Joint Right」獨法ノ「Gesamthand」ト稱スルモノ即チ是ナリ持分並分割ノ法則ヲ認ムヘカラサル受託者間ノ關係ニ於テハ固ヨリ共有ノ制ヲ適用スルヲ得ズ故ヲ以テ(合有)ハ本案ノ制定シタル用語ニシテ特ニ共有ニ非サル合同ノ所有ヲ示スノ趣旨ヲ有ス(第二十四條)

(三) 受託者カ受託者ニ對シテ負擔スル信託行為上ノ債務ハ受託者全員ノ連帶トス信託事務ノ處理ニ付第三者ニ對シテ負擔スル債務亦同シ(第二十五條)

第十三章 受託者ノ權利義務

受託者ハ信託關係ニ於ケル當面ノ權利者ナルヲ以テ信託事務カ適法ニ處理セラルルヤ否ヲ監視シ不法ノ處分ニ對シテハ法律ノ與フル救済手段ヲ實行シテ或ハ不法處分ヲ取消シ信託財產ノ爲ニ損失ノ填補復舊ヲ要求シ場合ニ依リテハ不適任ナル受託者ノ解任ヲ求ムルコトヲ得ヘシ凡ソ是等ノ權利ハ信託管理人アル場合ハ管理人ニ於テ之ヲ行フモノナルコト前記說書シタル所ノ如シ(第八章(三)) 受託者ノ義務ハ費用損失ノ補償及報酬ノ支拂ニ過キス

第十四章 受託者ノ更迭

信託ハ受託者ノ欠缺ニ因リテ消滅スルモノニ非サルコトハ信託法ノ原則ナリ故ニ信託ノ目的完前ニ於テ死亡解任辭任等ニ因リテ受託者ノ任務終了シタルトキハ法律ハ後任受託者ヲ選任シテ信託ノ目的ヲ遂行セシムルノ方法ヲ設ケサルヘカラス此ニ於テ受託者ノ更迭及信託承繼ノ問題ヲ生ス

甲 任務終了

受託者ノ任務ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

(1) 死亡、破産、禁治産、準禁治産ノ宣告及解散

(2) 資格ノ喪失、特定ノ資格ヲ要件トシテ受託者ト爲リタル者例ヘハ關稅ノ會長ヲ以テ受託者トスル信託ニ於テハ受託者會長ヲ辭スルモノキハ受託者トシテノ任務モ當然終了ス(第四十四條)

(3) 信託行為ニ依ル辭任及當事者ノ承諾ニ依ル辭任 信託行為ニ辭任ヲ認メタル場合ニハ其ノ定ムル所ニ從ヒテ辭任スルコトヲ得ルハ當然ナリ其ノ他ノ場合ニ於テハ受託者及委託者ノ承諾ヲ得タルトキニ限リ辭任ヲ爲スコトヲ得(第四十三條)

(4) 裁判所ノ許可ニ依ル辭任 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ辭任スルコトヲ得(第四十六條)

(5) 裁判所ノ命ニ依ル辭任 受託者カ其ノ任務ニ背キタルト

キ其ノ他重大ナル事由アルトキハ裁判所ハ當事者ノ請求ニ因リ受託者ヲ解任スルコトヲ得(第四十七條)

右ノ中(2)(3)ノ場合ニハ後任者カ就任スルニ至ルマテ仍舊受託者ノ權利義務ヲ有スルモノト爲シ以テ出來得ル限リ信託事務ノ一日モ廢棄ナカランコトヲ期ス(第四十五條)

乙 新受託者ノ選任

信託行為ニ於テハ適當受託者ノ辭任ニ關スル決定ヲ爲スト同時ニ後任者選任ノ方法ヲ定ムルコト多カルヘシ故ニ後任者ノ選任ハ多クハ當事者間ニ於テ圖滿ニ行ハル雖モ此ノ方法ニ依リテ目的ヲ達セサル場合ニ於テハ利害關係人ハ後任者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(第四十九條)

第十五章 信託ノ承繼

甲 承繼ノ效力

(一) 受託者更迭シタルトキハ新受託者ハ前受託者ニ代リテ同一ノ信託ヲ實行スルモノニシテ信託行為ニ依リ初ヨリ選任セラレタルト同一ノ地位ニ立ツモノトス換言セハ信託關係自體ヲ承繼スルナリ是レ當然ノコトニシテ別ニ明文ヲ要セサル所ナリ

(二) 信託財產ハ前受託者ノ任務終了ノ時ニ適リテ新受託者ニ讓渡セラレタルモノト爲ス(第五十條) 前受託者ノ任務終了ト後任者ノ就任トノ間ニハ多少ノ日子ヲ存スルコトアリ此ノ間ニ於ケル信託ノ權利ヲ確保スルノ必要ヨリ信託財產承繼ノ效力ヲ前受託者ノ任務終了ノ時ニ適及セシメ信託財產トシテ前後一貫トシテ行ハラシム

(三) 前受託者カ信託行為ニ依リ受託者ニ對シテ負擔シタル債務例ヘハ月々ノ養料ヲ受託者ニ支拂フコトヲ要スル信託ニ在リテ既ニ支拂ヘシト雖モ未タ履行シタル債務ハ更迭ニ依リ新受託者ニ移轉ス是レ信託財產ヲ移轉シタル以上當然ノ事項ナリ(第五十二條第一項) 數人ノ受託者中一人カ退任シタル場合ハ更迭ニ非サルモ亦同様ノ結果ヲ生ス(第二項)

(四) 信託事務ノ處理ニ付前受託者カ第三者ニ對シテ負擔シタル債務例ヘハ信託財產ノ修繕費依賴シテ負擔シタル報酬ノ債務ノ如キハ本來前受託者ノ個人責任ニ屬スル債務ニシテ(第十二章(丙三)) 信託ノ承繼アルモ債權者タル第三者ハ新受託者ニ對シテ之ヲ請求スルヲ得サルハ理論上ハ正ニ然ルヘシト雖信託財產ニ對シテ執行シ得ヘキ權利ナルヲ以テ(第十一條(一)) 其ノ信託財產ノ限度ニ於テハ新受託者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得ルモノトス(第五十二條第三項)

(五) 第三者カ前段ノ債權ヲ實行スル爲更迭前受託者ニ對シテ強制執行又ハ競賣ニ着手シタルトキハ信託財產ノ移轉ニ拘ラス新受託者ニ對シテ之ヲ續行スルコトヲ得(第五十三條)

(六) 受託者ハ信託事務處理ノ費用及報酬ニ付信託財產ノ止ニ優先權ヲ有スルコト第十條乙(二)ニ規定スル所ナリ更迭ニ因リ信託財產ハ當然新受託者ニ移轉スト雖前受託者ノ權

利ヲ保護スルカ爲法律ハ信託財產ニ付新受託者ニ對スル強制執行又ハ競賣ノ權利ヲ留保セリ(第五十四條) 尚費用及報酬ノ權利ヲ行フ爲信託財產ヲ留置スルコトヲ得ルモノトス(同條第二項)

乙 承繼ノ手續

(一) 信託ノ承繼アリタルトキハ事務ノ引繼ヲ爲スコトヲ要スルハ勿論ナリ信託事務ノ引繼ハ信託事務ノ引算、信託財產ノ引渡、登記登錄ノ手續、書類帳簿其ノ他ノ引渡等ヲ包含ス尚引繼ノ完了ニ至ル迄信託財產ヲ保管スルコトヲ要スルハ勿論ナリ

(二) 引繼ヲ爲ス者ハ前受託者任務終了ノ事由ニ依リ同シカラス

(1) 死亡、破産、禁治産、準禁治産又ハ解散ニ因リ任務終了ノ場合ハ受託者ノ相続人、其ノ法定代理人、破産管財人、後見人、保佐人又ハ清算人引繼ノ義務ヲ負ヒ法人合併ノ場合ニ於テハ存立法人ニ於テ引繼ヲ爲スヘキモノトス(第四十二條)

(2) 資格喪失又ハ合意辭任ニ因リ場合ハ退任スヘキ受託者引繼ノ義務ヲ負フ(第四十五條)

(3) 裁判所ノ許可ニ因リ辭任又ハ裁判所ノ命ニ依リ解任ノ場合ハ裁判所ノ命スル信託財產ノ管理人引繼ヲ爲スヘキモノトス(第四十八條)

(三) 引繼ハ受託者ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス(第五十五條) 受託者カ計算ヲ承認シタルトキハ前受託者ノ責任ハ解除セラレタルモノト爲ス受託者ニ不正ノ行為アリタル場合ハ假令承認アルモ責任ヲ解除スヘキニ非サルヲ以テ當然ノ條理トス(同條)

第十六章 信託ノ終了

甲 信託終了ノ原因

信託ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス

(1) 信託行為ヲ以テ定メタル事由ノ發生 例ヘハ子カ大學ヲ卒業スルマテ信託財產ヲ管理スヘキコトヲ委託シタル信託ハ大學卒業ニ因リテ終了スヘシ目的ノ完成又ハ完成不能ノ場合亦然リ出版費ヲ信託シテ友人ノ遺稿ヲ出版セシムル場合ニ於テハ信託ハ出版ニ因リテ終了スヘシ又出版禁止セラレタルトキモ亦終了スヘシ(第五十六條)

(2) 解除 信託行為ニ於テ解除ノ定メ爲シタル場合ニ於テハ其ノ有效ナルコト勿論ナリ(第五十九條) 然レトモ解除ノ定ナキ場合ニ於テハ信託ハ任意ニ之ヲ解除スルコトヲ得サルヲ原則トス但シ二個ノ例外アリ

(一) 委託者カ受託者ヲ兼キタル場合(第七章(四)) 二ニ於テハ受託者ナキトキハ信託財產ハ早晩其ノ委託者(即チ受託者)スハ其ノ相続人ニ歸スヘキモノナルヲ以テ信託ヲ解除スルモ他人ノ權利ヲ害スルコトナシ依テ委託者又

ハ相續人ハ信託ヲ解除スルコトヲ得但シ之ガ爲受託者ニ
損失ヲ及ボシタルトキハ解除ヲ爲シタル者ニ於テ之ヲ賠
償スヘキハ勿論ナリ(第五十七條)

(ロ) 第三者ノ爲ニスル信託(第七條ノ五)ニ於テモ受託者
ハ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキ場合即チ他ニ受託者ナキ
場合ニ於テモ亦信託財產ハ早晩其ノ受託者ニ歸スヘキ
モノナルコト前段ノ場合ト異ナラスハ甲ヲ受託者トシ
テ金一萬圓ヲ信託シ毎月利息ノ半額ヲ之ニ支給シ十年ノ
後ハ元利金ヲ之ニ與フヘシト定メタル場合ノ如シ然カ
ル場合ニ於テ受託者ハ其ノ信託財產ヲ得ルニ非ザレハ債務
ヲ完済スルコト能ハス多數債權者ニ損害ヲ及ボスヘキ狀
態ニ陥リタルトキハ本人又ハ利害關係人ハ裁判所ニ信託
ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(第五十八條)

以上(四)ノ場合ニ於テモ信託行為ニ之ニ異ナル規定アルト
キハ之ニ從フヘキハ勿論ナリ(第五十九條)

信託終了ノ結果

乙 信託力決定ノ事由(甲)ニ因リテ終了シタル場合ニ於
テ殘餘財產ノ歸屬權利者ナキトキハ其ノ殘餘財產ハ委託者
又ハ其ノ相續人ニ歸屬ス是レ英美法ノ原則ナリ此ノ場合ニ
於テハ殘餘財產ヲ現實ニ歸屬權利者ニ移轉スルマデノ間ニ
於ケル歸屬權利者ノ權利ヲ保護スル爲メ權利移轉ノ目的トス
ル信託ノ關係アルモノト看做ス(第六十三條)

信託行為ニ依リ歸屬權利者ヲ指定シタルトキハ殘餘財產力
之ニ歸屬スヘキハ信託ノ當然ノ效果ナリ

(二) 信託力解除ニ因リテ終了シタルトキハ其ノ解除ハ將來
ニ向テミ其ノ效力ヲ生シ既ニ實行シタル信託財產ノ管理
處分ハ毫モ其ノ效力ヲ妨ケラルコトナシ是レ信託ノ性質
上當然ノ事ナリ(第六十條)

(三) 信託力解除ニ因リテ終了シタル場合ニ於テ殘餘財產ノ
歸屬ニ付テハ(一)ニ定ムル所ニ依ル但シ甲(二)(イ)(ロ)
ノ場合ニ於テハ受託者ニ歸屬ス是レ此等二個ノ場合ニ於ケル
信託ノ性質及法律力解除權ヲ與フル精神ニ照ラシ當然ノ
事ナリ(第六十一條第六十三條)

(四) 信託ノ終了ニ因リ殘餘財產力受託者其ノ他ノ者ニ歸屬
シタル場合ニ於テモ信託承繼ノ場合ニ於ケルカ如ク第
五十三條及第五十四條ノ規定ニ從ヒ歸屬權利者ニ對シテ強
制執行ヲ續行シ又ハ之ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得ルモノ
トスヘキハ蓋シ當然ノ事理ナリ(第六十四條)

丙 信託終了ノ手續

信託終了ノ場合ニ於テハ受託者ハ信託事務ニ付置終ノ計算
ヲ爲シ受託者ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス承認ノ效果及不正行
爲ノ場合ノ結果ハ第五十五條第二項ノ規定ニ準ス(第六十
五條)

第十七章 信託事務ノ監督

信託事務ハ裁判所之ヲ監督ス(第四十一條)裁判所ハ監督ノ方法
トシテ信託事務處理ノ検査ヲ爲シ又ハ特ニ検査役ヲ選任シテ調

査ヲ爲サシメ其ノ他例ヘハ帳簿ノ算計ヲ命シ計算ヲ明ニセシム
ル等監督上必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得同條(以上ノ外第八
條第二十二條及第四十七條乃至第四十九條ノ規定ニ依リテ有
スル裁判所ノ權限モ亦信託事務監督ノ義ニ外ナラザリ抑モ
一般ノ代理委任ニ照スル事務ニ付テハ法律ハ當事者間取引ノ
自由ニ一任スルニ拘ハリ信託事務ニ付テハ特ニ裁判所ノ監督權ヲ
認ムル所以ノモノハヨリ信託ノ本質ニ起因シ受託者ノ權限ノ
大從テ濫用ノ弊ヲ防シ公益ノ保護ニ非ザラシテナリ今信託法
ノ制定ニ附隨シテ非訟事件手續法ヲ改正スルハ之ガ爲ナリ
尙公益信託及營業信託トシテ爲ス信託事務ニ付テハ別ニ監督機關ヲ
定ム(第六十七條以下及信託法)

第十八章 公益信託ノ特則

(一) 公益信託トハ信託ノ目的ノ公共ノ福利ヲ増進スルニ在ルモ
ノヲ謂フ宗教ノ宣布ノ學術技術ノ獎勵貧民ノ救助ヲ目的トス
ル信託ノ如キ皆之ニ屬ス(第六十六條)蓋シ民法財團法人ト其
ノ作用ニ於テ相似タリ唯財團法人ニ比シ其ノ組織簡易ニシテ
短期間ニ終了スヘキ事業ニ付テハ寧ろ財團法人ノ作用ヲ補フ
ノ效果アルヘシ要スルニ財團法人ト公益信託トハ併セテ行ハ
レテ公益事業ニ種々スル所アルヘキナリ

(二) 公益信託ノ成立ニハ主務官廳ノ許可ヲ必要トス(第六十
八條)是レ民法上公益法人ノ設立ニ免許ヲ要スルト同趣旨ニ
出ツ公益信託ノ許可ハ受託者ニ對スル信託引受ノ許可ノ形式
ヲ採ル是レ財團法人ノ設立者ト異ナリ公益信託ノ設定者タル
委託者ハ必シモ特定ノ少數者ニ限ラス例ヘハ多數ノ寄附者タ
ルコトアルヲ以テナリ(同條)

(三) 公益信託ニ於テハ信託行為ニ依リテ一旦定マリタル目的
事項ハ爾後之ヲ變更スルヲ許サズ唯信託財產ノ管理方法ノミ
ハ事情ノ變更ニヨリ變更スルヲ得(第十一條)蓋シ公益信託ニ於
テハ信託行為ノ當時豫
見スルコトヲ得ザリ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ信託ノ本
旨ニ反セサル限管ニ信託財產ノ管理方法ニ止ラス信託事項ノ
全部ニ涉リテ適宜ノ變更ヲ加ヘ以テ公益ノ爲ニ財產ヲ提供シ
タル委託者ノ本意ヲ達成セシム例ヘハ獎勵金ノ制ナキ某大學
ノ學生ニ獎勵金ヲ給スルヲ目的トスル信託ニ於テ爾後其ノ學
校ニ完全ナル獎學金ノ基礎確立シタルトキハ信託ノ本旨其ノ
學校以外ニ施ラ用ヒサルノ意味明ナルニ非ザラシ以上ハ之ヲ他
ノ大學ノ獎學費ニ使用スルヲ得ヘキカ如シ(第七十條)

(四) 公益信託ノ受託者ハ辭任ヲ爲スニハ主務官廳ノ許可ヲ受
クルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限ル
(第七十一條)

(五) 公益信託終了ノ場合ニ於テハ信託行為ニ於テ定メタル歸
屬權利者ナキトキハ信託財產ハ委託者又ハ其ノ相續人ニ歸屬
ス(第十六條乙(一)條)蓋シ公益信託ニ於テハ主務官
廳ハ信託ノ本旨ニ從ヒ監督ノ目的ノ爲ニ信託ヲ繼續スルコト

ヲ得(第七十三條)故ニ例ヘハ支料大學獎學金ノ爲メ信託ニ
於テ其ノ大學廢校トナリタルトキハ更ニ理科大學ノ獎學金ト
シテ之ヲ使用スルコトヲ得ヘキカ如シ

以上(三)(四)(五)ハ何レモ公益信託ノ特色トシテ英美法上久
シク行ハル原則ナリ要スルニ可成公益義損ノ趣旨ヲ助成セシ
ムトスルノ義ニ外ナラス

(六) 私益信託ハ裁判所ノ監督ニ屬スルニ反シ公益信託ハ其ノ
目的タル事業ノ種類ニ從ヒ主務官廳ノ監督ニ屬ス(第六十七
條)主務官廳ハ何時ニテモ信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ場
合ニ依リテハ信託財產ヲ供託セシメ其ノ他必要ナル處分ヲ命
スルコトヲ得受託者ハ毎年少クモ一回定時ニ信託事務及財產
ノ狀況ヲ公告スヘキモノトス(第六十九條)

尙第八條第一項第三項第二十二條第一項但書及第四十七條乃
至第四十九條ノ規定ニ依リ裁判所ノ權限ハ主務官廳ノ管掌ス
ル所ニシテ且其ノ權限ハ職權ヲ以テ之ヲ行フ(第七十二條)

信託法ノ制定ニ伴フ税法改正ノ要領

所得稅

一 信託財產ハ信託法上ニ於テハ受託者ノ有スルモノナレトモ
其ノ財產ヨリ生スル所得ハ結局受託者ニ歸屬スヘキモノナル
ヲ以テ經濟上ノ實質ヨリ見レハ受託者ハ直接其ノ財產ヲ所有
スルト同一ノ利益ヲ收ムルモノナリ故ニ所得稅ヲ課スル場合
ニ於テハ受託者カ信託財產ヲ所有スルモノト看做シテ受託者
ニ課稅シ受託者及委託者ニ對シテハ課稅セサルコトニ定メタ
リ此ノ點カ此ノ所得稅法改正案ノ骨子ナリ

二 受託者カ信託財產ヲ有スルモノト看做ス結果トシテ左ノ如
キ效果ヲ生ス

(イ) 信託財產ヨリ生スル收益ハ一旦其ノ財產所有者タル受
託者カ取得スルモノナルヲ以テ現行所得稅法ニ依リハ受託
者ニ對シ所得稅ヲ課シ更ニ受託者ハ受託者ヨリ收益ノ引渡
シヲ受クルカ故ニ受託者ニモ亦其ノ收益ニ對シ所得稅ヲ課
スルノ外ナシ即チ同一ノ收益ニ對シ二重ニ課稅スルコトナ
ルモ改正案ニ依リハ受託者ニ對シテノ課稅スルコトト
タリテ實際ニ適合ス

(ロ) 受託者カ受託者ヨリ受クル所得ハ受託權ナル一種ノ債
權ヨリ生スルモノナルヲ以テ現行稅法ニ依リハ信託財產ノ
種類如何ヲ問ハス其ノ收入金全部ニ對シ課稅スルコトナ
リ受託者カ直接其ノ財產ヲ所有スル場合ニ比較シテ甚タ不
權利ナルモ改正案ニ依リハ受託者カ直接信託財產ヲ有ス
ルモノト看做スヲ以テ信託財產カ國籍ナルトキハ前三年ノ
平均ニ依リ所得ヲ算定シ、株式ナルトキハ配當金中ヨリ四
割ヲ控除シ、社債ナルトキハ第二種所得稅ヲ課シテ第三種
所得稅ヲ課セス、國債ナルトキハ其ノ利率ニ對シテ第二種
所得稅第三種所得稅免稅スル等總テ一般ノ場合ト同一ニ取
扱ハレ課稅ノ公平ヲ得ルコトナル

三 以上ハ本改正案ノ原則ナレトモ受益者カ不特定ナル場合又ハ未タ存在セザル場合ニ於テハ受益者ニ課税スルコト能ハサルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ受益者ト看做シテ課税スルノ例外ヲ置キタリ

四 此ノ例外ノ場合ニ於テハ受益者固有ノ所得ト受益者ト看做サレタル爲ノ所得ト何等ノ關係ナキモノナルヲ以テ之ヲ合併セズ又受益者ノ同居家族ノ所得トモ合併スルコトナク信託ノ所得ノミヲ別箇ノモノトシテ税率ヲ適用スルコトトシ若シ同一受益者ノ手ニ數個ノ信託アリトキハ之レ亦合併セシテ各別ニ課税スルノ規定ヲ置キタリ

五 又右ノ如ク受益者ヲ受益者ト看做シテ課税スル場合ニ於テ受益者カ法人ナルトキハ法人ノ所得即チ第一種ノ所得トシテ課税スヘキカ如クナルモ此ノ場合ノ所得ハ受益者タル人ノ資本金ノ運用ニ依リ生シタルモノニアラサルヲ以テ現行法ニ依リ超過所得又ハ留保所得等ヲ算定スルコトヲ得又又受益者ハ受益者ニ代フテ納税セシムルノ趣旨ヲ以テ課税スルモノニシテ受益者カ個人ノ擔稅者ニアラサルヲ以テ受益者カ個人ナルト法人ナルトニ依リ課税ヲ異ニスヘキ理由モナシ故ニ受益者カ法人ナルトキト雖之ヲ個人ノ所得ト看做シテ課税スルコトニ定メタリ

六 受益者ニ對シテ課税スルハ前述ノ如ク便宜ノ規定ニ外ナラサルヲ以テ假令受益者カ公益法人等ニシテ普通ノ場合ニ於テ所得稅ヲ課セザルナルトキト雖此ノ受益者ノ代理人タル觀念ニ於テ課税スヘキ所得稅ハ結局受益者ノ負擔ニ轉嫁スヘキモノナルヲ以テ受益者カ公益法人ナル場合モ課税スルコトニ定メタリ

七 信託ニ關スル所得ノ算定ニ付テハ受益者ヨリ其ノ信託ニ關スル計算書ヲ提出セシムルノ必要アルカ爲メ之ニ關シテ現行法ニ於ケル條給、又ハ配當金等ノ支拂者ヨリ提出セシムル支拂調書ニ準シ關係法文ニ對シテ夫々改正ヲ加ヘタルモノナリ

租稅

一 現行租稅法ニハ財産ヲ贈與シテ租稅ノ課税ヲ免レムトスルモノヲ防カムカ爲メニ二三ノ規定アリ而シテ信託ニ依リ委託者カ他人ヲ受益者ト爲スコトハ給ヘ其ノ財産ヲ贈與スルト同一ノ結果ヲ來スル故ニ租稅法ニ於テハ贈與贈與ト同一ニ取扱フノ必要アリ故ニ

(イ) 委託者カ其ノ租稅開始一年內ニ信託ニ依リ他人ニ受益權ヲ與ヘタルトキハ現行租稅法第三條ヲ適用シテ其ノ受益權ノ價格ヲ租稅財產ニ加算シテ租稅稅課スルコト

(ロ) 受益權ヲ與ヘラレタルモノカ委託者ノ推定租稅人又ハ分家ノ主若ハ家族ナルトキハ現行租稅法第二十三條ヲ適用シ遺產租稅ノ開始アリタルモノト看做シテ租稅稅課スルコト尤モ其ノ信託財產カ不動産又ハ船舶ナルトキハ現行租稅法ノ例ニ準シ租稅稅課セシメテ登錄稅ニ於テ重キ課稅ヲ爲スコト

(ハ) 而シテ受益權ノ價格ハ條件付權利又ハ存續期間ノ不確

定ナル權利等ト同一ノ算定方法ニ依ルコト
等ノ改正ヲ加フルコトトセリ

登錄稅

一 信託ニ關スル登錄ニ付テハ信託其ノモノノ登記又ハ登錄ト信託ニ因ル財產權移轉ノ登記又ハ登錄トノ二種アリ而シテ信託其ノモノノ登記又ハ登錄ニ付テハ比較的輕キ稅率ヲ課スルコトトシ信託ニ因ル財產權移轉ノ登記又ハ登錄ニ付テハ普通財產權移轉ニ依ル比較的輕キ稅率ヲ課スルコトトシ若シ但シ不動産又ハ船舶ニ付テハ信託行爲ニ依リ其財產ノ贈與ヲ爲スモ租稅稅課セザル條同法第二十三條ニ於テ規定スルコトトナリ居ルヲ以テ其補充トシテ登錄稅ニ於テハ高キ稅率ヲ課シ給モ普通ノ場合ニ於テ不動産又ハ船舶ヲ贈與シタルトキト同様ノ課稅ヲ爲スコトトセリ

二 信託ニ因ル財產權ハ先ツ委託者ヨリ受益者ニ移轉シ次テ委託者ヨリ受益者ニ移轉スルヲ以テ普通ナラハ其ノ財產權ノ移轉アル毎ニ登錄稅ヲ課スヘキモノナルトモ受益者カ財產權ヲ取得スルハ受益者ノ爲ニ取得スルモノニシテ他日之ヲ受益者ニ移轉スルハ當初ノ目的ヲ達行スルニ過キス實質上ヨリ見レハ前後連シテ一回ノ移轉アルニ過キサルヲ以テ信託ニ因ル財產權移轉ノ登錄稅ハ委託者ヨリ受益者ニ移轉スル場合ニ於テ課稅シ受益者ヨリ受益者ニ移轉スル場合ハ課稅セザルコトト爲シタリ而シテ左ノ場合ハ形式ニハ財產權ノ移轉ヲ生スヘキモ實質的ニハ權利ノ移轉ナキモノト認メ登錄稅ヲ課稅セザル例外ヲ認メタリ

(イ) 委託者カ信託行爲ニ依リ信託財產ヨリ生スル收益權ハ勿論歸屬權ヲモ有シ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキ場合ハ單ニ受益者ヲシテ自己ノ財產ノ保管ヲ爲サシムルニ過キス實質的ニ權利ノ移轉ナキヲ以テ委託者ヨリ受益者ニ移轉スル場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セザルコト

(ロ) 受益者又ハ歸屬權利者カ財產權ヲ取得スルハ前述ノ述タルカ如ク事實上ニ於テハ受益者ヲシテ保管セシメアル財產ヲ取戻スニ過キサルモノト認メ受益者又ハ歸屬權利者カ財產權ヲ取得スル場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セザルコト

(ハ) 受益者更ニ場合ハ形式ニハ財產權ノ移轉ヲ生スヘキモノ更ニ管理ノ變更ニ過キス實質的ニハ權利ノ移轉ナキモノト認メ新受益者カ財產權ヲ取得スル場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セザルコト

印紙稅

信託行爲ニ關シテ作成スル證書ハ現行印紙稅法ノ所謂財產權ノ得喪ヲ證明スルモノナルヲ以テ印紙稅納付ノ義務アルコト勿論ナリ而シテ右證書ハ印紙稅法ニ特別ノ規定ナキヲ以テ此際稅法ヲ改正セザルニ於テハ同法第二條ニ依リ万分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納付セザル可ラサルコトナルモ元來信託行爲ニ依

ル財產權ノ得喪ハ普通ノ賣買、贈與等ニ依ル財產權ノ得喪ト異ナリ其ノ移轉ハ單ニ形式ニ止マリ其實質ニ於テハ受益者ハ受益者ノ爲ニ管理スルニ過キス又又受益者ハ其財產ヨリ生スル收益ヲ收受シ又ハ將來其財產ヲ取得スル權利ヲ得ルニ過キス殊ニ委託者カ受益者タル場合ニ在リテハ實質上ニ於テハ何等財產權ノ移轉ナシ斯ノ如ク其實質ニ於テ賣買、贈與等ト異ナルニ拘ラス之レヲ同一視シテ證書ノ記載金額ヲ標準トシ五分ノ五ノ稅率ニ依リ課稅スルハ略ニ失スルノ嫌アリ而シテ信託行爲ノ其實質奇詭又ハ定期金ノ契約ニ類似スルモノナルヲ以テ之ノ權衡上三錢ノ定額稅ト爲スコトニ致シテアリマス尤モ受益者カ信託財產ノ管理處分上作成スル證書ハ各其ノ種類ニ從ヒ現行印紙稅法ニ依ル印紙ノ貼用ヲ要スルハ勿論テアリマス